

北村儀典官と河田式部副長の打ち合わせ%

極 秘
無 期 限
4 部の内 4 号

報 告 ・ 供 覧

大 臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官 房 長	主 管 儀 典 長 儀 典 官 ✓ 儀 典 官 首席事務官 調 整 官 事 務 官	保 存 期 間 <table border="1"> <tr> <td>1 類 (永久)</td> <td>2 類 (10年)</td> <td>3 類 (5年)</td> <td>4 類 (1年)</td> </tr> </table> 起案 平成 4 年 7 月 6 日 完結 平成 年 月 日 起案者 電話番号 北村儀典官 (4丁18) 2093	1 類 (永久)	2 類 (10年)	3 類 (5年)	4 類 (1年)
1 類 (永久)	2 類 (10年)	3 類 (5年)	4 類 (1年)			
回 覧 先 ② 会計課長 ② 報道課長 ② 中国課長						
下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。						
件 名 EEV						
(別紙の要点等) 荻田官内府式部副長と 北村儀典官との 本件準備についての打ち合せ事項。						
GA-7 (昭和63. 4. 1改正) 外 務 省		回覧番号				

6日、荻田宮内庁式部副長と北村儀典官との本件準備についての打ち合わせ事項、次のとおり。

1. 荻田式部副長より次の要請あり。

- (1) 日程案（訪問先及び行事）及び対外的に説明するための訪問の意義・目的についてのペーパーは7月中、乃至下旬までに必要。
- (2) 対外応答要領及び広報資料は、出来るだけ早く宮内庁にも相談してほしい。
- (3) 昨年と同様に訪問先国から記者招待を行うとすれば、9月下旬乃至10月上旬頃が適当と考える。昨年、両陛下との記者会見の際、在京プレスを入れるかどうかもめたが、本年は入れる方向で検討している。
- (4) 予備費要求の作業は2か月を要するので、外務省でも十分早めに準備頂きたい。（予備費に関する閣議決定は、10月上旬と考えている。）

2. その他、打ち合わせ事項次のとおり。

- (1) 随員の構成について北村儀典官より、今回はアジア局長が加わる旨述べておいた。

(2) 現在宮内庁が準備の都合上、早めに必要と考えている資料等について質したの

に対し、荻田副長は取り敢えず、贈り物先リスト及び服装（儀礼上必要とされるもの、ある

いは気候等に合わせて必要なもの）、何れにしても服装は行事次第によるので、そ

の観点からも日程案を早く知りたい。（国信）

荻田式部副長より閣議決定とともに宮内庁内に準備委員会を設置する旨紹介があつたので、当方よりも準備委員会、準備室を設置する予定である旨、説明しおいた。

(了)

主管課緊急処理用

極秘

大政官
事務次官
典房
臣秘書官
官審審長
長
北経環査官
大大ア察括房
使使大審審審
外研長

総番号 R136476

主管

月 2日

米 国 発

北米局長

平成 4年 7月 3日

本 省 着

外務大臣殿

栗山大使

総口対文会厚情研

察人電在機警史オ

総理訪米（キャンプ・デービッド首のう会談）

外報官
参報際内外

文長
審一二

第7596号 極秘 大至急

移長
参政保対旅外

（限定配布）

審地中東
参北東西

1日、キャンプ・デービッドで行われたブッシュ大統領主催夕食会における日米首のう会談の内容以下別電の通り（米側よりスコウクロフト特別補さ官、日本側よりサイトウ外務審議官同席）。

米長
審二保地

なお、後刻スコウクロフト補さ官とサイトウ外審との間で協議した結果、プレスに対しては別電の項目については簡単な結論のみを外部にブリーフすることとした。

中南長
参二

別電1. 中国

審西口洋
西東

別電2. かん境

近ア長
参一二アア
二二

別電3. ユーゴスラビア

次総経途
参経漁国
一

別電4. ペルー

経
参経漁国
一

別電5. 国連

長
経エ国
安ネ二

その他、参議院選挙の話、カネマル副総裁訪米の話等が出たが内容省略する。

参海 密準

お見込みにより関係公館に転電願いたい。（了）

経協長
審政国開無

密調技有理

条長
密条協規

国
審政経人

長
審軍社

科密
科原

情調長
参情析調

安

極秘

主管

米 国 発

本 省 着

北米局長

栗山大使

総理訪米（キャンプ・デービッド首のう会談）

第7597号 極秘 大至急

(限定配布)

別電1. 中国

1. 総理より、トウ小平の改革解放政策は定着しつつあるように思われる、一時期はトウ小平も終わりかと思つたが、最近再び力強い指導力を発きしている、一説によれば保守派と見られているリホウ首相は交替させられるかも知れないと述べた。

これに対し、「ブ」大統領より、トウ小平の指導力の強さ如何はその健康状態によるところが大きいのではないかと答えた。

2. 次に総理より、中国は「ブ」大統領をそんけいしているが、人権よりも生存権と経済成長する権利の方が重要だと思つている。中国は政治改革は当面行ふ意思がないのではないかと発言。

これに対し、「ブ」大統領より、中国はロシアの例を見て、自国が混乱することを警戒し、恐れているであろう。リホウ首相は阴らかに、ハード・ライナーであり、難かしい話し相手であつたと述べた。

3. 次に、総理より、てん皇へい下が中国を訪問される計画があるが、国内情勢はなかなか難しい、国民の大部分は訪中を支持しているが、ろう人と右よくの中に反対がある、自分（総理）はコウタクミンが訪日した際、日本は真けんに検討中とのみ述べたと発言。

これに対し、「ブ」大統領より、反対派はてん皇へい下が訪中することにより、へい下がはずかしめを受けるのを恐れているのかと問われたのに対し、総理より、反対派の理由はいろいろあるようだが、へい下が訪中されてもはずかしめを受けるということはないと答えた。(了)

大 政 專 外 儀 官
大 務 務 次 典 房
臣 秘 官 官 審 審 長 長

外研長
官房審
總括審
査察審
環了大
經大使
北大

◎ 对文会厚情研

才史警備電人察

外報官 參報際內外

文長	審一二
----	-----

參政保對旅外

東 中 西
東 中 西

長

米 霍一二保地

長	
中	

用長	
----	--

欧	洋口西審
	一
	五

—

近ア尾

途經總次

参經漁国

長 | 国工
二不
經安

参海	審準
----	----

經協 審政國開無

長	密調技有

審 條 協 規	條 長
------------------	--------

国	審政經人
---	------

長	審軍社
---	-----

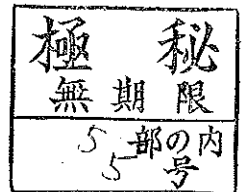
科原	科審
----	----

情調參析

副長 | 安

- 5-1 34u
- 5-2 北町儀典官
- 5-3 本寺 寺
- 5-4 泉 清江寺
- 5-5 file
- 5-1-1 本寺 寺

天皇陛下御訪中日程案
 御田へーハ
 7/9



樽井課長殿

4. 7. 9

在中国大

横田

1. 当館でとりあえず作成した天皇陛下の訪中日程（案）は別紙1のとおりです。

〔北京－西安－上海〕というルートは、中国側の非公式考え方をもふまえたものであり、事実上これ以外にないと考えています。また、各地での訪問先等も、各地への出張下見を行い、また、時間配分等を考慮した結果、大体これでゆくのがベストであろうと思っています。

2. 宿舎については現状次のとおりです。

（1）北京

一行が釣魚台になることは確実。

プレスは新世紀飯店（全日空ホテル）に200室、更にプレス・ワーキング・ルーム等も留保済み。シャングリラ・ホテルも考えたが、地の利は新世紀の方がよく、設備面でも問題ないので、日系という気安さもあって、これに決定。

（2）西安

一行については、いくつかの外資系ホテルのうち、ハイアットがあらゆる点でベストと判断し、70室を留保済み。因みに全日空ホテルは建設中で自信なく、断念。

プレスについては、ハイアットとの地の利をも考慮し、日航ロイヤル・ホテルに200室留保済み。

（3）上海

一行が西郊賓館になることはほぼ確実と見られる。

最終日の行事の為、ガーデン・ホテル（野村證券・ホテルオークラ）に休息

用プレジデンシャル・スイート、昼食会用のバンケット・ルーム等留保済み。

プレス用に太平洋飯店（青木建設）に200室留保済み。

3. 人事体制については別紙2及び3のラインで考えています。

応援用員の調達、出張旅費等予算確保につき、宜しく願います。

以上

天皇皇后両陛下御訪中日程（案）

1992. 7. 5

日本国大使館

10月22日（木）

- 11:00 羽田御出発
- 13:40 北京御到着
- 14:30 歓迎式典（天安門広場又は人民大会堂）
- 15:00 迎賓館御到着
- 17:20 同 御出発
- 17:30 楊尚昆主席と御会見（人民大会堂）
- 18:00 楊尚昆主席主催歓迎晩餐会（人民大会堂）

10月23日（金）

- 10:00 李鵬総理夫妻御引見（迎賓館）
- 11:00 江沢民総書記御引見（迎賓館）
- 12:00 迎賓館御出発
- 12:20 大使公邸御到着
- 12:30 大使館員御引見（公邸）
- 12:45 大使主催内輪昼食会（公邸）
- 14:00 公邸御出発
- 14:20 故宮博物館御視察
- 15:30 同 御出発
- 15:40 長富宮ホテル御到着、日本人会主催レセプション御出席
- 16:15 同 御出発
- 16:30 迎賓館御到着
- 18:00 両陛下主催晩餐会（迎賓館）

10月24日（土）

- 09:30 迎賓館御出発
- 10:30 八達嶺長城御到着
- 11:30 同 御出発
- 12:30 迎賓館御到着
- 13:00 内輪昼食（迎賓館）
- 14:15 楊尚昆主席お別れの挨拶（迎賓館）
- 14:30 迎賓館御出発
- 15:10 北京御出発
- 17:00 西安御到着
- 18:00 ハイアット・ホテル御到着
- 19:00 陝西省省長主催歓迎晩餐会

10月25日(日)

09:30 ハイアット・ホテル御出発
10:30 兵馬俑坑御到着
11:30 同 御出発
12:30 ハイアット・ホテル御到着
13:00 内輪昼食会(ハイアット・ホテル)
14:30 ハイアット・ホテル御出発
14:40 陝西省歴史博物館御到着
16:00 同 御出発
16:10 ハイアット・ホテル御到着
18:30 内輪夕食(ハイアット・ホテル)

10月26日(月)

10:00 ハイアット・ホテル御出発
10:10 大雁塔御到着
11:00 同 御出発
11:10 城壁(西門)御到着
11:40 同 御出発
11:50 ハイアット・ホテル御到着
12:30 内輪昼食会(ハイアット・ホテル)
13:30 同 終了
14:00 ハイアット・ホテル御出発
15:00 西安御出発
17:05 上海御到着
17:25 西郊賓館御到着
19:00 上海市人民政府主催歓迎晩餐会(西郊賓館)

10月27日(火)

09:00 西郊賓館御出発
09:10 交通大学御到着
09:50 同 御出発
10:20 豫園御到着
11:20 同 御出発
11:25 外灘御到着
11:35 同 御出発
11:50 ガーデン・ホテル御到着
12:10 商工クラブ幹部等御引見
12:40 内輪昼食会

14:00 記者会見
14:40 伍漢霖教授御引見
15:00 ガーデン・ホテル御出発
15:20 西郊賓館御到着
16:00 同 御出発
16:10 空港御到着
16:20 上海御出発
19:50 羽田御帰着

天皇皇后両陛下御訪中人員体制

1. 北京

(1) 総括

榎田公使

(2) 総括補佐

沼田書、瀬口書、斎藤（法）書、岡田書

(3) 配車担当

植木書、小野書、蒲原書、瀬口書、岡田研、石割派、堀口派、川原派

(4) 文書担当

東郷参、芥川理

(5) 通信担当

吉武書、光岡書、石割派

(6) 航空便担当

志村書、岡田書

(7) 警備担当

竹内書、松本理

(8) 荷物・買物担当

佐藤（雄）書、奥理、鈴木理、藤田理、石割派、堀口派、川原派

(9) 資料作成担当

堀之内書、石塚書、丸山専

(10) 宴会担当

花沢参、石川書

(11) 皇后陛下担当

橋本参、加藤書

(12) 宿舎担当

吉村書、大平理、芥川理、佐藤(征)理、遠藤研、貴島研

(13) プレス担当

荒木参、戸渡書、佐藤(勝)書、安田書、金井書、諏訪書、高橋書、林理、
秋月専、窪田専、伊藤(千)研、伊藤(伸)研

(14) 大使館詰め担当

領事：赤倉参、柿原書、酒井書、内田書

電信：河西書、羽賀書、吉川書、柏電

医務：山口書、塚原理

警備：橋本書、小畑書(迎賓館との中継)

会計：石井(修)書、藤田派

2. 西安

(1) 総括

松本公使

(2) 総括補佐

下荒地参、肥塚参、北野書、石井(哲)書、JICA北京副所長

(3) 配車・宿舎担当

遠山書、飯島書、高垣書、JICA職員／瀬口書、石割派

(4) 通信担当

北野書、吉武書

(5) 航空便担当

志村書、石井(哲)書

(6) 警備担当

竹内書

(7) 荷物担当

飯島書／佐藤(雄)書、奥理、鈴木理、藤田理、石割派、堀口派、川原派

(8) 宴会担当

北野書、石川書

(9) プレス担当

大和(瀋)総領事、根岸(瀋)領事、古屋(瀋)派／

荒木参、戸渡書、佐藤(勝)書、安田書、諏訪書、林理、秋月専

(10) 遊撃隊(一行と西安、上海に同行)

榎田公使、石井(修)書、沼田書、堀之内(書)、山口医、瀬口書、

斎藤(法)書、岡田書

3. 上海

(1) 総括

蓮見総領事

(2) 総括補佐

岡崎(上海)領、大嶋領、佐藤研、浜田研、手島研、岩本研、杉田研

(3) 配車・宿舎担当

〔上海総： 〕、黒田(広州)領、瀬野(広州)領、森川書、

日本人学校教員／瀬口書、石割派

(4) 通信担当

〔上海総： 〕、井川原(香港)副領

(5) 航空便担当

〔上海総： 〕、井川原副領、岩本(香港)派

(6) 警備担当

竹内書

(7) 荷物担当

〔上海総： 〕、又平派／佐藤(雄)書、奥理、鈴木理、藤田理、

石割派、堀口派、川原派

(8) 宴会担当

〔上海総： 〕、大嶋領／石川書

(9) プレス担当

〔上海総： 〕／吉田書、小川職員、大聖寺副領、手島研／

荒木参、戸渡書、佐藤(勝)書、安田書、諏訪書、林理、秋月専

(10) 遊撃隊

楨田公使、石井(修)書、沼田書、堀之内(書)、山口医、瀬口書、

斎藤(法)書、岡田書

天皇皇后両陛下訪中時人員体制に係る人の流れ一覧表

1 北京→西安→上海 →北京グループ	2 北京→西安→北京 第一グループ(先遣隊)	3 瀋陽→西安→瀋陽 グループ(先遣隊)	4 北京→西安→北京 第二グループ	5 香港→上海 →香港グループ (先遣隊)	6 シンガポール→上海 →シンガポールグループ (先遣隊)	7 台北→香港→上海 →香港→台北 グループ(先遣隊)	8 南京→上海→南京 グループ	10 香港→上海→香港 グループ
1. 橋本大使 2. 同大使夫人 3. 楨田公使 4. 荒木参 5. 石井(修)書 6. 戸渡書 7. 竹内書 8. 沼田書 9. 堀之内書 10. 山口医 11. 佐藤(勝)書 12. 瀬口書 13. 佐藤(雄)書 14. 斉藤(法)書 15. 石川書 16. 安田書 17. 諏訪書 18. 岡田書 19. 奥理 20. 林理 21. 鈴木理 22. 藤田理 23. 石割派 24. 堀口派 25. 川原派 26. 秋月専	1. 松本公使 2. 下荒地参 3. 肥塚参 4. 北野書 5. 石井(哲)書 6. 遠山書 7. 飯島書 8. 高垣書 9. JICA北京副所長 10. JICA職員 11. " 12. " 13. " 14. "	1. 大和総領事 2. 根岸領 3. 古屋派	1. 松本公使夫人 2. 吉武書 3. 志村書	1. 大嶋領 2. 井川原副領 3. 又平派 4. 岩本派	1. 吉田書	1. 小川職員	1. 手島研	1. 森川領
							9 広州→上海→広州 グループ	11 北京→上海→北京 グループ
							1. 黒田領 2. 瀬野領 3. 大聖寺副領	1. 佐藤研 2. 浜田研 3. 岩本研 4. 杉田研

佐藤前官房長よりの連絡(青木大使の反対)

7%

事務次官

アシア局長・

審議官

中国課

御署名

経済新官廳長

中国課長への建請

410

青木干九郎大塚(5.18)と陛下前
(5)起. (2)手取

H.4.17.10

佐々木

7/10

小倉の件

青木大塚大. 天皇訪中への反対する国民

会議(下野会)で反対も反対意見と
ある。意見広告(7/17)の報じられ

旨の通り)に反対の名刺も送られぬと
知れぬので 禁じられぬ連絡を

と。

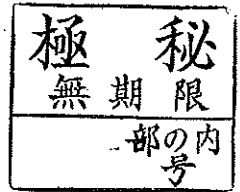
小倉大塚各個人が意見の通りならぬのは
自由だが 事件の如き重要行事は

衆議院の賛成を必要とする。故に、議院に
ていて頂けぬのと云ふこと 公けられ

ては(4)を入手す。

御訪中、今後の段取り

7/16



天皇陛下の御訪中
(今後の段取り)

4 . 7 . 1 6

外 務 省

1. 自民党

(1) 総理より直接働きかけていただきたい幹部。

(イ) 福田、中曽根、金丸、竹下、三塚、海部の各議員

(ロ) 党 4 役

(2) 上記と並行して次の通り根回しを行う。

(イ) 梶山国対委員長

小沢一郎議員

(渡辺大臣)

橋本龍太郎議員

(官房長官)

長谷川峻議員

(ロ) 反対 (消極) 論者

○中山太郎、尾身議員、衛藤議員ほか 6 名 (総理に申入れを行った一年生議員)

(柿沢次官、アジア局)

○藤尾、奥野、板垣各議員

(効果なし)

(3) 上記 (1) の後に次の根回しを実施。

(イ) 外務大臣、政務次官、外務委員長、外交部会長の経験者

(アジア局、官房等)

(ロ) 総務、政調、外務委員会、外交部会の幹部

(柿沢次官、アジア局、官房)

(4) 以上の状況を踏まえつつ総理が決断される。(その際、共産を除く野党党首に総理より協力依頼を行っていただく?)

2. 財界

官房長官、事務次官、アジア局長より説明済み。（石川会頭のみ消極的。）

3. プレス

(1) 国内プレス

(イ) 産経のみ消極的。他紙は全て社説で賛成論。

(ロ) 総理決断の直後に論説委員との懇談アレンジ。

(小和田次官またはアジア局長)

(2) 外国プレス

公表直前にブリーフィングをアレンジ。

4. 有識者

(1) 反対、消極論者。（政府の考え方を説明すべく努力。）

(2) 積極論者（より味方に引き入れる努力。）

(了)

日米安保事務レベル協議(SSC)報告

7/6~17

えるような考えに賛成していない。

(北米局長)

本件については、韓国の考えを尊重しつつ、韓国が我々と同じペースで動くようにしていくことも重要である。

4. 中国

(1) 天皇陛下訪中・対中関係一般

(リリー)

天皇陛下の訪中について、日本国民の70%は賛成しており、10月に実現するとの報道を見たが、見通しを伺いたい。

(北米局長)

陛下の訪中についての政府の立場は、その考えを打ち出して国民のコンセンサスが得られるのを待っているというものである。国内的に高度の政治問題であるので、自分の口から政府の立場について説明することはそこまでにとどめたい。

他方、個人的には、もし天皇陛下が訪中されるということについて国民のコンセンサスがまとまるのであれば、そのタイミングについては、早ければ早いほど良いと思っている。今であれば、中国政府が、民主主義という観点からの是非はともかくとして、国民の対日感情をうまくコントロールすることができると思うし、また、韓国とどちらを先に訪問するかという問題も避けられるからである。

(リリー)

米国の対中政府は CONSTRUCTIVE ENGAGEMENTである。中国についてはその行動を注目していくことが重要である。中国は(i)防衛費を増大させ、(ii)ミサイル等売り、(iii)領土問題について強硬な立場をとりつつある。中国をめぐ

る国民感情は米国と日本とは逆であり、仮に今、米国で大統領の訪中について世論調査を行えば、国民の70%は反対すると思う。こういう状況でまたMFNの議論をしなければならない。

他方、台湾については経済面での成功に加えて、民主化も進んでいる。こういう新たな状況を踏まえて、70年代の台湾政策を再検討する余地はあるであろうか。

(北米局長)

中国との関係について日米の国内の雰囲気は異なることは承知している。そして日本は米国の対中政策をDISTURBするつもりはない。

しかし、中国に改善を求める必要がある3点についての指摘はその通りとしても、これまで我々が中国に対して指摘してきた人権の面で、政治犯の釈放等正しい方向に向けて中国は相当の努力をしている。米国の最恵国待遇の問題についても、中国の動きには、米国の要求に答えようとする姿勢がみられる。今指摘された3点は新しいこれからの課題であって、それらについて中国に云うべきことを云っていくことは大事であるが、これまで中国に求めてきたことについて中国側が答えてきたことは、それなりに認める必要がある。

ナショナル・プレス・クラブにおける総理のスピーチにおいては、中国をエンカレッジすることと人権等の面で中国に対して云うべきことを云うことの両面が重要であると述べている。

なお、台湾の重要性が増していることは認識しているが、台湾政策を急激に変える考えは日本にはない。他方、APECへの台湾の参加を認めることなど、徐々に変化をもたせていくことは大事である。(リリー次官補も、我々にとっても台湾の問題は長期的な問題であって、今、政策を変更しようとしている訳ではないと述べていた。)

(2) 日中間の安全保障面での対話

3-1 了中云

3-2 file

3-3 226.72

総 = 総理大臣
官 = 官房長官
大 = 橋本大使

次 = 次官
房 = 官房長

局 = アジヤ局
審 = 審議
課 = 中国課

秘 録
官 無 期 限
課 長 3 部 の 内
2 号

【 国会議員(I) 】

氏 名					備考
福田 赳夫	2/21 審				
中曾根 康弘	6/29 大	3/31 大	3/27 局	2/25 局	
金丸 信	2/27 局				
竹下 登	5/13 次	5/6 大	4/1 大	3/4 次	
三塚 博	3/12 局				
綿貫 民輔	4/2 房	2/24 局	2/21 房		
佐藤 孝行	6/29 大	2/24 房			
森 喜朗	3/3 局				
原文兵卫	6/29 大	2/25 局			
後藤田正晴	6/26 大	6/5 局	4/27 局		
小沢 一郎	? 次				
桜内 義雄	4/23 課				
橋本 龍太郎	3/31 大	3/3 次	2/26 次		

〔 国会議員 (Ⅱ) 〕

総 = 総理大臣
官 = 官房長官
大 = 橋本大使

次 = 次官
房 = 官房長
局 = 了了局長
審 = 審議官
課 = 中国課長

氏 名					備考
鈴木 宗男	3/10 局				
麻生 太郎	5/13 課				
藤尾 正行	2/21 局				
中尾 榮一	6/29 大				
奥野 誠亮	2/25 局				
水野 清	6/26 大				
大鷹 淑子	5/13 課				
長田 裕二	4/24 局				
尾身 幸次	3/5 局	2/21 情調			
鯨岡 兵輔	2/25 局				
村上 正邦	1/29 局				

局 = 了 = 了局長
審 = 審議官
課 = 中國課長

石、池田新アシア局長に対するグリーンフ資料

池田アジア局長ブリーフィング用資料 7/14
新

3-1 アジア局長

3-2 中国課長

極 秘
無 期 限

3 部の内
3 号

決 裁 書

大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アジア局長 審議官 中国課長 首席事務官	保存期間 1類 2類 3類 4類 (永久) (10年) (5年) (1年) 起案 平成 4 年 7 月 14 日 決裁 平成 年 月 日 起案者 電話番号 泉 2426
協議先		
下記の件に関し、決裁を求めます。(関係文書別添)		
件 名 天皇陛下御訪中 (新局長 プリント用資料)		
GA-1 (昭和63. 4. 1改正)		外 務 省 回覧番号

天皇陛下御訪中（関係方面への働きかけ）

92.7.14

中国課

1. 最近のアプローチ結果

- 後藤田正晴議員→橋本大使（6.25）：「天皇訪中はたとえ反対があっても年内に是非実現しなければならない。」
- 水野清議員→橋本大使（6.26）：「党内の大勢は天皇訪中を実現すべし、あるいは止むなしということで動いている。」
- 犬養共同通信社長→橋本大使（6.26）：「国交正常化20周年に是非とも訪中して戴きたいと考えている。」
- 中曽根康弘元総理→橋本大使（6.29）：「自民党の8割が賛成し、1割や2割程度の反対ならやるべき。竹下、金丸とじっくり話し、3人で党内を纏めるべく努めるつもり。...宮沢のやり方は気に食わない。」
- 原文兵衛党参議院議員会長→橋本大使（6.29）：「天皇訪中に原則的に賛成。」
- 佐藤孝行党総務会長→橋本大使（6.29）：「宮沢総理が天皇訪中を決定すれば、その方向で何とか総務会をとり纏めたいと考えている。」
- 中尾栄一議員→橋本大使（6.29）：「天皇訪中は国民世論の理解を求めながら、自民党多数の支持を得る形で、うまいタイミングをとらえて実現すべしとの意見。」
- 金丸信党副総裁→橋本大使（6.30）：「一日も早く天皇訪中を実現すべしと考えている。」
- 森喜朗党政調会長→橋本大使（6.30）：「なんとか、円満な形で、あまりギクシャクしないように実現できればと考えている。」
- 平岩外四経団連会長→橋本大使（6.30）：「今年、20周年の年に、天皇訪中を何とか実現すべきであるというのが、私の本心である。」
- 藤尾正行議員→谷野アジア局長（7.1）：「天皇陛下の御訪中などという問題は、...畏れかしこんで対応すべき大変な問題。今後も引き続き反対していく積もり。」
- 浜田幸一議員→谷野アジア局長（7.1）：「本件が決まれば、自分は敢えて反対論は言わない。」
- 綿貫民輔党幹事長→橋本大使（7.1）：「党内には...中国へ天皇に行って戴くべきではないとの意見がある。」

- 福田赳夫元総理→橋本大使（7.1）：「宮沢総理が党内情勢や国内世論の動向をよく見極め、よいタイミングで決定すればそれで良い。」
- 竹下登元総理→橋本大使（7.1）：「自分の考えは全く変わっていない。...（党内とり纏めは）福田さんを入れて4人でやった方が良いと思うが、それでは中曽根さんが嫌がるだろうなあ。」
- 石川六郎日商会頭→小和田次官（7.9）：（財界の反対論について述べた後）「他方、いろいろなところから自分に対し、陛下御訪中反対の署名をしてくれと頼んできているが、そういうことには一切応じていない。」
- 速水優経済同友会会長→小和田次官（7.10）：「自分は御訪中には賛成の立場であり、同友会としてもその立場である。」
- 永野健日本経営者団体連盟会長→小和田次官（7.10）：「自分は陛下が訪中されたいならされればよいと考えている。」（未定稿）

2. プレスの反応

- ・毎日新聞：4/8社説「日中が超えるべきハードル」…賛成
- ・朝日新聞：5/21社説「『友好の象徴』としての訪中を」…賛成
- ・東京新聞：5/25社説「天皇訪中を両国友好の礎に」…賛成
- ・日本経済新聞：5/28社説「自然態の陛下の中国訪問を期待する」…賛成
- ・読売新聞：6/28社説「天皇訪中の実現へ環境作りを」…賛成
- ・産経新聞：7/13社説「国民合意なき既成事実化」…政府・外務省批判

3. 世論調査結果

- ・内閣広報室(6/11~14、20歳以上の全国男女2000人を対象に実施)：
賛成72.0%、反対16.4%、その他・わからない11.6%
- ・毎日新聞(6/19~21、20歳以上の男女3000名を対象に実施、7/1発表)：
賛成54%、反対17%、わからない27%
- ・日本経済新聞(6/26~29、全国の有権者3000名を対象に実施、7/2発表)：
賛成69.5%、反対17.7%

4. 反対・慎重論者

○国会議員：藤尾正行、奥野誠亮、板垣正、（浜田幸一）（橋本龍太郎）（佐藤孝行）

中山太郎、尾身幸次、(綿貫民輔) 衛藤^一、今津寛、長勢甚遠、宮路和明、
鴻池祥肇、松岡利勝、坂井隆憲

○財界人：石川六郎

○マスコミ：サンケイ新聞

○知識人：加瀬英明、山崎正和、神谷不二、佐藤誠三郎、高坂正堯、(香山健一、)
村松剛、上坂冬子、小堀桂一郎、江藤淳、黛敏郎、宇野浩一

(了)

天皇・皇后両陛下の御訪中

1. 本年秋の御訪中

- (1) 先般の渡辺外相訪中及び江沢民総書記来日の際に、中国側より、日中国交正常化20周年の本年秋に御訪中して頂きたいとの招請があり、これに対し我が方は真剣な検討を約束した。
- (2) 昨年の東南アジア御訪問は大変な成功を収められたが、国交正常化20周年に当たる本年の御訪中は、日中関係の歴史上正に画期的な出来事であり、日中両国の友好親善関係の増進のために極めて意義深いことと考える。

2. 中国よりの強い要請

- (1) 中国側要人より、繰り返し熱心な招請が続いている。これらの招請は外交儀礼に適った心のこもったものである。李鵬総理は、1月の渡辺外相との会談において特に本件に言及し、「日本国民の心の中に占める両陛下の重要性は十分に理解している。両陛下は中国政府及び国民の熱烈な歓迎を受けることを保証する。我々は御訪問を心より歓迎する」と述べている。また、先般来日した江沢民総書記は大内民社党委員長に対し、「中国側に他意はない。友好を更に促進したいとの願望があるのみである。中国として難題を持ちかけようとの意図は全くない」とも述べている。
- (2) 両陛下が本年訪中されれば、上記の通り中国側はこれを大いに評価し、最大級の歓迎を行なうことは疑いない。このような状況下において両陛

下が御訪中になられることは、我々日本国民にとっても喜ばしいことではあるまいか。

3. 御訪中の意義

(1) 我が国は先の戦争において中国を侵略し、中国国民に筆舌に尽くし難い苦しみを与えた。これはいかなる言い訳も許されない厳粛な事実であり、このようなことが二度とあってはならないというのが我が国国民の決意である。他方、両陛下の御訪中をこの面でのみ論ずることは、御訪中の本質を見誤るものであり、日中両国民にとって益のないものとなるう。

(2) 世界史の中で、日中両国のように2000年もの長きに亘って友好関係を維持し続けてきた例を知らない。我が国にとって、中国との交流を抜きにして歴史を語ることは不可能である。このような極めて密接な両国関係の歴史において天皇陛下の御訪中は実に今回が初めてのことであり、正に日中関係において歴史的出来事である。両陛下の御訪中は、このような日中間の悠久の歴史認識の中で捉えられてこそ意義のあるものになると信ずる。すなわち、今回の御訪中は、日中両国民がこれまでの両国間の長期間に亘る友好関係を再認識し、また、将来に亘る友好を固く決意するまたとない機会であるべきである。幸い中国側も同じような大局的考え方に基づいて両陛下お迎えするとのことであるので、御訪中は必ずや成功するであろう。

4. 「お言葉」問題

- (1) 御訪問が近づくにつれて「お言葉」問題がマスコミ等を中心に議論されることは避けられないだろう。しかしながら、この問題にのみ焦点を当てて御訪中を議論することは、上記に述べた通り、御訪中の意義をあまりに矮小化するものであり、大局を見失うことになる。
- (2) 御訪中は中国国民の心の傷を治すためにも重要であるとの見方を否定するものではないが、これは単なるお言葉の表現の問題とか謝罪云々といった次元の問題ではない。最も重要なことは、各国との友好親善を願われる両陛下の強いお気持ちと、誠実で率直なお人柄が中国国民にあって直接理解されることである。このことこそ、我が国国民の日中友好にかける強い熱意と決意を、中国国民に対し何よりも雄弁に物語るものとなるだろう。
- (3) また、今次御訪問は、我が国の新しい皇室像を中国国民に十分に知ってもらうための良い機会ともなろう。

5. 韓国との関係

- (1) 中国と並んで韓国御訪問も是非実現すべし。但し、本年は大統領選挙の年でもあり、現在の状況下においては御訪問の機が熟していない。

(2)

効果もありえよう。

6. その他

- (1) 中国の人権状況から御訪中に疑問を呈する向きもあるようだが、この問題については、将来の発展をも十分に念頭においた大局的つき合いを行なっていくことが重要である。中国において人権問題が課題として残っていることは否定しないが、どこの国が過去において潔白であったと主張し得るのだろうか。要は、改善に向けての努力の姿勢であり、我々はこのような積極的努力を支援していくことも忘れるべきではない。
- (2) 中国のいわゆる「保守・革新対立」を理由として御訪中に慎重論を唱える向きもある。これはあまりにも誇張した見方と言わざるを得ない。中国が政治的にも経済的にもより開かれた社会を目指して生みの苦しみを体験していることは事実であるが、これをもって中国の内政に天皇陛下が巻き込まれるとの考え方は短絡的にすぎ、正確な中国情勢分析に基づくものとはとうてい言い難い。
- (3) 日中関係の過去に対する中国の厳しい態度をもって御訪中反対の根拠とする考え方もある。確かに、これまでの日中関係には種々の紆余曲折があったことは事実であり、時として我が国の国民感情を刺激したこともあった。しかしながら、我が国の軍事行動によって筆舌に尽し難い人的、物的被害を受けた中国国民の立場からすれば、やむを得ない面もあることを理解すべきであろうし、また、このような過去の深い傷跡が完全に癒えるには、なお長い時間が必要であることも率直に認めることが大切である。他方、同時に我々が見過すべきでないのは、日中両国が暗い過去を徐々に乗り越え、より未来に向けた新しい関係を構築しつつあるとの現在の大きな歴史的流れである。江沢民総書記は、先般の訪日の

際に、「中国は以前のことを忘れて未来に目を向けていく努力をする」との決意を表明したが、この言葉が上記の如き歴史的趨勢を雄弁に物語るものであろう。また、同総書記は、我が国の国際社会における政治的役割を是認するとの新しい考え方を明らかにしたが、これは日中関係がより成熟しつつある現状を端的に示すものと言えよう。

日中関係の現状は、以上のような大きな歴史の流れの中で理解されるべきものであり、これまでの中国による対日批判や過去に対する一定のわだかまりのみに目を奪われ続けていれば、日中関係の大局を見失い、我が国にとっても重大な不利益をもたらすこととなる。

(4) 更に、両陛下が御訪中されれば、我が国と米国、西欧諸国との関係に悪影響をもたらすとの議論がある。筆者は、これまで米国や西欧諸国が両陛下の御訪中に対して批判を行なったとの事実を承知していないが、万一かかる批判があった場合には、自信を持って我が国の考え方を説明すれば良い。すなわち、歴史的、地理的観点からのみ論じても、日中関係の我が国にとっての重みは、米・西欧諸国の対中関係の持つ意味合いとは自ずから異なり、更に、日中両国は過去の不幸な戦争の傷跡を背負っていることにおいて米・西欧諸国とは決定的に違っている。米国にしろ西欧諸国にしろかかる事実を十分に理解しているはずであるし、また理解しうるものと確信する。

(5) 何れにせよ、日中関係をより成熟したものにしていくためには、絶えざる努力が必要であるとの視点が重要であり、また、いわれなき対中優越感も捨て去るべきものである。中国が理想の国であるなどとは考えてもいないし、種々の問題を抱えていることも事実であるが、日中関係を

一層安定したものにしていくことは、我が国にとってのみならず、世界、特にアジアの安定と繁栄にとって極めて重要であることは論を俟たない。そうであれば、あらゆる好機を促えて日中関係をより安定させていくとの努力こそ行なうべきである。流動化しつつある国際情勢の中にあつてそのような努力を積み重ねていくことが、我が国外交に幅と深みを持たせ、国益を守っていく由縁ではあるまいか。なお、逆に本年の御訪中が実現しないこととなれば、日中関係の後退を余儀なくされる惧れがありうることも心に留めて置く必要がある。

- (6) 何れにせよ、両陛下は今後広く世界各地を訪問あそばされるものと拝察するが、このような御外遊を通じて我が国と諸外国の友好関係が一段と促進されることは、広く世界の平和と安定にとつても大きな意義があることを否定する者はあるまい。

(了)

外国国家元首の訪中 (1986年)

(政務班)

2月	モーリタニア国家元首 セーシェル大統領
6月	マリ大統領
9月	ニカラガ大統領
10月	連合王国女王 東徳国家幹部会議議長
12月	メキシコ大統領 ベニン大統領

外国国家元首の訪中 (1987年)

2月	ガボン大統領
3月	タンザニア大統領 カナダ総督 カメルーン大統領
4月	ガンビア大統領 コンゴ大統領
5月	北朝鮮主席
7月	バングラ大統領
8月	民主カンブチア主席
9月	ネパール国王
11月	マレーシア最高元首
12月	ヴァヌアツ大統領 アラブ・イエーメン大統領

外国国家元首の訪中 (1988年)

2月	オーストラリア総督 ザンビア大統領
4月	フィリピン大統領

	ギリシャ大統領
5月	アイルランド大統領
	アルゼンチン大統領
	モザンビーク大統領
6月	ポーランド閣僚会議議長
	エチオピア大統領
7月	ブラジル大統領
	ギニア大統領
	ガンビア大統領
10月	ザンビア大統領
	フィンランド大統領
	ルーマニア大統領
	アンゴラ大統領
11月	バングラ大統領
	ウルグアイ大統領
	コモロ大統領

外国国家元首の訪中（1989年）

1月	マリ大統領
2月	ブロンディ大統領
	米国大統領
3月	民主カンブチア主席
	ウガンダ大統領
4月	トーゴ大統領
5月	イラン大統領
	ソ連最高幹部会議長・共産党中央総書記
9月	ブルキナファッソ国家元首
10月	パレスチナ大統領
11月	北朝鮮主席

外国国家元首の訪中（1990年）

4月	赤道ギニア大統領 中央アフリカ大統領
5月	アラブ首長国連邦大統領 パレスチナ大統領 エジプト大統領
6月	チャド大統領 バングラ大統領
7月	セーシェル大統領
8月	民主カンブチア主席 サイプラス大統領
9月	パキスタン大統領
10月	マレーシア最高元首 ヴァヌアツ大統領
11月	ミクロネシア大統領 インドネシア大統領
12月	クエート首長

外国国家元首の訪中（1991年）

1月	ルーマニア大統領
3月	ジブチ大統領 マーシャル群島大統領
4月	ペルー大統領 フィジー大統領 チュニジア大統領
5月	ガンビア大統領 ガボン大統領 パプアニューギニア大統領
6月	セーシェル大統領
8月	ミャンマー国家評議会議長
9月	マレーシア最高元首

	シンガポール大統領
	ボツアナ大統領
10月	北朝鮮主席
11月	クエート首長
12月	マルタ大統領
	パレスチナ大統領

外国国家元首の訪中（1992年）

3月	ウズベク大統領
4月	ガリ国連事務総長
	ラオス大統領
5月	インド大統領
	キルギス大統領
	ボリビア大統領
	マーシャル群島大統領
	ベニン大統領

天皇陛下の御訪中（想定問答）

4.6.19

中国課

1. 指摘すべきポイント

（1）天皇訪中は日中関係の長期に亘る安定的発展の重要な基礎となること。

（日中関係は趨勢的に質的变化を遂げつつある。すなわち、より冷静かつ客観的に相手を認め合う関係に発展しつつある。これを端的に示したのが、我が国の国際社会における政治的役割を初めて公けに認め、支持を表明した先般の江沢民発言であり、また、PKO法案の採択時に於ける中国の極めて抑制された反応である。我が国は、この機を捉えて、更に日中関係の安定的発展のために一層努力すべし。）

（2）我が国の国際社会における将来のあり方にとって極めて重要。

（アジアの大国たる中国との安定的な関係の維持・発展なしに、我が国の国際的発言権を更に拡大し、積極的役割を担うことは困難。）

(3) 陛下御訪中は日中の悠久の歴史の中で大局的観点から位置づけるべきもので、「お言葉」といった問題に拘泥して矮小化してはならないこと。

(4) 中国は真摯な態度で招請していること。

中国側は以下の3点を確約。

- ① 陛下の御訪中を必ず成功させること。
- ② 御訪中は両国の友好親善を促進するためのもの。
- ③ 日本側を困らせることは決してしないこと。

(5) 国交正常化20周年は日中関係の大きな歴史的節目であり、御訪中の好機であること。

(6) 中国側は御訪中のための環境作りに最大限努力していること。

(例えば、PKO法案に対する反応、その他慰安婦、民間賠償といった問題についても抑制された態度を維持。)

2. 想定問答

(1) 政府の立場如何？

天皇・皇后両陛下の御訪中については中国側より累次にわたる丁重な招請があり、政府としては右を踏まえ現在真剣に検討しているところ。

日中両国の国民の祝福を得て、天皇・皇后両陛下が中国を御訪問されることは、日中両国及び国民の一層の友好関係の発展にとり、意義深いことと考える。

(2) 中国側との間で陛下の御訪中時期等につき何らかの密約があるのではないか？

中国側に対しては、招請のある度に、真剣に検討する旨応答しており、密約などはない（別添資料参照）。

(3) 国交正常化20周年に陛下に御訪中いただくというのは明らかに天皇陛下の政治利用であり、憲法違反ではないか？

政府として天皇陛下を政治利用する積りは全くなく、また陛下の親善を目的とされたご外遊が憲法違反に当たることはありえない。

むしろ、本件ご訪問によって、中国国民は、新たな開かれた皇室の姿を強く認識するものと信ずる。

(4) 陛下の「お言葉」をどうするのか？

現段階において「お言葉」等の具体的問題について云々するのは時期尚早と考える。何れにせよ陛下の御訪中は、日中両国間の長期にわたる安定的発展を主眼とした大局的観点から捉えられるべきもの。

(5) 陛下に過去の戦争について謝罪の旅をさせることには反対である。

謝罪の旅をしていただく積りは全くない。中国側も、国を挙げて大歓迎するとしており、謝罪の旅を求めている訳ではない。先般来日した江沢民総書記は、①陛下の御訪中を必ず成功させること、②本件御訪中は両国民の友好親善を目的とするものであること、③日本側を困らせることは決してしないこと、の3点を明確に約束している。

(6) 中国はミサイル拡散や人権で問題を有する国である。そのような国に陛下は行かれるべきではないと考えるがどうか？

中国は我が国と歴史的にも文化的にも強いつながりを有する隣国であり、又、御指摘の点についても、最近NPT加入、MTCR遵守表明に加え、人権についても少しずつではあるが対話に応じる姿勢を示してきている。我が国としては、かかる中国の努力にたいしては相応の評価をすべきものとする。

(7) 我が国固有の領土である尖閣諸島に対する領有権を主張してゆずらない
国に陛下が行かれることは好ましくないと考えるが、どうか？

尖閣諸島の領有権について、我が国と中国の立場は異なるが、尖閣諸島は現
に我が国が実効支配を行っている。中国側も先の「領海法」制定により新たな
措置を採ろうとしているものではない旨繰り返し言明しているところであり、
本件をもってして陛下の御訪中問題と関連させて論ずるのは不適當と考える。

(8) 中国の共産主義もいずれソ連のように崩壊する日が来るので、その時ま
で陛下の御訪中は待っても遅くはないのではないかと？

日中両国は72年の共同声明で「社会制度の相違」を乗り越えて平和友好関
係を発展させることを誓っている。従って、中国がいわゆる社会主義国である
ということ自体をもって陛下の御訪中を云々することは適當とは考えない。

なお、中国は、現在改革・開放政策を急ピッチで進めており、経済的にはす
でに混合経済体制となっている。また政治改革も推進するとの方針を明らかに
しており、このような中国を伝統的イデオロギーの枠組みの中で捉えることは、
もはや非現実的である。

(9) 中国はかつて口をきわめて我が国の皇室を罵った国であり、そのような
国にいくべきではないと考えるがどうか？

国交正常化以前のことである。現在の中国は皇室に対し十分の敬意を払って
いる。

(10) 大喪の礼の際に各国は元首級を送ってきたにも拘らず、中国は錢其琛外相が来ただけであった。また、即位の礼の際も、中国は呉学謙副総理が来ただけであった。そのような礼を欠いた国には陛下は御訪中される必要はないと考えるがどうか？

政府として、錢外相が楊尚昆国家主席の名代として大喪の礼に出席されたこと、又、呉学謙副総理が即位の礼に出席されたことをもって、中国が我が国に対し、礼を失していたとは考えていない。

(11) 先般の宮沢総理発言は従来のラインより一步踏み出したものか？

総理は、両国国民の祝福を受けて陛下が御訪中されることは意義深いとの考え方を繰返し明らかにしておられたところ、今次ご発言もこの趣旨に沿ったものと理解。

(12) 韓国ご訪問が先ではないか？

陛下に韓国を御訪問していただくことは意義深いことと考えるが、本年は大統領選挙の年でもあり、困難。

(13) 欧米各国から批判が出るのではないか？

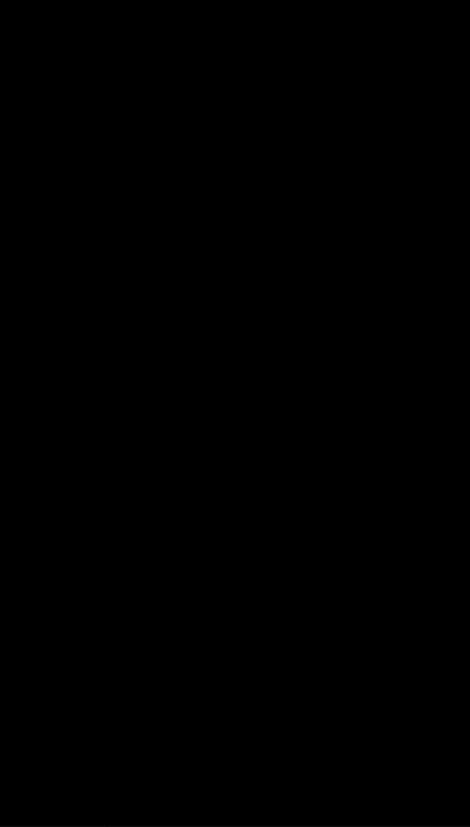
これまでそのような批判を受けたことはなく、政府として特に懸念していない。

天皇陛下御訪中反対団体リスト

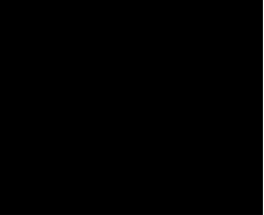
92.6.8

中国課

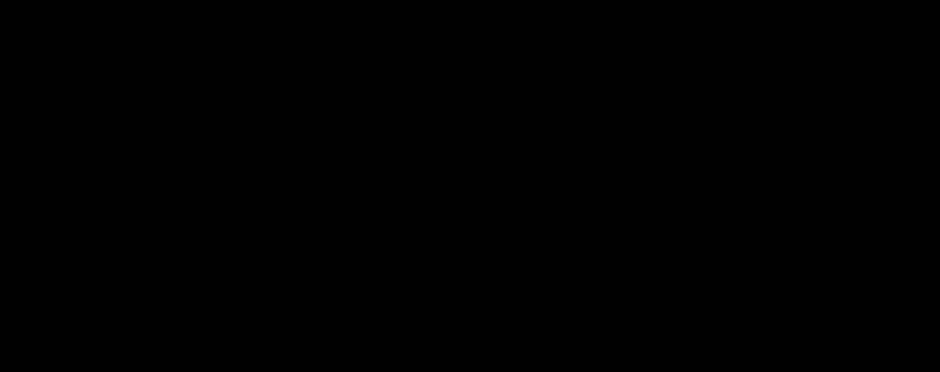
【データあり】



【住所のみ】



【データなし】



以下、13 ページは非公開。

天皇陛下の御訪中延期を願う国民集会

代表発起人

宇野精一

江藤淳

小田村四郎

黛敏郎

村松剛

発起人

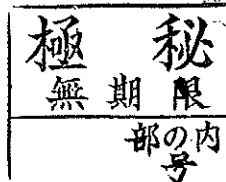
代表発起人・発起人

栗本慎一郎	栗原美能留	倉林和弘	栗栖弘臣	熊谷信次郎	清瀬清五郎	北上謙治	菊池信胤	木内行雄	川井修治	川井三之輔	加藤正敏	笠原正明	笠原徹	甲斐寅二郎	小田村寅二	岡本幸治	大原康雄	大蔵雄之助	梅津和郎	植田剛彦	岩井利夫	入江隆則	井上順理	伊藤哲夫	渥美堅持	会田雄次
杉田一	末次郎	白井永二	四宮正貴	篠田康雄	清水公梵	柴田盛房	澤渡早苗	佐藤永充	佐藤欣子	佐藤和奎	佐々木勝之進	櫻井勝之進	在間完一郎	佐久昌昭	酒井信彦	佐伯彰一	斎藤五郎	小森義峯	小林道憲	小林宏	小田林節	郷田豊	慶野義雄	氣賀健三	桑田悦	
西山徳	丹羽春	奈須田敬	名越二荒之助	中村武彦	中村恒彦	長田八洋	中川八洋	豊田治	寺部かづ	網淵謙錠	柘植久慶	谷沢省吾	谷沢永一	田中宏	田中正明	田中明	伊達宗義	滝沢幸助	桑原壽一	高橋史朗	高池勝彦	副島廣之	関野英夫	鈴木正男	杉森久英	
山田恵久	山崎幸一郎	山口宗之	森田忠明	森田大耕	村尾次郎	宮崎弘	三輪和雄	南雅也	三緒信吾	松本効三	松岡永芳	松岡吾郎	富士信夫	藤島泰輔	福島信義	弘津恭輔	平沼赴	平泉	半本	原正	梶島有	服部貞弘	馬場嘉光	長谷川信		

3. 會議（於總理官邸外務省）

官邸會議

6/24



天皇陛下ご訪中（6月24日官邸会議）

original

92.6.25

重 中

6月24日、総理官邸で行われた標記会議の様相以下の通り（出席者、宮沢総理、加藤官房長官、小和田事務次官、橋本在中国大使）。

1. 宮沢総理

（1）橋本大使が先般帰任する際にお願いしたことについては、中国側に働きかけて頂き、徹底して頂いたことを大変に評価している。電報は全部読んでいるが、思った以上によくやって頂いた。

（2）橋本大使より先般の帰国以来中国の状況はこういうことだということ（日本側が懸念している問題について）党内等に説明して貰いたいと思っている。党内で言えば、金丸、中曽根、福田、竹下等の諸氏かなあ。（中曽根さんはその後前向きになったようだ。竹下さんは基本的に賛成であるが、右翼との関係もあり、旗振りをしたくないということのようである。福田さんについては、小和田次官からも色々努力して頂いているが、戦前のこともあるのか訪中に多少の不安があるのかも知れない。しかしながら、同元総理にはわかって欲しいし、できれば影響力を行使して欲しい。金丸さんの本心は総理に任せてくれるということだが、少し冷却期間を置いた方がよいという感じである。四役中では政調会長はお任せするとの態度であるが、幹事長は何を考えているのかわからない。総務会長は「総務会で反対が多いが、それは外に出ないようにしている」と言っているものの、総務会での反対を奇貨としている面もあるような気がする。原さんは昔の人だけに多少慎重な面があるかも知れない。）橋本大使の説明先には自民党内で強硬に反対している人達（名前は外務省が知っている筈）も含めてはどうか。

（3）マスメディアは大体において反対とは言わない姿勢だ。読売だけが朝日との関係も考えてか静かにやって欲しいという感じだが反対ではない。野党も反対とは言っていない。（但し、民社党はどうかなあ。）

（4）以上を考えると、自分が色々考えて決めるのは8月にはいるのではないかと思う。その位のタイミングで考えないと。急ぐとかえって反対となる恐れがある。

（5）最後は、外務大臣か自分が「決めた」と言った時に、あまり声が上がらない状況にしておきたいので、宜しく願いたい。

（6）以上のようなことでお願いできないか。

2. 橋本大使

（1）おっしゃることはわかりました。他方、物理的な準備も必要であるので、自分は本省との事前協議なしに大使館限りでできる準備は全てやった。しかしな

がら、ここより先は中国側から動いて貰わなければやれないことが多く残っている。これには相当の時間が必要であり、できる限り早く着手する必要がある。

(2) 8月中旬ということとなると、どうしても中国側の準備が間に合わないので、自分が帰任した際に中国側に対し、次のように言わせて頂いて良いか。「総理はご訪中を是非実現したいとの気持ちである。しかしながら、国内事情もあり、すぐに決定することは困難な状況にある。総理は前から公に述べておられる通り、ご訪中は日中両国民の祝福を受けて実現したいとのお気持ちであり、その為に努力している。」

3. 宮沢総理

(1) それはその通りであるから内容的には結構である。但し、これが実行の確約ととられると困るので、気持ちはその通りであるが、結果はわからないことを明確にしておいて欲しい。言うことはよいのだが、条件が整わなければ、どうなるかわからないということをはっきりさせておいて欲しい。しかし、自分の気持ちに変わりはないので、言って貰うことは結構である。

(2) 自分の率直な気持ちを言えば、自分の世代のせいかも知れないが、若い人とは考え方が違っており、国内で反対があったりしてガタガタしている中で陛下に是非行って頂きたいということは申し上げにくい。これが自分の率直な心情である。全員が賛成ということは期待できないということはわかっているが、反対の人達が「反対である」と言わない状況を造っておきたい。

(3) 「これは決断の問題であり、ハラを決めないのはダラシがない」と言う人がいるが、自分は本件ご訪中はそういう性格の問題ではなく、少し違うと考えている。

(以上に対し、橋本大使より、「総理の話は理解したので、早速帰国してご指示に従ってやりたいと考える」旨述べたところ、総理より、「小和田次官とも充分打ち合わせた筈であるが、橋本大使には綿密な戦略に則って今次帰国の際にやって貰う重要な任務があった筈である」旨述べられた。小和田次官より、「橋本大使には、今次帰国の際に、党の要路等に対し、中国側の事情を中心にご説明頂くということである」旨改めて確認したところ、橋本大使より、「ご指示に従って党の要路等に説明を行うこととしたい」旨述べた。)

4. 小和田次官

(1) (総理より「ご日程に関する外務省の考え方はどうか」との質問があったのに対し、) 自分が宮内庁長官と話した際に、

(2) しかしながら、その後、「サミット前には無理である」との総理のご意向を踏まえ、本日(24日)、アジア局長より長官に対しその旨をお伝えし、宮内庁としてのギリギリのデッドラインにつきお尋ねした。これに対し、長官より、

「早ければ早いほど良いが、7月中旬であれば何とかなる」との感触であった。そこでこれが8月ということとなれば、もう一度長官に事情を説明し、
このことについてはその性格上、最終的には総理より直接長官にお話して頂く必要があると思う。

5. 宮沢総理

8月中旬まで延ばすことは考えていない。参議院選挙後、東京に人がいなくなれば、8月初旬でも決定できる。長官に対する協力要請は自分がやるが、いつやれば良いのかシグナルを出して欲しい。

6. 小和田次官

(会談終了後、立ち上がりつつ、) 申し上げにくいことであるが、二点ほど申し上げます。

(1) 先般のNHKでの総理の記者会見との関連で、「外務大臣は入院中であり、外務事務当局が総理をそそのかして、総理に働きかけた」との説が流れており、外務省に対して批判が舞い込んでいる。いずれにせよ、総理のご発言内容はさることながら、党の要路に充分事前に話のないまま出たことに対する党からの批判が強い。今後、段取りを進めて行くに当たっては、党に対する根回しを慎重にする必要があると思う。(総理より、「その通りだと思う。言う積もりはなかったが、たまたま質問があったことと、各社の社長クラスの集まりでもあったので、理解を得たいと思い、その場で判断して言ったものである。しかしながら、慎重にやるべきというのはその通りと思う」旨述べられた。)

(2) 党内の反響の中には、必ずしも反対ではないが、^{か、または}どちらかと言えば賛成という方々の中に「天皇ご訪中の件は政府が静かにしているので、死んだと思っていたが、まだ生き残っていたのか」という意外感の表明を行っている向きがあったことに関し、冷却期間は重要であることは理解するが、完全に冷却させず、適当な温度を保つことが必要との面もあろう。(総理より、「その点はわかる。しかし、今差し当たりは冷却させて、今度は手違いをしない為の時間が必要である。よって、暫くは冷却に心掛けていきたい」旨述べられた。)

(了)

7-1 エレベーター

7-2

7-3

7-4

7-5 }
7-6 } エレベーター

7-7

極 秘
無 期 限
部の内
号

決 裁 書

大 臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官 房 長	主 管 アジア局長 審議官 中国課長 首席事務官	保 存 期 間 1類 2類 3類 4類 (永久) (10年) (5年) (1年) 起案 平成 4 年 7 月 2 日 決裁 平成 年 月 日 起案者 電話番号 泉 2426
協議先		
下記の件に関し、決裁を求めます。(関係文書別添)		
件 名 天皇陛下御訪中 (7/3 次官室会議用 10-110-)		
GA-1 (昭和63. 4. 1改正)		外 務 省 回覧番号

1. 最近のアプローチ結果

- 後藤田正晴議員→橋本大使（6.25）：「天皇訪中はたとえ反対があっても年内に是非実現しなければならない。」
- 水野清議員→橋本大使（6.26）：「党内の大勢は天皇訪中を実現すべし、あるいは止むなしということで動いている。」
- 犬養共同通信社長→橋本大使（6.26）：「国交正常化20周年に是非とも訪中して戴きたいと考えている。」
- 中曽根康弘元総理→橋本大使（6.29）：「自民党の8割が賛成し、1割や2割程度の反対ならやるべき。竹下、金丸とじっくり話し、3人で党内を纏めるべく努めるつもり。...宮沢のやり方は気に食わない。」
- 原文兵衛党参議院議員会長→橋本大使（6.29）：「天皇訪中に原則的に賛成。」
- 佐藤孝行党総務会長→橋本大使（6.29）：「宮沢総理が天皇訪中を決定すれば、その方向で何とか総務会をとり纏めたいと考えている。」
- 中尾栄一議員→橋本大使（6.29）：「天皇訪中は国民世論の理解を求めながら、自民党多数の支持を得る形で、うまいタイミングをとらえて実現すべしとの意見。」
- 金丸信党副総裁→橋本大使（6.30）：「一日も早く天皇訪中を実現すべしと考えている。」
- 森喜朗党政調会長→橋本大使（6.30）：「なんとか、円満な形で、あまりギクシャクしないように実現できればと考えている。」
- 平岩外四経団連会長→橋本大使（6.30）：「今年、20周年の年に、天皇訪中を何とか実現すべきであるというのが、私の本心である。」
- 藤尾正行議員→谷野アジア局長（7.1）：「天皇陛下の御訪中などという問題は、...畏れかしこんで対応すべき大変な問題。今後も引き続き反対していく積もり。」
- 浜田幸一議員→谷野アジア局長（7.1）：「本件が決まれば、自分は敢えて反対論は言わない。」
- 綿貫民輔党幹事長→橋本大使（7.1）：「党内には...中国へ天皇に行って戴くべきではないとの意見がある。」
- 福田赳夫元総理→橋本大使（7.1）：「宮沢総理が党内情勢や国内世論の動向

をよく見極め、よいタイミングで決定すればそれで良い。」

○竹下登元総理→橋本大使(7.1) : 「自分の考えは全く変わっていない。...

(党内とり纏めは) 福田さんも入れて4人でやった方が良いと思うが、それでは中曽根さんが嫌がるだろうなあ。」

2. アクション・プラン

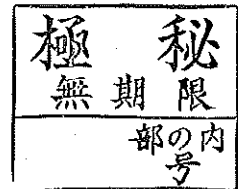
(1) 今後の段取り(別添)

(2) 反対派～藤尾議員対策(→福田元総理)

衛藤議員グループ対策

(3) 野党各党委員長?

(了)



天皇陛下ご訪中準備の段取り（案）

92.7.2

外務省

遅くとも8月初旬までに方針決定→天皇陛下へ政府の意向をご説明

→対中非公式通報

↓

天皇陛下ご訪中ロジ作業を内々に開始

↓

8月4日または7日の閣議で正式決定

→対外公表

→対中正式通報

→天皇陛下ご訪中省内準備委員会及び準備ロジ室開設・公表

↓

8月10日の週に第一次先遣隊派遣

↓

9月下旬に第二次先遣隊派遣

↓

10月上旬に随員・予備費の閣議決定

↓

10月下旬、天皇・皇后両陛下ご訪中

天皇陛下の御訪中について

(今後の段取り)

4 . 6 . 2 3

外 務 省

1. 先ず、総理より次の自民党幹部に対して決意を直接伝達して頂く。

(1) 福田、中曽根、金丸、竹下、海部、三塚の各議員

(2) 党四役

2. これを受けて、官房長官、渡辺大臣、外務省幹部より次の根回しを行なう。

(1) 上記1. (1) の各議員

(2) 衆・参外務委員会 (委員長及び理事)

(3) 外交部会幹部

(4) 日中議員連盟幹部

(5) 総務会、政調会幹部

(6) その他

3. 上記と並行して、以下の根回しを外務省を中心に行なう。

(1) プレス (特に問題ないが、読売、産経、共同対策が必要。)

(2) 財界首脳 (官房長官を中心に。)

(3) 有識者

4. 上記の情勢を見極めつつ、早期に対中非公式通報を行ない、具体的準備に着手する。(首席接伴員の決定を含む—福田元総理?)

5. 以上を受けて、閣議決定及び公表は8月初旬を目途とする。

(了)

7/10 儀典官室主催会議

（昨年東南了、訪問
気付の点）

極 秘
無 期 限
/ 部の内
号

報 告 ・ 供 覧

大 臣 秘 書 官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官 房 長	主 管 中国課長 首席事務官 機務班長	<table><tr><th colspan="4">保 存 期 間</th></tr><tr><td>1 類</td><td>2 類</td><td>3 類</td><td>4 類</td></tr><tr><td>(永久)</td><td>(10年)</td><td>(5年)</td><td>(1年)</td></tr><tr><td>起案</td><td>平成 4 年 7 月 13 日</td><td></td><td></td></tr><tr><td>完結</td><td>平成 4 年 7 月 13 日</td><td></td><td></td></tr><tr><td>起案者</td><td colspan="3">電話番号</td></tr><tr><td></td><td colspan="3">片山 2425</td></tr></table>	保 存 期 間				1 類	2 類	3 類	4 類	(永久)	(10年)	(5年)	(1年)	起案	平成 4 年 7 月 13 日			完結	平成 4 年 7 月 13 日			起案者	電話番号				片山 2425		
保 存 期 間																														
1 類	2 類	3 類	4 類																											
(永久)	(10年)	(5年)	(1年)																											
起案	平成 4 年 7 月 13 日																													
完結	平成 4 年 7 月 13 日																													
起案者	電話番号																													
	片山 2425																													
回 覧 先			(檀山)																											
下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。																														
件 名																														
天皇・皇后両陛下御訪中(東南アジア御訪中について) の気付の点																														
(別紙の要点等)																														
10日行われた儀典官室主催の会議において、昨年の 東南アジア御訪中につき関係者より気付の点・反省点を 聴取。																														
GA-7 (昭和63. 4. 1改正)		外 務 省																												
回覧番号																														

天皇・皇后両陛下御訪中

92. 7. 10

中国課

10日に行われた儀典官室主催の会議において

昨年^の天皇皇后両陛下の東南アジア御訪問に関し、関係者より気付の点を聴取したところ要点次の通り。

(木寺ア中首席、村角儀典官室首席、両陛下東南アジア御訪問準備関係者等出席)

1、準備室の設置

○9月末出発で、7月初旬の設置であったが、早すぎた感あり。

○部屋には、客への対応のためソファーをおく必要。(昨年は662を使用)

○部屋は広いほうがよい。2部屋とるのも一案。

○準備室には、儀典官と首席が在室。

2、宮内庁との関係

○宮内庁とのパイプをしっかりとしておく必要あり。ロジ室にも宮内庁職員を1人配置したほうがよいのでは。

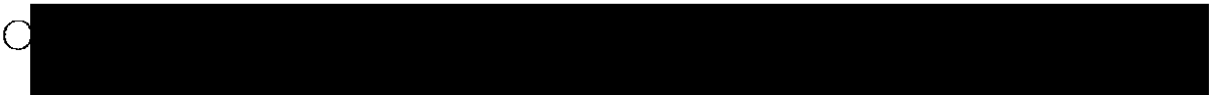
○パイプである侍従をどこまで信用するかという問題。

○外務・侍従間だけでなく、例えば大使夫人等から侍従へ本省に入らない情報が流れることもあり要注意。

○^{仕度}表は式部、裏は侍従が担当している。

○宮内庁が明確な意思表示をせず困ったことあり。

○



3、現地との関係

○調査団が聞いたことをさらに電報で聞き返す例が多かった。調査団の確認事項の
○明確化と結果のその後の作業への反映をきちんとやるべき。

○宮内庁は質素に、大使館は豪勢にしようとしてチグハグな面があった。

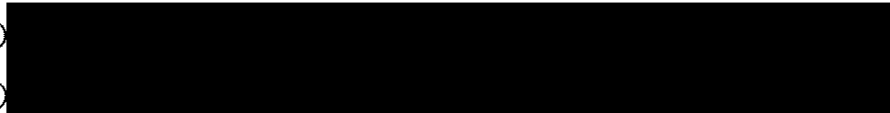
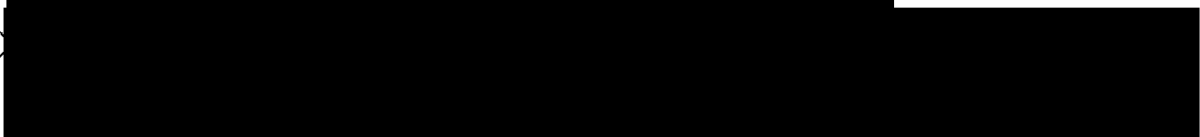
○現地と本省においても、豪勢にしようとするので在外の会計担当の負担が大きく

④会計処理上の問題が生じた。会計は重要。昨^今年は会計のサポートに当初の作業が割かれ、その他の作業に影響が出た。

4、プレスとの関係

- 宮内庁には公式カメラマンはいない。
- 宮内庁は外務省に助けを求め、外務省報道課は宮内庁記者クラブだから当然宮内庁が世話すべきと反論。調整が必ずしもスムーズではなかった。
- 準備室に報道課からもパイプとして担当者の派遣必要。

5、現地でのロジ

- 
- 
- 無駄な随員、随行員がいる。
- 宿舍の部屋割り、配車に関する宮内庁との調整が必要。
- 在外で入手できないもの（宮内庁でしか使っていないようなもの）は持って行く必要あり。
- 
- 贈り物が生きもの、刀剣類の場合は注意。
- 
- 食事のし好、部屋に準備しておくべき物等に関するノウハウは
昨年の経験が参考となる。

会議のお知らせ

1. 日時：7月10日（金）14：00～

2. 場所：儀典長室

3. 案内先：本寺首席

泉補佐（出張中）

片山補佐

中村事務官

渡辺（信）事務官（休暇中）

小林事務官

高田研修員

檜山研修員

極 秘
無 期 限
部の内
号

※総第72600号001公館宛
平成 ※平成 1 年 4 月 14 日 1 角 6 分 秒 受 付

電 信 案

電信課長	大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アジア局長 審議官 中国課長 首席事務官 機務班長	※発電係 1 2 起案 平成 4 年 7 月 14 日 起案者 電話番号 片山 2425
	協議先		
	機務班長		

(注意) 1 枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

在 中 国	大使 総領事	あて	外務大臣 発
件 名 事務連絡			
主管・文書記号 亜 中	※電番 第 1939 号	大至急 普通 至急 (優先処理)	パターン・コード
転電 転送 在 転報	※転電番号	大 使 ・ 総 領 事 あ て	大至急 至急 普通 (優先処理)
(ハ〇字)			
模田公使へ 樽井中国課長より			
先日、天皇皇后兩陛下の東南アジア御訪問に関し、関係者より気付け、反省点を聴取しましたところ、要点を御参考までに下記の通りお知らせ致します(本寺ア中首席、			
※			
07260073	優先	TYUUGOKU	漢 自暗
GB-1	外 務 省		回覧番号

(※印欄内は電信課記入)

(昭和六三・六・三十改正)

(三八〇字)

トランス

村角儀典官室首席他関係者出席)。

記

1、準備室の設置

- 9月末出発で、7月初旬の設置であったが、早すぎた感あり。
- 部屋には、客への対応のためソファールをおく必要。(去年は662を使用)
- 部屋は広いほうがよい。2部屋とるのも一案。
- 準備室には、儀典官と首席が在室。

2、宮内庁との関係

- 宮内庁とのパイプをしっかりとしておく必要あり。ロジ室にも宮内庁職員を1人配置したほうがよいのでは。
- パイプである侍従をどこまで信用するかという問題。
- 外務・侍従間だけでなく、例えば大使夫人等から侍従へ本省に入らない情報が流れることもあり要注意。
- ^{知照}表は式部、裏は侍従が担当している。
- 宮内庁が明確な意思表示をせず困ったことあり。
-

3、現地との関係

- 調査団が聞いたことをさらに電報で聞き返す例が多かった。調査団の確認事項の明確化と結果のその後の作業への反映をきちんとやるべき。
- 宮内庁は質素に、大使館は豪勢にしようとしてチグハグな面があった。
- 現地と本省においても、豪勢にしようとするので在外の会計担当の負担が大きく

○会計処理上の問題が生じた。会計は重要。昨^々年は会計のサポートに当初の作業が割かれ、その他の作業に影響が出た。

4、プレスとの関係

○宮内庁には公式カメラマンはいない。

○宮内庁は外務省に助けを求め、外務省報道課は宮内庁記者クラブだから当然宮内庁が世話すべきと反論。調整が必ずしもスムーズではなかった。

○準備室に報道課からもパイプとして担当者の派遣必要。

5、現地でのロジ

○
○
○
○

○無駄な随員、随行員がいる。

○宿舍の部屋割り、配車に関する宮内庁との調整が必要。

○在外で入手できないもの（宮内庁でしか使っていないようなもの）は持って行く必要あり。

○

○贈り物が生きもの、刀剣類の場合は注意。

○

○ 食事のし好、部屋に準備しておてべき物等に関するノウハウは
昨年の経験が参考となる。

内閣世論調査

(内閣府政策調査部)

6/25

天皇陛下の御訪中問題（世論調査）

4 . 6 . 2 5

中 国 課

25日、内閣広報室福下参事官より中国課長に連絡越したところ次の通り。

1. 官邸の指示により、6月11日から14日にかけて社団法人中央調査社を通じ、2000人を対象とした本件に関する個別アンケートを実施した。（調査結果別添）
2. 本件結果につき、内閣広報官より総理、官房長官、両副長官へ説明し、今後の取扱いぶりにつき指示を仰いだ。その結果、総理がサミットにご出発になった後、官房長官より記者に対し発表することとなった。
3. 以上お知らせするとともに、上記の次第であるので、公表までは本件調査結果を秘扱いとして頂きたい。

（配布先）

（了）

大臣秘書官	7-1	儀典長	5
事務次官	-2⑥	アジア局長	6
青藤外務審議官	-3	中国課長	7
官房長	-4④		

発表まで取扱注意

└ 総理外遊(サミット)出発後、官邸で記者会見

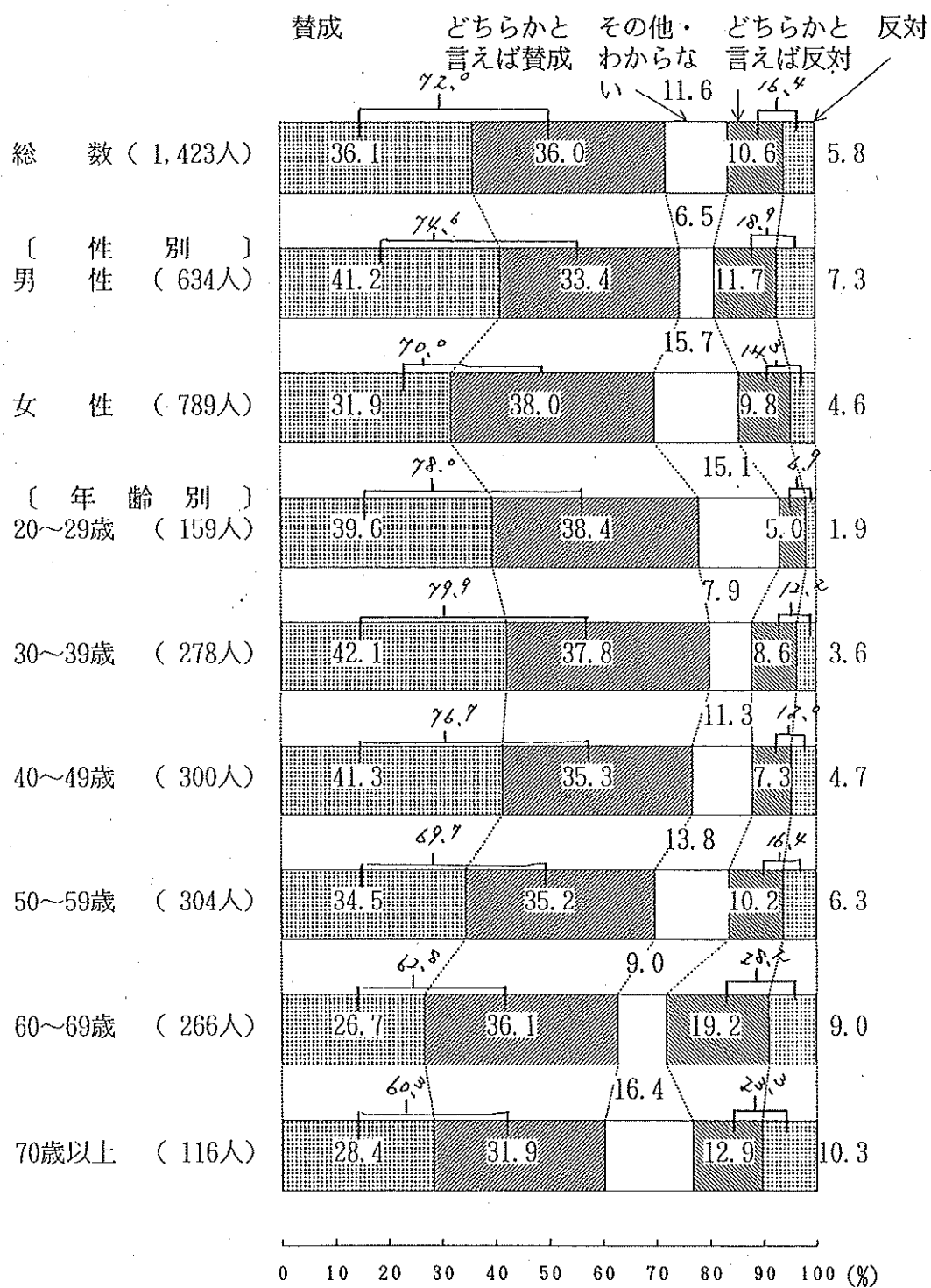
天皇陛下下訪中に関する調査の概要

1. 実施主体 (株)中央調査社
 - (1) 従業員数 70名。ほかに全国56の支社・総局・支局に調査担当者が常駐
 - (2) 調査員数 登録調査員 550名
 - (3) 沿革 昭和29年に時事通信社調査室と(旧)国立世論調査所を母体とし、総理府認可の社団法人として発足
2. 実施時期 6月11日(木)～14日(日)
3. 調査設計
 - (1) 母集団 全国の20歳以上の男女個人
 - (2) 標本数 2,000, 回収数(率) 1,423(71.2%)
 - (3) 調査方法 個別面接聴取法

我が国は、中国から、日中国交正常化20周年に当たり、天皇陛下の中国訪問の要請を受けていますが、あなたは、天皇陛下が中国を訪問されることについてどう思いますか。次の中から1 つだけお答え下さい。

賛成	72.0	[	(36.1) 賛成
		[	(36.0) どちらかと言えば賛成
反対	16.4	[	(10.6) どちらかと言えば反対
		[	(5.8) 反対
			(0.8) その他 ()
			(10.8) わからない

天皇陛下訪中についての賛否



天皇陛下御訪中をめぐる最近の日中間のやりとり

92.6.18

宮澤内閣成立以来の標記やりとりをとりまとめれば以下の通り。

1. (91.11.13) ソウルで開催された第3回APEC閣僚会議に際しての日中外相会談の席上、銭其琛外相より「天皇陛下の御訪中につき新内閣でも検討を願いたい」旨言及。

これに対し、渡辺大臣より、「天皇陛下の御訪中については検討中である」旨応答。

2. (91.12.3) 訪日中の田紀雲副総理より、宮澤総理に対し、「天皇・皇后両陛下が明年の日中国交正常化20周年に訪中されることを期待する」旨、また、「右が実現されれば、必ずや中国政府・人民の熱烈な歓迎を受けることとなろう。この点宮澤総理におかれても訪中の実現を促進願いたい」旨発言があった。

これに対し、宮澤総理より「かかるねんごろな招待を心より感謝する」旨述べ、「本件については、色々な事情を踏まえ、よく検討したい」旨発言した。

3. (92.1.5) 訪中した渡辺大臣に対し、銭其琛外相より、「国交

（先）
に
藤
尾
蔵
員
に
提
出
し
た
ペ
ー
パ
ー
（

正常化20周年の本年秋に両陛下の中国御訪問を歓迎する」旨丁重な招請があった。

これに対し、渡辺大臣より、中国側の累次に亘る招請を多としつつこれを踏まえ「更に政府部内で真剣に検討していく所存である」旨回答した。

4. (92.4.6) 訪日中の江沢民中国共産党総書記より、宮澤総理に対し、天皇陛下の御訪中に関し、改めて本年の訪中招請があり、「中国政府・国民として心から歓迎する」旨述べた。

これに対し、宮澤総理より、「引続き真剣に検討する」旨応答。

秘
無 期 限

報 告 • 供 覽

大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アジア局長 審議官 中国課長 首席事務官	保存期間			
		1類 (永久)	2類 (10年)	3類 (5年)	4類 (1年)
		起案 平成 4 年 6 月 25 日			
		完結 平成 年 月 日			
		起案者 泉	電話番号 2426		
回覧先					
儀典長					
下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。					
件名 天皇陛下ご訪中（藤尾議員 → 本署中国課首席）					
(別紙の要点等) 25日午前、先方のおおにょ往訪した本署西中首席に就き、 藤尾正介議員より、天皇陛下ご訪中の趣意に因り述べた内容。 ①昨々日の世論調査の結果は政府の作爲を感心す。 ②自らの事件により、トコロ合ひあり、全議員にアソート調子 する。外務省に依頼して資料も送付に付たので早く提出したい。					
GA-7 (昭和63. 4. 1改正)		外務省		回覧番号	

(報告メモ)

天皇陛下ご訪中(藤尾議員→木寺中国課首席)

92.5.25

重 中

25日午前、先方の求めに応じて往訪した木寺中国課首席事務官に対し、藤尾正行議員より、天皇陛下のご訪中問題に関し述べたところ、要点以下の通り(中国課泉同席)。

1. 昨24日の夕刊の内一紙のみ(ママ)が「政府の行った調査によれば世論の75%が訪中賛成である」という記事が出ていたが、先般の宮沢発言といい、自分(藤尾)はこれらの動きに巧妙な作為を感じる。この記事を見て、昨日は電話で官房長官に抗議し、また石原副長官にも「何時、どこの機関が、どのような人々に対し、どのような形で、どのような設問により調査を行ったのか明らかにせよ。調査結果と共に設問も示せ」と強く言っておいた。

2. 天皇陛下に、しかも今のこの時期に、ご訪中願うことは天皇陛下の政治利用になり、許されない。天皇陛下は政治を超越したお方であり、そのようなことに巻き込んで断じてならない。中国はかつて、また、現在も「日本軍の侵略行為」を北京や天津に記念碑を立てて非難・攻撃しているが、これは単に言葉で行う以上に具体的行為で行っているものであり、一層悪質である。陛下がご訪中されれば、そのようなものを前にして、過去のことについて何も言わないでは済まされまい。まだ「お言葉」など決められる段階ではないと外務省は言うであろうが、行ってしまったら、陛下は何も言わない訳には行かないというのは、当たり

前に考えれば解ることである。

3. 自分（藤尾）は国会議員であり、国政調査権を有する。その国政調査権に基づいて、天皇陛下のご訪中問題をめぐる経緯について外務省に資料要求をしている。にも拘らず、先日は、新聞報道の切り抜きを寄せ集めた二枚紙の本で鼻をくくったような紙を出してきた。ケシカラン。出さないなら出さないで、こっちも尻をまくってケンカしてもよいのだ。陛下のご訪中についての自分（藤尾）の考えはご承知の通り外務省とは違うが、外務省も自分（藤尾）に調査するなどは言えまい。だから、まあ、協力して、対応し、資料を出して欲しい。（これに対し、木寺首席より、「現在、ご指摘の点を踏まえ、新たなものを作成中であり、早晚お届けできる」旨応答。）外務省も役所なので課長や局長や大臣のサインもいるので大変だろうが、本件問題の経緯などは調べなくともすぐに出てくる性質の資料であろう。

4. 自分（藤尾）は、本件問題については、問題が問題であるだけに、宮沢とことんやり合う積もりだ。全自民党議員にアンケートをして、賛成か反対かを聞き、その結果を新聞に公表する。その際、本件問題をめぐる事実関係をきちっと押さえて議論することが重要と考えており、外務省に要求している今回の資料も合わせて全議員に配布したいと考えている。

（了）

資料 天皇陛下御訪中とわぐり取返の御様子

藤尾議員の要由により作成しなした

資料

天皇陛下御訪中をめぐる最近の動き（まとめ）

1. (75. 9. 28) 米誌「タイム」社が、同誌にステュワート東京支局長の昭和天皇との会見記を掲載する旨発表。（右会見は天皇・皇后両陛下の御訪米に先だって行なわれたもの。）

（その中で昭和天皇は「日中平和友好条約が締結され、中国を訪問する機会が訪れれば非常に嬉しい。しかし、そういうことは政府と協議した後にのみ決められるものだと思う。従って私は確定的なこととは何も言えない」旨述べられた。

2. (86. 8. 23) 皇太子殿下記者会見（書面による質問に対する書面による回答）の中で訪中についての感想を問われたのに対し

（「公式訪問は、すべて政府が関与する問題であります。従って、中国訪問についての考えを述べることは、差し控えたいと思います。しかし、中国との関係は、私の訪問如何に拘らず、大切に考えていかなければなりません」と回答。

3. (89. 4. 13) 訪日中の李鵬総理より、天皇陛下に対し、御都合の良い時期に訪中を招請した。

これに対し、天皇陛下より「感謝する。これは政府と相談して決めること」との御発言があった。

4. (89. 8. 4) 天皇・皇后両陛下の御即位後の初の公式記者会見において、「中国、韓国御訪問が実現された場合の歴史的意味についてどうお考えでしょうか」との問いに対し、天皇陛下より「中国と韓国の訪問については、私の外国訪問は政府が決めることですが、そのような機会があれば、これらの国々との理解と親善関係の増進に努めて、意義あるようにしたいと思っております」と応答。また、皇后陛下より、「大韓民国と中華人民共和国の訪問については、今、陛下がおっしゃったことと、私も同じ気持ちであります。要請がございましたら、心を込めて務めを果たしたいと思います」と述べられた。(報道)

5. (90. 7. 6) 江沢民総書記より、毎日新聞社訪中団に対し、天皇陛下の中国御訪問招請について言及(報道)。

6. (91. 6. 26) 訪日した銭其琛國務委員兼外交部長より、中山大臣に対し、「天皇・皇后両陛下が明年の都合の良い時期に訪中されることを非常に歓迎する。これが実現できれば中国人民の熱烈な歓迎を受けるであろう。中日関係史の上でも大きな出来事になると考えており、子々孫々の友好のための大きな原動力となり得るし、中日両国の将来にとって大きな影響を与えるであろう」旨述べた上で、「日本政府が積極的に検討されることを心から希望する」旨述べた。

これに対し、中山大臣より、「（錢外相の）発言は注意して承った。日本政府において十分検討したい」旨述べた。

7. (91. 8. 10) 訪中した海部総理に対する李鵬総理主催歓迎宴において、李鵬総理より、天皇陛下の御訪中につき、「既に錢其琛外交部長より正式に要請済みであるが、中国政府として、明年の国交正常化20周年の機会に陛下の御訪中が実現することを心から希望している」旨発言。これに対し、海部総理より、「李鵬総理よりお話があった点をも更に踏まえて、引き続き検討を進めて参ることとしたい」旨応答。

8. (91. 9. 20) 東南アジア（タイ、マレーシア、インドネシア）御訪問を前にしての記者会見において、記者より中国・韓国御訪問の予定を質問されたのに対し、天皇陛下より、「この問題は政府が十分検討を行っていることと思います」と応答。

9. (91. 11. 13) ソウルで開催された第3回APEC閣僚会議に際しての日中外相会談の席上、錢其琛外相より「天皇陛下の御訪中につき新内閣でも検討を願いたい」旨言及。

これに対し、渡辺大臣より、「天皇陛下の御訪中については検討中である」旨応答。

10. (91. 12. 3) 訪日中の田紀雲副総理より、宮澤総理に対し、

「天皇・皇后両陛下が明年の日中国交正常化20周年に訪中されることを期待する」旨、また、「右が実現されれば、必ずや中国政府・人民の熱烈な歓迎を受けることとなろう。この点宮澤総理におかれても訪中の実現を促進願いたい」旨発言があった。

これに対し、宮澤総理より、「かかるねんごろな招待を心より感謝する」旨述べ、「本件については、色々な事情を踏まえ、よく検討したい」旨応答。

11. (92. 1. 5) 訪中した渡辺大臣に対し、李鵬総理より、「天皇陛下が日本国民の心の中に占めている地位を十分承知しているので、中国政府と人民は訪中を熱烈に歓迎することを保証する。心より歓迎したい」旨述べた。

12. (92. 1. 5) 訪中した渡辺大臣に対し、銭其琛外相より、「国交正常化20周年の本年秋に両陛下の中国御訪問を歓迎する」旨招請があった。

これに対し、渡辺大臣より、中国側の累次に亘る招請を多としつつ、これを踏まえ、「更に政府部内で真剣に検討していく所存である」旨回答。

13. (92. 4. 2) 江沢民総書記の訪日前の記者会見において、北京駐在邦人記者より、「中国政府は今、なぜ天皇の訪中を強く求めるのか。総書記の訪日時に天皇訪中の具体的日取りが決まるのか。謝

罪の言葉を求めるのか」との問いがあった。

これに対し、江沢民総書記より、「天皇陛下の御訪中招請は両国の子々孫々にわたる友好関係を発展させようという願望に合致する。天皇陛下の御訪問が必ずや中日関係の発展を促進することになると信じている。御訪中の具体的なことについては、双方は更に協議することになっている。陛下が訪中してから何か言う必要があるなら、それは日本側が考えて決めることだ。」と回答。

14. (92. 4. 6) 訪日中の江沢民中国共産党総書記より、宮澤総理に対し、天皇陛下の御訪中に関し、改めて本年の訪中招請があり、「中国政府・国民として心から歓迎する」旨述べた。

これに対し、宮澤総理より、「引続き真剣に検討する」旨応答。

15. (92. 4. 7) 大内民社党委員長より、訪日中の江沢民総書記に対し、天皇陛下の御訪中問題に言及し、「民社党としては、日本の天皇は、どの国よりも早く中国を訪問されるべきと考えている。しかし、それには明らかにプラスとなる展望がなければならない。訪中されることとなれば、お言葉の問題とか、民間賠償、尖閣問題とかが火種となり、大きな日中間のトラブルが燃え上がることも懸念される。この点、若しかかる懸念があるのであれば、十分慎重に対処すべきである。中国は何度も訪中を要請されているが、以上の点について、如何なる決意を踏まえてのことなのか、お伺いしたい」旨述べた。

これに対し、江沢民総書記より「天皇陛下の御訪中要請について、中国側に他意はない。友好を更に促進したいとの願望があるのみである。中国としては難題を持ちかけようなどの意図は全くない」旨応答。

16. (92.4.8) 江沢民総書記の訪日に際しての共同記者会見において、記者の問いに答えて、江沢民総書記より「天皇陛下の御訪中の要請についても、その目的は、両国民の間の友情を更に深めたいというものである。これをどのようにアレンジするかは、日本が決めることであり、具体的なことについては、両国の関係部門で相談すべきことである」旨述べた。

(了)

内閣文庫室世系調査 (福下内閣文庫参)

6/26

[配布先]

大臣秘書官

事務次官

外務省次官

官房長

係長

アジア局長

中国課長

秘

無期限

天皇陛下御訪中問題（世論調査結果発表の中止）

92.6.26

中国課

26日、福田内閣広報参事官より中国課長に対し、昨日（25日）御連絡した次第はあるも、その後改めて検討した結果、本件世論調査の結果を発表することは差し控えることとなった旨、次の通り連絡越した。

1. 本件世論調査の結果は積極的に発表しない。右については、総理はじめ官邸サイドは了承済み。
2. 但し、官邸サイドで、自民党議員に対する根回しの際に本件資料を配布することも有り得べく、いずれマスコミに洩れる可能性は十分にある。その場合の対応ぶりとして、外部より照会があった場合には、調査の事実は認めることとするも、それ以上の質問にたいしては「具体的な処理ぶり等については全て官邸と協議中」とのラインで応答することとしている。

（了）

秘
無 期 限

報 告 ・ 供 覧

大 臣 (秘書官) 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官 房 長	主 管 又アジア局長 御子永 審議官 中国課長 首席事務官	保 存 期 間 1類 2類 3類 4類 (永久) (10年) (5年) (1年) 起案 平成 4 年 6 月 29 日 完結 平成 年 月 日 担当 起案者 泉 電話番号 2426
回 覧 先 (起案 重北 岡野 2416) 外務省 儀典長 儀典官		
下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。		
件 名 天皇訪中に関する世論調査 (別紙の要点等) 26日、午前、内閣官房長官室での協議の席における石原 官房副長官よりの説明。		
GA-7 (昭和63. 4. 1改正) 外 務 省		回覧番号

26日午前、内閣官房長官室での別件の協議の席にて、石原官房副長官より、天皇訪中問題に関し以下の言及あり（官房長官、石原官房副長官、有馬外政審議室長、谷野アジア局長出席）。

1. 天皇訪中に関する世論調査の結果について、関係議員に対し説明を行ったが、多くの自民党議員が天皇訪中に賛成しているとの印象を得た。藤尾議員は、「今回の調査では、尖閣諸島問題、武器輸出問題等に関する説明が欠けており、質問の仕方に問題がある。今回の調査結果だけをもって国民の多くが天皇訪中を支持しているとの結論を引き出すのは困難。中国には根強い反日感情があり、天皇訪中には反対する。」との姿勢を示していたが、多くの議員が訪中に賛成していた。（これまで自民党議員の多数が天皇訪中に消極的と考え^られていたが、）今後は、明確に反対している議員に対し、個別に地道に説得を行っていくことが重要と考える。

2. 個々の関係議員の反応は以下のとおり。

藤尾議員 — 上述のとおり。

竹下元総理 — 特に反応なし。

梶山国対委員長 — 「まず訪韓すべきとは考えるが。」とのみ反応。

海部元総理 — 「盧泰愚大統領は訪韓を先にしてほしいと言っていたが、宮澤総理訪韓の際の韓国側の対応はひどかった。」

森政調会長 — 「総理がお決めになること。」

金丸副総裁 — 「天皇訪中に賛成。中曾根元総理も賛成しているようだ。」

3. 各政党支持者別に今回の調査結果を整理すると以下のとおり。

自民党 — 72%が賛成。国民全体の支持率とほぼ同じ。

社会党、公明党 — 支持率高い。

民社党 — 意外に低い。

共産党 — 多くが反対。

4. なお、原則として今回の世論調査の結果は、公表しないこととしたい。但し、照会があれば答える。

(了)

加藤官二房長官記者会見

(政府世論調査結果、発表)

6/26

「天皇訪中」で世論調査

政府が
内々に 藤尾正行氏は批判

加藤官房長官は二十六日
午後、記者会見で天皇訪中
問題について、内閣官房が
民間委託形式で世論調査を
実施したことを公式に認め
た。自民党の藤尾正行総務
は同日の党総務会で内容を
公表、「設問の仕方が情緒
的」と批判した。加藤長官
は政府として内容を公表す
ることを拒否しているが、
内部資料として行った世論
調査の存在を政府が公式に
認めたのは珍しく、情報公
開との関連で論議を呼びそ
うだ。

天皇訪中に反対している
藤尾氏は以前から調査の存
在に関心を持ち、この日、
加藤長官から正式に内容の
報告を受けた。自民党訪に
よると調査は今月実施され
たとしているが、加藤長官
は三月に実施しており、
食い違っている。

この世論調査は二千人を
対象にし、「国交正常化二
十周年にあたり天皇訪中の
要請を中国から受けている
がどう思うか」と質問。「賛
成」と「どちらか」と「賛
成」が合計七二%を占め
た。

調査結果について加藤長
官は「参考とする資料の一
つだ。都合によって公表す
るかしないかを決める」と
恣（し）意的になり、かえ

92.6.27 毎日(朝刊) 2面

天皇訪中に

7割が賛意

首相官邸の世論調査

政府・自民党内で論議が
分かれている天皇訪中問題
について、首相官邸が民間
調査機関に委託して行った
世論調査の結果が二十六
日、明らかになった。加藤
一官房長官が同日、自民
党執行部や関係議員に配布
した資料によると、訪中に
「賛成」が三六%、「どちら
か」といえば賛成」が三六
%で、合計七二%が訪中に
前向きな考えを持っている
ことがわかった。

関係者によると調査は全
國の二千人を対象に、六月
十一日から十四日にかけて

実施されたという。設問は
「わが国は日中国交正常化
二十周年にあたり、中国か
ら天皇陛下訪中の要請を受
けているが、どう思うか」
というもの。

天皇訪中をめぐる自
民党内に「天皇の政治利用
だ」などとする反対論や憤
慨論が根強い。首相官邸と
しては、この調査結果を、

92.6.27 朝日(朝刊) 2面

関係者らの説得材料に活
用したい考えのようだ。

ただ、この調査結果に対
しては、同日の同党総務会
で藤尾正行代議士が「質問
の仕方が情緒的で、感情的
だ。別の問い方なら、こん
な回答はあり得ない」と批
判、訪中問題での慎重な対
応を党執行部に重ねて要求
した。

5. 積本在中国日本大使一時帰朝（政界工作）

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-015

大 政事外外儀官
大 事務 典房
次次
臣秘官官審審長長

北経環 査総 外
大大ア 察括 研
使使大 審審 長

口対会厚情研

察人電儀警史オ

外 参報際内外
報 官

文 審一二
長

参政保対旅外
長

審地東
参北東西
長

北 審一二保地
米 長

中 参一二
國 長

欧 審西口洋
戸 西東
二

参一二アア
近ア二
長

次総経途
参経漁国
経エ国
長 安ネ二

参海 審準

密政国開無
審調技有理
長

審条協規

審政経人
審軍社
長

科原

参情析調
情調 企安
長

総 番 号 R096062

主 管

月 12日
平成 4年 5月 12日

中 国 発
本 省 着

亜 中

外 務 大 臣 殿

橋 本 大 使

本使一時帰国りん請

第1751号 至急（ゆう先処理）

全国人民代表大会バン・リ委員長を東京で接遇のため、かつ最近の情勢について本省及び官ていに報告のため、本使下記日程にて一時帰国したいので、御許可願いたく、所要旅費米貨2,675ドル臨時増額送金願いたい。

1. 日程

5月20日北京発JL782

28日東京発JL783

2. 所要旅費

航空賃7,680元この米貨1,423ドル

日当・しゆくはく料（8ばく9日）167,700円

空港施設使用料2,000円

邦貨計169,700円=1,252ドル

（1ドルにつき5.4元、135.65円替）（了）

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-020

大 政事外儀
大 務務 典房
臣 秘官官 審審長長

北経国 査総 外
大大了 察括 研
使使大 審審 長

口対 厚情研

察 儀警史オ

外 報官 参報際内外

文 長 審一二

参政保対旅外

参 東
北 西

北米長 審一二保地

中南長 参一二

欧 審西口洋
西東

参一二アア

次総経途
参経漁国
経工国
安ネ

参海 審準

経協長 審政国開無
審調技有理

条長 審条協規

国 審政経人
長 審軍社

科 科原
審

情調長 参情析調
企安

総 番 号 R120097

月 12日

平成 4年 6月 12日

中 国 発

本 省 着

主 管

亜 地 政

外 務 大 臣 殿

橋 本 大 使

用務帰国

第2228号 秘 至急（ゆう先処理）

（以下FAX送信 PK0147-01）

秘

PK0147 1

(三八〇字)

貴電ア地政合第10976号に関し、

1. 本使は、下記の日程にて^(月終)帰国する。^(こじえしたい)18日 J L 7 8 4 ^{東京}着

28日 J L 7 8 1 当地着

2. 尚、冒頭貴電にてお申し越しの用務の他、

本使としては自民党及びマスコミに対する工

作を行いたいと考えているところ、とりあえ

ず読売新聞渡辺社長、水野清・後藤田正晴両

代議士との懇談の機会を^{アレンジしたい}つくりたい。(

尚、右アポイントとは本使の総理に対する報告

の後として^{たい}欲したい。)

その他誰と懇談するかについては、本省と

の打合せによって決定したい。

3. 所要経費

米貨 2,105,000ドル

航空賃(F) 8,064元、この米貨 1,494,000ドル

日貨・宿泊料(10月11日) 207,300円

空港施設使用料 20,000円

邦貨計 209,300円 = 1,611,000ドル

(1ドルにつき 5.4元、129²⁵円換) (3)

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-020

大 政事外外儀官
大 務務 典房
臣 秘官官審審長長

北経 査 外
大大 ア 察 研
使使大 審 審 長

口 対 区 厚 情 研

察 儀 警 史 オ

外 報 官
参 報 際 内 外

文 長
審 一 二

参 政 保 対 旅 外

東
北 西
一

北 米 長
審 一 二 保 地

中 南 長
参 一 二

欧 審 西 口 洋
西 東
一

参 一 二 ア ア
一 二

次 総 経 途
参 経 漁 国
経 エ 国
安 ネ 二

参 海 審 準

審 政 国 開 無
審 調 技 有 理

条 長
審 条 協 規

国 審 政 経 入
長 審 軍 社

科 審
科 原

情 調 長
参 情 析 調
企 安

総 番 号 R121507

月 15日

平成 4年 6月 15日

中 国 発
本 省 着

外 務 大 臣 殿

橋 本 大 使

主 管

重 地 政

用 務 帰 国

第 2263号 秘 至 急 (ゆう先処理)

往 電 第 2228号 に 関 し、

冒 頭 往 電 2. に 関 し、共 同 通 信 イ ス カ イ 社 長 と の ア ポ イ ン ト 取 り つ け 方 あ わ せ て よ ろ し く 願 い た い。右 ア ポ
イ ン ト は、本 使 の 総 理 に 対 す る 報 告 及 び 本 省 と の 打 ち あ わ せ の 後 と し た い。(了)

極 秘
無 期 限
部 内 号

※総第

※平成

年 時

月 分

日 秒 受付

電 信 案

電信課長

大 臣
秘書官
政 務 次 官
事 務 次 官
外 務 審 議 官
外 務 審 議 官
官 房 長

主管 アジア局長
審 議 官
参 事 官
中国 課 長
地域調整官
首席事務官

※発電係 1 2
起 案
平成 4 年 6 月 2 日
起案者 電話番号
渡辺 (英) 2429

協議先

②

(※印欄内は電信課記入)

在 中国 松本臨時 大使 総領事 外務大臣 発

件 名 ~~用 務 課 長 松 本 大 使~~ 事務連絡

主管・文書記号

ア中

※電番

大至急

普通

至急

(優先処理)

パターン・コード

転電

転送 在

転報

※転電番号

大 使 ・ 総 領 事 あ て

大至急

至急

普通 (優先処理)

貴電が2276子に開し、

松本臨時へ

標#中国課長よ

橋本大使より貴臨時への伝言をお伝え致します。

1. 宮沢総理より橋本大使に対し、「現在はお冷

却期間中であり、決定にはなお時間を要する。貴使

は国内関係方面、特に自民党工作をした上で、帰

※

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

(八〇字)

(橋本大使より発電ありたいとして口味あったもの)

(三八〇字)

任された」旨指示があった。

2. ついては、橋本大使の28日の帰任は不可能とな
ったところ、7月2日夕刻のレセプションは松本公使
が代行された。

3. いづれにしても来週早々に同大使の帰任日程を確
定し電報あり。

4. 同大使の大連訪問(7月11日)は中止あるので、ど
の旨主僧者及び右の話しを持って来た三井物産・
オノザワ
小野沢常務に連絡ありた。

(13)

橋本大使ご日程 (案)

平成4. 6. 30現在

6月30日 (火)

10:45~

金丸副総裁 (パレロワイヤル605号室)

12:30~

谷野局長主催昼食会 (山の茶屋)

13:45~

森政調会長 (党本部6F)

18:30~

平岩・経団連会長主催夕食会 (吉兆)

7月 1日 (水)

11:15~

綿貫幹事長 (党本部4F)

~~13:15~~~
15:00~

竹下元総理 (TBR4F)

16:00~

福田元総理 (赤坂プリンスホテル106号清和会)

7月 2日 (木)

15

(X)

7月 3日 (金)

~~15:00~15:10~~

16:00~17:00

次官室会議

7月 5日 (日)

10:00

成田発北京へ JL781

橋本大使ご日程 (案)

平成4. 7. 3現在

7月 3日 (金)

10:00 自宅発 本省へ

11:30~12:00 加藤官房長官 (官邸)

(?) 14:00~ 渡辺大臣 (市ヶ谷・東京女子医大病院?)

(?) 15:00~ 加藤六月衆院議員 (赤坂・山王グランドビル又は

第二議員会館712号室)

16:00~17:00 次官室会議

7月 4日 (土)

06:50 自宅発

10:20 成田発北京へ NH905

後藤田議員山橋本大使

6/25

極 秘
無 期 限
部 内 号

報 告 ・ 供 覧

260- 不明

大 臣 秘書官 追1-1 政務次官 事務次官 12 外務審議官 外務審議官 官 房 長	主 管 ○アジア局長 審 議 官 中国課長 首席事務官	保 存 期 間 1類 2類 3類 4類 (永久) (10年) (5年) (1年) 起案 平成 92 年 6 月 25 日 完結 平成 年 月 日 起案者 電話番号 泉 2426
回 覧 先 橋本大使 追21-1 (追1-A) 44 (内 総 務 省 長 官 へ (6/26)		
下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。		
件 名 天皇陛下御訪中 (後藤田議員 → 橋本大使)		
(別紙の要点等) 25日、標記に因り後藤田議員、橋本大使へ内訪。		
GA-7 (昭和63. 4. 1改正) 外 務 省		回覧番号

回覧先は橋本大使の御指示によるもの。

天皇陛下御訪中（後藤田議員一橋本大使）

92.5.25

亜 中

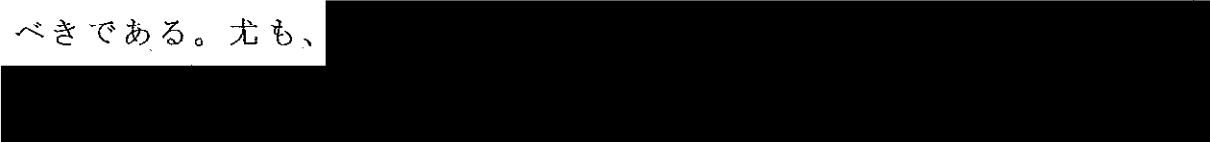
後藤田議員が、25日、橋本大使に内話したところ、つぎの通り（先方発言のまま）。

1. 天皇訪中問題につき党内が折角沈静していたのに、新聞協会における総理の発言は党内に大きな波紋を投げかけた。藤尾議員は早速総務会で反対意見を述べたのみならず、党の代議士会にまで出向いて反対論をぶった。

2. 党内に十分根回しも何もしないでいきなりあのような発言をすれば、反対派がいきり立つのは当然である。

3. 天皇訪中はたとえ反対があっても、年内に是非実現しなければならぬ。止めるとすれば、中国にどのように説明するのか。世界に対しても失態を曝すことになる。野党や国民世論が反対するからというならともかく、与党の内部に反対が強いから止めるとなれば、宮沢総理自身の恥を曝すことになる。

4. 今からでも遅くないから、総理は自分で直接党の最高顧問と党4役に直ちに働きかけるべきである。せめて官房長官に党内工作を至急やらせるべきである。尤も、

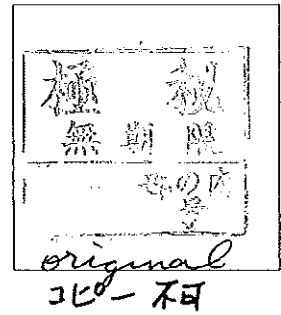


5. 先日、中曽根総理に会って、真意を確かめた。そして、「あなたは反対から賛成にまわったと聞いているが、今度はもう態度を変えないでくれ」と強く言っておいた。元総理は、本件につき、「元々、宮沢のやり方が気に入らないのだ」と言っていた。中曽根さん初め色々な人が右翼のテロを恐れているが、天皇ご自身の警備については日本の警察が全力を挙げるから全く問題がないと思うし、右翼も天皇ご自身を狙うとは考えられない。総理や関係大臣が右翼に殺されたら殺されたで、政治家として当然のことである。その覚悟がないなら、初めから総理や大臣にならなければ良い。

(了)

水野清義貞少橋本大使

6/26



報告・供覧

大臣 (秘書官 3-1) 政務次官 事務次官 3-2 (16) 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アジア局長 3-3 審議官 中国課長 首席事務官	<table><tr><th colspan="4">保存期間</th></tr><tr><td>1類 (永久)</td><td>2類 (10年)</td><td>3類 (5年)</td><td>4類 (1年)</td></tr><tr><td>起案</td><td>平成 4 年 6 月 26 日</td><td>完結</td><td>平成 年 月 日</td></tr><tr><td>起案者 泉</td><td colspan="3">電話番号 2426</td></tr></table>	保存期間				1類 (永久)	2類 (10年)	3類 (5年)	4類 (1年)	起案	平成 4 年 6 月 26 日	完結	平成 年 月 日	起案者 泉	電話番号 2426		
保存期間																		
1類 (永久)	2類 (10年)	3類 (5年)	4類 (1年)															
起案	平成 4 年 6 月 26 日	完結	平成 年 月 日															
起案者 泉	電話番号 2426																	
回覧先 橋本大使 追 1-1 林官房長 追 2-1																		
下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。																		
件名 天皇陛下御訪中 (水野清議員 → 橋本大使)																		
(別紙の要点等) 26日、標記に関する水野議員と橋本大使との内談。																		
GA-7 (昭和63. 4. 1改正) 外務省		回覧番号																

回覧先は橋本大使の指示によるもの

天皇陛下御訪中（水野清議員一橋本大使）

92. 6. 26

中国課

水野清議員が、26日、橋本大使に内話したところ、次の通り（先方発言のまま）。

1. 宮沢総理は、現在なお冷却期間だと言いながら、なぜ突然、新聞協会であのような発言をしたのか全く理解に苦しむ。恐らく、PKOが通ってほっとし、気が弛んであんなことを喋ったのであろうが、党三役はもとより官房長官も事前に何も知らされていなかったというのはおかしい。

2. 冷却期間の意味を総理は誤解している。党内が静かになっていたのは、反対派が天皇訪中は無くなると考えていたからである。総理の発言で反対派は再び騒ぎ始めた。

3. しかしながら、現在のところ、党内の大勢は藤尾のような極めて少数の確信犯は別として、大勢は天皇訪中を実現すべし、あるいは、止むなしということで動いている。つまり、条件つき賛成が多くなったと思う。

もっと正確に言えば、中国に対し「真剣に検討する」と言い続けておいて、今更、訪中しないと回答する訳にはいかないということだ。

4. 現在、党内で、竹下元総理が天皇訪中実現に向け動いているという噂がとんでいる。（橋本より、竹下は動いていないと説明。）いずれにしても、自分（水

野清)は今晚(6月26日)総理に会うので、党内情勢を説明するとともに、早急に総理自身が党の要路に直接、自分で了解工作すべしと強く進言するつもりだ。

(了)

大善共同社長山橋本大使

6/26

極 秘
無 期 限

部の内
号

original

総理秘書官 6-1

報 告 ・ 供 覧

大 臣 (秘書官 6-2) 政務次官 事務次官 6-3 外務審議官 外務審議官 官 房 長	主 管 アジア局長 6-4 審 議 官 中国課長 6-6 首席事務官	保 存 期 間 1類 2類 3類 4類 (永久) (10年) (5年) (1年) 起案 平成 4 年 6 月 26 日 完結 平成 年 月 日 起案者 泉 電話番号 2426
回 覧 先 林官房長 追² 2-1 外務報道官 6-5 橋本大使 追1-1		
下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。		
件 名 天皇陛下御訪中 (橋本大使 → 大養共同通信社長)		
(別紙の要点等) 26日、橋本大使が、大養共同通信社長と往訪、標記に 関する共同通信社の考え方を照会。 大養社長は共同通信は天皇訪中に賛成であり、北京 支局にその旨徹底をせよ旨を伝へた。		

GA-7 (昭和63. 4. 1改正) 外 務 省 回覧番号

天皇陛下御訪中（橋本大使－犬養共同通信社長）

92.6.26

中国課

1. 犬養共同通信社長に対し、26日、橋本大使より次の通り申し入れた。
（犬養社長のほか林編集局長、遠藤常務にも同様趣旨を別途申し入れた。）

共同通信は社として、天皇訪中に反対なのか賛成なのか、はっきりして欲しい。「天皇家が日清戦争の賠償金をはじめ、中国の重要文化財を私物化しているので、中国が返還運動を起こす」などの記事は黙認出来ない。通信社として、事実をありのまま報道することは当然で、筆を曲げろとは言わないが、北京支局発の記事は意図的に天皇訪中をぶち壊そうとしているとしか考えられない。北京の他の各紙もそう言っている。中国の党も政府も全く問題にしていない対日民間賠償、従軍慰安婦の問題などを、これでもか、これでもかと針小棒大にアラーミングに書き立てている。中央の大新聞は、すべて、これら共同の記事を黙殺しているから良いが、京都新聞はじめ地方紙は共同を信頼して記事にしている。共同通信の社長としてどう考えるのか？

天皇訪中をぶち壊すためプレス・キャンペーンを続けるつもりなら、中国側は支局閉鎖とか、特派員の国外退去とかの措置に出ると思う。その際、大使館としては助けることは出来ないと覚悟して欲しい。

2. 犬養社長は次の通り述べた。

私個人も、社としても、天皇訪中に反対など決して考えていないし、全くその逆である。

天皇訪中は、総理訪中よりも、はるかに重要意義をもつ。中国を日本に引き付けておく上で、天皇訪中は重大な意義をもつ。今年、国交正常化20周年に是非とも訪中して戴きたいと考えている。

橋本大使の言うとおりの北京支局があのような記事を書くなら、それと並べて、中国の党・政府の考え方や中国の大多数の人々の考えを正確に記事にしてバランスをとるべきだと思う。

いずれにしても、橋本大使に大変ご迷惑をかけて申し訳ない。

北京支局には、共同通信本社は天皇訪中に賛成である旨十分徹底させ、ご迷惑をかけることが今後はないよう注意する。今後、もし何か、ご迷惑をかけるようなことがあれば、どうかご遠慮なく、社長である私に直接電話でご注意願いたい。

(了)

対外応答要領・(橋本大使の帰国・
6/29)

(対外応答要領)

88 2/2
取扱注意

92.6.29

中国課

問. 橋本総在中国大使は、現在帰国しており、自民党幹部及び有力議員に
天皇陛下御訪中について根回しを行なっている由であるが、事実関係如何。

答. 橋本在中国大使はサミットを控え、アジアの主要国の任国大使として
宮澤総理他に中国情勢について説明するために帰国したもの。同大使
はこの機会を利用して自民党の幹部及び親しい国会議員にも最近の中国
情勢について説明を行なっている。

(更問. 天皇陛下の御訪中についても触れられているのか。)

答. 最近の中国情勢に関する説明であるので天皇陛下の御訪中が話題になる
こともあるかもしれない。

(中国課注：中国課への本件に関する記者よりの照会には、本件橋本大使の
動きについて①宮澤総理の支持に基づく根回しか②外務省が宮澤総理の尻を
たたくための動きかとの2つの見方があり、中国課では何れも極端な考えで
あり、適切でないと対応している。)

(了)

29AB10

J9A196 AB10

(政)

65

9行

〔AB07「首相」関連〕

◎天皇訪中で橋本大使が事情説明へ

宮沢首相は二十九日午前の佐藤自民党総務会長との会談で、天皇陛下の訪中問題に関し「帰国中の橋本駐中国大使が自民党の主だった人に中国の事情を報告する。訪中を前提とするものではないが、よろしく願いたい」と述べた。

(了)

29-12:23

(13)

中尾榮一議員↓橋本大使

6/29.

天皇陛下御訪中（中尾栄一議員—橋本大使）

92. 6. 29

亜 中

29日、中尾栄一議員（党総務）が橋本大使に述べたところ、次の通り（先方発言のまま）。

1. 自分（中尾）は、橋本大使の見方およびご意見に全面的に賛同する。

自分は天皇訪中は国民世論の理解を求めながら、自民党多数の支持を得る形で、うまいタイミングをとらえて実現すべしとの意見であり、後藤田さんや竹下さんと同じである。

2. かつて自分は総務会で、藤尾のすぐ後発言したため新聞その他に中尾は藤尾と同じ意見だと書かれ、極めて心外であり甚だ迷惑している。藤尾と自分とは全く異なる。自分はサッチャーにもブッシュにも中国の弁護をしているくらいである。是非橋本大使から中国側に、中尾が天皇訪中に反対しているなど全くのデマだと伝えてほしい。自分は渡辺ミッチャンの派閥であり、ミッチャンを困らせるようなことを自分がするはずがない。

3. 自民党内に慎重論が多いことは御承知の通りだが、これと藤尾のような反対論者とは混同しない方が良い。無理のない形で円満に実現すべしというのが慎重論者の考えである。

（了）

原又兵衛 党々院議員会長 橋本大使

6/29

秘 極
限 無
期
内 部 号

能理秘書官 9-1
官房長官秘書官 9-2

報 告 • 供 覽

大 臣 秘書官 9-3	主 管	保 存 期 間	
政務次官	(23) アジア局長 9-7	1類 (永久)	2類 (10年)
事務次官 9-6 逓郵	審議官 9-9	3類 (5年)	4類 (1年)
外務審議官 9-5 (16)	中国課長	起案 平成 4 年 6 月 29 日	
外務審議官	首席事務官 (9)	完結 平成 年 月 日	
官房長 9-6 (16)		起案者 泉	電話番号 2426
回覧先 林官房長 追2-1			
(23) 儀典長 9-8			
下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。			
件 名 天皇陛下御訪中（原文兵衛党参院議員会長→橋本大使）			
(別紙の要点等) 29日、原文兵衛党参院議員会長より、往訪した橋本大使に 対し、自分は天皇訪中に原則的に賛成であるとして述べた内容。			
GA-7 (昭和63. 4. 1改正)	外 務 省	回覧番号	

天皇陛下御訪中（原文兵衛自民党参議院議員会長一橋本大使）

92. 6. 29

亜 中

29日、原文兵衛自民党参議院議員会長が橋本大使に述べたところ、次の通り（先方発言のまま）。

1. 自分は天皇訪中に原則的に賛成であり、政府としてうまいタイミングで決定して欲しいと希望している。そのことを宮沢総理にも伝えて欲しい。自分は中国に従軍したし、中国が天皇をお迎えして、困らせたり、恥をかかせたりすることは決してないとの大使の話はその通り信用して良いと思う。また、訪中が実現し、より良好な日中関係が樹立され、日中間のわだかまりがとけるのは良いことだと思っている。

2. 問題は中国側になく、日本側特に党内にある。ほかのことと違って、天皇の問題で党内が割れる状況は困るし、この問題を巡って、党内で議論が行われることは決して好ましくない。

3. 党内で藤尾などが反対することは仕方ないが、戦争を知らない若い世代の代議士（40代、50代）が、何もわからず天皇訪中に反対しているのは困ったものだ。佐藤総務会長も反対していると聞いている。

（了）

佐々木能務会長 山橋本大使

6/29

極秘第 48 号

總理秘書官 9-1

官房要官秘書官 9-2

報 告 • 供 覽

GA-7 (昭和63. 4. 1改正)

外 務 省

回覧番号

天皇陛下御訪中（佐藤総務会長一橋本大使）

92. 6. 29

亜 中

29日、佐藤総務会長が橋本大使に述べたところ、次の通り。

1. 自分（佐藤）は総務会長として、30人の党総務を3つに分け、それぞれのグループと一緒にメシを食って、一人一人の意見を聞いた。黙って意見なしが5人か6人いたが、後藤田正晴が賛成論を述べただけで、あとは全て反対乃至慎重論であった。

2. 財界も党4役との懇談の際、石川（商工会議所）が反対で、平岩（経団連）も慎重論であった。

3. 反対論乃至慎重論の根拠は次の通り。（佐藤総務会長は極めて詳しく具体的に説明したので、橋本大使より、それは事実認識において誤りがあると、中国の実情を適宜説明。）（この項省略）

4. 自分（佐藤）は誤解を受けているかも知れないが、天皇訪中に反対ではない。自分の考えは中曽根さんと全く同じである。今は積極的に動く積りはないが、宮沢総理が天皇訪中を決定すれば、その方向で何とか総務会を取り纏めたいと考えている。

5. 政府決定が遅れば遅れるだけ、中国に対し断わり難くなるというこ

とはよくわかる。自分（佐藤）は、内政と違って、外交問題はどんなことがあっても誤りが許されない重大事だと心得ている。

（了）

中曾根元昭理 ↓ 橋本友俊

6/29

不要の折は御返却願います。

極 秘
無 期 限
部の内
号

総理大臣秘書官 8-1

官房長官秘書官 8-2

報 告 ・ 供 覧

大 臣 秘書官 8-3 政務次官 事務次官 8-4 近川 齊藤 外務審議官 8-5 外務審議官 官 房 長 8-6 (正)	主 管 アジア局長 8-7 審 議 官 近川 中国課長 首席事務官 (正)	保 存 期 間 1類 2類 3類 4類 (永久) (10年) (5年) (1年) 起案 平成 4 年 6 月 29 日 完結 平成 年 月 日 起案者 電話番号 泉 2426
回標官房長 近川 2-1 橋本大使 近川 1-1 16 電 8-8		
下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。		
件 名 天皇陛下御訪中 (橋本大使 → 中曽根元総理)		
(別紙の要点等) 29日午前、橋本大使が中曽根元総理と往訪、標記に关 する中国側意の方針を説明した際、元総理の反応。		
GA-7 (昭和63. 4. 1改正) 外 務 省		回覧番号

天皇陛下御訪中（橋本大使→中曽根元総理）

92.6.29

亜 中

1. 29日、橋本大使より、中曽根元総理に対し、天皇訪中を巡る中国側の考え方および動きを説明したところ、中曽根元総理は「中国側については、橋本大使の言う通りであろう。問題は中国側ではなく、日本国内、特に自民党にある」と述べた。

2. 更に、元総理は次の通り述べた（先方発言のまま）。

自民党が天皇訪中につき二つに分裂したままの状況では、ほかの問題とは重さが違うから訪中して戴くわけにはゆかぬ。

自民党の8割が賛成し、1割や2割程度の反対ならやるべきだが、この1割や2割はいわば確信犯である。藤尾や奥野だけなら潰すことは容易だが、1割、2割となると厄介だ。いま、派閥の親分は非力で弱いから、近く、自分が竹下及び金丸とこの問題でじっくり話し、三人で党内を纏めるべく努めるつもりだ。

ところで、宮沢から、直接、この問題で自分に何の話もないのはどういうわけか？（橋本より、宮沢総理はサミットから帰国した後、直接、中曽根、金丸、竹下等党の最高顧問に話しするお考えだと承知している旨答えておいた。）

ところで、どのくらい前に中国側に正式通報すれば良いのか？（橋本より、中国側も大使館も、できれば3ヵ月前と言いたい、ギリギリ2ヵ月で何とか準備を完了できる。つまり、参議院選の後できるだけ早く決定

し、中国側に通報しなければ、1ヵ月やそこらでは不可能だ、と応答。)

3. 橋本より、党内事情で中国に断わるなら早いほど良い。ギリギリまで返事をのばして断わるなら、日中関係に重大な悪影響を及ぼすと述べたところ、元総理は、全くその通りだと思う、と述べた。

4. 中曽根元総理より、「この前、入院したとき、ミッチャンに会った。選挙のことや外交など、仕事のことを考えるのがストレスが溜って一番身体に悪いから、全て忘れて療養してほしい。天皇訪中問題は、今や総理が自分で直接やるべきだ」とよく言っておいた。

(了)

森政調会長↓橋本大使

6/30

天皇陛下御訪中（森政調会長一橋本大使）

92. 6. 30

亜 中

1. 30日、森政調会長に対し、橋本大使より、天皇訪中をめぐる中国側の見解及び最近の動きを説明したところ、森会長は「訪中を何とか実現したいという橋本大使のお気持はよく判るので、他の党三役とよく相談します」と述べた。

2. 更に森会長は「訪中の際、治安と警備は大丈夫ですか?」「TBSのカメラマンが北京で暴行されたが、如何?」「総務会長はどう言っていましたか?」等質問。橋本大使より適宜説明。

3. （政調会長ご自身はどう考えているのか、との問いに対し、）

私は天皇訪中問題を党内で議論しない方がよいと思う。この問題は宮内庁と外務省で静かに実施していくべきだと考えている。なんとか、円満な形で、あまりギクシャクしないように実現できればと考えている。陛下ご自身もそう考えていると思う。

（了）

金丸副總裁↓橋本大使

6/30

極 秘
無 期 限
也 1 部 の 内
1 号

総理秘書官 9-1
官房長官秘書官 9-2
報告・供覧

極秘第 50 号

大 臣 (秘書官 9-3) 政務次官 事務次官 9-4 (15) 斎藤外務審議官 9-5 外務審議官 官房長 9-6 (15)	主 管 b1-1 天(アジア局長 9-7 審議官 9-9 (15) 中国課長 首席事務官 (15))	保 存 期 間 1類 2類 3類 4類 (永久) (10年) (5年) (1年) 起案 平成 4 年 6 月 30 日 完結 平成 年 月 日 起案者 電話番号 泉 2426
---	---	---

回覧先
林官房長 追²2-1

天(儀典長 9-8
橋本大使 追1-1)

下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。

件 名

天皇陛下御訪中 (金丸副総裁 → 橋本大使)

(別紙の要点等)

30日、往訪せよ橋本大使に対し、金丸副総裁より、標記
に因りお考え等を述べた。

天皇陛下御訪中（金丸副総裁－橋本大使）

92. 6. 30

亜 中

30日、金丸副総裁に対し、橋本大使より、標記に関する中国の見解及び動きを説明したところ、同副総裁は次の通り述べた（先方発言のまま）。

1. 過日、中曽根、竹下、田村元と自分の4人でメシを食って天皇訪中間題を相談した。中曽根の賛成論に対し、田村元は反対論であった。自分も中曽根と同じく、賛成だと言った。みんなで竹下に意見を述べさせようとしたが、彼は慎重な男だから、何も言わなかった。

2. 自分是一日も早く天皇訪中を実現すべしと考えている。残念なことに、江沢民が来日する前に、尖閣、民間賠償、PKO等の問題が出てきて、自民党内が硬化した。

尖閣と民間賠償については、いま大使の話聞いたが、PKOについては、自分から直接江沢民に「中国で大災害が起こったら、日本から救援に行く。それでも反対か？」と言ったら、江は「日本で大災害が起こったら、中国からも救援に来ます」と答えた。

3. 一日も早く天皇訪中を実現したいという自分の考えに変わりはないので、党内をなんとかまとめる努力をするつもりだ。そのことを大使の口から中国の要人に伝えて欲しい。

4. 自分はアメリカに行って、中国の話もした。蔣経国の遺言もあり、自分も中国はあくまで一つと考えている。台湾経済の中国進出が増え、中国経済が自由化していく中で、政治の面でも何らかの連合の形にもっていきたいと考えている。

台湾はどうしても独立国家でありたいだろうから、時間はかかるが、中国は一つということで努力したい。李登輝は台湾人であるが、「一つの中国論」である。自分は近く機会を見て台湾に赴き、李登輝に会うつもりだ。自分の真意を中国側が誤解しないよう、大使の口から良く説明してほしい。

(了)

福田・竹下元総理↓橋本大使

7/1

極 秘
無 期 限
部の内 号

22 総理秘書官 9-1
官房長官秘書官 9-2

報 告 ・ 供 覧

極秘第 56 号

大 臣 (秘書官 9-3 政務次官 事務次官 9-4 正 外務審議官 9-5 外務審議官 官房長 9-6 正)	主 管 (アジア局長 9-8 審議官 9-9 正 中国課長 首席事務官)	保 存 期 間 1 類 2 類 3 類 4 類 (永久) (10年) (5年) (1年) 起案 平成 4 年 7 月 1 日 完結 平成 年 月 日 起案者 電話番号 泉 2426
---	--	--

回 林官房長 追 2-1

22 橋本大使 追 1-1

22 儀 典 長 9-7

下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。

件 名

天皇陛下御訪中 (福田元総理、竹下元総理 → 橋本大使)

(別紙の要点等)

1日、往訪せよ橋本大使に対し、福田元総理、竹下元総理より、夫々、天皇陛下の御訪中に因り、創設の通り述べたことなどがあつた。

天皇陛下御訪中（福田元総理、竹下元総理一橋本大使）

92. 7. 1

中国課

1. 7月1日、福田元総理は、橋本大使に次の通り述べた（先方発言のまま）。

橋本大使の話はよくわかった。宮沢君の考えもよくわかっている積もりだ。宮沢総理が党内情勢や国内世論の動向をよく見極め、よいタイミングで決定すればそれで良い。

2. 1日、竹下元総理は、橋本大使に対し、次の通り述べた（先方発言のまま）。

この問題については、既に橋本大使と何度も充分話し合っているので繰り返さないが、自分の考えは全く変わっていない。天皇訪中の是非を巡って党内で議論すること自体がおかしい。自分は今年が御訪中の一番良い年だと一貫して考えている。ただ、党内で大激論が起こったり、右翼のテロで誰かが血を流す中での訪中は困る。

今となっては、参議院選挙の後決定するしかないであろう。8月5日から10日までの間かなあ。

中曽根さんの言うように、中曽根・金丸と自分の3人で適当な時期に党内取り纏めに動くことはよい。その際、自分は福田さんも入れて4人でやった方がよいと思うが、それでは中曽根さんが嫌がるだろうなあ。

（了）

綿貫幹事長↓橋本大使

7/1

部の内
号

官廳登記簿 9-2

極秘第 55 号

大臣 (秘書官 9-3 政務次官 事務次官 9-4(正) 外務審議官 9-5 外務審議官 官房長 9-6(正))	主管 アジア局長 9-8 審議官 9-9(正) 中国課長 首席事務官 (正)	保存期間 1類 2類 3類 4類 (永久) (10年) (5年) (1年) 起案 平成 4 年 7 月 1 日 完結 平成 年 月 日 起案者 泉 電話番号 2426
回覧先 林官房長 追² 2-1 橋本大使 追¹ 1-1 儀典長 9-7		
下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。 件名 天皇陛下御訪中 (席貴幹事長→橋本大使) (別紙の要点等) 1日、往訪せよ橋本大使に席貴幹事長が天皇訪中問題に關し述べた内容。		
GA-7 (昭和63. 4. 1改正)	外務省	回覧番号

天皇陛下御訪中（綿貫幹事長一橋本大使）

92.7.1

中国課

1. 7月1日、綿貫幹事長に橋本大使より天皇訪中問題に関する中国側見解及び最近の動きにつき説明した。

幹事長より、「党内には改革派と保守派とが抗争したり、米国や西ヨーロッパとの関係で緊張が続いている中国へ天皇に行って戴くべきではないとの意見がある」と指摘。右につき、橋本大使より適宜説明。

2. 幹事長より、「過日、総理と党4役とでこの問題を相談したが、総理から党内の動き、国民世論、一般的な環境を見定めながら、決めたいとの話があり、自分もそれに賛成である。さりとて、何時までも決定を延ばす訳にはゆかぬ。準備期間として、どれだけ必要か？まさか、今月決めて来月という訳にもゆかんと思う」旨述べた。

（橋本大使より、「最低3ヵ月必要と言いたい、2ヵ月でも何とかする。何れにしても参議院選挙の後、一日も早く決めて欲しい」と要望。）

幹事長より、「それは大使の言う通りだと思います。決定を先に延ばせば、延ばすほど、断わり難くなるし、第一、相手に失礼だということもわかる」旨述べた。

（了）

2-1 総理

2-2 file

(7-4 谷野敏
7-1, 3, 5-7 江崎 〇)

追1-1 課長

7月21日

榎井君

- ① 別紙は、総理に対する報告書として作成。サミットから総理が帰国した^(すぐ)ら

でできるだけ早く、見せて下さい。あるいは電報で総理の行き先に見せて下さい(参考がよいかも)

- ② 今日の午後の次官室会議に、この

報告書のコピーを~~総理~~に

①①①

(土席者)

席上、配布し、会議が終了とき

全員から回収し、焼却して下さい。
(あらかじめ配布せず)

- ③ 貴見の判断により、秘致なり、
致のハコト。

榎井

総理の指示が降りたから。

- ④ 大臣には別途報告書提出する

極 秘

無 期 限

2 部の内

2 号

copy 不可

天皇御訪申由題

7月3日

橋本 記

(北京駐在)

1. 中国の態度

總理の御指示により、^(中国の) 貴生 外務省、政府、

國會(全國人民代表大會)に工作した結果、中国は極めて静かにしており、由が國の國民世論、とくに自民黨を刺戟するような言動は極力、ひかえる態度を堅持している次第は、おでに御高承のとおりです。

7月4日、北京に帰任致しますが、中国が今後とも、ひき続き、このような抑制された態度をとり続けるよう、働きかける所存です。

2. 自民黨

次の人々に、それぞれ個別に会いました。總理の御指示のとおり、中国の考えと最近の動きを説明しました。

— 最高顧問 —

中曾根、竹下、福田元総理

— 党四役 —

綿貫幹事長、森政調会長、佐藤総務会長、原議員会長

— 党総務会 —

佐藤正晴、水野清、中尾繁一

金丸副総裁

① (積極的に) 反対を表明した人は皆無

② 明確に、かつ、強く 賛成を表明した人は皆無

金丸副総裁、佐藤正晴、原議員会長

③ 従来の反対だった人から賛成に変わった人

中曾根元総理、佐藤総務会長、水野清、中尾繁一

④ 福田、竹下元総理の御意見は従前とあり (別紙参照)

⑤ 全員共通の意見

「自民党、1割や2割が反対するのは、やむを

えないが、8割が賛成するなかで、また右翼の

3.

テロで犠牲者が出るようなことがない状況のもと
で「月満に訪中が実現する」とが望ましい」

3. その他

平岩経団連会長

犬養共同通信社長

平岩会長に会ったのは、佐藤総務会長から、「平岩
経団連会長も反対している」と聞いたからです。別途、

共同の犬養に会ったのは、共同通信の北京支局が、再三、
再四、天皇訪中阻止のため、とるに足りない中国の民衆
の極めて少数の意見を誇張して記事にしているからです。

平岩会長も犬養社長も、それぞれ「私どもが、

訪中反対など、とんでもない。全くの誤解で、天皇
訪中に賛成です」と明言しました。

— 以上 報告致します —

6. 国会議員の動向

谷野了吉了局長↓浜田幸一議員

7/1

極 秘
無 期 限
9 部の内 号

総理秘書官 9-1
官房長官秘書官 9-2

報 告 。 供 覧

極秘第 52 号

大 臣 (秘 書 官 9-3 政務次官 事務次官 9-4 返印 外務審議官 9-5 外務審議官 官 房 長 9-6 返印	主 管 アジア局長 審 議 官 9-9 返 中国課長 首席事務官	保 存 期 間 <table border="1"> <tr> <td>1 類</td> <td>2 類</td> <td>3 類</td> <td>4 類</td> </tr> <tr> <td>(永久)</td> <td>(10年)</td> <td>(5 年)</td> <td>(1 年)</td> </tr> </table> 起案 平成 4 年 7 月 1 日 完結 平成 年 月 日 起案者 電話番号 泉 2426	1 類	2 類	3 類	4 類	(永久)	(10年)	(5 年)	(1 年)
1 類	2 類	3 類	4 類							
(永久)	(10年)	(5 年)	(1 年)							

回 覧 先

橋本大使 9-7

儀 典 長 9-8

下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。

件 名

天皇陛下御訪中 (谷野三ツノ太夫 → 浜田幸一議員)

(別紙の要点等)

1日、谷野太夫が浜田議員を往訪した際の先着石。

天皇陛下御訪中（浜田幸一議員—谷野アジア局長）

92. 7. 1

中国課

1 日、浜田幸一議員（党広報委員長）が、往訪せる谷野アジア局長に対し、天皇陛下御訪中問題に関し述べたところ、以下の通り（重中 泉同席）。

1. 天皇陛下の御訪中はひとえに宮沢総理の決断の問題。他方、自分（浜田議員）の意見（注：反対論）は先の総務会で一度きちっと申し上げている。今は渡辺外務大臣も病気で入院中でもあり、改めて意見を言うのは差し控えたい。

2. （谷野局長より、本件については、国民の祝福の得られる中で実現したいと考えており、勿論党を二分するような状況下では困難と考えている旨述べたのに対し、）

本件を巡って、党が二分されるような状況にはなろう筈がないと考える。日中平和友好条約批准承認の時も同様であった。自分（浜田議員）はそもそも日中平和友好条約の締結に国会で反対票を投じた三人（注：浜田幸一、中山正暉、林大幹）の一人であり、そこに台湾がある限り、自分の気持ちにはいつまでも変わりはない。自分は今後も中国には行かないであろう。藤尾などは大きなことを言っているが、日中平和友好条約の時は議場に出て来なかった。議場に出て来ないというのは投票権の放棄であり、反対したということとは見做されない。青嵐会はあの時を以って割れたのだ。日中平和友好条約が中国との関係で価値があったのは反対があったからだろう。今度の天皇陛下の御訪中の問題についても、党全体としての意思がある一方、議員個人としての信念があっても良いと考える。

3. 本件は又、陛下ご自身のお考えの問題でもある。歩きながら考えるデモクラシーで行くか、考えて考えて決断してそれから走り出すデモクラシーで行くかは別にしても、陛下ご自身におかれての決断であろう。自分は、宮中にはたった一度、昭和天皇の大喪の礼の際に行ったのみであり、それは宮中に招かれるのは一部の者に限られていることが不公平と考えて、通常、宮中の行事には出かけないようにしているのであるが、自分の皇室に対する本当の気持ちは大喪の礼の記帳の際に「臣 浜田幸一」と書いたことに表れている。自分ですら行かない中国に陛下が行かれるということについて、自分の気持ちは複雑である。

4. 青嵐会出身の渡辺大臣が陛下の御訪中を主導しておられるということだ。自分（浜田議員）として、何を言うことがあろうか。本件が決まれば、自分は敢えて反対論は言わない。昨30日の総務会で藤尾が発言したが、「中国の治安情勢も穏やかではない」等と言い方が変わってきているようだ。自分は藤尾が発言しはじめたので、何も言わずに総務会を途中退席して出てきた。だから今日の新聞も藤尾の発言だけ報じている。藤尾に続いて浜田も発言しなかったのは、自分としての配慮である。

5. 自分（浜田議員）は本件が決まれば反対論は言わないが、本件は憲法第1条との関係で問題があるかも知れない。憲法第1条はアメリカが戦後日本人が天皇を中心に再び結束すれば良くない方向に行くと考えて、天皇の役割を規制するために設けた条項である。天皇陛下御訪中は政治的な意味合いが強く、その結果、アメリカの押しつけたこの憲法第1条に反することとなりかねない。それでも良いのかという問題がある。

（これに対し、谷野局長より、天皇陛下を政治的に利用しようなどということとは有ってはならず、挙げて友好的観点からなされるべきことは言うまでもない旨

説明。)

6. 中国に行かれた際に陛下は何か言われるのであろうが、台湾の人々の苦勞のことも考えて発言して貰えれば、自分（浜田議員）は文句はない。ただ、そういう訳にもいかないであろう。

(了)

藤尾正行議員↓谷野了了局長

7/1

極 無	秘 期 限
部の内 号	

報告・供覧

極秘第 53 号

9-1 総理秘書官

9-2 官房長官秘書官

9-3 大臣
(秘書官)

政務次官

9-4 事務次官

9-5 外務審議官

外務審議官

9-6 官房長官

主管

保存期間

1類 2類 3類 4類
(永久) (10年) (5年) (1年)

起案 平成 4 年 7 月 1 日

完結 平成 年 月 日

起案者 電話番号

泉 2426

回覧先

コピー 9-7 儀典長
スミ

道1-1 橋本大使

下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。

件名

天皇陛下御訪中 (藤尾正行議員→谷野了次郎局長)

(別紙の要点等)

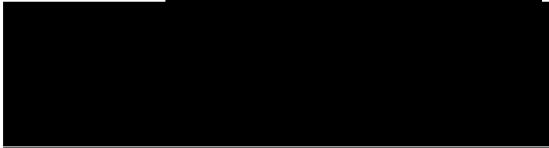
1日、往訪せし谷野了次郎局長に対し、藤尾議員より、天皇陛下御訪中問題に関し、述べた内容。()の趣意に
記す。

天皇陛下御訪中（藤尾正行議員－谷野アジア局長）

92.7.1

中国課

1日、往訪せる谷野アジア局長に対し、藤尾正行議員が天皇陛下の御訪中問題について述べたところ、要点次の通り（樽井中国課長同席）。なお、その際、藤尾議員に別添ペーパーを手交した。

1. 今、から、
と言ってきた。そこらの


2. 日中関係が良くなることはそれで結構なことだと思う。また、中国側から来てくれというなら、誰でも行けば良い。但し、天皇陛下は例外である。天皇陛下は超越的な存在であられる。天皇陛下の御訪中などという問題は、決して軽々しく扱ってはならず、官邸も外務省も歴史の重みをよく踏まえ、よくよく考えて、畏れかしこんで対応すべき大変な問題である。

3. いずれにせよ、自分（藤尾議員）は今後も引き続き反対していく積りである。

（了）



天皇陛下御訪中をめぐる最近の動き（まとめ）

1. (75. 9. 28) 米誌「タイム」社が、同誌にステュワート東京支局長の昭和天皇との会見記事を掲載する旨発表。（右会見は天皇・皇后両陛下の御訪米に先だって行なわれたもの。）

（その中で昭和天皇は「日中平和友好条約が締結され、中国を訪問する機会が訪れれば非常に嬉しい。しかし、そういうことは政府と協議した後にのみ決められるものだと思う。従って私は確定的なこととは何も言えない」旨述べられた。）

2. (86. 8. 23) 皇太子殿下記者会見（書面による質問に対する書面による回答）の中で訪中についての感想を問われたのに対し

「公式訪問は、すべて政府が関与する問題であります。従って、中国訪問についての考えを述べることは、差し控えたいと思います。しかし、中国との関係は、私の訪問如何に拘らず、大切に考えていかなければなりません」と回答。

3. (89. 4. 13) 訪日中の李鵬総理より、天皇陛下に対し、御都合の良い時期に訪中を招請した。

これに対し、天皇陛下より「感謝する。これは政府と相談して決めること」との御発言があった。

4. (89. 8. 4) 天皇・皇后両陛下の御即位後の初の公式記者会見において、「中国、韓国御訪問が実現された場合の歴史的意味についてどうお考えでしょうか」との問いに対し、天皇陛下より「中国と韓国の訪問については、私の外国訪問は政府が決めることですが、そのような機会があれば、これらの国々との理解と親善関係の増進に努めて、意義あるようにしたいと思っております」と応答。また、皇后陛下より、「大韓民国と中華人民共和国の訪問については、今、陛下がおっしゃったことと、私も同じ気持ちであります。要請がございましたら、心を込めて務めを果たしたいと思います」と述べられた。(報道)

5. (90. 7. 6) 江沢民総書記より、毎日新聞社訪中団に対し、天皇陛下の中国御訪問招請について言及(報道)。

6. (91. 6. 26) 訪日した銭其琛国務委員兼外交部長より、中山大臣に対し、「天皇・皇后両陛下が明年の都合の良い時期に訪中されることを非常に歓迎する。これが実現できれば中国人民の熱烈な歓迎を受けるであろう。中日関係史の上でも大きな出来事になると考えており、子々孫々の友好のための大きな原動力となり得るし、中日両国の将来にとって大きな影響を与えるであろう」旨述べた上で、「日本政府が積極的に検討されることを心から希望する」旨述べた。

これに対し、中山大臣より、「（錢外相の）発言は注意して承った。日本政府において十分検討したい」旨述べた。

7. (91.8.10) 訪中した海部総理に対する李鵬総理主催歓迎宴において、李鵬総理より、天皇陛下の御訪中につき、「既に錢其琛外交部長より正式に要請済みであるが、中国政府として、明年の国交正常化20周年の機会に陛下の御訪中が実現することを心から希望している」旨発言。これに対し、海部総理より、「李鵬総理よりお話があった点をも更に踏まえて、引き続き検討を進めて参ることとしたい」旨応答。

8. (91.9.20) 東南アジア（タイ、マレーシア、インドネシア）御訪問を前にしての記者会見において、記者より中国・韓国御訪問の予定を質問されたのに対し、天皇陛下より、「この問題は政府が十分検討を行っていることと思います」と応答。

9. (91.11.13) ソウルで開催された第3回APEC閣僚会議に際しての日中外相会談の席上、錢其琛外相より「天皇陛下の御訪中につき新内閣でも検討を願いたい」旨言及。

これに対し、渡辺大臣より、「天皇陛下の御訪中については検討中である」旨応答。

10. (91.12.3) 訪日中の田紀雲副総理より、宮澤総理に対し、

「天皇・皇后両陛下が明年の日中国交正常化20周年に訪中されることを期待する」旨、また、「右が実現されれば、必ずや中国政府・人民の熱烈な歓迎を受けることとなろう。この点宮澤総理におかれても訪中の実現を促進願いたい」旨発言があった。

これに対し、宮澤総理より、「かかるねんごろな招待を心より感謝する」旨述べ、「本件については、色々な事情を踏まえ、よく検討したい」旨応答。

11. (92. 1. 5) 訪中した渡辺大臣に対し、李鵬総理より、「天皇陛下が日本国民の心の中に占めている地位を十分承知しているので、中国政府と人民は訪中を熱烈に歓迎することを保証する。心より歓迎したい」旨述べた。

12. (92. 1. 5) 訪中した渡辺大臣に対し、銭其琛外相より、「国交正常化20周年の本年秋に両陛下の中国御訪問を歓迎する」旨招請があった。

これに対し、渡辺大臣より、中国側の累次に亘る招請を多としつつ、これを踏まえ、「更に政府部内で真剣に検討していく所存である」旨回答。

13. (92. 4. 2) 江沢民総書記の訪日前の記者会見において、北京駐在邦人記者より、「中国政府は今、なぜ天皇の訪中を強く求めるのか。総書記の訪日時に天皇訪中の具体的日取りが決まるのか。謝

罪の言葉を求めるのか」との問いがあった。

これに対し、江沢民総書記より、「天皇陛下の御訪中招請は両国の子々孫々にわたる友好関係を発展させようという願望に合致する。天皇陛下の御訪問が必ずや中日関係の発展を促進することになると信じている。御訪中の具体的なことについては、双方は更に協議することになっている。陛下が訪中してから何か言う必要があるなら、それは日本側が考えて決めることだ。」と回答。

14. (9 2. 4. 6) 訪日中の江沢民中国共産党総書記より、宮澤総理に対し、天皇陛下の御訪中に関し、改めて本年の訪中招請があり、「中国政府・国民として心から歓迎する」旨述べた。

これに対し、宮澤総理より、「引続き真剣に検討する」旨応答。

15. (9 2. 4. 7) 大内民社党委員長より、訪日中の江沢民総書記に対し、天皇陛下の御訪中問題に言及し、「民社党としては、日本の天皇は、どの国よりも早く中国を訪問されるべきと考えている。しかし、それには明らかにプラスとなる展望がなければならない。訪中されることとなれば、お言葉の問題とか、民間賠償、尖閣問題とかが火種となり、大きな日中間のトラブルが燃え上がることも懸念される。この点、若しかかる懸念があるのであれば、十分慎重に対処すべきである。中国は何度も訪中を要請されているが、以上の点について、如何なる決意を踏まえてのことなのか、お伺いしたい」旨述べた。

これに対し、江沢民総書記より「天皇陛下の御訪中要請について、中国側に他意はない。友好を更に促進したいとの願望があるのみである。中国としては難題を持ちかけようなどの意図は全くない」旨応答。

16. (92:4:8) 江沢民総書記の訪日に際しての共同記者会見において、記者の問いに答えて、江沢民総書記より「天皇陛下の御訪中の要請についても、その目的は、両国民の間の友情を更に深めたいというものである。これをどのようにアレンジするかは、日本が決めることであり、具体的なことについては、両国の関係部門で相談すべきことである」旨述べた。

(了)

野田經企庁長官↓樽井課長

7/2

極 秘
無 期 限
部 の 内 号

総理秘書官 9-1

官房秘書官 9-2

報 告 ・ 供 覧

極秘第 57 号

大 臣) (秘 書 官 9-3 政務次官 事務次官 9-4 (16) 外務審議官 9-5 外務審議官 官 房 長 9-6 (16)	主 管 アジア局長 9-8 (12) 審 議 官 9-9 (12) 中国課長 首席事務官	<table><tr><th colspan="4">保 存 期 間</th></tr><tr><td>1 類 (永久)</td><td>2 類 (10年)</td><td>3 類 (5年)</td><td>4 類 (1年)</td></tr><tr><td colspan="4">起案 平成 4 年 7 月 2 日</td></tr><tr><td colspan="4">完結 平成 年 月 日</td></tr><tr><td colspan="2">起案者 泉</td><td colspan="2">電話番号 2426</td></tr></table>	保 存 期 間				1 類 (永久)	2 類 (10年)	3 類 (5年)	4 類 (1年)	起案 平成 4 年 7 月 2 日				完結 平成 年 月 日				起案者 泉		電話番号 2426	
保 存 期 間																						
1 類 (永久)	2 類 (10年)	3 類 (5年)	4 類 (1年)																			
起案 平成 4 年 7 月 2 日																						
完結 平成 年 月 日																						
起案者 泉		電話番号 2426																				
回 覧 先 儀 典 長 9-7 橋本大使 追 - 1 (16)																						
下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。																						
件 名 天皇陛下御訪中 (野田経企方長官 → 樺井中国課長)																						
(別紙の要点等) 2日、野田経企方長官より、別件にて往訪の樺井課長に 対し、「天皇陛下御訪中を是非実現したい」との旨述べら れたことがあった。																						
GA-7 (昭和63. 4. 1改正)	外 務 省 回覧番号																					

(報告メモ)

天皇陛下御訪中 (野田経企庁長官一樽井中国課長)

92. 7. 1

中国課

2日、別用にて往訪せる樽井中国課長に対し、野田経済企画庁長官より、特に、天皇陛下御訪中問題に言及し、以下の点を述べるところがあった。

1. 天皇訪中は是非実現すべきと考えている。だが、先の宮沢総理の発言にしても、根回しもなく、党4役も聞いていなかったと聞く。どうにかならないものか。何れにしても、本件は宮沢総理が決断して動かしていく必要がある。その際には、自分(野田)も何とか努力したい。

2. 藤尾は、あれはどうしようもない奴だ。説得しようとしても無駄だ。放っておけ。ただ、あんな少数の者のために天皇訪中が阻止されるなど、とんでもない、本末転倒なことだ。そのようなことがあってはならない(語気強く)。

(了)

(記録用メモ)

天皇陛下御訪中問題

極 秘
無 期 限
3 部の内 3 号

極秘第 60 号

9 2 . 7 . 9

中 国 課

塩川正十郎自治相及び三塚議員の反応次の通り。

1. 塩川自治相 (9 日、次官秘書官よりア中長への連絡。)

小和田次官と同自治相が話し合った概要次の通り。

塩川大臣より、韓国に対する根回しが重要である旨の指摘があり、次官より、韓国政府については既に話がついている旨述べたところ、大臣は、韓国のマスコミの動きを気にしており、更に金大中などの動きも気にかけていた。次官より、党が割れるような状況下で御訪中されることは駄目であるが、最近の世論の動向を見れば、70～80%の賛成が示されている旨述べ、福田元総理も慎重にとは言っておられるが、反対とは言っていない旨述べた。大臣より、そのことは自分も聞いている旨述べ、又「 」の「 」の名前を挙げて懸念を表明し、 もよろしくお願ひしたい旨述べた。

2. 三塚議員 (9 日、アジア局長よりア中長が聴取。)

先日、小和田次官、アジア局長等外務省幹部と同議員が会食。その際、次官、局長よりこもごも説得。同議員は、最終的にはわかったと述べていたが、清和会を説得するための最低条件として、御訪中に先立つ沖縄御訪問が必要な旨指摘。次官より、皇室日程の関係上、沖縄御訪問は来年にならざるを得ないと聞いているが、なお可能性を検討してみたい旨応答。

(了)

本ページは非公開。

伊藤民社党国際局長の立場

7/9 朝日(朝)論壇「執筆

極 秘
無 期 限
13 部の内
号

総理秘書官 13-1 報 告 ・ 供 覧
官房長官秘書官 13-2

極秘第 59 号

大 臣 秘書官 13-3 政務次官 事務次官 13-4 (済) 外務審議官 13-5 外務審議官 官 房 長 13-6 (済)	主 管 コピ リスミ [アジア局長 13-12 審 議 官 13-13 中国課長 首席事務官]	保 存 期 間 1 類 2 類 3 類 4 類 (永久) (10年) (5年) (1年) 起案 平成 4 年 7 月 9 日 完結 平成 4 年 月 日 起案者 電話番号 樽井中国課長 (高田 2428)
---	---	---

回覧 総括審議官 13-7 (済)
総務課長 13-8 (済)
外務報道官 13-9
橋本大使 13-11

下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。

件 名

天皇陛下ご訪中問題(民社党の立場)

(別紙の要点等)

9日付朝日朝刊掲載の「論壇」について。
執筆者の伊藤民社党国際局長が中国課長に
述べた内容。

天皇陛下御訪中問題（民社党の立場）

92.7.9

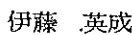
中国課

9日付朝日新聞朝刊の「論壇」に、伊東英成民社党国際局長が執筆した天皇陛下御訪中賛成論が掲載されているところ（別添）、本件につき、同議員が中国課長に述べたところ次の通り。

1. 本稿は、かなり前に朝日新聞に届けてあったが、若干遅れて掲載された。選挙が始まったこの時期に掲載されたことが良かったか悪かったかよくわからないが、自分の気持ちを率直に書いたつもりである。実を言えば、民社党内部においても、本件問題については種々の議論があるが、自分がこの論評を朝日新聞に投稿することについては、事前に大内委員長の了解を取り付けてある。
2. 以前貴課長より説明頂いたポイントは、それなりに網羅したつもりであるが、それに加えて自分が常日頃考えているポイントも取り入れてまとめてみた。外務省において同論文につきご意見があれば、遠慮なく言ってほしい。

（了）

論壇



第三に、わが国にとって対アジア外交の重要さである。アジア諸国との信頼関係なくして、将来の日本外交は語れないと私は思ふからであり、そこにおける中国の重要性を考えるからである。湾岸戦争の折にも、私は当時の外相にアジア諸国との相談、協議の必要性を強く提起し

④
119
天皇・皇后両陛下の訪中を

最後に外交当局に外交全般について強く望むことは、「品格ある日本の外交」「緩(き)然たる外交」の重要性である。その点を明確にしないと日本は諸外国からやはり現金自動支払機のようにしか見られかねない。いつまで金が出るか疑問だと思えば、なおさらその思いを深くする。

(民社党代議士、党副書記長・国際局長)

第四は、日中国交正常化二十周年の今年はまたとない記念すべき年であるといふことである。

（民社党代議士、党副書記長
国際局長）

天皇訪中關係報道(辰)

藤尾正行議員アンケート

7/16

取扱注意

報告・供覧

大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アジア局長 審議官 中国課長 首席事務官	<table border="1"><tr><th colspan="4">保存期間</th></tr><tr><td>1類 (永久)</td><td>2類 (10年)</td><td>3類 (5年)</td><td>4類 (1年)</td></tr><tr><td>起案</td><td>平成 4 年 7 月 16 日</td><td>完結</td><td>平成 年 月 日</td></tr><tr><td>起案者 泉</td><td colspan="3">電話番号 2426</td></tr></table>	保存期間				1類 (永久)	2類 (10年)	3類 (5年)	4類 (1年)	起案	平成 4 年 7 月 16 日	完結	平成 年 月 日	起案者 泉	電話番号 2426		
保存期間																		
1類 (永久)	2類 (10年)	3類 (5年)	4類 (1年)															
起案	平成 4 年 7 月 16 日	完結	平成 年 月 日															
起案者 泉	電話番号 2426																	
回覧先 総務課長 儀典長																		
下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。																		
件名 天皇陛下御訪中（藤尾正行議員のアンケート）																		
（別紙の要点等） 藤尾正行議員から送付 各議員（衆・参）向けアンケート （2113）																		

GA-7 (昭和三十三. 4. 1改正) 外務省 回覧番号

天皇陛下 御訪中について 御意見お伺い

1. 日本の歴史と伝統の中で、陛下が中華思想の中国においでになられた例はありません。
2. 中国は、現在でも核兵器、核兵器関連ミサイル、化学兵器製造施設等々を輸出、あるいは技術指導をしています。
3. 天安門事件以降も、事件に示された国内の自由弾圧の姿勢を変えている気配はありません。
アメリカ合衆国をはじめ、西欧諸国は中国のこの姿勢に対して不安と不満の意を明かにしています。
4. 中国は柳条溝、盧溝橋等、そのようなところに日本軍侵略を銘ずる碑を建設し、北京、天津、その他各地に、日本軍の中国への侵略史を銘記すべきであるとの中国近代史の碑文を掲げております。
5. 中国国内では、今でも保守派、改革派の抗争が各地で行なわれており、政情が安定したとは言えません。
6. 中国は、国連常任理事国として、ポツダム体制の維持、国連憲章の日本敵国条項を撤廃しようとしておりません。
7. 韓国、北朝鮮も、過去数回にわたって陛下の御訪問を要請してきております。

以上のような諸条件の中で、宮沢政権は、敢えて陛下の御訪中を強行するかのように見えます。
私共は、国交回復20周年であるとの理由だけで、陛下が御訪中されるのは時期早尚であると考えます。
議員各位のご良識に訴え、この挙に対し慎重であるべきであると考えます。

衆議院議員 藤 尾 正 行

き り と り

〔 問 〕 あなたは、このような状況の中で、陛下の御訪中をどのようにお考えでしょうか。

- イ 賛成すべきである
- ロ 賛成すべきではない
- ハ 慎重に再考すべきである
- ニ この時期の御訪中は反対である

差し支えなければ、ご氏名をご記入願います。

氏 名 衆議院議員
参議院議員

後日、回収にお伺い致しますので、アンケートにご協力お願い致します。
尚、ファックスにてご返答の場合は 下記までお願い致します。

FAX 3502-5024
担当 森

久財界と意見交換

平岩経団連会長↓橋本大使

7/1

極 秘
無 期 限

部の内
号

極秘第 54 号

報 告 ・ 供 覧

9-1 総理秘書官

9-2 官房長官秘書官

9-3 大 臣
秘書官

政務次官

9-4 事務次官 (返)

9-5 藤 外務審議官
外務審議官

9-6 官 房 長 返却

主 管

ス
ミ

9-8 アジア局長

9-9 審 議 官 (返)

中国課長

首席事務官

保 存 期 間

1類 2類 3類 4類
(永久) (10年) (5年) (1年)

起案 平成 4 年 7 月 1 日

完結 平成 年 月 日

起案者 電話番号

泉

2426

回覧先

追² 2-1 林官房長

スミ 追1-1 橋本大使

スミ 9-7 儀 典 長

下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。

件 名

天皇陛下御訪中 (平岩総国連会長 → 橋本大使)

(別紙の要点等)

6月30日、夕会の後、平岩総国連会長が橋本大使に対し、
天皇陛下御訪中問題についての考え方を語った内容。

天皇陛下御訪中（平岩経団連会長－橋本大使）

92.7.1

中国課

6月30日、平岩経団連会長から夕食に招かれた際、橋本大使より、「佐藤総務会長は、財界トップも天皇訪中に反対しているとして、平岩さんの名前を出していた」と述べたところ、平岩会長は次の通り説明した（先方発言のまま）。

1. 私は「慎重に」と言ったままで、決して反対とは言っていない。4月に橋本大使に会った際、この問題の詳細を伺っており、私が橋本大使と反対の言動をする筈がない。

当時、新聞にも報道された私の「慎重に」という発言は、実は宮沢総理と事前によく相談した上での発言である。自民党内にも反対論があり、右翼もテロを準備しているとの情報もあったので、政府も財界もあまり先走った明確な態度を出さない方がよいということで、宮沢総理と合意した。

2. 今年、20周年の年に、天皇訪中を何とか実現すべきであるというのが、私の本心である。今年のを機会を逃すと何時訪中できるかわからなくなる。私自身、毎年訪中して、中国側指導者の考えもよく承知している。

また、私自身のみならず、会社（東京電力）も、これまで中国に対して惜しみなく協力してきたし、鄧小平の子供や楊尚昆（国家主席）の子供達が来日すると、私自身と会社とでいろいろ面倒を見ている。私は決して反中国ではない。

小和田次官↓石川六郎日商會頭

7/10

極 秘
無 期 限
部の内
号

極秘第 61 号

報 告 ・ 供 覧

9/1 総理秘書官
-2 官房長官秘書官

-3 大臣
秘書官

政務次官

-4 事務次官

-5 外務審議官

外務審議官

-6 官房長

主 管

-8 アジア局長

-9 審議官

中国課長

首席事務官

総務課

保 存 期 間

1類 2類 3類 4類
(永久) (10年) (5年) (1年)

起案 平成 4 年 7 月 10 日

完結 平成 年 月 日

起案者 電話番号

ト部次官秘書官

(予中高田扱 2428)

回 覧 先

cp造1-1 橋本大使

cp-7 儀典長

下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。

件 名

天皇陛下御訪中問題(石川大郎日商会頭→小和田次官)

(別紙の要点等)

9日、小和田次官が石川日商会頭を往訪し、標記の件につき意見交換を行った際のやりとりの内容。

92.7.9

中国課

9日、小和田次官が石川六郎日商会頭を往訪し、天皇陛下の御訪中につき意見交換を行ったところ、その概要以下の通り。

1. 次官冒頭説明

（1）陛下御訪中の話は前から動いていて、日中関係の重要性という大枠の問題と、天安門事件によって国際的に問題となった中国の体制との間のバランスの点でいろいろ考えられた。しかし、二国間関係としてはもちろん、アジア・太平洋の安定にとり重要な日中関係を、将来に向けて確固たるものにするため過去に1つの区切りをつけるという意味で、日中国交正常化20周年にあたる本年、自然な形で陛下の御訪中を実現するという方針のもと、中国側と話を始めた。

（2）韓国との関係はもちろん考えたが、韓国は今年大統領選挙などもあり、陛下の御訪中を実現する状況にはない。この事は韓国政府も納得している。

（3）もちろん、陛下が御訪中されることには、二国間の友好関係を象徴するものとしておのずから政治的な意味が伴うものであるが、陛下の御訪中を政治的に利用するという考えは毛頭ない。中国側としても、かかる観点より陛下の御訪問を実現して歓迎する意向である。世上、尖閣諸島、民間賠償、PKO等を指摘して陛下の御訪中に反対する意見があるが、それぞれ、中国が反日的な姿勢を強めたことを示す実態はない。中国側とも御訪問の際の問題としないよういろいろ話し合っている。「お言葉」についても、昨年東南アジアを御訪問した時と同程度のことは言わざるを得ないが、それ以上のこ

とを言うつもりはないし、中国側もお客を困らせるようなことはしないと明言している。

2. 石川会頭の反応

(1) 尖閣諸島についてはどうなのか。(次官より、端的に言って事務的な手違いに近い話だと説明したのに対し) 中国側は取り消すとは言わないのか。

(次官より、当方より取り消すことを求めたが、先方はそれだけは勘弁してもらいたいと言ったものの、他意はないとしている旨応答。)

(2) 民間賠償についてはどうか。(次官より、これは毎年人民代議員大会で出ている話で、日本の国会に対して出される請願のようなもので大きな問題ではない旨応答したのに対し) 民間賠償については花岡事件というものがあり、外務省などいろいろな話し合っているが、陳謝せよ、賠償せよ、とかいろいろ言われている。こういう問題は、いったん一つ認めると次から次へときりがないので、認めない方向でやっている。(次官より、賠償の問題は一応決着していると応答。) ただ、これは陛下の御訪中とは関係なく、自分の会社がこの件で困っているので申し上げた次第である。

(3) PKOについてはどうか。(次官より、先方は中国の国民感情もあり、公に言っては困るとしているが、先般の江沢民の訪日の際、「海外派兵については慎重であってほしい」という発言を注意深く理解してほしいと述べている旨応答したのに対し) そうなんですか。

(4) こう言った一連の出来事の積み重ねに、大臣が中国でコミットしてきたのではないかという議論、宮沢政権浮揚策ではないかという意見が多くの経営者の間に存在し、それが反対論となっているのではないか。

先般、党の4役と財界の会合の際に、佐藤総務会長より財界はどうなのかと聞かれ、平岩さんが「慎重に対応してほしい」と述べたのを受けて、自分も同趣旨のことを述べた。

他方、いろいろなところから自分に対し、陛下御訪中反対の署名をしてくれと頼んできているが、そういうことには一切応じていない。

ご説明の趣旨は承った。

(了)

次官↓速水經濟同友会会長

7/14

極 秘

無 期 限

部の内
号

極秘第 62 号

2ページ
スミ

総理秘書官 9-1
官房長官秘書官 9-2

報 告 ・ 供 覧

大 臣 (秘書官 9-3) 政務次官 事務次官 9-4 (区) 外務審議官 9-5 (区) 外務審議官 官 房 長 9-6	主 管 2ページ (アジア局長 9-8 (区)) (審 議 官 9-9) 中国課長 首席事務官 総 務 班	保 存 期 間 1 類 2 類 3 類 4 類 (永久) (10年) (5年) (1年) 起案 平成 4 年 7 月 14 日 完結 平成 年 月 日 起案者 電話番号 1部次官秘書官 (了中高田扱 2428)
--	---	--

回覧先

2ページ
スミ

儀 典 長 9-7

橋本大使 退1-1

下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。

件 名

天皇陛下御訪中問題 (速水優経済同友会会長
→ 小和田次官)

(別紙の要点等)

10日、小和田次官が速水経済同友会会長を往訪し、
標記に関し意見交換を行った際のやりとりの内容。

天皇陛下御訪中問題（速水優経済同友会会長—小和田次官）

92.7.10

10日、小和田次官は速水優経済同友会会長を往訪し、天皇陛下の御訪中につき意見交換を行ったところ、その概要以下の通り。

1. 小和田次官

冒頭、陛下の御訪中問題についての経緯、陛下訪韓との関係、外務省の基本的立場、御訪中にまつわる問題点（「お言葉」、尖閣諸島、民間賠償、PKO）について説明した。

2. 速水会長

（1）自分は御訪中には賛成の立場であり、同友会としてもその立場である。党四役と経済四団体の会合の経緯については、その前日、加藤官房長官より「よろしく」という電話を受けたので、自分はそのように対応しようと会場に向かった。ところが、会場の控室で平岩経団連会長より、「本件問題については国内でいろいろがたがたしていることもあり、経済界については中立的な立場で意見なしとしよう」と言われたので、佐藤総務会長より意見を求められた際には財界としての意見は表明しなかった。

（2）自分としては、セキュリティ及び米国との関係を心配している。

（次官より、国内については右翼の動向に心配している。ただ、中国については、ああいう体制なので問題ないと思う。米国については、政府ベースではいろいろ根回ししており、選挙の年でもあり、米国側も事情はわかっている旨説明。）

（3）自分の立場は賛成だし、同友会もその方向でまとめられると思う。ドイツ

のように過去との区切りをきっちりしておくことは必要だと思う。どういうことができるかわからないが、協力できるところは協力したい。

(4) ところで、陛下の御訪中に反対する動きについて参考までにお伝えしたい。

(として別添の紙を示しつつ) 自分に発起人になってもらいたいとしている。

もう100人集めており、11日が締切りで、17日に産経新聞に一面広告を載せようという動きがある。自分としては、発起人に名を連ねるつもりはない。

(了)

日本政府が今秋実現しようとしている 天皇陛下ご訪中に反対します

その主な理由

①天皇は、古来世俗政治を超えた精神的権威であり、現行憲法上も日本国および日本国民統合の象徴であって、国政に関する権能を有しないとされている。したがって、天皇の外国ご訪問は、両国間の外交努力によって真の友好の実が備わった国に対し、国際儀礼として相互の友好親善を喜び合う場合に限られるべきである。日中関係は、わが国が中国に対し多額の経済協力を行ない友好関係の確立に努めているにもかかわらず、中国は最近においても、わが国固有の領土である尖閣諸島の領有を宣言し、国連活動の中心である安保理の常任理事国でありながら自衛隊のPKO参加をくり返し批判するなど、両国間には真に安定した友好関係が築かれているとは云いがたい。このような情況は、政府の外交努力によって打開すべきものであって、現段階で関係強化のためにご訪中をお願いすることは、たとえ国交正常化二十周年記念という名目であっても、天皇の政治的利用にほかならない。ましてご訪中によって両国間の過去の不幸な関係を清算したいという一部の意見は、天皇の政治的利用そのものである。現状でのご訪中は天皇の歴史的な性格に背き、憲法にも違反する。

②中国は、冷戦後の今日も、地下核実験を行ない、軍備拡張を推進し、第三世界に大量の武器を輸出し、周辺諸国はもとより世界の脅威となりつつある。南沙諸島の領有権をめぐっては東南アジア諸国と対立し、国内の人権抑圧と少数民族圧迫に対する自由諸国の不信任は依然としてきびしく、天安門事件以後、西側諸国の元首で訪中した例はない。自由、人権と民主主義を尊重し、世界の平和に一定の責任を自覚すべきわが国が、現状の中国に対し、天皇陛下のご訪中によって西側諸国の中で突出的に、無原則に関係を深めようとするのは、自由諸国の眼から「人権軽視の国」「経済利益追求優先の国」という誤解をまねき、米国をはじめとする自由諸国および諸国民との友好関係を傷つけること必至である。とりわけ経済摩擦が深刻化しつつある日米関係にとって重大なマイナスとなる。

③周知のように、中国は目下、保守派と改革派の激しい権力闘争の渦中にある。鄧小平氏率いる改革派の優勢が伝えられるが、その決着はなお予断を許さない。中国の前途は、改革・開放路線と社会主義四原則の堅持とをめぐって、今後さまざまな曲折が予想される。このような不安定な時期にご訪中を急がなければならない理由はどこにもない。

私たちは日本の栄光と国益の保持を願い、以上のような理由から、現在宮沢内閣が準備しつつある今秋の天皇陛下のご訪中に反対します。

天皇陛下のご訪中に反対する国民委員会

謹啓 梅雨の候 貴台には愈々御清祥の段大慶に存し上げます。

陳れば、日本政府は年初以来、中國政府の要請に応じて、この秋、天皇陛下の中國御訪問を実現すべく、着々とその準備を進めておりますのは御承知の如くであります。しかし、私どもは現情況下での御訪中は、真の日中友好には、かえってマイナスを生ずるとして終始反対してまいりました。

然るに、政府は執拗な中國政府の要請を受け入れ、この参議院選挙のドサクサに紛れて御訪中を決定、発表するとの情報が有力であります。

私どもは、現時点での御訪中の中止を願ひ、その意志を満天下に公示するため産経新聞の一頁を買取り、別紙文面の意見広告を掲載する決意を固め、急速準備を進め、来る七月十七日の朝刊に掲載の段取りに相成りました。

就きましては尊名を紙上に連ねさせていただきたく懇願申し上げます。連名は百名前後程度と致し、政党人はすべて排除し、各大学の先生方を中心に各界の著名人を以て構成の予定であります。

何卒、趣意に御賛同賜り、同封のハガキにて御快諾の御返事をいただければ幸甚に存じます。

先は取り急ぎ御願ひまで。

平成四年七月七日

呼びかけ発起人

敬白

会	田	雄	次
宇	野	精	一
加	瀬	英	明
小	堀	桂	一郎
丹	羽	春	喜
黛		敏	郎
村	松		剛

(五十音順)

二伸

1、新聞への掲載日が迫っておりますので締切を七月十一日といたします。

2、「意見広告」の肩書きは「大学教授」「実業家」等と一般的なものに致しますが、念のため正式肩書きを御知らせ下されたく存じます。

3、多額の費用を要しますので、出来ましたならば多少なりとも御挾援に預れば幸甚に存じます。

天皇陛下の御訪中に反対する国民委員会事務局

〒102 東京都千代田区麹町四―五 第六麹町ビル五階

高池法律事務所内

電話 ○三―三二六三―六〇四一

速水 優

殿

次官↓永野日経連会長

7/15.

極 秘
無 期 限
10 部の内 号

極秘第 64 号

ペー
ス
総理秘書官10-1
副総理秘書官10-2

報 告 ・ 供 覧

大 臣 秘書官 10-3 政務次官 事務次官 10-4 外務審議官 10-5 外務審議官 官 房 長 10-6	主 管 アジア局長 10-8 審 議 官 10-9 中 国 課 長 首席事務官 総 務 班	保 存 期 間 1 類 2 類 3 類 4 類 (永久) (10年) (5年) (1年) 起案 平成 4 年 7 月 15 日 完結 平成 年 月 日 起案者 電話番号 泉(岡島叔) 2425
回 覧 先 機 密 係 10-7 橋本大使 10-10		
下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。		
件 名 天皇陛下御訪中(次官→永野日経連会長) (別紙の要点等) 10日の小和田次官と永野健日本経営者団体連盟会長との 意見交換の概容		

GA-7 (昭和63. 4. 1改正) 外 務 省 回覧番号

天皇陛下御訪中（小和田次官―永野健日本経営者団体連盟会長）

92.7.13

中国課

10日、小和田次官は永野健日本経営者団体連盟会長を往訪し、天皇陛下の御訪中につき意見交換を行なったところ、右概要以下の通り。

1. 冒頭、小和田次官より、陛下の御訪中問題についての経緯、陛下訪韓との関係、外務省の基本的立場、御訪中にまつわる問題点（「お言葉」、尖閣諸島、民間賠償、PKO）について詳細に説明した。

2. これに対し、永野会長より以下を応答。

（1）陛下が中国に行かれないという御意志をお持ちであれば、行かれればよいと考えている。

（2）中国の態度については、色々とおかしいとは思っている。そもそもアジア・太平洋の安定と協力の枠組みの中に入って来ようとしなのはおかしいと考えている（聞き込みのママ）。

（3）お話の趣旨は大体わかったので、日経連の適当な場、例えば正副会長会議で本件を取り上げ、陛下の御訪中に関して皆の意見を取り纏めて行こうかと考えている。

（以上に対し、小和田次官より、「内々に相談している話なので、本件については、その点、然るべき扱いをお願いしたい」旨述べおいた。）

（了）

8. 对外說明、应答要領

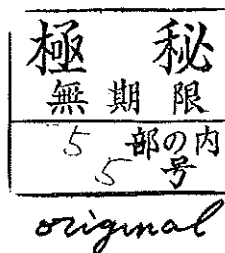
極 秘
無 期 限
部の内 号

決 裁 書

6/26 中に提出の要あり

大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アジア局長 審議官 中国課長 首席事務官	保 存 期 間							
		1類	2類	3類	4類				
		(永久)	(10年)	(5年)	(1年)				
		起案	平成 4 年 6 月 25 日	決裁	平成 年 月 日				
協議先		起案者	電話番号						
		泉	2426						
儀 典 長 儀 典 官									
下記の件に関し、決裁を求めます。(関係文書別添)									
件 名									
天皇訪中(日米首脳会談用応答要領の作成)									
GA-1 (昭和63. 4. 1改正)		外 務 省		回覧番号					

(日米首脳会談用応答要領)



天皇陛下ご訪中

92.6.29

中国課

(応答要領)

(ブッシュ大統領とのテタテート会談において、先方より、天皇陛下の御訪中問題に関し照会越す場合、)

答1. 天皇陛下の御訪中問題については、先般、貴大統領が訪日された際にお伝えした状況から基本的に変化はない。

2. 自分としては、本年は、日中国交正常化20周年に当ることでもあり、何とか本年秋に天皇陛下の御訪中を実現できればと考えているが、他方本件については党内で依然慎重論、反対論も少なくなく、現在環境整備に努力しているところである。他方、プレス、及び世論一般は圧倒的に御訪中を支持している。

3. アジア・太平洋地域の平和と安定にとり、安定的な日中関係の構築は極めて重要。かかる観点から、天皇陛下の御訪中が実現されれば極めて意義深いことと考える。国民の大多数の祝福の中で実現されるよう引き続き努力して参りたい。

(参考) 本年1月8日の日米首脳会談(テタテート)の席上、宮沢総理より、天皇陛下御訪中の検討状況につき説明したのに対し、ブッシュ大統領より「それは結構ではないか」と応答があった経緯あり。

(了)

取扱注意

天皇陛下の御訪中（対外説明振り）

4.7.15

中国課

本件に関しては反対論もほぼ出尽くしており、この機会に改めて対外説明振り（全般的な意義付けと各論に対する応答のポイント）を整理してみました。主に念頭におきましたのは、根回しの際の説明振りですが、基本的にはプレス等への対外応答振りにも使用していくことを前提に作成したものです。

天皇陛下のご訪中の意義

1. 中国側より再三にわたり国交正常化20周年の本年秋にご訪中頂きたいとの外交儀礼にかなった招請が行われている。その際中国側より、
(1) ご訪中は日中両国の国民間の友情を深めるためのものであり、中国国民によって大歓迎を受けるであろうこと、(2) ご訪中は必ずや成功させること、(3) 日本側を困らせることは決してしないこと、の3点を明確にしている。

我が国としては、かかる中国側の招請に対し誠意をもって対処すべきである。(なお、対処ぶりを誤れば、日中関係に重大な悪影響をもたらす恐れがある。)

2. 天皇陛下のご訪中は、過去1世紀にわたる日中間の不幸な歴史に一区切りをつける上で避けて通れない課題である。また、中国は我が国にとって米国、韓国、ロシアと並んでもっとも重要な隣国であり、天皇陛下ご訪中を成功裡に取り進めることは政府にとっての重大使命である。

3. 我が国は、天安門事件に対する国際批判と同一歩調を取りつつも、中国を完全な国際孤立に陥れないために国際社会の各分野でリーダーシップを発揮してきた。中国は今や市場経済を指向する政策へと大転

換を遂げつつあるが、これは我が国の努力が実を結んだ結果とも言える。このような状況下で、両陛下が日中国交正常化20周年を祝って訪中されても、国際社会に波風が立つことはない。

4. 国際情勢が大きく変動しつつある今日、我が国は新たな国際的役割を担いつつある。それだけに、アジア諸国は我が国の「過去」に対する姿勢を重大なる関心を持って見守っている。昨年の両陛下の東南アジア諸国御訪問に続く本年の中国御訪問は、このようなアジア諸国によって大いに歓迎され、また高く評価されよう。

5. 広範な中国国民は、両陛下のご訪中によって、平和国家日本の姿のみならず、新しい皇室像を深く理解することとなろう。更に、両陛下の誠実かつ暖かいお人柄は、必ずや中国の人々に強い感動をもたらすものと確信する。

6. 中国と並んで、韓国御訪問も避けて通れない課題であるが、本年は韓国大統領選挙の年でもあり、御訪問の機が熟していない。

効果も有り得よう。

反対論に対する説明ぶり（ポイント）

（天皇訪中反対論とこれらに対する説明ぶりのポイントを整理すれば次の通り。）

（１）天皇陛下の政治利用は憲法違反。

（イ）憲法問題

○外交は政府が行うべきであり、天皇陛下がされるべきことではないとの議論があるが、憲法学者の通説は、天皇が外国要人の接見、外国への公式訪問を行うことは、国の象徴たる天皇の当然の職能であるというもの。（現に先般の陛下の江沢民総書記のご引見については何らの憲法上の疑義も提起されていない。）

○天皇外遊の結果として外交的効果が生ずることは憲法上いわば当然のこととして想定されており、これをもって政治利用とするならば、全ての陛下の外遊は不可能となる。

○反対論者は、中国は天皇訪問に適していない国であるとの政治論と憲法論を分別できていない。（別添の中川大使論評参照。）

(ロ) 政治利用

(「政治利用」の中身について反対論者によってバラツキがあるので、それぞれにつき応答ぶりを示す。)

①日本政府が天皇を利用して日中関係の強化を図らんとしていること。

○天皇訪中は友好親善訪問。江沢民総書記は訪日の際にこの点を特に強調。

○結果として日中間の不幸な過去に一区切りつけ、将来の友好関係が促進されることがあっても、これは憲法で規定されている「政治的効果」であり、「政治利用」とは異質のもの。

②中国の保革対立に巻き込まれ、改革派が自己の勢力拡張のため天皇訪中を利用しようとしていること。

○この議論は中国内政に関する認識を著しく欠くもの。

○中国側は国を挙げて天皇訪中を歓迎していることに何らの疑念もない。

③中国は天皇訪中を利用して現体制のてこ入れを図らんとしていること。

○中国の現体制は安定しており、天皇訪中を「利用」する必要性など全くない。

④中国が国際孤立からの脱却のために天皇訪中を利用せんとしていること。

○中国は市場経済化を大胆に進めつつあり、国際協調の姿勢を鮮明にしている。これは、我が国の外交努力の成果であり、望ましい姿。

○中国が国際孤立を避け、現在の指導的な世界システム（これによって日本は平和と繁栄を享受してきた）に利益を見出し、これに積極的に入って来ることは歓迎すべきこと。

⑤中国は天皇訪中によって日本からより一層の経済協力を引き出さんとしていること。

○我が国が陛下訪中と経済協力を結びつけることはありえず。また、中国側にもこのような期待は一切ない。

⑥中国は「過去」を出発点にして日中関係の再構築を狙っていること。

○日中関係はより成熟しつつある。中国側は日中関係の過去よりもむしろ未来により多くの目を向けつつある。（江沢民総書記は先般訪日の際に、我が国の国際社会における政治的役割を認めるとの中国側の重大な政策転換を明らかにし、「中国人にとっては過去を忘れ、未来を見つめることが重要である」との注目すべき発言を行っている。）

○我が国にとっては、過去の歴史を正しく認識し、それを踏まえてアジア諸国との友好関係を更に増進させていくことが重要であ

ることは論を待たない。このような真摯な態度を示してこそアジア諸国の信頼を保つことが出来る。

○この反対論の如く「過去」にのみとられ、いたずらに被害妄想に陥ることは、何ら建設的結果をもたらさず。

(2) 人権問題を抱える中国は訪問されるべきではない。欧米諸国より強い批判を招くことにもなる。

○中国に人権問題があることは事実。よって我が国も総理、外務大臣レベルで我が国の強い関心を累次にわたって伝達している。

○他方、12億の人口を抱える開発途上国たる中国にとって、人権を含む多くの問題の解決には多大の時間がかかることも理解すべし。単に批判するのみではなく、中国の改善に向けての努力を後押ししてゆくことも重要。(この点においては我が国と欧米諸国との間で認識の差はない。)

○中国も、我が国等の申入れを踏まえ、徐々に国際世論に歩み寄りを示しつつある。

(例)

(イ) 中国の人権問題について外国政府と協議することを受け入れたこと。(米中間では大使レベルの協議をもつことで合意。)

(ロ) 初めて人権白書を公表し、人権問題に対し注意を払うようになってきたこと。

(ハ) 折にふれて政治犯を釈放し、外国渡航を認めるようになってきていること。

○これまでに外国政府及びプレスは天皇訪中について否定的コメントを行っていない。西側諸国政府は、天皇訪中は日中の長きにわたる歴史的背景をもつものであることを十分に理解。要すれば我が方より自信をもって説明すればよい。

○なお、アジア諸国は我が国の政治的役割の増大を歓迎しつつも、我が国の「過去」に対する姿勢に前にもまして重大な関心を示している。天皇訪中は、このようなアジア諸国によって高い評価を得ることとなろう。

(3) 中国の我が国に対する内政干渉は許しがたい。天皇訪中などをもってのほか。(靖国、教科書問題、PKO批判、尖閣問題、民間賠償)

(イ) 一般論

○これまでの「過去」の不幸な歴史に由来する種々の困難があったことは事実であるが、日中両国はこれを乗り越えつつある。

(上記(1)、⑥参照。)

○「過去」に起因する問題は事柄の性格上、全面的な解決までは時間が必要。このことにのみ拘り、対中批判を行うことは日中関係の建設的な発展を阻害するものに他ならない。

(ロ) 最近の事例の説明

①PKO

○中国側は極めて抑制された態度を維持。(PKO法案自体には反対しておらず、法案採択時にも正式な政府声明を発出せず。)

中国側は「海外派兵」は慎重にしてほしいとの態度。他方、PKO参加は「海外派兵」ではありえないというのが我が国の立場であり、中国側はこの点を承知の上ですれ違いの発言を行うに止めている。

(注：右のポイントは公の場での説明では避けることが適當。)

②尖閣問題

○本年2月の中国領海法制定は法整備の一環であり、特別な政策意図なし。(最大の係争地たる南沙群島等の全ての地域が明記されており、尖閣のみ取り出したものにあらず。)

○本法律の制定によって中国の従来主張が変わった訳ではなく、中国側は鄧小平の「棚上げ論」(1978年)を改めて確認。

(すなわち我が国の実効支配の現実の変更を求めず。)

○尖閣をめぐって日中両国が感情的対立に陥ることは、我が国にとって全く益なし。従来通りの尖閣は我が国の固有の領土であるとの主張を貫けばよい。

③民間賠償

○先般の全国人民代表大会でごく少数の活動家（童増なる米国留学帰りの人物が中心）が、我が国プレス（共同）を通じて扇動したに過ぎず。全国的な議論になっていない。

○中国政府はかかる動きを極力押さえるべく努力。結果的に全人代の議題にすらならず。（全人代に寄せられる案件は2～3000件。このうち議題となるものは少数。）

○よって、我が方として過大に考えるべき問題にあらず。中国政府は、賠償問題は日中共同声明で決着済みとの立場。

（4）中国はかつて皇室批判を行い、また大喪、即位の礼に銭外相と呉学謙副総理クラスしか派遣して来なかった。

○かつての皇室批判は過去のことにはすぎない。現在は中国は皇室に対し、十分な敬意を払っている。（現に、江沢民総書記、李鵬総理という中国最高指導者が礼を尽くして陛下訪中を招請している。ちなみに、李鵬総理は渡辺大臣に対し、「陛下の日本国民の心に占める重さは十分理解している」と発言している。）

○大喪の礼、即位の礼への中国側出席を我が方は高く評価しており、非礼だとは毛頭考えていない。

(5) 中国は国際平和に逆行する動きを示している。(武器輸出、核・ミサイル拡散、最近の軍備拡張、ウクライナからの空母購入、越との南沙問題)

(イ) 一般論

○これらの問題が国際的関心を呼んだことは事実であるが、過去一年間の中国側の歩み寄りの姿勢は評価されるべきもの。

(例)

NPT (核不拡散条約) 加盟

MTCR (ミサイル関連技術の輸出規制) ガイドラインの遵守

対中東武器輸出規制のための安保理常任理事国会議への参加

(ロ) 武器輸出

○趨勢的に抑制の傾向。

○武器輸出の総額は米、ロシア、仏にはるかに及ばず。また最近では外国での需要減にともない減少傾向が顕著。

(ハ) 最近の軍備拡張

○数年にわたって国防費が二桁の伸びを示しているが、中国の予算に現れる国防費(西側の概念と異なる)は主に人件費、福利厚生費(これまで、余りにもなおざりにされてきており、軍人の志気に問題が生じつつあり)などが中心。よって、予算の伸び率のみで論評できず。

○一般的に、中国軍の装備（特に海、空軍）は先進レベルよりも数十年遅れており、近代化の緒についたばかり。また、国内経済建設を最重点とする中国政府が近隣諸国と武力紛争を引き起こす意図はみられず。

(二) 空母購入

○噂にすぎず。空母を維持するには膨大な関連システムが不可欠。当面中国にその能力無し。（他方、我が国としては本件に強い関心を抱かざるを得ないことは事実。）

(ホ) 南沙群島

○従来より関係国、地域（中国、台湾、比、マレーシア、越、ブルネイ）で紛争あり。（かつて中越で武力衝突事件を引き起こしたこともあり。）

○他方、中国は、本件問題を平和的話し合いで解決するとの意図を改めて明らかにした。

○尖閣と本件は、歴史的にも、現状においても全く異なる。（南沙の各島には各国がそれぞれ軍隊を駐留させている。）

(6) 国民の主張を十分に聴取すべし。圧倒的多数の賛成が不可欠。

○政府は、国民の祝福を受けて行いたい旨累次明らかにしている。

○国民の考え方を尊重すべきは当然のこと。

(注1) 産経を除く各紙は訪中賛成の社説を出している。

(注2) 世論調査(毎日、日経、内閣)の結果

毎日：賛成54%、反対17% (わからないが27%が多い)

日経：賛成約70%、反対17%

内閣：賛成72%、反対16.4%

(7) 共産主義国には訪問されるべからず。

○日中両国は、1972年の共同声明、1978年の日中平和友好条約に基づき、体制の違いを乗り越えて友好関係を発展させてきた。

現在でもこの基本原則を変える理由なし。

○イデオロギーで陛下の訪中を云々することは、そもそも不適當。

(8) 陛下に謝罪をさせるべからず。

○陛下が訪中された際には、過去の日中関係に鑑み、何らかの形でこれに言及することは有り得よう。

○但し、陛下は「謝罪」のために訪中されるのではなく、日中両国民の友情を深めることを目的とされた親善訪問を行われるのである。

この点は中国側も繰り返し同様の認識を明らかにしている。(因みに、中国側は「お言葉」は日本側の問題であるとの立場。)

(9) 韓国御訪問が先ではないか。

○韓国御訪問も検討されるべし。

○但し、本年は機が熟しておらず。韓国政府は中国が先になることに異議を唱えないと思う。

○御訪中の成功は、将来の御訪韓にとっても意義のあること。

(了)

Viewpoint

無視できない政界の態度

天皇の御訪中について、賛否の両論が言論界を騒わしている。一部の学者の間の論議である間は落して気にする必要はないが、政界にも州火として、自民党の西谷が揃って慎重論を唱えるような事態になると、政治的にも無視し得ない要素となり、政府の対応如何では外交上も悪影響を起こかねない。

中國側は天璽の御訪中に熱心で、昨年六月以来再三の申し入れがあり本年四月某日の江沢臨海遊記は高沢総運に對してのみならず、天璽御自身に對しても直接の要望を行った。高沢総運は、「日本政府としても算刻に検討している」旨の前向きな応答をしている。

言論界及び市民党内での創制中
 討論の理由は、大別して二つである。
 第一は憲法的であつて、天皇は政治的
 的行為は慎しまねばならず、外交は
 政府が行つべきものだといふ主張
 である。第二は、天皇が公式訪問さ
 れる相手として、今日の中国は適当
 でないとの政論である。

法に定められており、その中に「外
國訪問」は挙げられていない。外交
は政府が行うものであり、天皇がな
さるべきことではないというもので

天皇の中国御訪問を希望する

外交評論家

中川 融

憲法上も外交上も問題ない
歴史に区切り必要

訪中については、政治的に利用される虞れがあるとして、特に懸念が表明されている。

「中国訪問反対」への反論

天皇の外國訪問、外國元首や要人の御会見等のいわゆる「外事外交」と憲法の規定との關係について

第二の議論は、今日の中國は、天皇の公式訪問の対象として不適当であるとするものであるが、その理由としては、「(教科書やPRKに参加の)問題で日本の内政に干渉を試みた、に尖閣列島を自国領土として」(讀心)

法」に規定した、日清戦争事件につ
いての国際的罪咎がまだ残っている
等の理由が挙げられている。

ある。その意味では、中国だけでなく、すべての外国御訪問に反対の立場を取るものである。しかし、御行つことであるのは、マッガーサー



ことは果たすを起す結果になり得ない。PKO問題についての中国側の立場は、中国の国民感情に揺るぎのないものでありたいということである。希望の表明であって、量が非でもやめろという要求ではない。「内政干渉」というくじらを立てる点のことはなからう。尖閣列島を「領有国」に規定したことは、あらゆるものがなす消滅と感ずるが、江総書記も問題解決を次世代に任せるとの七八年当時の鄧小平発言を再確認しており、領土問題についての立場論と受け取っておけばよいのではない。

日本の避けて通れぬ課題

も、中陸を侵略し、立に陥れないよう、当初から一歩進んだ柔軟な姿勢を取ってきた。昨年八月、海部総理の訪中により、日本に

またその対中政策は全面的に解除された。最近、鄧小平を頂点とする中韓の指導体制は、保守から改革に大転換を遂げ、中国の努力が実を結んだのである意味で日本の勢力が衰へた下でこそ成った。このような状況の下で、日中外交正常化二十周年を記念して天皇御訪中が実現する割合、国際的に村に敗戦が立つことはないのではない。

中國は、米國・ロシア・韓國と並んで、日本にとり最も重要な隣國である。天皇の御訪問により、過去二世紀に亘る日中間の不幸な歴史に、一つの区切りを付けることは、日本と米國の間に通れぬ壁垣である。中國の熱心な希望に答えてその裏垣を倒すことは、高麗・内閣の重大な使命である。

9. 觀者必見，慈心護等

谷野了了局長↓清原サシケイ編集局長 7/3.

秘
無 期 限

報 告 ・ 供 覧

コ
セ
ー
配
布
ス
ミ

8-1
8-2
8-3
8-4

大 臣
秘書官
~~政務次官~~
事務次官 (印)
~~外務審議官~~
外務審議官
官 房 長 (印)

主 管

○ アジア局長
審 議 官
中 国 課 長
首席事務官 (印)

保 存 期 間

1類 2類 3類 4類
(永久) (10年) (5年) (1年)

起案 平成 4 年 7 月 3 日

完結 平成 年 月 日

起案者 電話番号

泉 2426

回 覧 先

ス 8-7 儀 典 長

コ
セ
ー
配
布
ス
ミ

8-5 外務報道官
8-6 報道課長

下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。

件 名

天皇陛下御訪中 (清原サライ偏集局長 → 谷野アジア局長)

(別紙の要点等)

3日、谷野アジア局長が、サライ本社に清原偏集局長と
往訪、天皇訪中問題に關し、先方の述べた内容、
(た降、)

92.7.3

亜 中

3日、谷野アジア局長が産経新聞清原武彦編集局長を往訪し、天皇陛下の御訪中問題に関し、現状及び当方の考え方等を説明したところ、先方の反応中、特に注目すべき点以下の通り。（先方、木立眞行編集局次長、八木荘司論説副委員長、住田良能外信部長、当方、亜中泉同席。）

1. 清原編集局長

（1）産経の「正論」が天皇訪中是非論の火付け役になった。（衛藤瀋吉、猪木正道が賛成論、村松剛、小堀桂一郎が反対論。）これが「諸君」に同じメンバーで飛び火し、国民的議論が行なわれるようになってきている。自分（清原）が接した限りでは、自民党内、評論家・有識者、財界いずれも非常に慎重論が多いという印象であった。特に、財界に慎重論が多く、自分が外務大臣他外務省関係者と会うという時には、「はっきりと慎重たるべしということを伝えてほしい」とよく言われる。このように、現在、天皇陛下の御訪中の問題について国民の中で賛成論が圧倒的に多く、反対・慎重論が圧倒的に少ないという状況にはないことは事実だ。また、陛下の御訪中をめぐっては多くの論点が出てきていることも事実である。

（2）自分の心配しているのは、これだけ議論のある中、本件が有識者、言論人、財界人をカヤの外に置く形で、政治家の中でだけ根回しが行なわれ、陰で密かに決定され、ある日突然発表されるという事態である。本来あるべき姿としては、沢山の問題があるのだが、それを乗り越えてもぜひ陛下に訪中して頂くべきだと総理が考えるのであれば、それを国民の前に明らかにし、国民の中で論議し、そ

の中で如何にすべきかとの方向が定まっていくというのが望ましい。本件のような重大な問題については、このような民主主義国家として経るべき手続きが踏まれることが重要である。しかしながら、自分（清原）が外務省の幹部と接触しても、「本件は読売と産経がポイントを握っているが、訪中が一旦決まったときにはよろしくお願ひしたい」との話があるだけであり、それから判断するに、どうも舞台裏では既に陛下の御訪中は8、9割方決まっていて、今は議論になるのを抑えておいて無難な時期を選んで打ち上げるのを待っている、どうもそのような印象を受けるが、然りとすれば問題である。自民党内のみが問題であるのではなく、財界も平岩経団連会長、瀬島龍三などは慎重論だと承知している。（これに対し谷野局長より、石川六郎日本商工会議所会頭が慎重論者であることは承知しているが、平岩経団連会長は「自分は慎重論者のように新聞に報道され迷惑している。今年御訪中されたらよい」と我々の方には述べている。また、瀬島さんにもしばしば会う機会があるが、我々には「自分は賛成だ」と述べておられる。自分（谷野）に対し、これまでに絶対反対だと言った人は、藤尾正行、奥野誠亮、石川六郎の三氏位のものだ。もっとも、厄介なのは話す相手方によって使い分ける人が少なくないことである旨述べたところ）、おっしゃる通り微妙な問題なので、それぞれの時と場合で言うことも変わって来るのだろう。

2. 住田外信部長

（1）絶対反対は本来少数派だと思うし、個人的にも陛下はいつかは御訪中されるべきだと思う。しかし、今年行くべきなのかどうかの問題がある。何故わざわざ20周年に引っ掛けて行かねばならないのか。この問題については最近は何中示し合わせて発言をやめているように見えるが、それは陛下の御訪中の是非に関する議論を封じるためではないのか。世論調査をして国民が支持するかどうかを聞けば、6～7割は、陛下は行かれるべしと答えるだろう。しかしこれ以上政治的意味のある御訪問はないことも事実だ。陛下の御訪中を断わったときの中国側

の反発には大きなものがあるろうが、陛下の御訪中の持つ大きな影響を真に理解する国民は多くはない。

(2) それに加えて、一番の問題は、中国の国柄の卑しさである。とても陛下が訪問されて然るべき国とは思えない。先の「6. 4 事件」3 周年報道の際の、TBS 記者への暴行を始めとする外国報道陣への扱い、弊社の話をして申し訳ないが、産経新聞の北京支局再開をいつまでたっても認めないこと、そして一党独裁の悪である。こんな国に陛下に行って頂くことを本当にまともに考えているのか。陛下が訪中されなければ外交上やりにくいことになるのはわかるが、これまでに陛下の訪問された国はいずれも、少なくとも形の上からは国民によって選ばれた政体の国であった。しかし中国は異なっている。21 世紀になって共産党が無くなってから訪中頂いても遅くはない。

(3) 社内でも天皇陛下の御訪中をめぐってハチの巣をつついたような議論がなされている。自分（住田）が一番柔軟な方だ。人権や武器輸出の問題にしても、外務省が普段から中国側にもっときっちり言っていれば、陛下の御訪中の問題とリンクされたりせず、これはこれ、あれはあれ、ということになったであろうに。天皇陛下ご自身は、訪中についてどう考えておられるのか。（これに対し、谷野局長より、天皇陛下の御意向は承知する立場にない。

なお人権や武器の問題については、中国のみならずミャンマーや東チモールなどでも相手国政府とかなり激しいやり取りをしている。中国は、こともあろうに日本が中国の人権を指摘、と言って机を叩いて烈火のごとく怒る。東チモールについてもいろいろなことをした。但し我々はそういったやり取りを全て表にだすことはしていない旨応答。)

3. 清原編集局長

(1) 中国の陛下に対する執拗な招請は、政治的な意図があるからだ。89 年の天安門事件で、中国は国際的に孤立したが、日本の天皇が訪中されれば中国にと

って大きな救いの手となる。中国は陛下の御訪問を契機に日本から更に多くの経済協力を引き出そうとしている。また、中国の国内では保守派と改革派が対立しているが、改革派は天皇御訪中を自派の勢力固めに利用するだろう。これらの政治的狙いが中国側にある以上、陛下が御訪問されれば、政治的に中国側を助ける訪問となってしまふ。

(2) ソ連が崩壊し、今のような良い方向に変化を迎えたのもレーガン政権の北風アプローチによるものだ。どうして日本はソ連に対しては北風、中国に対しては南風のアプローチなのか。

(3) 中国の異常な態度は、産経新聞の問題に限定しても、文革報道に端を発して故柴田記者を追放して以来ずっと、産経新聞の北京支局を閉鎖してきていることにも表れている。中国国内に於いてすら、かつての文革は誤りであったとの評価が定着しているが、故柴田記者は先見の明を中国から感謝されてすらしるべきであろうにだ。

4. 木立編集局次長

(退席後、玄関口まで送ってきた木立次長より、以下述べるところがあった。)

(1) 自民党総務会で明確な賛成論を述べたのは、後藤田正晴と小淵恵三の2人だけだったようだ。但し最近の藤尾正行の発言以来、総務会の空気としてはあれと同じにされてはたまらないというムードになってきている。

(2) 本件は、国民の9割の賛成があつて初めて行なわれうる問題だと自分たちは考えている。

(了)

※総第 070664号001公館宛
平成 4 年 7 月 53 日 秒受付

取扱注意

電 信 案

大 至 急

電信課長	大 臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官 房 長 協議先	主管 アジア局長 審 議 官 中国課長 首席事務官	※発電係 1 2 起 案 平成 4 年 7 月 7 日 起案者 電話番号 泉 2426
	(※印欄内は電信課記入)		

機 関 官 手
2426 2426

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

在	ミョンヘン	大 使 総領事	あて	外務大臣 発
件 名	事務連絡 (VVVVVV)			
主管・文書記号	※電番	大至急 至急 普通 (優先処理)	パターン・コード	
亜 中	第361号			
転電 転送 在 転報	※転電番号	大 使・総領事あて	大至急 至急 普通 (優先処理)	
杉本首席領事へ 梅井中国課長へ 官派後現り内政 照に必要に付、 貴公滞在中、 秘書官に本電を転交願います。 官房副長官 (B-1) 別添 (3)				
※				
07066484 大至急 MYUNHEN 漢				
GB-1		外 務 省		回覧番号

(昭和六三・六・三十改正)

FAX信

P.2

取扱注意



※総第070665号001公館宛 GM9990-02

平成※平成49年7月29日 秒受付

電信案

大至急

電信課長	大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アジア局長 審議官 中国課長 首席事務官	※発電係 1/2 起案 平成4年7月17日 起案者 電話番号 2F26
	協議先 儀典官		

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

在	ミニハシ	大使 総領事	あて	外務大臣 発
件名	事務連絡 (UUUUU)			
主管・文書記号	※電番	FAX信	大至急 至急 普通 (優先処理)	パターン・コード
転電 転送 在 転報	※転電番号	大至急 至急 普通 (優先処理)		
往電更中才26 / 号別FAX信!				
↓				
※				
07066500 大至急 MYUNHEN F信				
GB-1	外務省			回覧番号

(※印欄内は電信課記入)

(昭和六三・六・三十改正)

天皇陛下御訪中問題

92.7.7

中国課

問．天皇訪中についての総理の考え方。

答1．本件については、ご承知の通り、中国側より、日中国交正常化20周年の本年秋に天皇・皇后両陛下の訪中を招請申し上げる旨の累次の招請があり、政府としては右を踏まえ現在真剣に検討しているところ。

2．日中両国の国民の祝福を得て、天皇・皇后両陛下が中国を御訪問されることは、日中両国及び国民の一層の友好関係の発展にとり、意義深いことと考える。

(更問．検討状況に進捗はないのか。)

答．私としては、国民の祝福の中で御訪中頂けるよう状況を見極めたい。

(了)

FAX信



※総第070666号001公館宛 GM9991-09

※平成19年7月2日 秒受付

電信案

取扱注意

大至急

電信課長	大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アジア局長 審議官 中国課長 首席事務官	※発電係 1 2 起案 平成19年7月7日 起案者 電話番号 泉 2426
	協議先 儀典官		

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

(八〇字)

在	ミョンヘン	大使 総領事	あて	外務大臣 発
件名	事務連絡 (UUUUU)			
主管・文書記号	※電番	FAX信	大至急 至急 普通 (優先処理)	パターン・コード
転電 転送 在 転報	※転電番号	大使・総領事あて		
在電亜中才26 / 号別FAX信2.0 (所内総理秘書官用 手持ち資料) ↓				
※				
07066613 大至急 MYUNHEN F信				

GB-1

外務省

回覧番号

(※印欄内は電信課記入)

(昭和六三・六・三十改正)

天皇陛下の御訪中（想定問答）

1. 指摘すべきポイント

（１）天皇訪中は日中関係の長期に亘る安定的発展の重要な基礎となること。

（日中関係は趨勢的に質的变化を遂げつつある。すなわち、より冷静かつ客観的に相手を認め合う関係に発展しつつある。これを端的に示したのが、我が国の国際社会における政治的役割を初めて公けに認め、支持を表明した先般の江沢民発言であり、また、PKO法案の採択時に於ける中国の極めて抑制された反応である。我が国は、この機を捉えて、更に日中関係の安定的発展のために一層努力すべし。）

（２）我が国の国際社会における将来のあり方にとって極めて重要。

（アジアの大国たる中国との安定的な関係の維持・発展なしに、我が国の国際的発言権を更に拡大し、積極的役割を担うことは困難。）

(3) 陛下御訪中は日中の悠久の歴史の中で大局的観点から位置づけるべきもので、「お言葉」といった問題に拘泥して矮小化してはならないこと。

(4) 中国は真摯な態度で招請していること。

中国側は以下の3点を確約。

- ① 陛下の御訪中を必ず成功させること。
- ② 御訪中は両国の友好親善を促進するためのもの。
- ③ 日本側を困らせることは決してしないこと。

(5) 国交正常化20周年は日中関係の大きな歴史的節目であり、御訪中の好機であること。

(6) 中国側は御訪中のための環境作りに最大限努力していること。

(例えば、PKO法案に対する反応、その他慰安婦、民間賠償といった問題についても抑制された態度を維持。)

2. 想定問答

(1) 政府の立場如何？

天皇・皇后両陛下の御訪中については中国側より累次にわたる丁重な招請があり、政府としては右を踏まえ現在真剣に検討しているところ。

日中両国の国民の祝福を得て、天皇・皇后両陛下が中国を御訪問されることは、日中両国及び国民の一層の友好関係の発展にとり、意義深いことと考える。

(2) 中国側との間で陛下の御訪中時期等につき何らかの密約があるのでしょうか？

中国側に対しては、招請のある度に、真剣に検討する旨応答しており、密約などはない（別添資料参照）。

(3) 国交正常化20周年に陛下に御訪中いただくというのは明らかに天皇陛下の政治利用であり、憲法違反ではないか？

政府として天皇陛下を政治利用する積りは全くなく、また陛下の親善を目的とされたご外遊が憲法違反に当たることはありえない。

むしろ、本件ご訪問によって、中国国民は、新たな開かれた皇室の姿を強く認識するものと信ずる。

(4) 陛下の「お言葉」をどうするのか？

現段階において「お言葉」等の具体的問題について云々するのは時期尚早と考える。何れにせよ陛下の御訪中は、日中両国間の長期にわたる安定的発展を主眼とした大局的観点から捉えられるべきもの。

(5) 陛下に過去の戦争について謝罪の旅をさせることには反対である。

謝罪の旅をしていただく積りは全くない。中国側も、国を挙げて大歓迎するとしており、謝罪の旅を求めている訳ではない。先般来日した江沢民総書記は、①陛下の御訪中を必ず成功させること、②本件御訪中は両国民の友好親善を目的とするものであること、③日本側を困らせることは決してしないこと、の3点を明確に約束している。

(6) 中国はミサイル拡散や人権で問題を有する国である。そのような国に陛下は行かれるべきではないと考えるがどうか？

中国は我が国と歴史的にも文化的にも強いつながりを有する隣国であり、又、御指摘の点についても、最近NPT加入、MTCR遵守表明に加え、人権についても少しずつではあるが対話に応じる姿勢を示してきている。我が国としては、かかる中国の努力にたいしては相応の評価をすべきものとする。

(7) 我が国固有の領土である尖閣諸島に対する領有権を主張してゆずらない国に陸下が行かれることは好ましくないと思うが、どうか？

尖閣諸島の領有権について、我が国と中国の立場は異なるが、尖閣諸島は現に我が国が実効支配を行っている。中国側も先の「領海法」制定により新たな措置を採ろうとしているものではない旨繰り返し言明しているところであり、本件をもってして陸下の御訪中問題と関連させて論ずるのは不適當と考える。

(8) 中国の共産主義もいずれソ連のように崩壊する日が来るので、その時まで陸下の御訪中は待っても遅くはないのではないかと？

日中両国は72年の共同声明で「社会制度の相違」を乗り越えて平和友好関係を発展させることを誓っている。従って、中国がいわゆる社会主義国であるということ自体をもって陸下の御訪中を云々することは適當とは考えない。

なお、中国は、現在改革・開放政策を急ピッチで進めており、経済的にはすでに混合経済体制となっている。また政治改革も推進するとの方針を明らかにしており、このような中国を伝統的イデオロギーの枠組みの中で捉えることは、もはや非現実的である。

(9) 中国はかつて口をきわめて我が国の皇室を罵った国であり、そのような国にいくべきではないと考えるがどうか？

国交正常化以前のことである。現在の中国は皇室に対し十分の敬意を払っている。

(10) 大喪の礼の際に各国は元首級を送ってきたにも拘らず、中国は銭其琛外相が来ただけであった。また、即位の礼の際も、中国は呉学謙副総理が来ただけであった。そのような礼を欠いた国には陛下は御訪中される必要はないと考えるがどうか？

政府として、銭外相が楊尚昆国家主席の名代として大喪の礼に出席されたこと、又、呉学謙副総理が即位の礼に出席されたことをもって、中国が我が国に対し、礼を失していたとは考えていない。

(11) 先般の宮沢総理発言は従来のラインより一步踏み出したものか？

総理は、両国国民の祝福を受けて陛下が御訪中されることは意義深いとの考え方を繰返し明らかにしておられたところ、今次ご発言もこの趣旨に沿ったものと理解。

(12) 韓国ご訪問が先ではないか？

陛下に韓国を御訪問していただくことは意義深いことと考えるが、本年は大統領選挙の年でもあり、困難。

(13) 欧米各国から批判が出るのではないか？

これまでそのような批判を受けたことはなく、政府として特に懸念していない。

天皇陛下御訪中をめぐる最近の日中間のやりとり

宮澤内閣成立以来の標記やりとりをとりまとめれば以下の通り。

1. (91. 11. 13) ソウルで開催された第3回APEC閣僚会議に際しての日中外相会談の席上、銭其琛外相より「天皇陛下の御訪中につき新内閣でも検討を願いたい」旨言及。

これに対し、渡辺大臣より、「天皇陛下の御訪中については検討中である」旨応答。

2. (91. 12. 3) 訪日中の田紀雲副総理より、宮澤総理に対し、「天皇・皇后両陛下が明年の日中国交正常化20周年に訪中されることを期待する」旨、また、「右が実現されれば、必ずや中国政府・人民の熱烈な歓迎を受けることとなろう。この点宮澤総理におかれても訪中の実現を促進願いたい」旨発言があった。

これに対し、宮澤総理より「かかるねんごろな招待を心より感謝する」旨述べ、「本件については、色々な事情を踏まえ、よく検討したい」旨発言した。

3. (92. 1. 5) 訪中した渡辺大臣に対し、銭其琛外相より、「国交

正常化20周年の本年秋に両陛下の中国御訪問を歓迎する」旨丁重な招請があった。

これに対し、渡辺大臣より、中国側の累次に亘る招請を多としつつこれを踏まえ「更に政府部内で真剣に検討していく所存である」旨回答した。

4. (92.4.6) 訪日中の江沢民中国共産党総書記より、宮澤総理に対し、天皇陛下の御訪中に関し、改めて本年の訪中招請があり、「中国政府・国民として心から歓迎する」旨述べた。

これに対し、宮澤総理より、「引続き真剣に検討する」旨応答。

()

宮沢総理のシン・セン・サミット出席(内政懇)

7/9

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

追配

電信写

02-004

大政外義
大務移四
臣秘書官密長

北経農査総官 外
大大予察括房 研
使使大密密密 長

総口対文会厚情研
察人團在儀整史オ

外報官 参参参内外

文長 審一二

参政保対旅外

審地中東
参北東西

北米長 審一二保地

中南長 参一二

歐 審四西洋
西東

近ア長 参一二アア
一二

次総経途
参経漁国

経エ国
安ネ二

参海 審準

経協長 審政国開無
密調技有理

条長 審条協規

国 審政経人
長 審軍社

科審 科原

情調長 参情析調
企安

総番号 R140542

主管

月 9日

ミュンヘン 発

報 報

平成 4年 7月 9日

本 省 着

外務大臣殿

伊藤 総領事

ミヤザワ総理のミュンヘン・サミット出席（内政こん）

第459号 大至急

ミヤザワ総理は、8日午後8時20分より約40分間、同行記者団とこん談したところ、その概要以下のとおり。

（問）ミュンヘン・サミットの評価如何。

（総理）北方領土問題は、サミットにエリツイン大統領も来ると昨年から想定して根回しをしたが、政治宣言にはつきり書かれたことで目的を達した。領土問題を日本が一方的に主張している訳では無いことが明確になった。日本から相当の援助を求めようというのがロシアの立場とすれば、この問題を処理しないといか
んと言う判断は、（他の6ヶ国）共通に分かつてもらえたのでは。むしろ、交渉は日本が他に支援してもら
うとか、依頼するものではないが。交渉する立場として、日本だけ一人で言っている訳ではないということ
が分かったと思う。

こういう世界経済だから、どこも大変で日本は雇用問題がないだけやりやすい。雇用（失業率）や金利が2
けたに近い国はやりにくいだろう。日本も財政に余ゆうはないが、先進国経済全体のために目配りをやるこ
とが期待されている。それと、サミット（の議論が）がどうしても西欧にかたよる。日本としてはなるべく
アジアの話を持つて出ようということで、今度も（話を）やつた。全欧安保協力会議（CSCE）に日本も
いらしやいということで、マツナガ代表に行つてもらつた。概して日本も相応の待遇を受けつつあるとい
うことか。

（問）参院選で何を訴えたいか。

（総理）選挙を留守にしたからそれだけの理由、世界の状況、日本はこうですとどうしても言っておきたい。
国際協力にも触れる。北方領土、日ロの条約交渉にも触れる。あとは景気と政治改革だ。（選挙は）善戦す

電信写

と思う。調子は悪くない。内外の問題に応えようとしていることが国民に評価されるのでは。連合もああいう分かれ方になった。法案の通り方とか国会のあり方とかを、国民がどう判断するかわからないが。

(問) 秋の臨時国会の課題如何

(総理) やつぱり今の状況から考えると内容はともかく補正予算、それから政治改革、かん境は関連の措置が時間的に間に合えばいいがどうでしょうね。

(補正の規模については日米会談で) 私は言っていないし、向こうも聞きもしないが、分かっている。87年の(6兆円補正の)ことを聞いている。それにベーカーさんが(財務長官として) やつていたことを大統領に伝えていた。よろしく頼むということになった。

(問) 選挙後の内閣改造如何

(総理) ありますか。今のところは選挙をみなさんでやりましようや。(ワタナベ外相は) いつでも退院出来るんじゃない。(参院選の後、改造は) ふ通ないですな。いまは念頭にない。(タニガワかん境庁長官が引退することについては) 切り離された話とするかどうか。帰ってから選挙が済むころにだれかに考えてもらう。

(問) カネマルさんが各派ばつに待機組が多数いるので、改造してもらわないと困ると言ったが如何。

(総理) そんなことおつしやつたと読んだが、どうなんだろうな。だつて、(組閣後) 何ヶ月。8ヶ月か。まあ、念頭にないんだ。

(問) 政治改革如何

(総理) 11月にばつ本的なことがある。これは政治改革推進本部に御願ひする。3月答申で、11月に本当の事をやる、それまでの暫定ということで答申いただいた。本部長に兼ねてそのことをお願いしている。

(問) G7+1で総理はロシア支援に日本としては調整していきたい旨述べたようだが如何。

(総理) 今日のG7プラス1でばくが本当に知りたかつたのは、タイミングがどうなるか。ロシアがどう考えているのか。第1トランシュが出ると、今度はカムドシュとスタンド・バイの話をする。これがいつごろを目途にしているのか。まあ、10月ごろとか。これは、どうせ希望的な観測ではないか。そのころになつて、680(億ドル)とか、740(同)とか、その話をどうするのと聞いた。順序から言うと、パリクラブに行つて2年以内にデューの来るのを10年とか何年かくり延べてくれと、そう言うことでしょと言うと、

電信写

そうなんですと言う。それでだいたい分かった。少なくともロシアはスタンドバイまでいつたら、パリクラブが成り立つ。比較的最近にデューの来るものをリスケする。今度またデューの来るものをリスケする。IMFも多分そういうことだろう。大事なことはスタンド・バイに行く。その交渉が本当にうまくいくか。エリツインはおもしろい事を言っていた。場合によつては、デット・フオア・リソース、例えば探くつ権とのスワップをやつたつていい、と。だからそういうことで長期債務の処理に入つていこうとしているのではないか。

(問) 秋のてん皇へい下訪中等、総理はアジアの代表として次の外交のポイントにアジアを考えているのではないか。

(総理) (アジアについては石川じゆく長にこん談会をお願いしている。年内に結論を出したいと思つている。てん皇訪中はそれとは全然別に考えている。てん皇訪中は当分、私は世論の流れをみてまいしようと、こう思っている。時間がまだある。(今秋は日中国交回復20しゅう年だが) それは良く分かっている。私が話をするとな自然議論になるのでひかえている。ハシモト大使が党内のオピニオンリーダーと話してくれた。その先何かを考えてやつてもらつた訳ではない。

(問) 総理は8月6日の広島原爆記念日に出席するのか。

(総理) 今年の原爆記念日は、8月9日のナガサキに総理がいく番だ。ナガサキには行かねばと思うが、参院戦後の日程が分かつていないので、まだつめていない。

(問) ロンドン、ミュンヘンとG7+1を2回行つたが、3回目のことにつき何を考えているか。

(総理) (来年の東京サミットについては) 何も考えていません。議長といつても、1月になつてからでしょうから。しかし、エリツインさんは今日も大変落ち着いて、説明もうまいしなあ。

(問) 総理はニューヨーク(安保理サミット)で領土問題をしお時と言つたが、正にしお時の感を強くしたか。

(総理) その通りである。

(問) エリツイン大統領は9月の訪日で領土問題の方向を示したいとの趣旨のことを言つたようだが如何。

(総理) そういう趣旨のことも言いましたよ。

(問) 前進が期待できるか

電信写

(総理) さあ、そこはまだ判らない。そうやさしいことではない。

(問) 政経不可分の原則を今後も維持するのか。

(総理) これだけ二十五億ドルコミットしている。240億ドルもそうだし。領土問題はちゃんと平和条約を作ろうといっている。こちらをやらなければあちらもやらにといったことを述べたことはない。人道支援とか、技術支援とかはしなけりやならない。一方的な事は言つた覚えはない。ただ日本(の支援が)が大口になつていくとすれば国民の合意、支持がないとできない。(了)

官房長官・記者会見記録

7/13

加藤内閣官房長官・記者会見記録

報 道 室

1 日 時 平成 4 年 2 月 13 日 (月) 11:08 ~ 11:12

2 場 所 官 邸・記者会見室

3 概要

おほようございします。特に、このSからはござい
ません。

Q 天皇訪中で「すね、総理が決断されたとい
う報道があるんですけど、どういう状況なん
ですか。

A 総理が決断したとか、決めたとか、いろいろ
その決定にむけてのプロセスが今進んでいると
いうことはありません。選挙期間中であります
ので、党の幹部の方との相談という時間もあり
ませんし、ごく最近まで、総理自身が海外旅行
中でございましたんで、決定したというよりは、方針
をどちらかの方向に決めたということばございま
せん。

Q これ、長官 いっ頃までにお決めにしたりとか
復ぐもりは、おありになるんですか。

A. えー、そういう具体的な日程も、今、なお、特に定めてはありません。ただ、選挙期間中は今申しましたように、政府と党の幹部の方々との、じっくりとした話し合いというのが、時間が取れないだろうと思っております。

Q 橋本大使が日本にいらしてだと思っておりますけれども、その時の回、に情況の感觸の報告は受けいらしたんですか。

A ええ、橋本さんからの報告は聴いております。

Q 具体的には どうなんでしょうか。

A 具体的には、それぞれの方のそれぞれの意見がありまして、それぞれ、お互いに、一対一でお話になったことのようにございますので、差し控えたいと思います。
橋本大使の方から、最近の日中関係の現状、特に、中国の日本に対する姿勢というようなものについてを中心に説明したようであります。

Q これ、陛下の行かれる場合には、いっ頃というような意味での日程調整には今入ってはいりませんか。

A いえ、あのう、それは行くことの決定がなされてから
行うべきことであって、今、やっておりません。

Q その、行くことの決定をなされる場合には 政府
と自民党の御相談という場はあるわけですか。

A いろんなレベルであらうと思います。いろんな
チャネルであらうと思います。いろんなレベルで
いろんな場で行われるであらうと思います。

Q 決まてないと、従来おっしゃって居るわけですが、行か
ない性格というのは、どういうふうに――。

A 政府としては、総理大臣も申しておりますように、その
実現の方向で考えられたいかと、いう気持であり
ますけれども、これにつきましては、いろいろな御意
見、また、情説もありますので、各方面の御意見、聴
きながら、慎重に決定していきたいと、こう思っ
て、段階でございまして、決定はいたしております。

Q 長官、今意見の調整とおっしゃいましたが、意見
は別として、条件というのは、どういう――。

「日中関係を取り巻く種々の状況の整理」

A 日中関係を取り巻く種々の状況の整理でな
かろうかと思ひます。

Q 例へば、国民の支持を得らるるかとか、
やういふことですか。

A 国内、外 いろいろな要素があつたと思ひます。

(以上)

御 参 考

七月

共A3T150政治02S
◎天皇訪中、首相決断はまだ

宮沢首相は十三日午前、天皇陛下の中国訪問問題について、首相官邸で記者団の質問に答え「まだそんなことは考えていません」と述べた。

これに関連して加藤官房長官は同日の記者会見で、「政府としては（今秋）実現したい方向で考えられないかという気持ちで、各方面の意見を聞いているところだ」としながらも、「選挙期間中は自民党幹部とじ〇くり話し合う時間はとれない。首相が（天皇訪中を）決断したとか、決ま〇たとか、（実現に向けた）プロセスが進んでいるということは今はない」と述べた。

（了）④（17）92713 1220

13AB04

J3A178 AB04

政

73

32行

◎天皇訪中、決断は参院選後へ―官房長官

〓政府・党での意見調整必要〓

加藤官房長官は十三日午前の記者会見で、今秋に想定されている天皇陛下のご訪中問題について、「現段階で首相が決断したとか、決定に向けてのプロセスが進んでいることとはない」としたうえで、「選挙期間中は党幹部の方々とどとじくり話し合いをする時間は取れない」と述べ、政府としての最終決断は早くとも参院選挙終了後になるとの判断を示した。

また、同長官は天皇ご訪中に関しては「日中両国を取り巻く種々の状況とか、内外のいろいろな要素があると思う」と述べ、内外の情勢を見極めたうえでの総合的判断が必要との立場を改めて強調。併せて、今後の政府・自民党内の調整についても「いろんなチャンス、レベルで行われる」と語り、首脳レベルや関係者の意見調整が必要との考えを示した。

さらに、政府としてのご訪中の事前準備については「行かれることが決定してからでないとできない」として、具体的な準備作業には着手していないことも強調した。

（了）

昭和44年7月13日
(13:00位)

昭和44年

昭和44年7月13日
昭和44年7月13日
昭和44年7月13日

昭和44年7月13日
昭和44年7月13日
昭和44年7月13日

◎首相動静(3)

午前11時7分、官邸着。同8分、執務室へ。「参院選の序盤が終わったところで、手ごたえはいかがか」に「序盤はまだ終わっていません」。「序盤の感触はいかがか」に「まあ、みんな調子よく始めましたね」。「天皇陛下の訪中は十月前半ということになるか」に「まだ、そんなことは考えていません」。「十月という報道があったが、いかがか」に「今はまだ、そんなことは考えていません」。「訪問先については北京や上海などをお考えか」に「今はまだ、そんなことは考えていません」。「同9分、石原官房副長官が入った。同10分、近藤官房副長官が入った。同16分、加藤官房長官が入った。」

(了)

13SB15

J3B315 SB15

17行

◎首相動静(5)

午後零時11分、執務室を出て、同12分、小食堂へ移り、昼食。「先ほど、天皇の訪中の時期について今はまだ考えていないとおっしゃったが」に「全然、考えていません」。「では、訪中の時期についていつお考えになるのか」に「全然、何も考えていません」。「サミットで旧ユーゴスラビアに関する宣言の中で、軍事的手段を除外しない新たな措置を検討することに日本も同意されたが」に「それは違う。国連のガリ事務総長の提案をみんなで検討しましょう」ということです」。

(了)

時 子

御参考

へ
共
同
✓

共X4T283外信30S

◎天皇訪中で世論調査実施を

上海市党機関紙

【上海13日共同】十三日の中国共産党上海市党委機関紙、解放日報はコラム欄で、天皇訪中問題について、党・政府は世論調査を行い、中国人民の意見を聞くべきだと呼び掛けた。

コラムは「中国人民は日本軍国主義の最も大きな被害を受けた。このため中日両国間の重要問題に關して発言権がある」と主張している。

(了) ④ (11) 92 7 13 15 23

7/4

總理質疑用想定問答

(対総理)

七月十四日(火) 総理質疑用想定問答

(日本記者クラブ講演後、於プレスセンター)

問、天皇陛下訪中問題についての総理の考え方如何。
いつ頃決断するのか。

外務省作成 ↓ 宮内庁

(答弁作成責任者)

外務省アジア局中国課長

樽井澄夫

連絡先

役所

三五八一―二九一五

自宅



問、天皇訪中についての総理の考え方。

(答)

一、本件については、ご承知の通り、中国側より、中国交正常化二十周年の本年秋に天皇・皇后両陛下の訪中を招請申し上げる旨の累次の招請があり、政府としては右を踏まえ現在真剣に検討しているところ。

二、日中両国の国民の祝福を得て、天皇・皇后両陛下が中国を御訪問されることは、日中両国及び国民の一層の友好関係の発展にとり、意義深いことと考える。

三、私としては、国民の祝福の中で御訪中頂くことが望ましいと考えており、更に状況を見極めたい。

(了)

総理 日本記者クラブ講演後の質疑 (7月14日(火))
(於 プレスセンター)

提出期限 7/13(月) 17時
部数 13部

問1 天皇陛下訪中問題についての総理の考え方如何。いつ頃決断
するの否。

問2 (1) 北方領土問題の解決と対口支援の関係についての考え方如何。

(2) 今後のロシアとの交渉の段取りについての見解如何。

問3 (1) カンボジアに対する国際平和協力に関して、フメール・ルージュの
動きをどう見ているの否。

(2) 国際平和協力部隊は、いつ頃派遣する予定なの否。

問4 (1) 今後の景気対策についての総理の考え方如何。

(2) 補正予算は、いつ頃編成し、また、どの程度の規模を考えている
の否。

問5 貿易黒字の急増した後の今後の対策如何。

問6 各院議の勝敗ラインを何議席と考えているの否。

～以上～

(対総理)

七月十六日(木) 総理記者会見用想定問答

(於北海道)

問三、天皇訪中についての総理の現在の考え方如何。
また、最終決定時期はいつになるのか。

外務省作成 ↓ 宮内庁

(答弁作成責任者)

外務省アジア局中国課長

樽井澄夫

連絡先

役所

三五八一―二九一五

自宅



問三、天皇訪中についての総理の考え方。

○〔答〕

一、本件については、ご承知の通り、中国側より、日中国交正常化二十周年の本年秋に天皇・皇后両陛下の訪中を招請申し上げる旨の累次の招請があり、政府としては右を踏まえ現在真剣に検討しているところ。

二、日中両国の国民の祝福を得て、天皇・皇后両陛下が中国を御訪問されることは、日中両国及び国民の一層の友好関係の発展にとり、意義深いことと考える。

三、私としては、国民の祝福の中で御訪中頂くことが望ましいと考えており、更に状況を見極めたい。

（了）

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-040

大 政事外外儀官
大務務 典房
次次
臣秘官官審審長長

経査総官 外
人ア察括房 研
使使大審審審 長

対文会厚清研

察人團在儀警史オ

外 報 官
参報際内外

文 長
審一二

参政保対旅外

長
審西四
一

米 長
審二保四

中南 長
参一二

審西四洋
西東
一

参一二アア
一二

次総経途
参経漁国
経エ国
安ネ二

参海 審準

審政国開無
審調技有理

審条協規

審政経人
審團社

科 科原
審

参経調
一

総 番 号 R136837

主 管

月 3日

中 国 発

亜 中

平成 4年 7月 3日

本 省 着

外 務 大 臣 殿

松 本 臨時代理大使

自衛隊記念日レセプション（本官と韓副総参謀長とのこん談）（防衛情報）

第2527号 秘 至急（ゆう先処理）

2日ゆう、第42回自衛隊記念日レセプションを挙行政したところ、人民解放軍副総参謀長韓カイチ中将、張予三海軍副参謀長、チン・キテイ空軍副参謀長、ヨウ・フクカイ総参謀部軍事訓練副部長、リョウ・タイブ総後勤部油料部長、張ティエン外交部アジア司副司長をはじめ、当地の各国大使、武官、人民解放軍軍人等、多数が出席した。

同レセプションにおいて、韓カイチ副総参謀長が本官に語つた中で、きよう味ありと思われる点次の通り（植木同席）。（（ ）内は当方の質問）

1. 日中関係

（1）今年は国交正常化20しゅう年であり、コウ・タクミン総書記、万里全人代委員長がすでに訪日した。両国間の要人相互訪問は盛んになつてきており、中国としてはてん皇へい下の訪中を期待している。

（2）また、防衛関係者の交流も盛んにしたいと考えている。自分（韓）は1984年に軍事訓練代表団を率いて訪日したことがあるが、こうした防衛関係者の交流を絶え間なく続けていきたいと希望している。

2. 中国とアジアしゅうへん諸国との関係

（1）しゅうへん諸国とは善りん友好関係を発展させていきたい。

（2）例えば、パキスタン、ミャンマー、インド（最近国防大臣が訪中した）、タイ、ベトナム、マレーシア、インドネシア、フィリピン、北朝鮮（最近ヨウ・ショウコン国家主席、ヨウ・ハクヒョウ軍事委秘書長がそれぞれ訪朝した）、モンゴル（最近国防部長が訪モした）、ロシア、カザフ、キリギス、ウズベク、タジクなどとの間に更に善りん友好関係を発展させたい。

（3）（御説明に拠れば、中国とアジアしゅうへん諸国とは良好な関係にあるようであるが、とすれば中国

秘

電信写

にとってアジアには心配な要因はないと考えてよいのか)

そうである。

3. 中国軍事

(1) (ホンコンの新聞に軍区の改編が行われるとの報道があるが、これは軍の近代化計画の中に含まれているのか)

軍区の改編の計画はない。ホンコン、タイ、日本の新聞は推測記事が多い。

(2) (中国は空爆をようする計画はあるか)

状況を見る必要がある。この問題は現在議論中である。中国が軍の近代化を実現する場合には、独立自主、自力更生に依るべきと考えている。金で近代化を買うのは難しい。

(当館注)

今回レセプションにおける中国側出席者は、副総参謀長で昨年と同レベルにある。

なお、中国側からの日中防衛関係者の交流を希望する旨の発言は、従来からくり返されているものであり、本件に関する強い関心を示すものとして注目される。

中国4公館、米、ロシアに転電した。(了)

橋本大使↓徐敦信外交部副部長

7/9

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する取扱は特選班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱等に関する取扱は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

限定配布

極秘

電信写

[] [] []

大	政務次官	外務省	典房
臣	秘書官	官審	審長
北	経環査	官	外研
大	ア察括	房	長
使	使大審	審	
総	口対文会	厚情研	
察	人電在儀	警史オ	
外	報官	参報際内外	
文	長	審一二	
長		参政保対旅外	
長	審地中東	参北東西	
北	米長	審一二保地	
中	南長	参一二	
欧		審西口洋	
長		西東	
長		参一二アア	
長		次総経途	
長		参経漁国	
長		経エ国	
長		安ネ二	
	参海	審準	
経	協長	審政国開無	
		審調技有理	
条	長	審条協規	
国		審政経人	
長		審軍社	
科	審	科原	
情	調長	参情析調	
		企安	

総番号 R140731

月 9日

平成 4年 7月 9日

中 国 発

本 省 着

主 管

アジア局長

外務大臣殿

橋本大使

てん皇御訪中問題（ジョ・トンシン外交部副部長との会談）

第2611号 極秘 至急（ゆう先処理）

（限定配布）

1. てん皇御訪中問題に関し、本使は8日、ジョ・トンシン外交部副部長に対し、わが政府及び与党の考え方と財界や世論の動向をできるだけ客観的に説明し、中国側において、今後とも日本政府・与党はじめ国民世論をし激しないよう、引続き抑制されたしづかな態度をけん持し、注意深く望ましい方向に向かつて事を進めるよう強く要望した。さらに、本使より、てん皇の存在はふるい世代の日本人にとつて、言うなれば、しゆう教的なものであり、従つて、政府首のうとしては決定にあたつてしん重にならざるをえない次第を説明し、政府決定は参議院選挙の後となるとの観測も付け加えた。

2. 右に対し、ジョ・トンシン副部長は次の通り述べた。
大使の詳しい説明に感謝する。てん皇へい下の訪中については、中国側の考えはこれまでも何回も述べている通りで全く変わりはない。われわれは引続き日本側の公式結論をしづかにお待ち申し上げる。大使が今回帰国されて各種の工作をされたことに感謝する。うかがつた話は関係の上司に報告する。（了）

橋本大使↓シュリョウ党対外連絡部長 7/9

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

極秘

電信写

限定配布

総番号 R140776

主管

月 9日

中国 発

平成 4年 7月 9日

本省 着

アジア局長

外務大臣殿

橋本大使

てん皇御訪中問題（シュ・リョウ党対外連絡部長との会談）

第2613号 極秘 至急（ゆう先処理）

（限定配布）

9日午前約1時間、本使はシュ・リョウ中連部長（党中央における外交問題の総括責任者）を往訪し、昨8日午後、ジョ・トンシン外交部副部長を往訪し説明したと同じ内容を同部長にも伝え、中国側において今後とも引続き、自民党及び国民世論をし激しないよう、注意深く抑制された態度をけん持するよう要請した。

同部長のこれに対する応答振り次の通り。

1. てん皇御訪中問題についてのミヤザワ総理はじめ政府・自民党首のうの考え方や世論の動向につき詳しく御説明いただき、心より感謝申し上げます。
2. てん皇御訪中の実現は、日中両国関係を更に一層発展させることになり、日中両国民の根本的利益にも適っている。中国政府及び党は、訪中実現に向け日本側と共に努力しており、かかる基本的立場に変化はない。
3. 本日の御説明により、日本国内の種々の政治状況から日本政府が当面公式に本件訪中を決定出来ない事情は理解した。改めて貴使が日中両国関係の増進のため、てん皇訪中実現に向け多大な御努力をしていただいたことに対し、心より感謝申し上げます。
4. 本日の御説明をいただいた内容については早速、党首のうに然るべく報告することとしたい。
5. なお、シュ部長より本使に、参議院選挙では自民党が勝利を収めると予測するが如何と質問が出されたところ、本使より適ぎ応答しおいた。（了）

大政事外儀
大務務典房
次次
臣秘官官審審長長
北経環査総官
大大ア察括房
使使大審審審
外研長

総口対文会厚情研

察人電在儀警史オ

外報官 参報際内外

文長 審一二

移長 参政保対旅外

長 審地中東
参北東西

北米長 審一二保地

中南長 参一二

欧 審西口洋
西東

近長 参一二アア
一二

経長 次総経途
参経漁国
経エ国
安ネ二

参海 審準

経協長 審政国開無
審調技有理

条長 審条協規

国長 審政経人
審軍社

科審 科原

情調長 参情折調
企安

橋本大使 ↓ ラカン 國務院 秘書長

7/10

- 注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

極秘

電信写

限定配布

総番号 R141480

主管

月 10日

中国 発

平成 4年 7月 10日

本省 着

アジア局長

外務大臣殿

橋本大使

てん皇御訪中問題（ラ・カン国務院秘書長との会談）

第2619号 極秘 至急（ゆう先処理）

（限定配布）

1. てん皇御訪中問題に関し、10日、本使はラ・カン国務院秘書長（わが国の内閣官房長官に相当）に対し、政府・自民党首のうの考え方及び国民世論の動向を説明した。また、てん皇御訪中実現に向けて中国側のこれまでの協力に謝意を表明するとともに、今後とも引続き、自民党や国民世論をし激するような言動をつつしみ、抑制されたしずかな態度をけん持するよう強く要望した。

2. 右に対し、ラ・カンは次の通り述べた。

貴使の御説明により、てん皇御訪中問題についての進ちよく状況がよくわかった。この問題についての中国側の考え方は、すでに何回も申し上げた通りで、全く変更はない。日本政府の決定は参議院選挙の後となる旨うかがったが、中国側は日本政府決定を、じつと御待ち申し上げる。われわれは日中関係の発展を期待しており、この問題についても、日本側と協力していきたい。また、本日の貴使御申し越しの次第は直ちにリ・ホウ総理に報告する。（了）

大政務次官
典房
臣秘書官審審長

北経環査総官
大大ア察括房
使使大審審審 外研長

総口対文会厚情研

察人電在儀警史オ

外報官
参報際内外

文長
審一二

長
参政保対旅外

長
地中東
参北東西

北米長
審一二保地

中南長
参一二

欧
審西口洋

長
西東

了長
参一二アア

長
次総経途

参経漁国

経エ国
安ネ二

参海 審準

経協長
審政国開無
審調技有理

条長
審条協規

国
審政経人

長
審軍社

科審
科原

情調長
参情析調
企安

上海市外事弁公室からの照会

7/15.

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-035

大 政事外外儀官
大務務 典房
臣秘官官審審長長

印経園査総官 外研
大大ア察括房 長
使使大審審審

口対文会厚情研

察人園在儀警史オ

報官 参報内外

文長 審一二

長 参政保対旅外

長 参西

米長 審二保地

中南長 参一二

長 審西回洋

長 西東

長 審一二アア

長 次総経途

長 参経漁国

長 経エ国

長 安ネ二

国 審政経人

長 参軍社

科 科原

調 審調調

長 安

総 番 号 R144390

主 管

月 15日

上 海 発

重 中

平成 4年 7月 15日

本 省 着

外 務 大 臣 殿

岡 崎 総領事代理

てん皇の訪中（市外事弁公室からの照会）

第274号 秘 至急（ゆう先処理）

本15日午前、上海市外事弁公室ユホウネン副主任より、てん皇へい下の訪中に関し次の通り問い合わせがあつたところ、右ご参考まで。

昨日当地着のホンコンの新聞によれば、共同通信の記事をキャリーして、日本政府はてん皇の10月訪中を決定した旨報じているところ、その事実関係につき確認したい旨の問い合わせがあつた。その際、同主任はへい下が当地をご訪問と言うことになれば、市政府としては、へい下のしゆくしやとして、かつてエリザベス女王がしゆくはくされた「西こう賓館」を考えているところ、しゆくはくいただく同賓館主ろうの改装工事を早急に行う必要があるので、同訪中が決定次第速やかに通報願いたいと述べるところがあつた。

中国に転電した。（了）

報道ぶり(6/27
29)

〔配布先〕 総理秘書官、官房長官秘書官

アジア局長、竹中審議官

天皇陛下御訪中関係報道

（6月27日～6月29日）

アジア局中国課

今年の日中国交正常化二十周年に当たる。さまざまな記念行事が行われる中で、中国側が最も期待し、最も熱心に要請しているのが天皇、皇后両陛下の中国公式訪問

天皇皇后両陛下の 中国公式訪問

である。宮沢首相は両陛下の訪中に前向きに取り組む姿勢を示しているが、自民党内、あるいは言論界にはなお反対意見も強い。

今年なかばに宮沢首相が、かねて中国から強い要請が行われていた、この秋の天皇で訪中について「ぜひ実現させたい」と発言した。

なぜ、中国は天皇訪中を強く求めているのか。中国は三年前の天安門事件以来、人権問題をめぐって、西側諸国から制裁措置をこうむり、また「村八分」にされている。天安門事件後、中国による人権蹂躪（じゅうりゆう）に抗議（ひしぎ）する動きが、西側の元首は一人も中国を訪問していない。中国は天皇の訪中に、対外的なイメージを正常化し、国際的な包圍網を突破しようとしている。

天安門事件後、その後

の中国国内における人権の抑圧に対する西側の民主国家諸国は中国に対する憤り（いきり）を、きわめて強いものがある。今年一月から二月初めにかけて、李鵬首相と錢其琛外相がヨーロッパ四方國（よっぺうこく）を巡訪したうえで、ニューヨークにおける国連安保理事會（こくごん）に出席したことがあったが、各国における心接は冷ややかというよりも、中国にとって屈辱的なものであった。

最初の訪問国だったイタリアでは、コシガ大統領が李首相と会談したものの、連立与党である社会民主党が、李政権への

不快の表明として「大統領と李首相の会談を取りやめるべきである」と申し入れた。スイスではフェルバ

ー大統領が政治犯の釈放を求めて、リストを手交したほかに、コラー法相が人権問題を理由として

宴会会への出席を断るなど「外交上異例の『事件』が発生した」（毎日新聞、一月三十日夕刊）。

ポルトガル、スペイン両政府も、中国が人権の抑圧を中止することを強く求めた。四方國の關係のなかには、李首相と錢外相と握手するのを拒んだ者も少なく

なかった。李首相一行は各地で人権蹂躪に抗議する市民のデモ隊によって迎えられたが、スイスでフェルバール大統領を官邸にたずねた時には、デモ隊のために「李首相は正面玄関から入れず、裏口から入る羽目になった」（毎日新聞、前出）。

フッシュ大統領は、李首相と国連本部において会談したが、アメリカの国内世論の強い反対を押し切って行ったものだった。直前に上下院議員三千人が、人権抑圧に抗議して会談を中止することを求める書簡を、大統領へ送った。このために、フッシュ大統領は国内世論に配慮して、会談中終始はほえむことをしなかった。

たほぐである。安理サミットに出席したミッテラン大統領は李首相と握手するのを拒んだし、エリクソン・ロシア大統領は「中国における人権問題は単なる内政問題でありえない」と述べた。

アメリカ議会は天安門事件以後、中国が人権抑圧をやめ、第三世界に対するミサイルなどの大規模な兵器の輸出を停止しない限り、中国に対する貿易最恵國待遇（MFN）を打ち切ることが求めてきたが、今年に入ってから同じ趣旨の法案を下院で賛成三五七票対反対六一票、上院でも賛成六〇票対反対三八票で可決した。

いま訪中は反発招く

した。

フッシュ大統領は個人的に中国びいきであることから、今月、対中MFN延長を決定したが、この決定をめぐる議会と火花を散らしている。國務省は一月に「世界人権尊重調査報告書」を発表したが、中国を激しく批判している。

アメリカとヨーロッパにおいて、世論が中国の人権蹂躪に対して憤っているときに、天皇が訪中されて火中の栗（へし）を拾うことにはあるまい。もし、天皇が訪中されることがあれば、西側諸国において強い反発を招くことになる。

いま、日本の国際化が求められているが、日本國憲法の精神は全世界にあまねく、外国人にも適用せねばならない。そして天皇が民主日本の象徴であることを忘れてはなるまい。

「人権抑圧」に世界が嫌悪感示す

92.6.28 毎日 4面 No. 1/4

6/8 (4)

加瀬 英明氏

(かせ ひであき) 1936年東京生まれ、慶応大学卒業、
米エール大学、コロンビア大学に学ぶ。「ブリタニカ国際
大百科事典」初代編集長を経て評論家。シカゴ大学、ペン
シルベニア大学、中国人民解放軍などから安全保障問題の
講師として招かれるなど、海外での講演活動も多い。「私
の日本外交危機白書」など著書多数。



撮影 横井 直樹

論戦に一言

日本が犯した過去の過ちを考え
ると、天皇陛下の中国および韓国
(情勢の進展しだいでは朝鮮民主
主義人民共和国＝北朝鮮も)への
ご訪問は特別の政治的意味を持た
ざるをえないであろう。陛下が過
去の歴史的いきさつに対してどの
ような「お言葉」を述べられるかに
注目が集まるからである。賛否両
論が巻き起こるのは当然である。
さしあたり、日中国交正常化二
十周年に当たって具体的な日程に
のぼってきたご訪中について、中
国は陛下に不愉快な思いをさせる
ようなことはしないと保証してい
る。これは信用してよいかと思わ
れる。国民の間に不満の声が起こ
ることも、中国政府は国民を説得
し、抑え込めるだけの力を持って

いるからである。しかも日中国交
二十周年の祝賀ムードの中でのご
訪中となれば、無理な注文を持ち
出すことはありえないだろう。
中国の人権状況に対する欧米諸
国の嫌悪感の強さを考えると、陛
下訪中には反発の声が国際社会に
起きる可能性は否定できない。指
導部内の政治闘争に利用される
の危惧(きぐ)の念にも配慮が必
要かもしれない。だが陛下訪中を
考えるに当たって念頭に置かねば
ならないのは、将来必ず具体化す
るはずの韓国(北朝鮮)ご訪問であ
る。これが実現するときは、あらゆ
る面で訪中が前例になるだろう。
昭和天皇は、個人的には訪中を
望んでおられたという。陛下は昭
和天皇のご遺志を実現したいと思
っておられるのではないか。

(論説委員・山本展男)

日中国交正常化二十年を慶祝する多彩な行事が全国各地で熱心に準備され、一部はすでに実施されている。人々は日中交流に自由に参加する時代になったことを心から喜び、日中友好の象徴として西陲への訪中の成功を祈念していると思う。この国民大多数の願いを、政府は素直に受け止めて訪中を決定してほしく考える。

中国の招請は外交儀礼にかなった心のこもったものと聞いている。このような外国の好意に対する善意をもって対応するのが国際社会の常識である。人と人との関係同様、国と国との間でも善意は善意を呼び、疑心は疑心を招くもの。

私は中国在勤時代、日本政府首脳一行に対する熱烈歓迎を何度か経験したが、西陲へはまさに心のこもった歓迎を受けられるものと確信している。中国の対外姿勢が最近ますます穩健になり協調性を増していることもあって、西陲への難題を持つ駐在員は決して少なくはない。

私は陸軍の皇太子時代にスリランカ、サウジアラビアで訪問に随行し、各国民が西陲への訪中を喜ぶ姿に心から感動している姿を目撃した。訪中されれば、友好親善を願われる西陲下の強いお気持ち

中国の熱烈歓迎に善意で応える

鹿取 泰衛氏

(かとり やすえ) 1921年宮城県生まれ、東京大学中退、43年外務省入省。欧亜局西欧課長、北米局外務参事官、駐インド大使館公使、経済協力局長、駐オーストリア大使などを経て、81年駐中国大使、84年駐ソ大使と二大社会主義國の大使を連続して務めた。87年国際交流基金理事長、92年4月から同基金顧問。

西陲下の人柄

に好感

温かい誠実なお人柄は、中国国民に深い感銘を与え、にはおかないであろう。

日中交流史上初めてのこのように、中国は最近日本文化に強い関心を示している。西陲下の時宜に適した訪中は中国の人々に日本の歴史と伝統を知る機会を提供し、西国民間の文化交流と心の触れ合いを一層促進するものになる。

西陲下のご訪中を契機に、西国民の相互理解と信頼が深まれば、日中関係は一段と安定したものになる。中国との安定した関係を維持

することは、わが国の安全とアジアの平和のために極めて重要であると思う。中国の「人権状況」から訪中に疑問を呈する向きもあるが、だがこの問題については将来を見通した大局的な対処が得策であろう。性急な批判よりも、近代化に向けてのさまざまな努力を支援していく姿勢が望ましいはずだ。

西陲下のご訪中は欧米諸国との関係に悪影響を及ぼすとの論もあるが、杞憂(きゆう)に過ぎないと思う。英国女王、米国大統領ほかほとんどすべての國が元首の訪中を終えている。天安門事件後もアジア諸國など多くの元首の訪中が続いてい



撮影 堀入 正夫

る。中国との関係におけるアジア諸国、特に日本についての意味合いは歴史的、地理的に見て欧米諸国とは同じではない。他方、不安定要因の多い世界情勢の中で、欧米諸国は中国の安定に資する点にも孤立化を防ぐ日本の積極的な努力に対し、評価を高めている。

中国の「保守、革新対立」を理由とする慎重論は、情勢を誇張して見ている点がある。膨大な人口を抱え、改革・開放に苦闘する中国におうつつの論争があるのは当然であらうが、それをもって「訪中の壁」が中国内政に巻き込まれると推論するのは過格的に過剰なと聞く。

日中関係の過去に対する中国の厳しい態度を挙げた訪中に緊縮を唱える向きもある。確かにこれまでの日中関係に曲折があったことは事実であり、時としてわが国の国民感情が刺激されたこともあった。しかし日本の軍事行動によって莫大な人的、物的被害を受けた中国国民の立場からすれば、むしろなにより面もあることを、われわれ日本人は理解すべきであろう。

最近訪日した江沢民総書記は「中国は以前のことを忘れて未来に目を向けていく努力をする」との決意を表明した。

中国側が天皇の訪中をどのような歴史的意義の中で考えていることは明らかである。われわれも天皇の訪中を、悠久の歴史における画期的な壮舉として、心から祝福申し上げたいのである。

92.6.28 毎日 No. 4/4

論戦に一言

日本が犯した過去の過ちを考えると、天皇陛下の中国および韓国(尙勢の進展しだいでは朝鮮民主主義人民共和国―北朝鮮も)へのご訪問は特別の政治的意味を持たざるをえないであろう。陛下が過去の歴史的いきさつに対してどのようなお言葉を述べられるかに注目が集まるからである。賛否両論が巻き起こるのは当然である。さしあたり、日中国交正常化二十周年に当たって具体的な日程にのぼってきたご訪問について、中国は陛下に不愉快な思いをさせないでいただきたいと保証している。これは僥倖してよいかと懸われる。国民の間には不満の声が起ることも、中国政府は国民を説得しようと、中国は国民を説得しようと、抑え込めるだけの力を持って

いるからである。しかも日中国交二十周年の祝賀ムードの中でのご訪問となれば、無理な注文を持ち出すことはありえないだろう。

中国の人権状況に対する欧米諸国の嫌惡感の強さを考えると、陛下訪問には反発の声が国際社会に起きる可能性は否定できない。指導部内の政治闘争に利用されることの危険(きけん)の念にも配慮が必要かもしれない。だが陛下訪問を考えると当たって念頭に置かねばならないのは、将来必ず具体化するはずの韓国(北朝鮮)ご訪問である。これが実現するときにはある面で訪問が前例になるだろう。

昭和天皇は、個人的には訪問を望んでおられたという。陛下は昭和天皇のご遺志を表現したいと願っていらっしゃるのではないか。

(論説委員・山本展男)

報道
ぶり
(6/30)

〔配布先〕 総理秘書官、官房長官秘書官

アジア局長、竹中審議官

天皇陛下御訪中関係報道

（6月30日～ 月 日）

アジア局中国課

4/30
①(14)

天皇訪中巡り意見交換

自民幹部と
駐中国大使

一時帰国中の橋本総・中国大使が二十九日、中曽根康弘元首相、自民党の佐藤孝行総務会長とそれぞれ会い、最近の中国事情などをめぐって意見交換した。宮沢喜一首相の意向を受けてのこと、橋本氏は自民党内で慎重論の強い天皇訪中

問題について、その意義や中国側の真意などについて説明したものが見られる。橋本氏はさらに今週中に党四役や最高顧問などに順次会う予定だ。政府は先に、天皇訪中に賛成が多い、との政府による世論調査の結果も自民党側に示してお

り、訪中の実現に向けて党内調整をはかって行くつもりだ。
92.6.30 朝日(朝刊)4面

橋本大使が中国情勢報告

一時帰国中の橋本中国大使は29日、自民党本部に佐藤総務会長を訪ね、①天安門事件後の政局②国民生活③治安状況——などの中国情勢を報告した。秋の天皇訪中問題についての直接の意見交換はなかったとされるが、政府の決断時期が迫る中、橋本大使の訪問は訪中実現への環境整備の狙いもあるとみられる。(4)(2)

92.6.30 毎日(朝刊)2面

報道ぶり(7/1)

〔配布先〕 総理秘書官、官房長官秘書官

アジア局長、竹中審議官

天皇陛下御訪中関係報道

（**7**月**1**日～ 月 日）

アジア局中国課

7/1 (朝刊)

中国関係報道振り

② NK 天皇訪中の好機 公明党委員長
公明党の石田委員長は三十日の日本記者クラブでの講演で天皇訪中問題に就いて「日中国交正常化二十周年の今年は、天皇の中国訪問のよい機会だ」と考えている。日中両国での記念行事が大規模に行われることも中国国民に日本への親近感を見出し、もろくチャンスにもなるのではないかと述べ、訪中の実現に賛成の考えを明らかにした。公明党が天皇訪中に積極的な賛意を表明したのは初めて。

M-③

公明党委員長は賛成
石田公明党委員長は三十日、東京都千代田区の日本記者クラブで記者会見し、天皇訪中問題について「中国国民の日本に対する親近感、友好関係が見直されるチャンスでもある」と認識している」と述べ、訪中に賛成する考えを明らかにした。

毎日(朝刊) 3面

天皇陛下訪中問題
首相に慎重
対応求める
藤尾元文相
7/1 (朝刊) 11
自民党の藤尾元文相は三十日の総務会で、天皇陛下の訪中問題について「中国の国内事情は政治、経済、治安の面において、決して

天皇訪中で前向きな発言 公明党委員長
公明党の石田幸四郎委員長は三十日午後、日本記者クラブでの講演後の質疑の場で、天皇陛下の今秋の訪中について「日中国交正常化二十周年という節目な中で、天皇陛下の訪中について一つチャンスだと考えている」と述べ、積極的に回復二十周年という節目な対応すべきだとの考えを明らかにした。

穏やかな環境ではない。国民の理解を得ないまま、一回の世論調査だけで国民の大方の同意を得たと判断するのは間違いだ」と指摘するとともに、「もっと論議し、党内全体のコンセンサスを得て判断するのが総理総裁の務めだ」と、宮沢首相の慎重な対応を求めた。同問題では、訪中に前向きな首相の意向を受けて、一時滞留中の橋本駐中国大使が二十九日から佐藤総務会長ら党首と会談、「中国の治安は安定している」などと、中国の国内事情を説明した。藤尾氏の発言は、訪中の実現に向けたこうした党内調整に反発したものとみられる。

産経(毎日) 1面

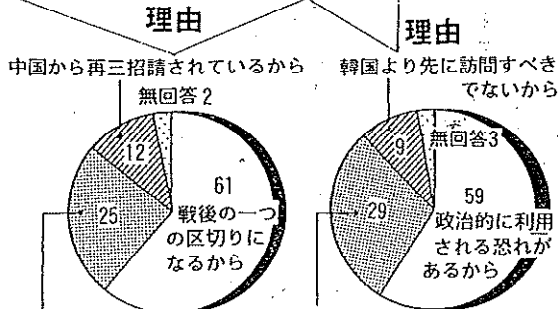
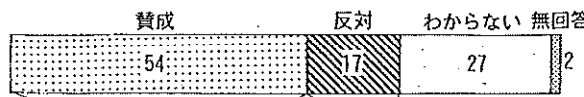
慎重な対応求める
藤尾氏
自民党の藤尾正行代議士は三十日の同党総務会で、宮沢首相が今秋の実現に意欲を見せている天皇陛下訪中問題について、「いま中国の国内事情は、政治も経済も治安も、決して穏やかではない。首相は(訪中実現を)駆け足で急いでいるが、非常に危険だ。注意の上にも注意を重ねて欲しい」と述べ、慎重な対応を重ねて求めた。

天皇陛下の中国訪問 7/1 M-(3)

過半数が賛成

本社世論調査

天皇陛下の中国訪問への賛否 (数字は%)



日中国交正常化20周年の節目の年だから

日本の世論が一致していないから

日中国交正常化二十周年 陛下の中国訪問について国民の過半数が賛成している

「反対」は2割弱

支持政党別で差は無し

ことが、毎日新聞社の全国世論調査(六月十九〜二十一日に実施、二十歳以上の男女三千人対象)でわかった。政府は「国論が二分された状態での訪中は好ましくない」と反対論の鎮静化に努めているが、調査結果では「反対」は二割弱にとどまっており、参院選後とみられる政府の最終判断にも影響を与えそうだ。

天皇訪中に対する賛否は「賛成」五四%、「反対」一七%、「わからない」二七%。支持政党別にみると、自民党は賛成五六%、反対一九%、わからない二四%、▽社会党は賛成五五%、反対一七%、わからない二七%。年齢別では、六十歳以上の人が賛成四九%、反対二三%で、高齢層の慎重姿勢が目立った。性別では、男性の方が賛成論が多く、女性には男性に比べ「わからない」が多かった。

天皇訪中に賛成の理由は、「戦後の一つの区切りになるから」が最も多く六一%。次いで「日中国交正常化二十周年の節目の年だから」二五%、「中国から再三招請されているから」二二%。一方、反対の理由は「政治的に利用される恐れがあるから」五九%、「日本の世論が一致していないから」二九%、「韓国より先に訪問すべきでないから」一九%の順だった。

7/1 朝刊

先週、橋本首相が中国大使が一時帰国、宮沢首相とも会っている。帰国目的のひとつは、たぶん、天皇訪中問題の協議だろう。

大使の帰国中にあるいは外務省、宮内庁、警察庁の三省庁会議が開かれたかもしれない。

三省庁は今年六月に中国に先遣隊を派遣している。警備の状況などはすでにクリアしているという。それ

によると、ご訪問は北京と西安の三泊四日。お国柄からも熱烈歓迎一色で反対デモなども考えられない。日韓間でしばしば問題になる「お言葉」問題も、中国側は「日中共同声明」と「日中平和友好条約」の線ではないという態度であり、これまでよりも一歩踏み出す必要はない。

本来ならば、とつくに決定していてもよさそうである



る。少なくとも四月の江沢民総書記来日の際にそのチャンスだったが、宮沢首相は「慎重に検討する」という返事だった。あのとき中

それがさきごろの首相の積極発言から、ご訪中実現に向かって動き出したようだ。おそらく第十四回中共大会の後だろう。うわさで

日中関係のランク

国筋は不快感をあらわにしていた。「わが国指導者がもう何回にもわたり訪中を要請しているのに、慎重に検討です」というわけだ。

は十月二十一日から四日間ということだ。日中の歴史上はじめての天皇訪中の実現となれば、両国の歴史で大きな里程碑

となることは確かだが、よく分らないのは、中国外交における日本の位置付けである。

三月の全人代大会での政治報告では発表された要旨では「中日関係はすでに正常化された」という言葉が、その後発表された全文では落ちていた。天皇訪中で正常化されるというのだろうか。「いったい中国にとって日本はその他の国と何列なのか」と中国筋に尋ねたところ、「宮沢首相は江沢民総書記来日の際に開かれた国交正常化祝賀会で『日中関係は日米関係と並んで、わが国の最も重要な二国間関係である』と述べているが、日中と日米が本当に同列ですか。日本外交での中国の位置付けも分らない」と答えていた。お互いその位置付けを模索しているようだ。(伯)

天皇陛下下の訪中に世論の54%が賛成、と本社調査。反対17%。天安門事件の記憶があり、戸惑う向きもあるが、日中友好の大局を忘れまい。宮沢さん、決断の潮時だ。

92.7.1毎日(夕刊)1面

92.7.1毎日(夕刊)2面

大 臣 秘 書 官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官 房 長	主 管 アジア局長 審 議 官 中 国 課 長 首席事務官 総 務 班	保 存 期 間			
		1類 (永久)	2類 (10年)	3類 (5年)	4類 (1年)
		起案 平成 4 年 7 月 2 日			
		決裁 平成 年 月 日			
		起案者	電話番号		
		高 田	2428		
協議先					
(7) 日本側から、この件について、 ↑ 本館に送付した。200- (2) 7部 - 小生へ ・ 200-20部 外務省、家、非正規労働 在外労働、非正規労働 200-20部 下記の件に関し、決裁を求めます。(関係文書別添) 天皇陛下御訪中問題(世論の動向)					
GA-I (昭和63. 4. I改正)		外 務 省		回覧番号	

天皇陛下御訪中問題（世論の動向）

9 2 . 7 . 2

中 国 課

1. プレス

- ・毎日新聞：4/8社説「日中が超えるべきハードル」…賛成
- ・朝日新聞：5/21社説「『友好の象徴』としての訪中を」…賛成
- ・東京新聞：5/25社説「天皇訪中を両国友好の礎に」…賛成
- ・日本経済新聞：5/28社説「自然態の陛下の中国訪問を期待する」…賛成
- ・読売新聞：6/28社説「天皇訪中の実現へ環境作りを」…賛成
- ・産経新聞…「正論」で賛否両論紹介。

2. 世論調査結果

- ・内閣広報室(6/11~14、20歳以上の全国男女2000人を対象に実施)：
賛成72.0%、反対16.4%、その他・わからない11.6%
- ・毎日新聞(6/19~21、20歳以上の男女3000名を対象に実施、7/1発表)：
賛成54%、反対17%、わからない27%
- ・日本経済新聞(6/26~29、全国の有権者3000名を対象に実施、7/2発表)：
賛成69.5%、反対17.7%

3. 要人の賛成発言

- 竹下元首相「(御訪中に関しては)現在、政府部内で検討しているが、私個人としては大賛成だ」(1/30 スイスでの李鵬総理との会談にて)
- 大内民社党委員長「民社党としては、日本の天皇は、どの国よりも早く中国を訪問されるべきと考えている」(4/7 訪日中の江沢民総書記に向かって)
- 中曽根元首相「実現した方がいいと思う。ただ政治に巻き込まないことだ。そのためには自民党が結束して意思を強固に統一しなければならない」(5/20 自民党の当選一回代議士有志招待の講演で)、「私は原則としてやった方がいいと思う」(6/23 記者団との懇談で)
- 石田公明党委員長「日中国交正常化20周年の今年は、天皇の中国御訪問のよい機会だと考えている」(6/30 日本記者クラブでの講演にて)
- 河本元国務相「内閣の世論調査によると70%が賛成という。おおよその国民の考え方はまとまりつつある。最後は首相が決断すればいい」
(7/2 日本記者クラブの講演にて)

(了)

天皇陛下御訪中関連報道ぶり

4 . 6 . 2 6

中 国 課

天皇陛下御訪中をめぐる最近(4～6月)の主要六紙及び外字紙一紙の報道ぶりは以下の通り。朝日、毎日、読売、日経、東京は社説で賛成の立場を明確化。

1. 朝日新聞：「『友好の象徴』としての訪中を」(5月21日付社説)…賛成。
 - ・訪中はアジア重視の象徴的な第一歩。過去の不幸な日中関係の清算のためにも、21世紀に向けての両国関係の安定のためにも、前向きに取り組むべし。
 - ・天皇陛下は政治的役割を果たせないが、「過去」についてご自分の気持ちを率直に伝えることは可能。「過去」は避けて通れず。
 - ・訪韓より先に行っても不自然ではない。
2. 毎日新聞：「日中が超えるべきハードル」(4月8日付社説)…賛成。
 - ・「国交正常化20周年の今年が一番望ましい」(外務省幹部)ということだが、このタイミングを生かして、日中両国民が素直に歓迎できる天皇訪中が実現するよう両国政府の努力を促したい。
3. 読売新聞：「天皇訪中の実現へ環境作りを」(6月28日付社説)…賛成。
 - ・国内でも中国でも共に歓迎されるものであることを前提に、基本的に年内の御訪中に賛成。天皇訪中は個々の政治問題を超越した友好訪問であり、実現しなければ大局、良好な日中関係を後退させよう。
 - ・過去については象徴天皇として、国民感情を踏まえたお気持ちと平和な世界への願望を表明されて当然。
 - ・宮沢総理は事理をつくして自民党内を説得し、「国民の祝福される中で」の御訪中実現へ環境作りを進めるべし。
4. 産経新聞：「正論」で賛否両論を紹介。
5. 日本経済新聞：「自然態の陛下の中国訪問を期待する」(5月28日付社説)…賛成。
 - ・賛成論、反対論は一枚のコインの裏表の関係。
 - ・御訪中問題から政治的な思惑を完全に取り除けることは所詮不可能。宮沢内閣の責務は、政治的な思惑を力の限りを尽くして脱色すること。
 - ・総理は自ら①中国首脳との間で万全の意思疎通の道を確保し、②「日本が突出するわけではない」旨米欧各国に理解求め、その上で決断を。
 - ・御訪中問題は日本側の問題。政府の決断にかかっているが、訪中が決まれば国民は静かに見守りたい。
6. 東京新聞：「天皇訪中を両国友好の礎に」(5月25日付社説)…賛成。
 - ・21世紀に向けて日中相互の信頼関係を深める為にも、ぜひ実現すべし。
 - ・訪中時、中国側が政治的に難題を出す可能性は無い。
 - ・訪中は日中の協力を強め、更には中国を国際強調の枠組に引き込むのに役立つ。
 - ・自民党内に故意に国論を二分させる如き動きがあるのは残念。自重を促したい。
 - ・当面、訪韓より先に行うのが妥当。
7. Asahi Evening News: "LDP Should Consider Emperor's Visit to China"
(5.27 Opinion;朝日新聞論説委員)…賛成。
 - ・9月訪中の実現のため、総理が決断するべし。

A2 「友好の象徴」としての訪中を説

天皇陛下下の中国に訪問が、日中間の当面の最大の焦点となっている。国交正常化二十周年の節目に当たって強く招請する中国に對し、自民党内には時期尚早とする慎重論も強い。中国の国会にあたる全國人民代表大會の万皇常務委員長が二十五日から訪日するが、この問題をめぐる日本側とのやりとりは重苦しいものになりそうだ。

結論を先にいえば、われわれはこの機会に天皇訪中が実現するのが望ましいと考える。宮沢首相の決断を促したい。

先に日本を訪れた中國共産黨の江沢民総書記は「今秋、西陛下を中國にお迎えできることを期待しています」と特に時期を示して直接、天皇に訪中を要請した。

二千年に及ぶ日中交流の歴史でも天皇や元首の相互訪問は例がない。江総書記は訪中要請について「子々孫々にわたって友好關係を發展させていきたいという兩國民の願いに合致する」と熱意を示した。

經濟建設を急ぐ中國は日本の協力に強く期待している。さらに天安門事件や人權問題をめぐり、欧米先進國との關係がきくしやべりの中で、日本をしっかりと引き付け

ねらいもあるとみられている。

もしも中國側が天皇訪中にそうした目的を含ませているのなら、次のことはせむ指摘しておかねばならない。

日本の侵略を受けながら戦争賠償請求を放棄した中國に對し、經濟大國に成長した隣國としてできるだけ協力したい。だが、天皇は憲法に定められた日本國の象徴であつて國政に關与はできない。中國は天皇に政治的役割を期待すべきではない。

むろん訪中の際、「過去」を避けて通ることはできないだろう。一九七五年に米國を訪問された昭和天皇が「私が深く悲しみとする、あの不幸な戦争」と発言されたことやそのお人柄は、米國人の対日感情に影響を与え、ニューヨーク・タイムズ紙のレストン記者は「日本に對する憎しみや苦しい感情はなくなった」と書いた。

江総書記は、「謝罪を求めるのか」との日本人記者の質問に「どのような言葉も述べられるかは日本側が考えること」と答えている。ある知日派中國人ジャーナリストは「内容よりむしろ、どれだけ誠意を示されるかの問題だろう」と指摘する。

戦争の歴史を直接、背負っていない天皇だが、ご自身の気持ちを率直な表現で伝えることは、必ずしも象徴天皇の地位と矛盾しないと思う。

九四年は日清戦争百周年にあたる。百年余の日中關係を振り返ってみると、最近の二十年を除いては残念ながら友好の歴史とはいえなかった。日清戦争から日中戦争までたびたび兩國は激しくぶつかり、戦後もその後遺症は長く続いた。

率直にいつて、わが國が過去の歴史を反省し、歴史の教訓に学ぶ謙虚な姿勢に欠けていたことは否定できない。小三先の対応では相手の心を打たない。侵略を是認する

ような誤った考えを批判し、友好を助ける要因を取り除かなければならない。

宮沢首相は、過去の不幸な日中關係を清算するためにも、天皇訪中は決断させねばならない重要な課題と考えているという。

合わせて、二十一世紀へ向けての日中關係の安定といった長期的な展望からも、前向きに取り組むべきだと思ふ。

天皇陛下には韓國からも招請があるが、こちらは年系に大統領選挙があり、日中國交二十周年という大騒ぎ分を考えると、中國先行は不自然ではあるまい。

「友好の象徴」としての天皇の訪中は、アジア重視の象徴的な第一歩となる。

社説

日中が越えるべきハードル

天安門事件のあと中国首脳として初めて来日した江沢民総書記が、宮沢首相をはじめ与野党の党首らと会談した。日中国交正常化二十周年にあたって、日中関係をさらに発展させるうえで有意義な対話だったと思う。

この中で江沢民、宮沢両氏は良好な日中関係が両国にとってはもちろん、アジア・太平洋地域ひいては世界の平和と繁栄のためにも、欠かさないことを確認し合った。

正常化二十年の時の流れと冷戦後の新しい国際環境の変化は、いまや両国に「世界の中の日中関係」を求めている。両首脳が未来を展望する日中関係を築いていくことで一致したことは大きな意味がある。

世界の国民総生産の一五%を占める経済大国の日本と、十二億の人口を擁して巨大な潜在力をもつ中国の安定した関係を抜きにして、アジア・太平洋地域の平和も、安定もあり得ない。

それは朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の国連加盟や、核実験の受け入れ、国際的に孤立させないためには受

れ、カンボジア和平などをめぐる中国の政治的な影響力をみてはつきりしている。

しかし、日中両国が国際平和のために共に手を携えていくには、中国が現在の改革・開放路線を継続し、国際協調の対外政策をとることが前提にならざるを得ない。

江沢民総書記は宮沢首相との会談や講演を通じて、改革・開放路線への強い自信を示している。最高実力者の鄧小平氏の指導の下で、改革路線が定着しつつあることをうかがわせる。日中関係にとって好ましい姿勢であり、日本の経済支援にもはすみがつくことになるだろう。

日本は天安門事件のあと、先進国首脳会議(サミット)で対中制裁解除のイニシアチブをとり、第三次四借款を再開したのをはじめ、昨年は西側先進国首脳として初めて当時の海部首相が訪中するなど他の国々より柔軟な態度をとってきた。中国の改革路線を支持し、国際的に孤立させないためには受

当な判断だったといえる。

だが、今度の首脳会談が総論では一致しても、具体論になると双方に認識のずれがあることを改めて明白にしたのも事実だ。

中国側が七度にわたって要請した天皇訪中問題で進展がなかったのは、中国側を失望させたかもしれない。「引き続き真剣に検討する」という首相の答えは、一月に訪中した渡辺外相の発言から後退した印象を与える。

訪中によって「天皇の戦争責任」の問題が出ることや、開放政策をめぐる中国内の権力抗争などを警戒して、自

民党内の親台湾派を中心に慎重論が強まっているためだ。そのことはとりもなおさず、宮沢政権の政治基盤が弱体であることを示している。

憲法上、天皇が政治にかかわることは許されない。その一方で、日本の歴史の過ちを清算し、未来を志向する友好親善関係を築くうえで、天皇訪中を区切りとしたいという中国側の気持ちも理解できる。

その意味では、「国交正常化二十年の今年が一番望ましい」(外務省幹部)ということにもなる。このタイミングを生かして、日中両国民が素直に協

迎でできる天皇訪中が実現するよう日中両国政府の努力を促したい。

日中両首脳は、人権問題や武器輸出の規制などの軍備管理・軍縮問題をめぐっても意見が一致しなかった。

国際社会への仲間入りや近代化のためには、中国はこれらの問題に積極的に対応しなければならない。巨額の経済支援を行っているわが国としても、その実現のための努力を重ねることが国際的な責務でもある。

新時代の日中関係を築くには互いに越えなければならない多くのハードルが横たわっている。

社説



天皇訪中の実現へ環境作りを

① 6/27

天皇訪中について、自民党内にも反対論があり、政府も決定を遅延している。

日本国民統合の象徴である天皇の外国訪問は国内でも、訪問国でも、ともに歓迎されるものでなければならぬ。

その前提に立って、われわれは基本的に、日中国交正常化二十周年にあたる年内の天皇訪中に賛成である。

昨年、中国を訪れた日本人は四十五万余、日本に入国した中国人は十四万余、日中の姉妹都市は約百三十組を数える。日中貿易は初めて往復二百億の大台に乗り、日本の貿易総額の四・一％を占めた。

日中友好が両国民の利益に合致し世界の平和に寄与するとの認識で国交を正常化させて以来、友好の道を歩んだ結果だ。

無論、両国間に摩擦が生じ、天安門事件のようないかなる事件も起きるなど曲折はあった。世界の流れとは別に中

国は社会主義・一党独裁体制をとり、日本と体制を異にする。過去の歴史もあり、中国が日本に警戒心を持つのも事実だ。両国は地政学的に敏感な関係にある。

だからといって、両国が疎遠でいいわけはない。友好関係を成熟させアジアの平和、世界の安定に寄与することが必要だ。

その中国が「難題を持ち出さず、熱烈に歓迎する」と天皇訪中を招請している。中国は約束を守るはずだ。友好の観点から天皇訪中が望ましい。実現しない時は大局、良好な日中関係を後退させるだろう。

問題は国内に反対論が無視できないほどに存在することだ。

反対の理由は①天皇を外交に巻き込む②中国内の権力争いからみ政治的に利用される③中国には人権問題がある④過去への「謝罪」問題を浮上させ、賠償要求が噴き出す恐れがある⑤中国が領海法に尖閣諸島

の領有を明記した⑥国連平和維持活動への自衛隊参加をけん制している、などだ。

政治的権能を持たない象徴天皇を自先の外交や政治に利用することは厳に慎まねばならない。だが、天皇訪中は個々の政治問題を超越した友好訪問だ。一般に外国との友好に国民が反対することは考えない。

その点は政府が中国はもとより、他の国にも明確に説明し、誤解のないよう事前事後の処理をすべきだ。天皇訪中は「人権」で中国の姿勢を是認するものではない。

過去については、日本は日中共同声明でも「中国国民に重大な損害を与えた」責任を反省した。象徴天皇として、国民感情を

踏まえたお気持ちで、平和な世界への願望を表明されて当然だ。江沢民総書記も先の来日の際「中国としては前のことを忘れて未来を見るのが重要だ」と述べた。

反対論者があげる他の問題はまさに、天皇が関与されてはならない次元の問題であり、政府が対応すべきことだ。この種の問題を天皇にかつめるべきではない。

宮沢首相は事理をつくして、自民党内を説得し、「国民の祝福される中で」の天皇訪中実現へ環境作りを進めようべきだ。

天皇訪中とは別に、政府が中国の民主化、人権尊重、国際協調を促す外交努力をすべきは言うまでもない。

下すことである。警護その他の点から時間ゆとりはそれほど残されてはいない。

若葉がもえる美しいのは、日本の国連平和維持活動（PK）あるだろうか。陛下のご訪中問題をめぐって人間ができることは、力の限りを尽くして政治的な思惑を脱色してゐるからである。昨年夏のテレビ放映を思い起こして欲しい。島原の音賢岳噴火による被災者を見舞う

中国側は根回しの段階から「天皇」れた時、腕まくりしたワイシャツ姿陛下の訪中について、日本側を困らで床に両ひざをつき、目線を合わせ

しかし、本紙の政治コラム「風見鶏」も指摘しているように、反対論の理由は賛成論の理由にもなる。PKOに対する中国の懸念は、過去の

「さうであることはしない」ことを繰て慰問された。新しい陛下様がこゝに返し伝えてゐる。現段階で言えるに、あつたように思われる。

こゝでは、宮沢首相は自ら中国首脳と。ご訪中の問題は日本側の問題である。日本政府の決断にかかつてゐる。間で万金の意思疎通の道を確保する。

現在、日中兩國間には緊急に解決を必要とする懸案はほとんどない。

日本軍部の中国侵略が温床になって
おり、陛下のご訪中は中国のわだか

ると同時に、人権問題に厳しい米欧が、中国訪問が仮に決まれば、国民に「日本が突出するわけではなく、は静かに見守りたい。」*「雑音」*は自

だが、この中國要人の訪問をめぐって何か「奥歯に物のはさまった」ような違和感がただよっている。兩國、要の関係にある。

旨の理解を求めたうえで決断を
然体の陛下を擯つたけである。

政府の意識の底に、最大の懸案である天皇陛下の中國訪問問題が、どつしりと腰を下ろしているからだ。宮沢首相との会談の場でもこの問題について双方は言及しなかったといふ。

わねわねはあえて天皇陛下のご訪問を期待する。日本国憲法の規定から言つても、陛下を政治的な思惑に巻き込んでほならないことは自明の理である。

だが、人間が直接関与することの世

濟新曆
年)5月28日(木

日本国内には依然、陛下のご訪中の中に、建前ともかく政治的な愚をめぐって賛否両論がある。反対論、惑から純粹に隔絶された眞空地帯が

平成4

天皇訪中を両国友好の礎に

18

国会議長にあたる中国の万里全国人民代表大会(全人代)常務委員長が二十五日来日する。日中間の懸案である今秋の天皇訪中問題も非公式に話し合われるはずだ。

社説

今秋の天皇陛下の中国訪問について、さきに訪日した江沢民総書記も含め、中国側が再三要請しているのに対し、日本側は「真剣に検討したい」として明確な回答を避けている。

これは自民党内に「天皇を政治に巻き込むべきではない」という観点からの慎重論が根強く、政府としても態度を決めかねているからにほかならない。

だが今秋の天皇訪中を實現させるとすれば、もつ時間的余裕はない。今回の万里委員長訪日の際、政府は何かの意思を伝えるを得ないところに追い込まれているのである。

天皇訪中は昭和天皇の在世中からの懸案であり、二十一世紀に向けての日中友好の基礎をより強固にするためにも、ぜひ實現すべきである。日中国交正常化二十周年にあたる今秋が絶好のタイミングである。宮沢首相の決断に期待したい。

日中両国の友好関係の促進は、単に両

国だけでなく、アジア・太平洋地域の平和と安定を図るうえからも不可欠である。ところが、国交正常化二十周年を迎えるとはいえ、現在の日中両国は、なお日本の中国侵略の歴史からくるこだわりが何かついて頭をもたげがちであり、真の信頼関係ができておらず、という状態には、必ずしも至っていない。

そこで天皇訪中問題が重要性をもつてくる。かつて七五年の昭和天皇の訪米が、その後の日米友好の基礎を固めるのに役立ったように、二千年の日中交流の歴史の中で、今秋、初めて天皇訪中が實現する場合、必ずや日中相互の信頼関係は深まる、と思つからである。

もちろん天皇は日本国の象徴であり、政治的権能は持ち合わせていない。したがって天皇訪中にあたっては、一切の政治問題に巻き込むことのないよう中国側から確約をとりつける必要はある。

だが実際問題、そついつ心配は要らないのではない。江総書記は、さきの訪日前「天皇訪中時に中国側から難題を持ち出すつもりは全くない」と語り、鑑み、探外相も最近、加藤巳一郎・本社会長のインタビューの中で「日本でいろいろ議

論があることは承知している。論争を起こさないためにも、こちらからは意見は言わない」と述べるなど、日本側に理解を見せる発言を行っている。

これらは天皇訪中の際、日中戦争の謝罪や民間の賠償問題で中国側が無理な注文を出す考えのないことを示唆したものの、と受け取っていい。

天皇訪中それ自体が何らかの政治的意味合いを持つことは当然だ。過去の歴史に対するわれわれの認識がいい加減でないことを相手に知ってもらうためにこそ、天皇の訪中が必要なのではないか。改革・開放路線を加速させようとする

中国としては、日本の協力のパイプを太くするために今秋の天皇訪中を強く望んでいるフシがないでもない。だが日本の協力は中国を国際協調のワク組みに引き込むのに役立つはずだ。伝えられる中国内部の保守、改革両派の争いも改革・開放路線を進めることでは一致しており、路線の変更は考えられない。

天皇訪中をめぐる故意に議論を二分させるような動きが自民党内に見られるのは残念だ。自重を促したい。韓国からも天皇訪問の招請があるが、当面は、国交正常化二十周年を迎える中国を先にするのが最善であろう。

東京5月25日付朝刊⑧

天皇訪中

LDP Should Consider Emperor's Visit to China

By Tatsuro Iwamura
Asahi Shimbun Editorial Writer

Prime Minister Kiichi Miyazawa is faced with the difficult task of deciding whether or not to have the Emperor visit China this fall to commemorate the 20th anniversary of the normalization of diplomatic relations between Japan and China.

The subject has been a long-pending issue between the two nations and Miyazawa must either comply with China's strong request for the visit or decide against it, at least for the time being, taking into consideration opposing and circumspective views held by some members of his Liberal Democratic Party.

I believe the prime minister should decide on having the Emperor visit China. This is because it is not desirable to turn the question of whether the Emperor

should or should not visit China itself into a diplomatic issue from the point of view of establishing a stable, long-lasting relationship with the country.

With the time needed on both sides to prepare for the Emperor's visit in September, which marks the 20th anniversary of the normalization of diplomatic relations, Miyazawa is expected to make the decision this week, as Wan Li, chairman of the National People's Congress, China's Parliament, is visiting Tokyo. There's little time left to consider the matter.

China has repeatedly invited the Emperor to visit the country. It hopes to realize mutual visits by the supreme leaders of both countries to mark the 20th anniversary, upgrading the level of mutual visits of high-ranking officials and showing the world the firm Japan-China friend-

ship. It hopes, therefore, to invite the Emperor to Beijing and, in return, plans to have President Yang Shangkun visit Tokyo.

China asked for the Emperor's visit in April 1989, just before the outbreak of the military crackdown on pro-democracy activists in Tiananmen Square. Premier Li Peng, who was visiting Tokyo at the time, brought up the subject with then-Prime Minister Toshiki Kaifu, who replied, "We will consider the matter with pleasure."

But the Tiananmen Square incident led Japan to withhold visits to China by government officials for some time. At the 1990 summit of the seven Western industrialized countries held in Houston, Kaifu advocated a step-by-step lifting of economic sanctions against China by Western states. In 1991 he visited Beijing himself,

'92, 5. 27

Opinion Pg

ASAHI
EVENING
NEWS

1/2

prior to visits by British Prime Minister John Major and Italian Prime Minister Giulio Andreotti, taking the initiative to improve relations with China after Tiananmen Square.

Since Western countries did not express opposing views against Japan's move, the Miyazawa administration took a positive attitude to materialize the Emperor's visit to China. And in the spring Foreign Minister Michio Watanabe told China that the government would seriously consider realization of the Emperor's visit to China.

But right after that it was revealed that China had spelled out the Senkaku Islands, which lie south of Okinawa, Japan's southernmost prefecture, as its own in its newly established law concerning territorial waters. Japan has maintained its sovereignty over the islands.

In addition, the move within China to collect signatures to demand reparations for the Japanese invasion of China in World War II and the repeated requests by China for Japan to be cautious about a move that could lead to the dispatch of Japanese forces overseas, referring to the U.N. peacekeeping operations bill that has been deliberated in the Diet, have, together with China's move on the Senkaku Islands, caused some members of the LDP to oppose the Emperor's visit to China.

The LDP General Council, which is the organ to decide party policies, has met several times to discuss the issue, and its chairman Koko Sato has advised Miyazawa that the problem of the Emperor's China visit needs some more consideration with circumspection.

At the root of such an assertion by LDP members lies the wariness that the Emperor's visit to China could lead to a situation in which China may demand that the Emperor apologize for Japan's invasion in the past.

Japan's Constitution spells out clearly that the Emperor has nothing to do with politics. The LDP members maintain that if the Emperor is asked to comment on war responsibilities and he answers in any way, it would be a way to use him politically.

Frankly speaking, I believe the late Emperor Hirohito, posthumously known as Emperor Showa, who was the supreme leader of Japan up to the end of World War II, should have apologized as a person for war responsibilities and the invasion when he was alive.

When Deng Xiaoping, who was then deputy prime minister of China, visited Japan in 1978, Emperor Showa said that "an unhappy era once existed between Japan and China in the past." But if he had gone on further to make such a statement as, "I am truly sorry. I can't die in peace without making an apology," when he was still alive, it would not have been necessary for Japan to be on the defensive about how China would broach the subject on the occasion of the Emperor's visit to China.

But, unfortunately, Emperor Showa died without speaking out his true feelings. And Emperor Akihito is being asked to make up for what his father never got around to.

Japan's Constitution describes the Emperor as "the symbol of the unity of the people" and not the head of state. Since he holds the position of the symbol of the unity of the people, who have different opinions, there is a limit to what he can say, and much more so when it comes to political problems.

But whether or not to make frank apologies to China, South Korea and other countries that were victims of Japan's aggressive acts in the past is a humanitarian question that transcends politics.

And if so, to realize the Emperor's visit to China this fall on the occasion the 20th anniversary of normalized relations between Japan and China, complying with China's strong request, and to have him speak in his own words about the past and future relations between Japan and China would no doubt be to the benefit of a long-lasting future relationship between the two countries, but never to its disadvantage.

I believe the LDP should consider the Emperor's visit to China from such a broad outlook and hope that Prime Minister Miyazawa will arrive at a wise decision.

〔配布先〕 総理秘書官、官房長官秘書官

アジア局長、竹中審議官

天皇陛下御訪中関係報道

（**7**月**2**日～ 月 日）

アジア局中国課

天皇訪中の環境整う

河本氏 世論の動向を指摘

自民党河本派の河本敏夫会長は一日、遊説先の北海道旭川市内で記者団と懇談し、天皇陛下の訪中問題について考えを明らかにした。

参院選での自民党の議席獲得目標について、七十議席を目指すべきだとの声が党内で出ていることに関連し、「私も大変結構なことと思つし、自民党や内閣の支持率が上がっており、(七十の)目標を達成できそう成している点を指摘、「世論はまとまりつつある」としを明らかにした。

この中で河本氏は「最終的には宮沢首相が決断することだ」としながらも、内閣が非公式に実施した世論調査で約七〇%が訪中に賛成している点を指摘、「世論はまとまりつつある」としを明らかにした。

92.7.2 東京(朝刊)2面

竹下氏らとも会談

橋本中国大使 天皇訪中問題が

一時帰国中の橋本総駐中国大使は一日、自民党本部に総幹事長、都内の事務所に竹下元首相をそれぞれ訪ね、会談した。

橋本大使によると、中国の現在の政局について説明、天皇陛下の訪中問題については「現在冷却期間であり、直接には触れていない」としている。ただ、橋本大使は先月二十九日に中曾根元首相、佐藤総務会長とも会談しており、自民党内に天皇訪中への反対が根強いことから、訪中実現に向けての地ならしの狙いがあるものと見られる。

天皇訪中に前向き

河本氏表明

自民党の河本敏夫元国務相(河本派会長)は、一日の北海道旭川市内のホテルでの記者会見で、天皇陛下

の訪中問題について、「内閣の世論調査によると七〇%が賛成という。おおよその国民の考え方はまとまりつつある。最後は首相が決断すればいい」と述べ、天皇訪中実現に前向きな意向を明らかにした。

92.7.2 読売

2面

中国兵員50—100万削減へ

党中央軍事委が決定 香港紙

7/20

【香港一日】本田伸二
一日付の香港の台湾系紙「香港聯合報」は、中国共産党中央軍事委員会が四月下旬に開催した拡大会議で、現在の七軍区を四軍区に減らし、五十—百万人規模の兵員削減を行う計画を決定し、人民解放軍の省ベルの組織に通過したと伝えた。

放路線の不受を内外にアピールしたのを受けて開かれたもので、会議では「新たな世界大戦が起きない限り、中国は全力で経済に取り組み」との経済優先で合意、現在三百万人にのぼる兵員を二百—二百五十万人規模に削減することを決定したという。

具体的には、軍の最大構成単位である三つの野戦軍、戦、党内の保守派に対して「左」の束縛から解放されなければ、群衆に見放され

歴史に淘汰（とうた）されてしまつたろうと、これまでになく強い調子で警告を発した。保守派追い落としを事実上「宣言」したもので、秋の第十四回党大会に向けて人事面でも改革派が主導権を掌握しつつあることを示している。

「人民日報」社説 保守派に警告

【北京一日】藤野彰 中国共産党機関紙「人民日報」は一日、党創立七十一周年を記念する社説を一面に掲

保守派指導者 4氏辞任見通し

党大会代表選落選で

た。人民日報は春以来、改革・開放政策の強化を軸にしながら、慎重な論調を保っていたが、今回の社説は、改革派の主張をほぼ全面的に織り込んだ内容になっている。地方紙などもこの人民日報社説を転載し、「左の防止」に取り組みむことで意思統一されている。

「左の防止」 社説で主張

人民日報

file 7/20

【北京一日】五十川倫義 中国共産党創立七十一周年の一日、党機関紙・人民日報が「左の防止」を明確に主張した社説を発表し

7/2 中国、モニゲル

関係報道振り

人民解放軍の 軍区制を改革

台湾紙報道

【香港一日】津田邦宏 台湾紙、聯合報は一日、中国の人民解放軍が、国際情勢の変化に対応して現在の七軍区を四軍区に機構改革することを決定したと報じた。

北京からの情報として伝えたもので、四月末に党中央軍事委拡大会議が開催され、新たな世界大戦の可能性がない状況下で中国は経済発展に全力をそそぐべきだ、として解放軍の改革が議論、決定された。

省並みの立法権 深圳市に付与

全人代常務委

【北京一日】藤野彰 北京で開かれていた中国の全国人民代表大会（全人代）の常務委員会第二十六回会議は最終日の一日、広東省深圳市に省レベルの

竹下氏らとも会談

橋本中国大使 天皇訪中問題か

一時帰国中の橋本総駐中の訪中問題について、「内閣の世論調査によると七〇％が賛成という。おおよそ所に竹下元首相をそれぞれ訪ね、会談した。

橋本大使によると、中国の現在の政局について説明、天皇陛下の訪中問題については「現在冷却期間であり、直接には触れていない」としている。ただ、橋本大使は先月二十九日に中曾根元首相、佐藤総務会長とも会談しており、自民党内に天皇訪中への反対が根強いことから、訪中実現に向けての地ならしの狙いがあるものと見られる。

政府筋 政府筋は一日、第二次世界大戦中の従軍慰安婦の実態調査に連連、「（調査結果の）発表は、問題に関する政府の姿勢の変化を意味しない。請求権については、（日韓基本）条約の時に終わっている。事実を記憶にとどめ、反省する」ということだ」と述べ、調査の目的はあくまで事実の究明であり、補償問題については昭和四十年に調印された日韓基本条約と関連協定で解決済みとする日本政府の従来の立場に変化がないことを強調した。

天皇訪中に前向き

河本氏表明

自民党の河本敏夫元国務相（河本派会長）は、一日の北海道旭川市内のホテルでの記者会見で、天皇陛下

file 下

中国、兵力50—100万人削減

香港紙

【香港一日二三森記者】一日 再編成し、現有兵力三百万人を付香港の台湾系紙「香港聯合報」は、中国共産党軍事委員会が今年四月下旬に開催した拡大会議で現在の七大军区、四大軍区に

幅に入れ替えることでも合意したとしている。軍幹部の人事では、劉華清・中央軍事委員会主席は留任、楊白冰・同委員会秘書長が副主席に昇格することが確定したほか、楊尚昆・中央軍事委員会第一副主席が辞任し、秦基偉・国防相が中央軍事委員会政治局から引退することになったという。

深圳に立法権

全人代が法案可決

【北京一日二三森記者】中国の全国人民代表大会（一院制の国会）に相当する常務委員会が一日、広東省の経済特区、深圳市に省レベルの立法権を付与する法案を可決した。同市は対外開放政策のモデル地区として高い成長を続けているが、「経済発展をさらに続けるためには独自の立法権が必要」として全人代に働きかけていた。

鄧路線の貫徹を全党員に呼びかけ

人民日報社説

【北京一日二三森記者】中国

共産党創立七十一周年の一日、党機関紙、人民日報は「新たな歴史的使命と中国共産党」と題する社説を發表、経済建設を最優先する鄧小平氏の路線を全党員が貫徹するよう呼び掛けた。社説は「経済建設にすべてを集中させなければならない」と述べた。

天

天皇訪中「賛成」が7割



日中国交正常化二十周年を記念し、陛下の中国訪問の

是非が論議になっている中で、日本経済新聞社の世論調査（日経三十人緊急電話調査）で有権者の意見を聞いたところ、政府が検討している今秋の訪中に賛成の回答が六九・五％を占め、反対の二七・七％を大きく上回っていることが分かった。

が、年齢別では若い人ほど賛成の割合が高い傾向がはっきりと出ている。例えば二十歳代は賛成が八五・三％、反対が五・九％だが、高齢になるに従って賛成の割合が減り、七十歳以上では賛成が四五・四％、反対が三・一・五％にまで接近している。と、政党別では賛成の割合が

成がそれぞれ六九・六％、六八・七％。最も賛成の割合が低いのは共産党支持者の五五・九％だが、これも反対の二七・〇％は上回っている。

調査方法

期間 6月26日—29日

対象 全国の有権者三千人

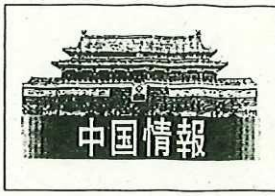
（回答率63・1％）

実施機関 日経リサーチ

file 天

4大軍区に再編成

【北京聯合報（台湾）】「北京聯合報（台湾）の特約」中国共産党中央弁公庁が下達した二十六号通知によると、四月に党中央軍事委員会が開かれ、現在の七大軍区を四大軍区に再編成、五十万から百万の人員を減らし総兵力を二百万ないし二百五十万にする事が決定された。また、今年後半の党大会後に大幅な人事異動を実施する。



台・越が代表事務所設置

【台北一日吉田信行】ベトナムを訪問していた台湾の江丙坤経済部次長を団長とする訪問団は一日台北に着き、同日夕の記者会見でベトナム政府と経済文化弁事処（代表事務所）を相互設置することを定めた協定と、ベトナムの大型プロジェクト「五号国道」建設の技術協力協定に署名したことを明らかにした。

銭三強氏（せん・さん）きよう二中国人民政治協商會議全國委員會常務委員、中国の華僑向け通信社、中国新聞社によると、6月28日、北京で死去、78歳。浙江省出身。病名は不明。中国の著名な核物理学

者。1937年フランスに留学。ソルボンヌのラツヴム研究所でウランニウム分裂研究で功績を上げた。48年に帰国、核エネルギー事業の発展と中国科学院の創立に尽力。同科学院副院長、浙江大学学長などを歴任した。（北京共同）

また、人事では八十五歳の楊尚昆氏と七十八歳の秦基偉国防部長が引退するが、七十六歳の劉華清軍事委員主席は江沢民軍事委員主席を補佐するために残留する。一方、七十二歳の楊白冰軍事委員秘書長が軍事副主席に昇格することが確定した。

また同次長は「投資保証協定」を締結すると述べた。これが実現すると、台湾にとつては社会主義国との間で結ぶ初めての投資協定となる。台湾では中国大陸への間接投資が急増、リスク分散の意味からもベトナムへの接近が図られており、すでに台湾はベトナムの外資の二〇％を占める最大の供給先になっている。

われわれの社会には生命を尊重する文化がない、法を守る文化がない、公平な競争をする文化がないとある台湾の憂国の士が嘆く。このうち確かに、こと生命に関する限り、台湾は経済力の割に補償額が低すぎる。昨年十一月苗栗県で起きた死者三十人の鉄道事故の場合、二百萬元（約



低すぎる補償額

（約四百五十九万円）が提示されているが、日本側遺族の要求は六千万一億二千万円（約五千五百万円）世界とは開きが大き過ぎて補償交渉が難航している。死者への補償金がこの立派な年俸に追い付くようになれば、日本の六分の一の人口で年間の交通事故死者三千三百五十人、率にして倍という数字も飛躍的に改善されると思うのだが。（吉田信行）

陛下訪中は国民も賛成

河本氏見解「参院選64は可能」
自民党河本派会長の河本元国務相は一日、同派所属見し、天皇陛下の中国で訪代議士の会合出席のため訪問については「さきに、内閣官房が行った世論調査では七〇％が賛成らしい。およその国民の考えかたはまとまりつつある」と指摘した。さらに、「首相がいいる勘案して決めればいい」と述べ、前向きに調整すべきとの認識を示した。また、河本氏は参院選の

閣官房が行った世論調査では七〇％が賛成らしい。およその国民の考えかたはまとまりつつある」と指摘した。さらに、「首相がいいる勘案して決めればいい」と述べ、前向きに調整すべきとの認識を示した。また、河本氏は参院選の

自民党の獲得議席について、「六十四以上の獲得を目指せばいい。あちこち回った感じでは、自民党や内閣への支持率は上がっているの、十分に達成できると述べ、改選議席（百二十八）の過半数六十四以上は可能との見方を示した。

橋本駐中国大使は一日、自民党本部に総幹事長を訪問、天皇陛下の訪中問題に關連して中国政府の立場や政治情勢などについて報告した。橋本大使は天皇訪中問題について「中国は日本政府の決定を見守っている状況だ」と述べ、現段階では中国側から新たな意思表示はない見通しであることを伝えた。

報道振り(1/2中央日報)

分析課 中国 香港

第 1021 号	大至急・至 急 普 通	取扱注意 ・ 平
平成 4 年 7 月 2 日 17 時 40 分 発	本文越頁数 1 頁	付属 2 頁
理 事 長 殿	台北事務所長 殿	
転 電 報	展 望	第 号
件名 大皇訪中		
往電第980号に関し、		
2. 日付中央日報はロイター電を引用し、毎日新聞の世論調査によれば過半数の国民が天皇訪中を支持していると報じている。また、 <u>橋本在</u>		
聯合報は、東京特派員電として、先般の中国大使の帰国、外務省、宮内庁、警察関係者の訪中等は、天皇訪中に向けて準備を行うためであり、天皇訪中が実現するならば10月21日前後の4日間に北京、西安を訪問する可能性が高いと報じているので、別添にて送付する。		
(了)		

日皇訪中國大陸 逾半數人贊成

前往中國大陸訪問。
每日新聞的民意調查並且發現，百分之五十六的自
民黨基層黨員贊成日皇赴中國大陸訪問。反對者僅佔
百分之十九。

〔路透社東京電〕一日發表的民
意調查結果顯示，儘管日本執政黨
保守派反對，大多數日本人仍然認
爲日皇明仁今年應該訪問中國大陸。
日本每日新聞道項全國性意見調
查發現，百分之五十四的受訪者贊
成明仁前往中國大陸，參加日本與
中共建交二十週年慶祝活動。只有
百分之十七的人持反對意見。
贊成明仁訪問大陸者中，百分之
六十認爲，明仁的往訪，將可消除
日本與中國大陸自二次世界大戰以
來一直揮之不去的陰影。
中共數度邀訪日皇，但日本政府
僅表示願意加以「審慎考慮」。
日本執政自民黨內部分保守派領
袖擔心明仁訪問中國大陸時，會因
爲一九三〇及一九四〇年代日本侵
略中國的殘酷罪行受到責難。
不過，日本首相兼自民黨總裁宮
澤喜一上週表示，他認爲明仁應該

東京特派員陳世昌

一日電

日本駐中共大使橋本恕不久前回國述職，據外交人士指出，回國的目的是要與宮澤首相會商，安排日皇明仁的訪問大陸事宜。

果日皇能夠成行，以北京、西安兩大都市的四天三夜行程最有可能。日本方面已經得到中共方面的默許，稱日皇的訪問一定會是個極大的歡迎場面，反對日皇的街頭示威絕對不會出現。另外，在日韓間經常出現爭執的日皇「致辭」的問題，中共方面表

但是宮澤首相因為黨內的反對聲音，只能對江澤民說「還要慎重的檢討」，加上媒體的渲染，讓江澤民的臉上無光，中共頻頻對此表示了不快。直到最近，宮澤首相又發表了對日皇訪問中國大陸的積極發言，日本的媒體開始推波助瀾，日皇訪中國大陸

日皇訪大陸可能十月下旬成行

駐北京大使已返日述職 可能安排北京、西安四天三夜行程

橋本並且有可能與外務省、宮內廳、警察廳等三省廳進行面對面的會談，跡象也顯示，會與日皇的訪問有關。這三個省廳上個月才派了一個先遣隊訪問了大陸，對大陸的警備狀況，事前先作一番了解。消息來源說，如

示只要循「日中共同聲明」及「日中和平條約」的方向發表談話即可，不必超越這個幅度作更讓步的談話。本來日皇的訪問中國大陸，幾乎已經塵埃落定，至少中共總書記江澤民四月來日時，是一個很好的表示機會，

的問題再度被提及，駐中共的日本大使因而特別回國，與宮澤及有關機關商討日皇的訪問事宜。外交界傳說，日皇若能成行，大約是中共十四屆黨大會後的十月三十一日左右的四天。

報道ぶり(7/4 ~ 7/9)

〔配布先〕 総理秘書官、官房長官秘書官

アジア局長、竹中審議官

天皇陛下御訪中関係報道

（**7**月**4**日～**7**月**9**日）

アジア局中国課

自民内空気に変化

7/4
9/3

天皇訪中
問 題
大使が有力者「説得」

外務省幹部は三日、天皇陛下の訪中問題に關連し、「(四日帰任する)橋本恕・駐中国大使が自民党の幹部を回つて(中国側の真意などを)説明したことが、自民党内でいい効果を生んでいる」などと述べ、慎重論の強かった自民党内の空気に変化が出ているとの認識を示した。また、宮沢首相の最終決断は、「参院選後になる」と語った。

橋本大使は、先進国首脳会議(ミュンヘン・サミット)前に、中国情勢について宮沢首相に説明するため、六月末に帰国。その後、中曽根元首相ら自民党有力者への説得を続けていた。

92.7.4 読売(朝刊)3面

論

壇

今秋、日中国交正常化二十周年を迎えるが、この機をとりえての天皇訪中問題が大きな論議となっている。

私はよほどのことがない限り、天皇・皇后両陛下の訪中が実現できるようにすること、そんな環境になることを心から念じている。

私自身が国政の場に身を置くことになったこの約十年間にも、日中間には、教科書問題、靖国神社公式参拝問題、光華寮問題などがあり、最近では天安門事件と人権問題、尖閣諸島問題、あるいはまた兵器輸出問題などが思い出される。

「皇室を外交に巻きこむな」



伊藤 英成

① (119) 天皇・皇后両陛下の訪中を

「政治に利用するな」「中国内に保守・改革派対立がある」という消極論も聞く。

しかしながら訪中が実現した場合と、実現しない場合に予想される事態を比較しながら、私は特に次の点から積極論をとり

第一は、中国要人から繰り返した熱心な招請が続いていることである。昨年八月、海部総理(当時)訪中の折、最高首脳の間相互訪問を合意し、本年一月渡辺外相訪中のときには、李鵬総理も「日本国民の心の中に占める両陛下の重要性は十分に理解している。われわれは訪問を心より歓迎する」と述べている。また先般来日した江沢民総

書記は、民社党大内啓伍委員長に「中国側に他意はない。友好を更に促進したいとの願望があるのみである。中国として難題を持ちかけようとの意図は全くない」とも述べている。

両陛下が今秋訪中されれば、中国側は大いに評価し、最大級の歓迎をしてくれることと信じている。

第二は、日中間の極めて密接な二千年の長きにわたる歴史を大事にし、今後さらに大きく発展させること、すなわち日中国間の長期間にわたる友好関係を再認識し、将来にわたる友好を固く決意するまたない機会とすることができたらうということである。

欧米諸国の中国との関係と、日本のそれとを比較すれば、日中間にある歴史的・地理的關係の深さ、そして不幸な戦争の傷

跡について、大きな差があると

思う。

日中国間の「暗い過去」について、徐々に乗り越え、未来に向けた新しい関係を構築しようとする多くの人々の努力とそれが歴史的流れであることを感ずる。私は、一九八四年、民社党訪中団の一員として訪れた折、佐々木良作委員長(当時)が過去の戦争問題に触れたと

係が長い歴史の上に、より成熟しつつあるものと思いたい。

第三に、わが国にとって対アジア外交の重要さである。アジア諸国との信頼関係なくして、将来の日本外交は語れないと私は思うからであり、そこに掲げる中国の重要性を考えるからである。湾岸戦争の折にも、私は当時の外相にアジア諸国との相談、協議の必要性を強く提起したのもそのためである。

第四は、日中国交正常化二十周年の今年はまだとない記念すべき年であるということである。

私は天皇陛下が戦争中に日本兵が中国大陸で犯した罪を自身で贖(あがな)うというお気持ちから自発的に旅に出られるなら、大要奥ゆかしいことだし、世界の平和につながることを思います。ただ、そういうお気持ちを指示しにされることは、それは中国大陸の人民に対してのことではないでせう。

蒋介石総統は終戦に際して日本が早く立ち直ってほしいと念願し、再び強くあれ、と祈っていました。また、皇制を維持し、中国大陸にいた二百万の日本軍民を安全に日本に送還し、北海道の分割に反対し、戦時賠償を放棄したのも、日本を

こういふことを申すのも日本が戦争した相手は蒋介石政府だったからです。そう、きょう(七日)が(日中戦争の発端となった)盧溝橋事件(一九三七年七月七日)の起きた日(五十五周年)です。それできょう、あなた(吉田)にお目にかかるのも意味があると考えたわけですが、日本の天皇陛下が歴史的な責任をお感じになられるのであれば、その相手は蒋介石総統だったと思うのです。

近隣の思い

大皇陛下訪中問題

上

的事実として、蒋介石総統は本心から日本との戦争を避けたいと考えていたからにせよ、西安事件(二六六年)張学良が蒋介石を軟禁し、抗日に拒む事件をきっかけに、彼は彼れどもと世界の中で、私は終戦処理を概観にたつた昭和天皇が蒋介石総統

の生きておられるときに台湾を訪問してくれたい、という気持ちを保持して

た。その日本が蒋介石総統存命中(七五年逝去)に外交関係を切った(七二年)のは返す返すも残念です。今さら仕方ありません。

実は、私は大正十二年四月に摂政宮時代の昭和天皇が台湾にお見えになった「台湾実業計画」を残しまし

辜振甫氏(台湾)



とき、台湾で最大、最古の小学校である台北の太平小学校で御前授業に出た印象深い思い出があるんです。私たちは、新緑の春四月、と歌いながらお迎えしたもので、七十年近くたっても、まだはっきり覚えてます。当時の台湾の人口は三百余万、ぜひ昭和天皇には戦後の台湾(現在二千万)も見ていただきたかったという思いが強いので、日本が苦しくなる前ま

で、台湾出身者が日本人とは別の取り扱いを受けていたのは誠に残念でしたが、お国に対して申し上げたことは、こうした歴史を

生きてきた台湾の人間は日本に対する気持ちがほかの国とは違うということだと思います。私は日本人間のお

私は日本語ができますが、でもわれわれの世代が、台湾のこともお考えにならなければ、お互い分り合えるのかわ、とよく心配になることがあります。だから、相互で留学生を増やしたい。交流ということはいえ、外交関係がない以上、日本から外務大臣は無理としても、通産大臣には来てもらいたい。ウチの江丙坤さん(経済部政務次長)は、このあいだ日本に行き、通産省の敗居がやうと十九年ぶりに跨(また)ったといって大喜びしていました。日本としても近所との付き合いが良くなつてこそ「心安理得」(理にかたがって心が落ち着く)ではありませんか。私は外交はバランスだと思ひます。天皇陛下が中国大陸に行かれるとしたら、台湾の人がどういう目で見ているか、それを分るうとする気持ちが日本には必要ではないでしょうか。今

辜振甫(一・しんぼ) 一九一七年一月六日、台湾の代表的名門で、貴族院議員だった辜顯榮の五男に生まれる。台北帝大(現台湾大)卒。日華協力委員会幹事長、証券取引所会長を経て、現在工商協進会会長、台湾セメント会長、海峡交流基金会会長。

自民内空気に変化

7/4 (1/3)

天皇訪中 大使が有力者「説得」

外務省幹部は三日、天皇陛下の訪中問題に關連し、「(四日帰任する) 橋本総・駐中国大使が自民党の幹部を回って(中国側の真意などを) 説明したことが、自民党内でいい効果を生んでいる」などと述べ、慎重論の強かった自民党内の空気に変化が出ているとの認識を示した。また、宮沢首相の最終決断は、「参院選後になる」と語った。

橋本大使は、先進国首脳会議(ミュンヘン・サミット)前に、中国情勢について宮沢首相に説明するため、六月末に帰国、その後、中曽根元首相ら自民党有力者への説得を続けていた。

中国マスコミ界で

保革が激しい攻防

批判削除も

【北京2日網谷利(郎)】一日の中華社電は、人民日報の前社長、秦川・全人代(国会)常務委員が「左」は中国の改革・開放の道にとつて大きな危険となつてゐる」と保守派を激しく攻撃した演説を流したが、これを転載した二日付の人民日報はこの「危険発言」部を削除して報じた。人民日報の現社長、高狄氏は「左の王」と称されて保守派攻撃の矢面に立たされてお

り、「だから人民は『左』に反対する態度を鮮明にしなればならず、それは中国人全部が直面している重大な課題だ」と主張した。

新華社電は秦川氏について「人民日報元社長」と紹介し、四千字に及ぶ演説を付け加えている。

しかし、人民日報は「秦川委員は『右を警戒しなればいけないが、主要なのは『左』を防止すること』という鄧小平同志の講話は奥深い意味がある、と演説した」と伝えながらも、「『左』は大きな危険」との発言はカットしている。

鹿島との賠償

交渉進展せず

第二次大戦末期、秋田県花岡鉱山に強制連行された中国人が虐待、拷問を受けた「花岡事件」の賠償問題をめぐり、来日中の中国人生存者、遺族四人と使用者側の鹿島(当時鹿島組)との交渉が三日、東京・元赤坂の同本社で約一時間十五分にわたって行われた。直接交渉は一九九〇年七月以来二度目。中国側は従来、被害者一人五百万円の賠償など三項目を要求しているが、進展はなかった。

交渉後の記者会見で鹿島側は、交渉を継続する意思を示したものの「国の政策である強制連行は我々の責任外のこと。強制連行は当時、全国で行われ、『花岡』だけが突出してはいない」などと語り、賠償金支払いに消極的な考えを明らかにした。

「花岡事件」は、強制連行がもたらした象徴的事件として、検定を終えた来年度の中学教科書でも触れられている。

訪日できぬ残留孤児のため訪中し調査のため訪中し調査

7日から厚生省

厚生省は三日、心身障害などで肉親捜しの訪日調査に参加できない中国残留孤児に対する調査を実施すると発表した。同省職員が中国を訪れ、孤児から離別状況を聞き取り調査する。調査は七日・十八日と八月十九日・九月一日の二回。今

月の調査は遼寧、河北省在住の孤児四人(男女二人ずつ)が対象。八・九月の調査は新疆ウイグル自治区、内蒙古自治区、山東省の孤児三人(男性二人、女性一人)が対象。

独立運動支持の

尼僧ら17人逮捕

チベット自治区

【北京3日AP】ロンドンに本部を置く人権擁護団体「チベット情報ネットワーク」が消息筋の話として伝えたところによると、六月下旬から三日までの約二週間に、チベット自治区のラサで独立運動支持の集会やデモを開こうとしたチベット人十七人が逮捕された。

この中には、中国政府が禁じているチベット旗を求たら宮殿の近くで掲げるなどした十六歳から二十四歳までの若い尼僧十二人も含まれている。

(14)

7/9. 朝

東京外語大教授 中嶋 嶺雄



日中国交二十周年に当たって、中国側から再三要請されている天皇の訪中については、積極論、慎重論、反対論が依然として交錯している。宮沢首相も訪中推進の姿勢を示したものの、まだ決断を下してはいないようである。

そうしたなかで、どちらかというと慎重論の立場にあった「読売新聞」も、去る六月二十七日、「天皇訪中の実現へ環境作りを」と題する社説を掲げて積極論に転じ、「産経新聞」以外は、本紙を含めて積極論で足並みをそろえるにいった。

私自身は、今日の中国

の政治的・社会的環境が天皇訪中にふさわしいとは必ずしも思わないが、しかし、あへまでも親善訪問に徹するのなら、訪中自体に反対する理由はない。

問題は、天皇訪中がもつ日中関係の従来の枠組みのなかでの議論は、いられていなくて、その点ではないか。天安門事件の対外的な後遺症が依然として残っている今日の時点で、天皇訪中というかつてなかった行事が実現した場合、それは日中関係の激変だとして世界の目に映じ、ある種のアジア主義への反発と日本への猶疑心（まいぎしん）が国際的に高まりはしないかと私は懸念する。

天皇訪中の条件—開かれたアジアを

私見／直言

従って、天皇訪中の条件としては、日本が人権問題をはじめとする人類の普遍的な原理に関して、徹底したグローバリズムの立場にあることを明確にすべきである。

同時に開かれたアジアを構築する立場からすれば、天皇は中国や機が熟せば韓国のみならず、他のアジア地域にも気軽に親善訪問できるような環境を整えるべきである。

右の社説は、日中貿易や日中間の人の往来がこのところ急増していることを挙げているけれど、それならば日台関係は、貿易も人の往来も日中関係以上たという確固とした現実がある。このような現実を虚構として、いかきり、日本のアジア外交は本当のものではない。

天皇訪中が友好親善のためのものならば、次には、日本とその皇室にたいして世界でもっとも親近感をもっている台湾こそ訪問されるべきであらう。

日中国交二十年は、日台断交の二十年でもあるので、もしも中国が真に改革開放の政策をとるのなら、日本からも台湾からも要人の往来が可能になるような状況を、中国自身が積極的に支持するのではければ駄目である。

そのような開かれたアジアを構築してゆくこそ、日本外交と日中関係の今後の課題だと私は思う。

報道ぶり

(7/10)

〔配布先〕 総理秘書官、官房長官秘書官

アジア局長、竹中審議官

天皇陛下御訪中関係報道

（**7**月**10**日～ 月 日）

アジア局中国課

首相懇談の発言要旨

7/10

【ミュンヘン9日近藤憲明】宮沢首相と同行記者団との懇談内容は次の通り。
【サミット総括】サミットが西欧に偏るのを、日本はアジア問題を出そうとして今度もだいたいやった。全欧安保協力会議(CSCE)も世界政治の問題に日本を入れておかねばならぬ。わかってもらたさないと。日本の待遇を受けつつあるといふことではないが、(東京サミットへのロシア大統領招待)今は何も考えていない。一月になってからではないか。
【北方領土】政治的立場

【参院選】国連、国際平和協力や北方領土交渉、景気政治改革にも触れたい。(自民党は)善戦すると思ふ。調子は悪くない。今の内外の問題に思っていることは国民に評価されると思ふ。最後の(PKO)法案の通り方、国会のあり方を国民がどう判断するかはわからないが。
【秋の政治課題】補正予算や政治改革、環境関連の措置などだろう。(補正の)規模は言わなかったし向こうも聞きもしなかった。
【参院選後の内閣改造】あるか、どうか。この選挙はとにかく一生懸命やりましょうや。今は改造とかいふことは考えていない。今

7/10 (朝刊)
天皇訪中関係
報道振り

内閣改造は秋以降

7/10

首相
示唆 天皇訪中に改めて意欲

【ミュンヘン9日近藤憲明】先進黨首脳会議(ミュンヘン・サミット)を終えた宮沢首相は九日午前(日本時間同日午後)宿舎で、同行記者団と内政問題を中心に懇談した。参院選の見通しについて「善戦すると思ふ。調子は悪くない」と、具体的な目標議席数は明らかにしなかったものの強い自信を示した。内閣改造については「念頭にない」と、慎重な姿勢を示す一方、秋以降を改めて意欲を示唆した。天皇訪中問題では、「世論の流れをみようと思つてい

「と語り、改めて秋の天皇訪中実現に意欲を示した。(2面に要旨と関連記事)参院選での善戦の理由として、首相は、(現内閣が)内外の問題に思っていることが評価されると思ふ」と述べた。焦点として①世界の政治・経済状況と日本の立場②国連・国際協力③北方領土問題などのほか「生活大国」「景気対策」「政治改革」を挙げた。
天皇訪中問題では「話題にする」と議論になるから、控えている」と、自分から話題にしない方針で対処していることを明らかにした。
秋の臨時国会のテーマについては、補正予算、政治改革のほか、準備が間に合えば環境関連法案を提出する意向を示した。九増十減の衆院定数は正では、先の通常国会が混乱しなければ成立したとの考えを改めて示したうえで「それと同じ状態を臨時国会でも作りた」と強調した。
さらにロシアの債務返済繰り延べ問題について「近く返済期限の到来するものを繰り延べ、次に期限のくるものを繰り延べることになる」と述べ、返済繰り延べの対象が順次拡大するとの考えを示した。

ぼくは昭和十九年に朝鮮学徒志願兵として日本軍に入隊しているんだが、つい先日、この学徒志願兵出身者でつくっている「一二〇同志会」から電話があった。賠償対策委員会とかいうものをつくるので出てこいという。何のことかと思っ

近隣の思い

天皇陛下訪問問題

下

ぼくは昭和十九年に朝鮮学徒志願兵として日本軍に入隊しているんだが、つい先日、この学徒志願兵出身者でつくっている「一二〇同志会」から電話があった。賠償対策委員会とかいうものをつくるので出てこいという。何のことかと思っ

てね、「オレは昔のことはめて泥棒をやったみたいない水に流した。既に日本を許している。賠償対策委員会にひどいことをやったか、など恥ずかしい反対をやめる」と言ったんだね。き、言い出せばきりがない。もちろん、やつけた側なんだ。昔の日本がしたことに対して言いたいことはある。しかしそれよりも、やつけるような判断を持つべ

先になっても別に問題はなと思うが、日本の保守主義者の間ではもう天皇に頭を下げてははいけない、といった声もあるように聞いている。しかし平成天皇は若い人だから、アジアの未来に向けて何か思い切ったことを言われれば、やり方によっては、アジアの人々の日本に対する気持ち、あるいは対日イメージが

と、先になっても別に問題はなと思うが、日本の保守主義者の間ではもう天皇に頭を下げてははいけない、といった声もあるように聞いている。しかし平成天皇は若い人だから、アジアの未来に向けて何か思い切ったことを言われれば、やり方によっては、アジアの人々の日本に対する気持ち、あるいは対日イメージが

した。やはり日本には天皇さんについてまだあいう過去のことなど全然、知らないね。こちらでも、日本頭においた人間味のある温かい対応というか、ぼくは日本への期待が大きいだけに、日本は何かもっと大きな手を打てないものだろうか、という気がしてならない。

平成天皇については、韓国でもインテリなどの間では穏やかで平民的だとして、昔の天皇とは違うなという感じはある。しかし、韓国訪問ということではまだ機は熟していない感じがするね。先のテレビドラマのようなこともあるし、アジアに対して大きく受け止めるような温かい姿勢というものはまだ見えない状況では、中国にしろ韓国にしろ天皇訪問は単なる儀礼的なものに終わるしかない。

日本では最近、嫌韓とか厭韓とかいった声があるよ

らつと変わることもあると思っただ。

いま日本にとって最もな

皇暗殺を計画するテレビド

サ。忠清北道槐山生まれ。一九四五年終戦で日本軍を除隊し、四九年ソウル大仏文科中退。韓国日報文化部長などを経て放送作家として活躍、ラジオやテレビで多くのドラマをヒットさせてきた。代表作の長編小説「玄海灘は知っている」が最近、日本で角川書店から翻訳出版され話題になった。六十九歳。

韓雲史氏(韓国)



ぼくは放送作家として長くやってきたが、先ごろ明仁天皇の即位式を舞台に天

平成天皇については、韓国でもインテリなどの間では穏やかで平民的だとして、昔の天皇とは違うなという感じはある。しかし、韓国訪問ということではまだ機は熟していない感じがするね。先のテレビドラマのようなこともあるし、アジアに対して大きく受け止めるような温かい姿勢というものはまだ見えない状況では、中国にしろ韓国にしろ天皇訪問は単なる儀礼的なものに終わるしかない。

日本では最近、嫌韓とか厭韓とかいった声があるよ

韓雲史(ハン・ウン) 忠清北道槐山生まれ。一九四五年終戦で日本軍を除隊し、四九年ソウル大仏文科中退。韓国日報文化部長などを経て放送作家として活躍、ラジオやテレビで多くのドラマをヒットさせてきた。代表作の長編小説「玄海灘は知っている」が最近、日本で角川書店から翻訳出版され話題になった。六十九歳。

44750ALL r

r 1 EC-JAPAN-CHINA 12-07 0294

EC-JAPAN-CHINA

JAPAN EMPEROR TO VISIT CHINA IN OCTOBER - REPORT

TOKYO, July 12, Reuter - The Japanese government has decided to send Emperor Akihito to China in late October to mark the 20th anniversary of the establishment of Sino-Japanese ties, Kyodo news agency reported on Sunday.

Without any attribution, Kyodo said the emperor was expected to visit China for about six days shortly after Empress Michiko's birthday on October 20.

Beijing has invited the emperor on several occasions but the Japanese government has said only it would give the matter "serious consideration".

Some leaders of the ruling Liberal Democratic Party (LDP) fear Akihito would face criticism in Beijing over the brutal actions of the Imperial Japanese army in China in the 1930s and 1940s, notably in Nanjing (Nanking) where soldiers slaughtered many thousands of civilians, mostly women and children.

Many LDP lawmakers are said to be concerned that an imperial trip might encourage China's parliament to demand \$180 million in reparations for civilian losses during Japan's occupation of vast areas of northern and eastern China.

Nevertheless Prime Minister Kiichi Miyazawa, who is also LDP president, has said it was desirable that Akihito, son of wartime emperor Hirohito, should go to Beijing.

"It is important that (the emperor) should visit with the blessings of many people," he said.

A survey recently published by the daily Nihon Keizai Shimbun showed 70 per cent of voters questioned would approve such a visit, while only 18 per cent would oppose it.

Chinese leaders, including Communist Party chief Jian Zemin, have said the sufferings Japan inflicted on China earlier this century should not be forgotten but should serve as lessons from which to build better relations in the future.

REUTER TU MVR JB

Reut08:41 12-07

ZCZC HIA147 INS231

UU HAE HED HIB

天皇訪中

中

R-1

JAPAN-EMPEROR 7-13

EMPEROR LIKELY TO VISIT CHINA IN OCTOBER

TOKYO (UPI) -- EMPEROR AKIHITO AND EMPRESS MICHIKO ARE LIKELY TO VISIT CHINA IN OCTOBER TO COMMEMORATE THE 20TH ANNIVERSARY OF DIPLOMATIC RELATIONS BETWEEN THE TWO COUNTRIES DESPITE SEVERAL UNSETTLED DISPUTES, GOVERNMENT SOURCES TOLD THE KYODO NEWS SERVICE SUNDAY.

THE GOVERNMENT IS PLANNING TO ANNOUNCE THE ITINERARY OFFICIALLY AT THE END OF THIS MONTH FOLLOWING THE JULY 26 HOUSE OF COUNCILLORS ELECTIONS, THE SOURCES SAID.

THE IMPERIAL COUPLE ARE MOST LIKELY TO STAY IN BEIJING AND ONE OF TWO LOCAL CITIES FOR FIVE NIGHTS AND SIX DAYS BETWEEN OCT. 20, EMPRESS MICHIKO'S BIRTHDAY, AND OCTOBER 31.

THE SOURCES TOLD KYODO PRIME MINISTER KIICHI MIYAZAWA HOPES TO OBTAIN APPROVAL FROM SOME RULING LIBERAL DEMOCRATIC PARTY (LDP) MEMBERS WHO HAVE EXPRESSED CONCERN BEFORE GIVING THE GO-AHEAD FOR THE TRIP.

CHINESE COMMUNIST PARTY GENERAL SECRETARY JIANG ZEMIN INVITED EMPEROR AKIHITO AND EMPRESS MICHIKO TO VISIT CHINA THIS FALL DURING HIS FIVE-DAY VISIT TO JAPAN IN APRIL. AS EARLY AS APRIL, 1989, PREMIER LI PENG EXTEND THE ORIGINAL INVITATION.

BUT ENTHUSIASM IN SOME POLITICAL CIRCLES FOR THE PROPOSED TRIP HAS BEEN DAMPENED BY A TERRITORIAL DISPUTE OVER THE SENKAKU ISLANDS AND CHINESE GOVERNMENT SUPPORT FOR CIVILIAN CLAIMS FOR MASSIVE

THE JAPANESE FOREIGN MINISTRY HAS REPEATEDLY FILED PROTESTS AGAINST BEIJING'S ADOPTION OF A NEW LAW IN FEBRUARY LAYING CLAIM TO THE FIVE TINY ISLANDS. CHINA, JAPAN AND TAIWAN ALL CLAIM SOVEREIGNTY OVER THE UNINHABITED ISLETS IN THE EAST CHINA SEA, A RICH FISHING AREA BELIEVED TO CONTAIN OIL DEPOSITS.

THE GOVERNMENT'S POSITION IS THERE WILL BE NO OTHER CHANCE FOR THE EMPEROR TO VISIT CHINA IF HE MISSES THE ANNIVERSARY COMMEMORATIONS, THE SOURCES TOLD KYODO. THE GOVERNMENT IS ALSO CONCERNED OVER JEOPARDIZING BILATERAL RELATIONS IF JAPAN REJECTS CHINA'S INVITATION.

POPULAR SUPPORT IN JAPAN FOR THE VISIT, REFLECTED BY PUBLIC OPINION POLLS, ALSO HELPED LAY THE GROUND FOR THE TRIP, THE SOURCES SAID.

HIROSHI HASHIMOTO, JAPAN'S AMBASSADOR TO CHINA, PERSUADED LDP LEADERS TO TRY TO PERSUADE THE HARDLINERS TO TONE DOWN THEIR OPPOSITION, THE SOURCES SAID.

CHINA'S RESTRAINT OVER JAPAN'S NEW LAW SANCTIONING THE DISPATCH OF TROOPS OVERSEAS AS PART OF U.N. PEACEKEEPING MISSIONS HAS ALSO HELPED, THE SOURCES SAID.

WHILE CHINA IN THE PAST EXPRESSED CONCERN OVER THE LEGISLATION, NO HEATED RHETORIC SIMILAR TO BLASTS FROM OTHER ASIAN COUNTRIES FOLLOWED PARLIAMENTARY PASSAGE JUNE 15.

THE GOVERNMENT HAS DECIDED AGAINST A VISIT BY THE EMPEROR SEPT. 29, THE ANNIVERSARY DATE, TO AVOID CRITICISM THAT THE TRIP IS BEING USED FOR POLITICAL PURPOSES, THE SOURCES TOLD KYODO.

RY-EMKE

UPI 22152Z GMT

=U7122309

NNNN

file 天皇御中 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-035

大 政事外外儀官
大 務務 典房
次次 審審長長
臣秘官官審審長長④経④査総官 外
大大ア察括房 研
使使大審審審 長

④口対文会厚情研

察人④在儀警史オ

④報官 参報④内外

文長 審一二

④長 参政保対旅外

④長 ④④④
④④④西

④米長 審④二保地

中 参一二

④長 密西④洋

④長 西東

④長 参一二アア

④長 次総経途

④長 参経漁国

④長 経エ国

④長 安ネ二

④長 参海 審準

④長 審政国開無

④長 審調技有理

④長 審条協規

④長 審政経人

④長 審軍社

④長 科原

④長 参④④調

④長 ④安

総 番 号 R142735

主 管

月 13日

中 国 発

亜 中

平成 4年 7月 13日

本 省 着

外 務 大 臣 殿

橋 本 大 使

日中関係（へい下訪中に関する解放日報コラム）

第2641号 至急（ゆう先処理）

13日付解放日報は、てん皇へい下訪中に関する日本国内の世論結果報道を引用しつつ、「中国人民の意見も聞いてみるべきである」とするコラムを掲載している（別FAX信）ところ、その意見部分の概要以下の通り。

1. 中国人民は日本のてん皇訪中について意見がないのだろうか。私が接触した人々は、多くの異なつた意見を有しており、その中では、中国政府の日本のてん皇に対する招待に賛成し、訪中が中日友好を増進させると考える者が多数を占めていた。しかし、この種の意見はまだニュースとして反えいされてはおらず、中国人民が全て「ちんもくの子ひつじ」であるかのような印象を与える。私は、これは大変遺憾なことだと考える。中国人民は、日本軍国主義の侵害を最も深刻に受けたのだから、中日関係の一大事に対して最も発言権を有している。日本のてん皇訪中という中日関係の一大事については、中国人民の意見を聞いてみるべきである。

2. 党中央は、これまで何度も、国家の大事は人民に知らせ、人民と相談すると表明してきた。これは非常に英明な政策で、私は完全に支持する。従つて、私は日本のてん皇訪中について、世論調査を行うことを提案する。調査方式は、正式でもそうでなくても、局部的に行つてもちゅう出方式でも、政府の一機関が行つてもマスコミがばいかいしても構わない。何れにせよ、このような国家の大事については、中国人民の意見も聞いてみるべきである。

別FAX信とともにホンコンに転電し、本電のみ中国3公館に転電した。（了）

FAX信



総 番 号 R142736

月 13日

平成 4年 7月 13日



中 国 発
本 省 着

主 管

亜 中

外 務 大 臣 殿

橋 本 大 使

日中関係（へい下訪中に関する解放日報コラム）

FAX信 至急（ゆう先処理）



（以下FAX送信 PK0543-01）

往電第264/ 号別FAX信

也该听听中国人民的意见

● 钱伯城



6月25日的此间报刊,登了一条中国国际广播电台东京电,标题是“大多数日本人赞成天皇访华”,全文如下:据《读卖新闻》等日本报纸24日晚报道,大多数日本人赞成日本天皇访华,报道说,据日本政府官员24日透露,日本政府内阁日前就天皇访华问题对国民进行了一次非正式的民意调查,其结果是大约有75%的人赞成天皇访华,持反对意见的仅占5%。这位官员认为,天皇访华最好获得国民的同意,而这一条件正逐渐成熟。

从这条电文可知,这次日本官方就天皇访华举行的民意调查,除5%的反对意见,还有20%的人未表示意见,就是说这20%的人,对日本天皇访华,既不表示赞成也不表示反对,属于弃权。至于那5%的反对者,为什么反对,反对的理由又是什么,可惜电文最后没有报道,其实这倒也是中国人民很想知道的。这条电文最后报道的日本政府官员的话,“认为天皇访华最好获得国民的同意”,我觉得这也能够引起我们的注意,因为可以看出两点:一,日本政府对天皇访华一事是十分重视的(不久前宫泽首相在众议院也表态,天皇访华是“可取的”),二,日本政府对他们的国民的意见还是相当尊重的。两点并一点:日本政府制定政策,还不是由政府说了算,多少要听一点民意,日本实行议会政治,政府法案可以通过执政党多数强行通过,但允许反对意见,所以政府做什么事,多少有所顾忌。

那么,中国人民对日本天皇访华有没有意见呢?从我接触到的,就听到许多不同意见,其中赞成中国政府邀请日本天皇访华,认为这是增进中日友谊的占多数,但是这些意见,至今新闻传媒未作任何反映,好像中国人民都是一群“沉默的羔羊”。我认为这是很遗憾的,因为中国人民受日本军国主义侵略之害最深最重,因此对中日两国间的大事也最有发言权。中国人民完全分得清,日本侵略中国这笔帐应算在日本军国主义头上,中国人民愿同日本人民世代友好下去,而日本天皇访华毕竟是中日关系史上一件大事,应该听听中国人民的意见。

党中央曾多次申明,国家大事要让人民知道,要同人民商量。这是非常英明的决策,我完全拥护。因此我建议就日本天皇访华一事,举行一次民意调查。调查的方式可以是正式的,也可以是非正式的;可以是局部的,也可以是抽样的;可以由政府的某一部门来做,也可以由新闻媒介来做。总之,这样的国家大事也应该听听中国人民的意见。

宝治杯征文

上海宝钢冶金建设公司协办

7月13日付 解放日报 第2面

PK0543 1

(3)

へ
女
同
✓

共X4T283外信30S

◎天皇訪中で世論調査実施を

上海市党機関紙

〔上海13日共同〕十三日の中国共産党上海市党委機関紙、解放日報はコラム欄で、天皇訪中問題について、党・政府は世論調査を行い、中国人民の意見を聞くべきだと呼び掛けた。

コラムは「中国人民は日本軍国主義の最も大きな被害を受けた。このため中日両国間の重要問題に関して発言権がある」と主張している。

(了) ④ (11) 92 7 13 15 23

報道振り(SCMP
・大公望・文滙報

'Akihito to visit China in late October'

EMPEROR Akihito will visit China in late October to mark the 20th anniversary of the establishment of Sino-Japanese ties, according to the Kyodo news agency.

Kyodo said the emperor was expected to spend about six days on the mainland shortly after Empress Michiko's birthday on October 20.

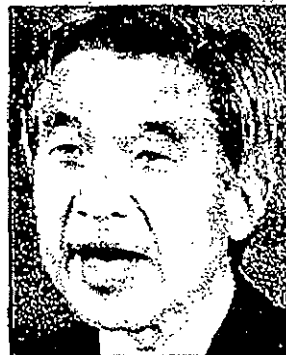
Beijing has invited the emperor on several occasions but the Japanese Government has only said it would give the matter "serious consideration".

Some leaders of the ruling Liberal Democratic Party (LDP) fear Emperor

Akihito would face criticism in Beijing over the brutal actions of the Imperial Japanese army in China in the 1930s and 1940s, notably in Nanjing where soldiers slaughtered many thousands of civilians, mostly women and children.

Many LDP lawmakers are said to be concerned that an imperial trip might encourage China's parliament to demand US\$180 million (¥14 billion) in reparations for civilian losses during Japan's occupation of vast areas of northern and eastern China.

Nevertheless, the Prime Minister Mr Kiichi Miya-



Emperor Akihito

zawa, who is also LDP president, has said it was desirable that Emperor Akihito, son of wartime emperor Hirohito, should go to Beijing.

"It is important that [the emperor] should visit with the blessings of many people," he said.

A survey recently published by the daily *Nihon Keizai Shinbun* showed 70 per cent of voters questioned would approve such a visit, while only 18 per cent would oppose it.

Chinese leaders, including Communist Party chief Mr Jiang Zemin, have said the sufferings Japan inflicted on China earlier this century should not be forgotten but should serve as lessons from which to build better relations in the future.

Reuters

42. 7. 13

SCMP

7/10

2/2

133

13 JUL 1992

大公報

共同社昨報道日政府決定

日皇十月下旬訪華

江澤民昨會見日本前外相一行

【路透社東京十二日電】共同社星期天前報道，日本政府已決定自皇明仁在十月下旬訪問中國，以紀念中日建交二十周年。

共同社沒有說出消息來源，只說預料日皇將在皇府美智子十月二十日生日後約六天訪中國。北京數度邀請日皇訪華，但日本政府只說將會「慎重考慮」此事。

執政自民黨有些領袖恐怕明仁將會因三、四十年代日本皇軍在中國殘暴行為，特別是關於南京大屠殺而受到批評。

據說多位自民黨議員擔心日皇此行，可能促使中國人大為日軍佔領中國東北廣大地區期間平民遭受的損失，要求賠償一億八

在座。全歐政協副主席谷牧會見時

千萬元。

【日本經濟新聞】最近發表民意調查，顯示百分之七十被訪選民將贊成日皇訪華，只有百分之十八表示反對。

【據新華社北京十二日電】中共中央總書記江澤民今天會見了日本前外相大來佐武郎一行，雙方進行了親切友好的交談。

江澤民對大來佐武郎一行前來中國出席第十二屆中日經濟知識交流會表示歡迎。今年是中日邦交正常化二十周年，江澤民表示，相信這次中日經濟知識交流會一定能夠促進中日兩國友好關係進一步發展。

全歐政協副主席谷牧會見時

日共同社報道 明仁十月訪華

【本報專訊】日本共同社報道，日本政府已決定，明仁天皇將於今年十月訪問中國，並參加紀念兩國恢復邦交二十周年的慶典。

共同社報道，沒有提到消息來源，只說，日皇明仁可望在皇居道子十月二十日生，日後即到中國作爲期六天的訪問。

北京已在許多場合對日皇發出邀請，但日本政府卻對此表示「要認真考慮」。

一些執政的自民黨領袖人，恐怕明仁將會面對中國的批評責難。在三、四十年代的帝國主義時期，日本「皇軍」在中國犯下了種種罪行，尤其是在南京屠殺了數十萬計的平民，其中大部分是婦孺。

許多自民黨決策者擔心日皇訪華會鼓勵中國人提出一百八十億美元的民間戰爭賠償問題。

最近一個由日本產經新聞所作的民意測驗顯示，七成的受訪者贊成日皇訪華，只有百分之十八的受訪者反對。

中國領導人，包括黨總書記江澤民都說日本侵華的苦難不應被忘記，但只應作爲締造將來更好關係的一個教訓。

共同社稱行程爲期六天

日皇傳十月底訪華

日報章調查顯示七成被訪者贊成此行

江澤民昨晤日本前外相大來佐武郎一行

【路透社東京十二日電】日本共同社周日報道，值中日建交二十周年來臨之際，日本政府作出決定，日本天皇明仁將於十月下旬訪華。共同社稱，十月二十日是皇后美智子的生日。生日後不久，天皇將開始其爲期六天的對華訪問。

北京曾在多個場合邀請日皇訪華，但得到日本政府的回答只是「將對邀請予以認真考慮」。

執政的自民黨部分領導人擔心，日皇會因皇軍三十和四十年代的侵略暴行而受到批評。南京大屠殺中，曾有數十萬中國平民被日軍殘酷殺害。

據稱另有一些自民黨的國會議員擔心，日皇的訪問有可能

激起中國人提出一項總值達一億八千萬美元賠償要求，以彌補日軍佔領華北及華東大片地區時給中國平民造成的損失。

但同屬自民黨的日本首相宮澤喜一則表示，作爲戰時裕仁天皇的繼承者，明仁有必要前往北京訪問。

宮澤說：「（天皇）訪華十分重要。」

【日本經濟新聞】最近發表的一項調查顯示，有百分之七十的受訪日本人贊成這次訪問，反對的只有百分之三十八。

【新華社北京十二日電】中共中央總書記江澤民今天會見了日本前外相大來佐武郎一行，雙方進行了親切友好的交談。江澤民對大來佐武郎一行前來中國出席第十二屆中日經濟知識交流會表示歡迎，對中日經濟知識交流會十二年來爲中日經濟知識交流作出的堅持不懈的努力表示贊賞，並預祝本屆交流會圓滿成功。今年是中日邦交正常化二十周年，江澤民表示，相信這次中日經濟知識交流會一定能促進中日兩國友好關係進一步發展。

文匯報
Top 62

分析課 中國 香港

第 1086 号	大至急 至 密 普通	取扱注意 (平)
平成 4 年 7 月 13 日 17 時 00 分 発 理事長	本文総頁数 / 頁 台北事務所長	付属 / 頁
電 報 号	電 報 第 号	電 報 号
件名 天皇訪中 (報道振り)		
往電第 1021 号に關し、		
13 日付中国時報等は、12 日付東京発ロイター電を引用し つ、日本政府は、10 月 20 日の天皇誕生日の後、6 日程度 の日程にて天皇が訪中されることを決定したが、天皇は北京訪 問時において戦争中に日本が犯した犯罪について咎められ、ま た中国国内では民間の対日賠償請求が激化することとなる旨報 じている。		
(了)		

'92 7/13

中國時報

1 西

日皇明仁十月將訪大陸

【東京十二日路透社電】據「共同社」報導，日本政府已決定，日本天皇明仁將於十月下旬訪問中國大陸，以慶祝建國二十週年。

「共同社」報導說，日本天皇明仁在他十月二十日的生日過後，將赴中國大陸訪問六天左右的時間。

部分日本自民黨領袖擔心，日本天皇一旦訪問北京，將遭到大陸各階層對日本在二次大戰期間犯下的罪行質疑。自民黨不少國會議員即表示，日本天皇訪問中國大陸，更會激起大陸民間對日本戰爭賠償一、千八百億美元的索償行動。

報道
ぶり

(7/13)

〔配布先〕 総理秘書官、官房長官秘書官

アジア局長、竹中審議官

天皇陛下御訪中関係報道

（**7**月**13**日～ 月 日）

アジア局中国課

首相
決断

10月前半に天皇訪中

7/13 T- (1)

再三の招請を重視

来月に
正式発表
北京など数日間

宮沢首相は十二日までに、日中間の懸案となっていた天皇、皇后両陛下の中国訪問について、十月に実現する方針を固め、外務省に対して中国側との調整などの準備に入るよう指示した。政府としては、両陛下訪中の時期を十月前半とする考えだ。今後、自民党内の慎重派議員らの理解を求めたうえ、八月前半に正式に発表する。両陛下訪中の日程は四、五日間程度になる見通しで、北京のほか西安、上海を訪問される予定。

【関連記事2面に】

も含め、日本国内の世論調査によると、国民の過半数が訪中を支持している。などの理由による。

自民党内の反対・慎重論も、六月下旬から今月初旬にかけて、一時帰国していた橋本駐中国大使が同党幹部間を回って説得した結果、党内の空気も微妙に変化している。

国連平和維持活動(PKO)協力法成立に対する中国側の反応が抑制的だったことも、反対論の沈静化に役立った。

こうした状況から、政府部内で判断を任されていた首相も「ゴーサイン」を出したものだ。

訪中時期が「翌年」となるのは、九月では準備

宮沢首相が両陛下の十月訪中を決断したのは①日中国交正常化二十周年の今年を逃すと、当分実現のめどが立たない②中国からの再三にわたる招請を断れば、日中関係を損なう可能性が強い③政府が実施したもの



皇后陛下



天皇陛下

7/13 東京1面
(朝刊)

期間が足りないこと、十月が立て込んでいること、なる。後半以降は中国の政治日程などを考慮したためとみられ、両陛下の外国訪問は、昨

← 一年九月から十月にかけて「ドネシアの三カ国訪問」のタイ、マレーシア、インドネシアへ来。

7/13

中国関係報道ぶり

政治的影響力
持たぬお言葉

柏市 市川 五郎
(会社員 29歳)

政府は、天皇陛下のこの秋の中国訪問の実現に向けて動き出しているようだ。もし実現すれば、陛下は公式の席で、日本の中国侵略に対する「謝罪」の意味を含んだ「お言葉」を述べられることになるのだらう。

しかしそれは、政府が用意した文字通りの意味での「外交辞令」にすぎないというところを、日中両国民は認識しておくべきである。天皇陛下の「謝罪」を「屈辱」ととらえる人々の間で、今回の訪中の動きに対して「天皇の政治利用」につながると懸念する声がある。

しかし、陛下が述べられる「お言葉」によって、政治問題が進展したり解決したりすることはありえない。「お言葉」に政治的影響力があると考えるのは禁物だ。

陛下のご外遊に際しては、旅のご無事をお祈りするのみであり、それ以上でもそれ以下でもない。

天皇の訪中は
慎重期したい

13 沼津市 植野 三郎
7/13 A (13) (無職 78歳)

天皇の訪中問題をめぐり橋本組・中国大使が最近、自民党幹部らに会い、中国の事情などを説明した結果、訪中賛成論が増えている。



おにゆり

るという。

橋本大使が説明したのは、おそらく大使が接触する中国要人の意向で、その方々は訪中を歓迎している。

しかし中国の国民は、多年にわたる日本の軍隊の反人道的な行動に対する記憶

が消えず、日本に対する反感から過激な行動を示さな

か。かつて昭和天皇の欧州で訪問の際、オランダの民衆の、ユーモアとは思えない行動に当惑した過去の事実を重ね合わせると、中国について、ご訪問が心配になる。

外務省幹部は、訪中が実現する場合、発表は今年二十六日以降になる見通しを示したというが、天皇へのご説明はもうすすんでいるのだらうか。宮内庁や内閣は、中国の政情、国民の日本に対する心情などについて、詳細にお話し申し上げただらうか。天皇訪中についての報道が少ないのは残念である。

天皇の訪中には計画に疎漏があつてはならない。慎重の上にも慎重を望む。

7/13 朝日(朝刊) 13面

実現に強い期待

7/13 T-2 (2)
天皇訪中

中国側
関係強化への思惑も

【北京12日中川陽】中国では、天皇訪中実現について正式発表はないため、報道、論評はないが、強く歓迎していることは間違いない。中国はこれまで再三にわたり訪中を要請、国交正常

化二十周年の節目にあたる今年には江沢民総書記が就任後、西側最初の訪問国として訪日、日本政府にはもちろん、天皇会見でじかに要請した経緯もあり、表現在強い期待をかけていた。この背景には天皇訪中実現を通じて日中関係をより成熟したものにし、最大目

標とする国内建設に日本の強い協力を引き出したいとする思惑があるとみられる。しかし、天皇が訪中するとされる十月には共産党第十四回大会があり、党内権力闘争の推移によっては、沈静化したかに見える尖閣諸島の領有権問題や戦争賠償問題が政争の具とされ、再燃する恐れもある。天皇訪中の実現はまだ流動的な部分が残っている。

7/13 東京(朝刊) 2面

7/13M-(7)

「天皇訪中」と中国

▲上▼

九月の日中国交正常化二十周年を前に、天皇陛下の訪中問題に関する日本政府首脳の積極発言が相次いでいる。中国のマスコミは宮沢首相の前向き発言を速報し、熱烈歓迎の姿勢を示す。二十周年の最大の焦点である天皇訪中に対し、中国の人々はどう受け止め、何を望んでいるのか。

(北京・網谷利一郎、写真も)

「美智子皇后」

こんなタイトルの本がこのほど中国で出版された。

表紙には花かごを持った皇后陛下の姿がカラー印刷され、一冊三・三元(約八十円)。日本の皇室研究家の著作を中国現代国際関係研究所の女性研究者三人が翻訳、出版した。

冒頭の出版説明には「日本の皇室を研究、理解するための良き参考書」と書かれている。昭和天皇の逝去から新皇室外交まで、天皇陛下とのロマンスも交えて皇后像が描かれている。

「皇室ものの出版はおそ

日本のイメージ

「侵略」と「繁栄」に落差

す。皇室に限らず、世界の王室など著名人の伝記、物語が人気を集めています。よくと出版関係者は説明する。

「首相よりももっとも大切な方(中国首脳)」

中国当局は天皇を元首とみなし、訪中を歓迎する。

中国の子どもたちが「天皇」

の存在を初めて知るの、教科書の中でだ。

小学校の歴史教科書で、最初に出てくる日本の記述

は「新興資本主義国家日本が、わが国に侵略戦争を發動した甲午中日戦争(日清戦争)」。柳条湖事件、盧溝橋事件と抗日戦争の苦闘

の末「一九四五年八月、中

国人民はついに日本帝国主義を打ち負かした」で締めくくる。

ある小学教師は「補充教材で南京大虐殺など、日本侵略軍の具体的な行為を教えている」と語る。

さらに中学、高校の歴史教科書になると、大化の改新で孝徳天皇が登場。明治維新は「天皇中心の新政権

軍」「日本鬼子」などの表

と総括。第二次大戦の章は当時の写真、地図入りで詳細に記述され「日本ファシストの無条件降伏」で終わる。

また国語では、小学六年用の教科書に「小さな英雄・雨来」の物語があり、日本軍の追及から抗日ゲリラを必死でかくまった少年の話がつけられている。「皇

帝」などの表

いかに

で、その専制統治が強化された

「歴史教科書の記述は四五年までの、侵略者としての日本が終わっており、現実の世界ではいきなり現在の『繁栄』のニッポンに出

くわす。これが大部分の中国人が抱く対日イメージであり、両極端化している。

このようなギャップは中国人民の天皇に対するイメージとも重なりあっている

現も。同じ六年用には日本留学中の魯迅と恩師、藤野先生の交流を描いた「仙台にて」も登場、両国人民の友情を強調している。



出版された「美智子皇后」

「中国では中日友好の路線を取り、悪いのは日本軍国主義で、日本人民に罪はない、との教育を徹底している。それでも一般民衆の感情的な問題は残っている」

八八年から二年間、西安で日本語を教え、中国の教科書を調査した関根謙・北陸大助教授は「これは体験を交え、こう指摘する。」

7/13 夕刊
各紙
報道振り
(中国課関係)

天皇ご訪中の
一部報道否定

首相

宮沢首相は十三日午前、天皇陛下のご訪中問題について政府が決断したとの一部報道について、「今、そのようなことは考えていません」と述べた。
首相官邸で記者団の質問に答えた。

また、これに関連して加藤官房長官は同日午前の記者会見で、「決定へのプロセスが進んだということはない」と述べ、方針が依然固まっていることを明らかにした。

⑤③

新 経 済 本 日

天皇訪中
実現めざし調整
官房長官会見 参院選後に結論

加藤官房長官は十三日午前の記者会見で、今秋の天皇陛下の中国訪問について「政府としては、実現の方向で考えられないか」と述べ、慎重に検討したいと述べた。記者会見で、今秋の天皇陛下の中国訪問について「政府としては、実現の方向で考えられないか」と述べ、慎重に検討したいと述べた。

天皇訪中問題
選挙後に決断

⑤③ 官房長官語る

加藤官房長官は十三日午前の記者会見で、天皇、皇后両陛下の中国訪問について「政府としては、実現の方向で考えられないか」と述べ、慎重に検討したいと述べた。

実現の方向で考えられないか、慎重に検討したいと述べた。記者会見で、今秋の天皇陛下の中国訪問について「政府としては、実現の方向で考えられないか」と述べ、慎重に検討したいと述べた。

天皇訪中は
決定してない

⑤③ 加藤官房長官

加藤官房長官は十三日午前の記者会見で、天皇訪中問題について「政府としては、実現の方向で考えられないか」と述べ、慎重に検討したいと述べた。

報道振り(英)
タイムズ紙・チャンネル4
デイリー

7/14

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-037

大 政事外外儀官
大 務務 典房
次次 典房
臣秘官官審審長長

経経査総官 外
大 大ア察括房 研
使使大審審審 長

口対文会厚情研

察人 在儀警史オ

報 参報内外
官

文 審一二
長

参政保対旅外
長

西
長

審二保地
米長

参一二
中南長

西 洋
東
長

参一二アア
近ア長

次総経途
参経漁国
経エ国
安ネ
長

参海 審準

審政国開無
審調技有理
長

審条協規
長

審政経人
審軍社
長

科原
科審

参調調
長 安

総 番 号 R143154

月 13日

平成 4年 7月 14日

英 国 発
本 省 着主 管
亜 中

外 務 大 臣 殿

北 村 大 使

てん皇訪中（報道振り）

第2869号 至急（ゆう先処理）

（以下FAX送信 LD7968-01）

L U / 1 0 0

1. 13日付当地タイムズ紙は、天皇訪中問題につき、第9面に^{人権}掲載している。
~~記事本文別FAX信~~ (記事本文別FAX信)。

日本政府は日中^{国交正常化}20周年を記念し、天皇訪中を10月下旬に行うことを決定した^事。

2. 13日チャンネル4テレビ「チャンネル4 デリリー」は天皇訪中が実現しよう
いあるを報じた。

中国に打電した。

(3)

FAX信

7

-

総番号 R143155

主管

月 13日

平成 4年 7月 14日

英 国 発
本 省 着

亜 中

外務大臣殿

北村大使

てん皇訪中（報道振り）

FAX信 至急（ゆう先処理）

（以下FAX送信 LD7969-01）

LD7969

主電第2869 特別FAX

The Times P.9 (People)
13 July 92

□

The Japanese government has decided to send Emperor Akihito to China in late October to mark the 20th anniversary of the establishment of Sino-Japanese ties.

(3)

報道ぶり(7/14)

〔配布先〕 総理秘書官、官房長官秘書官

アジア局長、竹中審議官

天皇陛下御訪中関係報道

（**7**月**14**日～ 月 日）

アジア局中国課

7/14 S(5) 「中国でも世論調査を」

上海紙が初論評

【北京十三日時事】中国・上海の日報「解放日報」は十三日、「中国人民の意見も聞くべきだ」と題する錢伯城氏署名の論評を掲載し、天皇陛下の訪中については中国人民の意見も聞くべきであり、中国でも世論調査を実施すべきだと訴えた。中国のマスコミが天皇訪中問題で論評したのは初めて。

錢氏は、日本政府が天皇訪中で世論調査を実施した結果、約七五％が訪中を支持したことなどを紹介し、日本政府が天皇の訪中を重視し、国民の意見を極めて尊重していることが分ると指摘。しかし、「中国人の方は一体どうなのか」と問い、中国政府も天皇訪中問題では世論調査を実施すべきだと強調した。

7.14 産経(朝刊) 5面

7/14 NK(2) 天皇訪中問題で中国は世論調査を

上海市の党機関紙掲載

7.14 日経(朝刊) 2面

共産党の上海市委員会機関紙「解放日報」は十三日、天皇訪中で中国政府は世論調査を実施すべきだとするコラムを掲載した。

同紙の二面に掲載されたもので、日本の世論調査で、天皇の訪中賛成が多数を占めたことを紹介する一方、「中国人には意見はないのか」と問い掛けた。

「中国人民は日本軍国主義の最も大きな被害を受けた。このため両国間の重要問題については発言権がある」と主張している。

同コラムは「筆者の知るかぎりでは訪中賛成の意見が多い。しかしこうした意見はこれまで国内のメディアに反映されていない」と、天皇訪中問題への沈黙を戒めている。

中国人民の意見も聞くべきだ

天皇訪中問題で上海紙、初論評

【北京十三日時事】中国・上海の日報「解放日報」は十三日、「中国人民の意見も聞くべきだ」と題する錢伯城氏署名の論評を掲載し、天皇陛下の訪中については中国人民の意見も聞くべき

であり、中国でも世論調査を実施すべきだと訴えた。中国のマスコミが天皇訪中問題で論評したのは初。

錢氏はこの中で、日本政府が天皇訪中で世論調査を実施した結果、約七五％が訪中を支持したことなどを紹介し、このことから日本政府が天皇の訪中を重視し、国民の意見を極めて尊重していることが分ると

指摘。しかし、「中国人の方は一体どうなのか」と問い、「この問題についてわたしの知る限り、天皇訪中招請を支持し、日中友好を促進すべきだ」という意見が多い」としながらも、「こうした意見がマスコミに反映されていない」と批判。中国政府も天皇訪中問題では世論調査を実施すべきだと強調した。

7.14 毎日(朝刊) 7面

天皇陛下の中国訪問問題は、日本政府の最終的な態度決定が注目される段階を迎えた。「訪問は必ず中日関係の発展を促進できると信じている」(江沢民・中国共産党総書記)と熱っぽく招請を重ねてきた中国は、天皇陛下訪中にとどのような思いや狙いを込めているのだろうか。(山本秀也)

7/4 S(5)

天皇陛下訪中問題

中国は……

上

「今年は中日国交正常化二十周年にあたるので、両国最高レベル指導者の相互訪問が中日関係の健全な発展を促す上で大きな役割を果たすことになる」

中国の李鵬首相は、施政方針演説にあたる全人代(国会に相当)での政府活動報告(今年三月)でこう語った。中国の公式序列でナンバーワン、現指導部を率いる江沢民総書記が訪日したの(この直後である。日本側の「最高レベル指導者」が天皇陛下を指していることは明らかだ。

「天皇」は外国からは

憲法で「象徴」と規定され、戦前と法的な位置付けが様変わりしたことを知る中国人はあまりいない。北京ではいまでも、「日本人は天皇の肖像をデザインし

てくる。が同時に、中国人には「天皇訪中」に日本人にない視点があることも確かだ。日本と中国大陸の間には長い往來の歴史があり、文化的には中国がほぼ一方的に日本に影響を与えてきたにもかかわらず、中国の地を踏んだ天皇はいない。唐の皇帝ですら、天皇高実力者、鄧小平氏の意向

いまも後引く「皇軍」

招請では保革が一致

た)バッジを付けないの「相互訪問」というわけである。東主席のように、日本人が個人崇拜の対象にしていると思わしいのだ。中国の人々が現代の日本人以上に天皇陛下を大きな存在と考えていることは間違いないだろう。をのぞけば、天皇陛下が新

7/4 産経(朝刊)5面

「天皇訪中」と中国

▲中▼

「それは日本の方で考える問題でしょう」

江沢民・中国共産党総書記は顔色も変えずに言った。四月の訪日の直前、北京駐在の日本人記者との会見で「天皇訪中の際、どのような謝罪の言葉を期待するか」と質問されたときだ。

「あくまで日中友好のための親善訪問であり、謝罪旅行のような印象を与えることは極力避けたい」との日本側の思惑が、北京に漏れ伝わっている。

昨年、天皇陛下がタイ、マレーシア、インドネシアを公式訪問した際の「お言葉」は「先の誠に不幸な戦

お言葉問題

争の惨禍」という表現にとどまったが、李鵬首相は「満足の意」を表したという。昨年八月十五日、南京で開かれた日中学生会議では、中国側から「天皇の戦争責任は過去のものである」との発言が飛び出し、日本人学生を驚かせた。中国では一学生がこのような発言を自由に

公の場で言える政治状況ではない。発言の背後には中国当局の意図が働いていたとみられている。

最近の国連平和維持活動(PKO)協力法問題に關しても中国のマスコミは

日本に求めず、礼節の国

れる。

「昭和天皇と今の天皇が連うのは分かつている。しかしわれわれは天皇制は一体とみており、やはり訪中時には誠実に謝罪をしてほしい」

民間賠償運動を続ける中国老齡科学研究センター研究員、章増さん(五五)はこう訴える。四川省重慶出身。北京大学大学院を卒業後、中国の老人問題を研究するうち「日本との戦争の犠牲

者が多いことにふちあたった」と言う。一九七二年の日中共同声明で中国政府は過去の戦争で受けた被害に対する国家としての賠償請求権を放棄した。しかし、章さんらは「政府とは別に、個人レベルでの損害賠償は請求できる」と主張し、今春の全人代(国会)に民間賠償を正式議題として討議するよう提案した。中国人被爆者の発見など、章さんらの運動の底辺は少しずつ広がっている。

今年一月、訪中した田辺社会党委員長が北京の抗日戦争記念館で講演したとき、「花岡事件」などかつて強制連行された中国人たちが陳情に現れた。同館にはポツダム宣言受諾を決めた御前会議の昭和天皇の写真が飾られていた。全人代の幹部の一人は「民間賠償にしろ、領海法(尖閣諸島問題)にしろ、日本にケンカを売るつもりはない」としたうえで「二千年にわたる中日交流の中で、天皇訪中は一度もない。中国は礼節の国だから、お客様を困らせるようなことはしない」と強調する。(北京・網谷利一郎、写真も)



北京の抗日戦争記念館に集まった強制連行者ら

報道ぶり (7/14 追く 7/15)

〔配布先〕 総理秘書官、官房長官秘書官

アジア局長、竹中審議官

天皇陛下御訪中関係報道

（7月14日～7月15日）

④

アジア局中国課

天皇陛下 ご訪中 外相「参院選後に結論」

渡辺外相は十四日午前の中国ご訪問について、今出したいとの考えを示し、閣議後の会見で、天皇陛下月末の参院選挙後に結論を述べた。

また、九月のエリツイン・ロシア大統領の訪日に向けた外相自身のロシア訪問について、「そういう（八月）月中に行う方向で検討している」と述べ、実現に強い意欲を示した。

さらに、渡辺外相は今後の政治活動について「退院は、きょうにもできるが、一番休養ができる場所は病院だ。しばらくは病院から通うことになるが、どこに住んでも、やるべきことはできる」と述べ、公務に支障がないことを強調した。

天皇ご訪中問題については、渡辺外相が今年一月の訪中の際、天皇陛下中国ご訪問を具体化させることで中国側と合意したが、その後、自民党内の反対・慎重論が顕在化したことから、結論が先送りされている。

宮沢首相は「世論の動向などを慎重に見極めたい」としているが、先月下旬、一時帰国した橋本・中国大使が自民党の有力者の説得に回るなど、ご訪中実現に向けた環境整備が進められており、渡辺外相のこの日の発言もこうした動きを踏まえてのものとみられる。

22—27日で調整

政府 来月初めにも決定

政府は参院選後に天皇、皇后両陛下の中国訪問を正式決定する予定だが、十四日までには訪中時期は十月二十日から二十七日までの間の四、五日間とする案が有力となってきた。これは日中双方の事前調整で、①天皇陛下が出席する行事として十月上旬に山形国体などがある②十月上旬にも中国共産党大会が開かれる見通しになった——ことなどから、十後半の訪中が固まってきたもので、訪問先は北京のほか西安、上海が計画されている。



皇后陛下



天皇陛下

政府は「日中国交正常化悪化を招きかねない」との二十周年の今年に訪中が実現できないとしはるく訪問する機会がなくなるうえ、再三にわたり、訪中を招請してきた中国との関係

十月二十日に皇后誕生日、十一月七日から十一日が千原殿下などの「豊かな海づり大会」(豊漁祭)などがあることに配慮した。ただ、日程の最終調整に

自民内の説得に努力

天皇訪中 首相、記者会見で表明



会見する宮沢首相 (日本記者クラブで)

宮沢首相は、すでに六月十七日の日本新聞協会の講演で天皇訪中の実現に強い意欲を示している。ただ、首相としては「話題になる」と議論になるから、話題にしない(官邸筋)として、参院選前に政治的関心事項にしない構えで、参院選後の八月初めにも、天皇陛下の訪中を正式決定し、発表したい方針だ。

宮沢首相は十四日午後、東京・内幸町の日本記者クラブで記者会見し、天皇陛下の訪中問題について、国民全体が喜んでお見送りをするといい流れができていくのが望ましい」と述べ、

全体が喜んでお見送りをすいう流れができていくのが気持ちでなければならぬ望ましい」と述べ、なお根強い反対論がある自民党内の説得に努力する考えを明らかにした。

天皇訪中については当初、自民党内に異論があったが、中曽根元首相ら党首脳幹部が賛成している。また、橋本総・駐中国大使が一時期帰国し、自民党内の説得に当たったほか、世論調査でも訪中賛成の声が強くなり、正式決定に向け環境整備が図られている。

今秋訪中の実現に向け、環境整備に努力する意向を強調した。また、参院選の争点の一つである国連平和維持活動(PKO)協力法は、国会で信任されており、選挙で信任を問う争点にはあたらなないとの認識を表明するとともに、景気対策で野党が要求している所得減税の実施には「消極的だ」と明言した。

天皇訪中問題について首相は「いさむくも、陛下に訪中願うとするのは国民

宮沢首相会見の要旨

読売 2面

【天皇訪中】いさむくも天皇陛下に訪中を願うすれば、国民全体が喜んでお見送りをするといい流れができていくのが望ましい。私が先に立ってあれこれ申すのは控えた方がいい。

7/15 朝刊

天皇陛下訪中問題 中国は……

下下

天皇陛下訪中をめぐる、日本国内に対する水面下の根回しを間接的に支援する中国共産党総書記の訪日以後、口を閉ざしてきた。中国側に招請実現への期待が高まるなかで、逆に、沈黙に入ってきたのだ。

天皇陛下訪中をめぐる自民党内の反対、慎重論の盛り上がりも指したものだ。奇妙なことに天皇陛下の訪中問題が具体化するのと歩調を合せるように、こうした議論を引き起こす問題が相次いだ。これには中国側の国内事情が絡んでいる。

まず、尖閣諸島（中国名・釣魚島）の領有立法化。北京の消息筋は、今年二月陛下訪中をめぐる議論の高まりが、かえって訪中を現実にくくするとの読み法が成立した背景について、「軍部を主体とする強

硬論が、外務省からの消極論を押し切った」と説明する。招請実現に向け日本を刺激するのを回避しようとする外務当局の意向は、釣魚島は中国固有の領土」という原則の前にかき消された形だ。中国では、国内での議論

7/15 朝刊

外交押し切る強硬論

懸案問題で日中に差も

硬論が、外務省からの消極論を押し切った」と説明する。招請実現に向け日本を刺激するのを回避しようとする外務当局の意向は、釣魚島は中国固有の領土」という原則の前にかき消された形だ。中国では、国内での議論

た一級級の地下核実験もその一つ。北京の西側軍事筋は「核兵器削減が世界の趨勢であることは中国側も承知のはず。外交的にイメーシダウンとなる大規模核実験が敢行されたのは、開発した兵器を試したいという軍人の本能的な欲求、中国国内で根強いことも事

が外交パフォーマンスより優先される傾向が強い。テノクラットの集団である外務当局は、解放軍や公安をはじめとする政権の最もハードな部分には抑えが利かない弱点をみせることがままある。

先に中国北西部で行われ、また責任を認めず

記者クラブでの記者会見で、天皇訪中問題に関連して、天皇訪中を実現させる考えがあるかどうかをただした質問に対し、「質問の意味は分かっている。十分に質問の意味は心得てお示したものだ。

天皇訪中問題
韓国に理解
求める姿勢
宮沢首相は十四日の日本

朝日新聞

「天皇訪中」と中国

下▼

7/15 M(7)

日本語弁論大会は年々盛んに

前事不忘 亡心

「中日両国は今や、かつて例のない、緊密な関係の時代に入った。戦争の悪夢はともすれば忘れ去られようとしている。しかし、私たち若者は決して歴史を忘れてはならない」

六月に北京市内で開かれた第四回日本語弁論大会で、復旦大三年生、何勇毅さん(三)は悪夢を越えてと題して訴えた。日本人留学生と一緒に南京虐殺記念館を訪れたときの体験を踏まえ「不幸な歴史を胸に刻み、反省し、それを乗り越えてこそ新しい世界が創造できる」と締めくくった。

日本語弁論大会は年々盛んになり、今年は大連大学の二十人が参加。中国のテレビで日本語講座が週四回

放映され、最高視聴者数は四千万人に達するという。「前事不忘、后事之師」(前のことを忘れず、後の戒めとする)

一九七二年

九月、北京に乗り込んで来た

た田中角栄首相(当時)と茅台(マオタイ)酒で乾杯

した周恩来首相(七六年死去)が、日中国交正常化にあたって述べた言葉だ。北京市郊外の盧溝橋にある抗日戦争記念館や南京虐殺記念館にも、この言葉が掲げられ、小、中学生らの集団見学が続けられている。

「南京」というと、日本の中国当局はすでに防弾設備

人たちは何か暗いイメージを抱くようですが、天皇訪中が実現したら、ぜひ一度いらしてください」と中国入女性ガイドは南京虐殺記念館の前で話す。五月には富士通労働組の訪中団数百人が記念館で中国側と平和集会を開くなど、邦人客の訪問も増えている。

世代・経験で異なる思い

しかし、消息筋は「もし今秋の天皇訪中が実現しても、訪問先は北京とその周辺に限られ、常識的な場所になるだろう」と推測する。

中国当局はすでに防弾設備

の送迎車を準備。北京市内の高級日本料理店では客礼喜用の料理の試作品づくりがひそかに進行中という。



正常化二十周年の交流事業はさつと二百。文化、スポーツを中心に行われ、天安門事件で急減した邦人観光客も、今年は前年比四〇％増と訪中ラッシュだ。

中国首脳として江沢民総書記、万里全人代常務委員長が今年、訪日し、中国側は天皇訪中を二十周年のハイライトにしたいと思惑だ。

皇室と親交 一方、北京で日本語を学ぶ男子学生(三)は「昭和天皇はどうしても戦争のイメージがつきまとうが、新天皇にはない。でも、ゴルバチョフ(元ソ連大統領)が来たときのような熱気は感じない」と冷めた声も。

十一億余の中国人民にとって「天皇訪中」への思いは、年代、体験によりかなり振幅がありそうだ。

(北京・網谷利一郎、写真も)

7.15日経(夕刊)1面

「天皇訪中」で
近く最終協議NK①

首相と自民首脳

自民党の綿貫幹事長は十五日、参院選応援のため訪れた仙台市内のホテルで記者会見し、天皇陛下の中国訪問問題について

参院選後の宮沢首相の決断を前に近く党首脳と首相による最終的な協議をする意向を明らかにした。さらに幹事長は「国民全部が喜んでお送りするような環境づくりをできるかどうか」と述べ、天皇訪中になお慎重論がある自民党内の調整を進める考えを示した。

幹事長は参院選後の野党との関係について「直ちに連立とか政策協定ということはないと考えている」と述べ、自公民三党による連立政権の可能性を否定した。連合候補に関して「国連平和維持活動(PKO)協力法でも賛成なのか反対なのか(対応が)出てこない。問い詰める」と(自衛隊とは別の)別組織だといふ。現実的に対応する構えが足りないのではないかと「政策のあいまいさを批判した。」

7.15朝日(夕刊)1面

天皇訪中問題
自民幹事長も
協議する意向

自民党の綿貫民輔幹事長は十五日、遊説先の仙台市内で記者会見し、天皇訪中問題について「党の総務会でも発言があるので、い

れ(参院選後に)話し合いはあると思う」と述べ、選挙後に党執行部で対応を協議する意向を示した。綿貫氏は十三日の那覇市での会見で、この問題についての判断を宮沢首相にゆだねる考えを示したが、この日の発言は、党としても訪中実現へ環境作りに取り組む姿勢を示唆したものだ。

7/15 S(夕)①

ご訪中問題は
参院選後に判断

自民幹事長

自民党の綿貫幹事長は十五日午前、遊説先の仙台市内で記者会見し、天皇、皇

7.15産経(夕刊)一面

天皇の訪中問題

参院選後に党判断

7/15 T(夕)③ 綿貫幹事長

自民党の綿貫幹事長は十

7.15 東京(夕刊)3面

五日午前、遊説先の仙台市内で記者会見し、天皇、皇太后陛下の中国訪問問題に關連して「国民全部が喜んでお送りする環境がないといけない。宮沢首相もまだ(態度を)明確にしていな

7/15(夕刊)

中国関連

報道ふり

報道
ぶり

7/15

〔配布先〕 総理秘書官、官房長官秘書官

アジア局長、竹中審議官

天皇陛下御訪中関係報道

(7月15日)

アジア局中国課

22 27日で調整

政府 来月初めにも決定

政府は参院選後に天皇、皇后両陛下の中国訪問を正式決定する予定だが、十四日までに訪中時期は十月二十一日から二十七日までの間の四、五日間とする案が有力となってきた。これは日中双方の事前調整で、①天皇陛下が出席する行事として十月初半に山形県体などがある②十月初半にも中国共産党大会が開かれる見通しになった「ことなどから、十月後半の訪中が適当なもので、訪問先は北京のほか西安、上海が計画されている。



皇后陛下



天皇陛下

宮沢首相は、すでに六月

十七日の日本新聞協会の講演で天皇訪中の実現に強い意欲を示している。ただ、首相としては「話題になる」と議論になるから、話題にしない(菅原節)として、参院選前に政治的関心事項にしない構えで、参院選後の八月初めにも、天皇陛下の訪中を正式決定し、発表したい方針だ。

天皇訪中については当初、自民党内に異論があったが、中曽根元首相ら党首脳、幹部が賛成している。また、橋本総・駐中国大使が一時帰国し、自民党内の説得に当たったほか、世論調査でも訪中賛成の声が強いなど、正式決定に向け環境整備が図られていた。

政府は「日中交正常化悪化を招きかねない」との二十周年の今年に訪中が実現できないとし、いざい訪問する機会がなくなるうえ、再三にわたり、訪中をの皇座行事として、十月三招請してきた中国との関係

十月二十日に皇居誕生日、十一月七日から十一日が平壤下などの「豊かな海づり大会(豊漁祭)」などがあることに配慮した。ただ、日程の最終調整に

自民内の説得に努力

天皇訪中
問題
首相、記者会見で表明



会見する宮沢首相
(日本記者クラブで)

宮沢首相は十四日午後、東京・内幸町の日本記者クラブで記者会見し、天皇陛下の訪中問題について「国民全体が喜んでお見送りをするといい流れができていくのが望ましい」と述べ、今秋訪中の実現に向け、環境整備に努力する意向を強調した。また、参院選の争点の一つである国連平和維持活動やKO協力法など、国会で信任を争っており、選挙で信任を争う争点にはあたらぬとの認識を表明するとともに、皇政対策で野党が要求している所得減税の実施には「消極的だ」と明言した。

天皇訪中問題について首相は、「いざいへも、陛下に訪中願うとするが、国民

全体が喜んでお見送りをする気持ちでなければならぬ。望ましい」と述べ、なお根強い「国民の合意の重要性」を指摘、その上で、「その説得に努力する考えを表明した。

宮沢首相会見の要旨

【天皇訪中中】
天皇陛下に訪中を願うという見解は、国民全体が喜んでお見送りをするといい流れができていくのが望ましい。私が先に立つてお見送りするのは控えた方がいい。

7/15 朝刊

読売2面

天皇陛下下訪中問題

中国は...

△△下

天皇陛下下訪中をめぐり、日本国内に対する水面下の中国側は今年四月の江沢民根回しを間接的に支援する・中国共産党総書記の訪日狙いがあるとみられる。以後、口を開きしてきた。銭外相の言う日本での中国側に招請実現への期待「いろいろな議論」とは、天皇陛下下訪中をめぐり、沈黙に入ったのだ。

銭其琛外相は西側マスコミとの会見で「日本ではいる議論があることは承知している。論争を起さないうちに、こちらから意見を言わない方がいい」と述べるなど、今春までの日本側を困惑させるほどの積極的な働きかけとは打って変わった変化だ。これは天皇陛下下訪中をめぐる議論の高まりが、かえって訪中を現実しにくくするとの読みと、日本側外務当局による「軍部を主体とする強

硬論が、外務畑からの消極論を押し切った」と説明する。招請実現に向け日本を刺激するのを回避しようとする外務当局寄りの声は、「釣魚島は中国固有の領土」という原則の前にかき消された形だ。

中国では、国内での議論た一歩級の地下核実験もその一つ。北京の西側軍事筋は「核兵器削減が世界の趨勢であることは中国側も承知の通り。外交的にイメーシダウンとなる大規模核実験が敢行されたのは、開発した兵器を試したいという軍人の本能的な欲求、中

に居直る中国外務省の公式対応と裏腹に、「非常に不幸なことだ」と苦り切る中国外交筋もいる。

だが、尖閣諸島の領有立本で一般的なのに対し、中国では程度の差こそあれ「解決済み」とは認めない。強硬策を支持する声は、北京市内の雑誌スタンドでは、日本兵の

複雑な問題は、日本側が適当に処理しなければならぬ」と、対日賠償を求める動きを容認する姿勢を明確にしている。北京の消息筋は「全人代の代表(国会議員に相当)の意向を軽々しく扱うと、銭外相といえども足元をすくわれかねない」と指摘する。

天皇陛下下訪中を熱烈に招請する一方で、次々と日本を刺激する中国側の姿勢は日本人には理解し難いかもしれない。しかし、尖閣問題などをめぐり「敏感度」が日中間で異なっているのに加え、外務・国内部門の力関係といった複雑な問題が絡んでいることが、天皇陛下下訪中歓迎とはおおよそ逆の雰囲気や対応を生むといえる。

が外交パフォーマンクスより優先される傾向が強い。テノククラットの集団である外務当局は、解放軍や公安をはじめとする政権の最もハードな部分には抑えが利かない弱点をみせることがままある。

先に中国北西部で行われた、天安門事件(一九八九)の三周年に起きた東京放送(TBS)特派員の殴打事件で賠償の対日請求問題も、日

また、東京特派員を経験した中国人ジャーナリストは「忘れ難い国恥」(新華出版社)といった本がよく売れている。

「中国は日本の国連平和維持活動(PKO)参加に一致する在京中国人もいる。(山本秀也)

外交押し切る強硬論

懸案問題で日中に差も

天皇訪中問題
韓国に理解
求める姿勢

宣沢首相は十四日の日本

記者クラブでの記者会見で、天皇訪中問題に関連して、天皇訪韓を実現させる考えがあるかどうかをただした質問に対し、「質問の意味は分かっている。十分国側の理解を求める姿勢をにこ質問の意味は心得てお示したものだ。

天皇陛下下訪中をめぐり、日本側が適を繰り返してきたが、PKO協力法成立後もこの枠を超えた異議表明は差し控えている。これも招請実現に向けた「沈黙」戦術の一環だが、この抑制が永続的なものという保証はない。

天皇陛下下訪中が、仮に実現しなかった場合はどうなのか。現在の日中関係の深まり、中国の経済建設における日本の必要度などから、中国側としても悪化は避けるだろうとの観測がある一方、「ある友人の招待をあなたが無視し続けたあげく断れば、二人の関係はどうなるか。また、返事がもらえないのに二度も三度も招待を口にするのでは、きないだろう。この春以来、中国側が沈黙しているのは、こういう状態だ」と、日中関係への影響を懸念する在京中国人もいる。

綿貫幹事長、依台記者会見

7/15

共A3T186政治03 ②完①

◎参院選後に党の意見を集約

天皇訪中問題で綿貫幹事長

【編注】仙台発（40行）

自民党の綿貫幹事長は十五日午前、遊説先の仙台市内で記者会見し、天皇、皇后両陛下の中国訪問

問題に関連して「国民全部が喜んでお送りする環境がないといけない。宮沢首相もまだ（態度を）明確にしていないし、十分慎重に検討していただきたい」との考えを改めて示した。その上で自民党内の今後の意見調整について「総務会でも（慎重）発言があり、気を使っている。いずれ（党三役などの）話し合いはあると思っている」と述べ、参院選後にも党としての判断を集約する意向を示唆した。

参院選後の国会運営については「先の国会での法案成立率は九五%だった。（参院の与野党）逆転下でも直ちに（自民、公明、民社党の）連立、政策協定がなければ国会が動かないとは思っていない」と述べ、選挙後に自公民三党間で政策協定などを進める必要はないとの考えを示した。

（続）④（25）92715 1244

共A3T187政治03 ②完②

◎参院選

さらに社会党との関係修復については「議院運営委員会や国会対策委員会もあり、そこで話し合えば国会は運営していける」とだけ述べた。

北方領土問題の解決に向けた党としての取り組みについては「先進国首脳会議（ミ④ン・ヘン・サミット）では政治宣言に明記された。この機会に明確な方向に向かうため最大限努力する」とし、党幹部のロシア訪問については「外相会議の行方を見て対応する」と述べるにとどまった。

（了）④（14）92715 1244

file 7.2

社会党の態度（山花書に長山形に著念見）

7/15

file 7/16

③ 天皇訪中に 7/16 慎重な姿勢 社党書記長

社会党の山花貞夫書記長は十五日、参院選遊説のため訪れた山形県天童市で記者会見し、天皇訪中問題について「一般論では反対ではないが、現状では懸念材料が残っている。準備が十分でなく、慎重な検討が必要だ」と述べた。

山花氏はその理由として「PKO法（国連平和維持活動協力法）が成立して、（訪中が）自衛隊の（カンボジアへの）派遣時期と重なるかもしれない」ことを挙げ、訪中が政治的に利用されることに懸念を表明。そのうえで「（社会党が提唱した）日本の戦争責任を明確にする国会決議の問題などが済んでいない。政府・自民党が一つ一つの努力を怠ってきたツケが回ってきている」と述べた。

7/16 山花氏 スポンサー Y②

天皇訪中、参院選後に協議
自民党の綿貫幹事長は十五日、参院選遊説先の仙台市内で記者会見し、天皇陛下の訪中問題をめぐり宮沢首相と党側との協議について、「総務会でも（首相と協議すべきだという）発言があり、いずれそういう話し合いはあるだろう」と述べ、天皇訪中問題の最終判断にあたって、参院選後に政府と党執行部が協議するとの見通しを示した。

社党は慎重姿勢
社会党の山花書記長は十五日、参院選応援で訪れた山形県天童市で記者会見し、天皇陛下の中国訪問問題について「訪中が、国連平和維持活動（PKO）での自衛隊海外派遣の時期と重なれば、周辺諸国にどう受け取られるか。政府の準備不足によるもので、もう一度慎重に検討すべきだ」と、政府の対応を批判した。

なお慎重な検討必要

7/16 ⑤
天皇陛下
ご訪中 社党書記長が会見

社会党の山花書記長は十五日、参院選応援のため訪れた山形市内で記者会見し、天皇陛下のご訪中問題に触れ、「一般論として反対ではないが、状況として懸念材料も残っている。政府も準備不足ではないか。なお慎重な検討が必要だ」と述べた。

また山花氏は、コメの市場開放問題が参院選の重要な争点になっているとの認識を示すとともに「（政府・自民党は）参院選が終わったら、新多角的貿易交渉（ウルグアイ・ラウンド）もあり、自由化に踏み切る可能性が強い」とけん制した。

同時に近く社会党としての総合的な農業政策をとりまとめる考えを示した。

天皇訪中、10月後半か

7/16 ⑥
外務省
簡宗俊
中国共産党大会にらみ

外務省筋は十五日、天も訪中は、十月後半になり、皇太后陛下下の中国訪問時期に影響を与えることとみられる第十四回中国共産党大会の開催時期について「十月前半になると聞いている」と述べ、両陛下訪中が十月後半になる可能性を示唆した。

両陛下はさらに、十月八日の山形国体開会式出席のため、同月七日から十一日まで同県を訪問される予定であり、このことからみて

天皇訪中、参院選後に党の結論を
④② 綿貫幹事長

自民党の綿貫幹事長は十五日、参院選応援のため訪れた仙台市内で記者会見し、天皇訪中問題について「党総務会でも話が出ている。いずれ話し合いはしよと思うている」と述べ、参院選後に党としての最終結論を出すための協議を行う考えを表明した。

7/16 中国関連報道ぶり

佐藤 総務会長より松山記者会見

7/16

file 7/17

東京 2面

参院選後に天皇
訪中で党内調整
丁② 自民総務会長表明
自民党の佐藤総務会長は
十六日午後、参院選遊説先
の松山市内で記者会見し、
天皇訪中問題について「私
としては反対しないが、世
論が祝福する中で行ってい
ただきたい。参院選後に政
府側も交えて、総務会で率
直な意見を聞きたい。同意
を得るように努力したい」
と述べ、今秋の訪中実現に
向けて党内調整に努める考
えを明らかにした。
また、カンボジアの国連
平和維持活動(PKO)へ
の自衛隊派遣について「ポ
ル・ポト派は武装解除して

いないが(停戦には)大卒
で合意している。対応でき
るかどうかは、現地に入っ
てから考えるべきだ」と述
べた。ポト派が武装解除し
ていないままでも派遣は可
能との認識を示したものの。

読売 2面

天皇訪中

7/17
Y②

「祝福される形で」

自民総務会長が前向き

自民党の佐藤総務会長は、
十六日、参院選遊説で訪れ
た松山市の松山空港で記者
会見し、天皇陛下の訪中問
題について「選挙終了後、
党の機関で率直な意見を聞

積極的に合意づくり

天皇陛下 自民総務会長示す
天ご訪中

7/17
S①

自民党の佐藤総務会長は
十六日、遊説先の松山市内
で記者会見し、天皇、皇后
両陛下の中国へ訪問問題に
ついて、「国民に祝福され
る形で実現させたい」と強
調、「総務会の大方の賛同
を得るような形をせひつづ
けたい」と述べ、党内合意
の形成に積極的に取り組む
考えを示した。これは宮沢
首相が天皇陛下のご訪中を
決断すれば、実現に協力す
る考えを表明したもの。

佐藤氏は、「ご訪中につ
いては反対論や慎重論もあ
るが、選挙終了後に早急に
総務会を開くよう申し入れ
もあり、政府側もまじえて
検討したい」と述べ、参院
選直後にも党内調整に着手
する意向を示した。
佐藤氏は、自民党内では
天皇陛下の中国へ訪問に慎
重姿勢とみられていた。総
務会は反対・慎重論が大勢
を占めており、佐藤氏が前
向きになったことで、今
後、この問題をめぐる党内
論議に影響を与えそうだ。

朝日 2面

7/17 A②
「反対ではないが
時間かけ環境作り」
自民・佐藤総務会長

自民党の佐藤孝行総務会
長は十六日、遊説先の松山
市で記者会見し、天皇訪中
問題について「私は反対し
ていないわけではない。歓迎
され、祝福される形で訪中
を実現させたいと思ってい
る」と述べ、天皇訪中に向
け環境作りを進めていく考
えを明らかにした。
佐藤氏は天皇訪中問題を
めぐる党内の空気について
「反対ではないが環境がま
だ整っていないので、もう
少し時間をかけ慎重に対応
すべきだ」という受けとめ方
が多い。参院選後に、総務
会など党の機関で率直な意
見を聞きながら、対応して
いきたい」と述べた。

きながら対応したい。私自
身、天皇訪中に反対ではな
い。総務会で賛否を問う問
題ではないが、大方の賛同
を得るようになりたい。歓迎
祝福される形で実現させた
い」と述べ、参院選後に、
今秋の訪中実現に向けて党
内調整を進める考えを明ら
かにした。
同党首脳が公式に、天皇
訪中に前向きな姿勢を表明
したのは初めて。政府は、
すでに、十月に天皇陛下の
訪中を実現させる方針を固
め、来月初めにも正式決定
する。ことにしているが、こ
れまで、党総務の意見聴取
などを通じて慎重な考えを
示していた佐藤氏が、前向
きの姿勢に転じたことが、
参院選後の党内調整に
弾みがつくものとみられ
る。

7/17 朝刊

中国関係報道振り

党内合意へ努力

天皇訪中
NK ②
自民総務会長が表明

自民党の佐藤総務会長は十六日、松山市内で記者会見し、天皇陛下の訪中問題に際し「訪中される場合は国民に理解され、祝福されるような形で表現されたい」と思っている。参院選終了後、政府も交えて総務会や党内の機関で率直な意見を聞きながら対応していきたい」と述べ、党内閣改造については「参院選との見方を示した。

現の前提となる党内の合意づくりに努力していく考えを示した。同時に「私は反対しているものではない。総務会の大方の賛同を得るような形をつくりたい」と思っている」と強調。首相が天皇訪中を決断した場合に協力する姿勢を明確にした。

内閣改造については「参院選との見方を示した。

対中直接交流へ 「兩岸条例」可決

立法院(国会に相当)は十六日夜、人的な交流促進による中台関係改善への枠組みを定めた「兩岸関係条例」を可決した。中国との直航便や中国共産党員の台湾訪問などを解禁できる権限は原則として行政院(内閣に相当)に与えられることになった。台湾当局は現在、対中関係では第三国・地域を経由した間接的な交流しか認めていないが、同条例の可決は直接交流への布石となる。

同条例の正式名称は「台湾地区と大陸地区の人民関係条例」で、九十六項目からなる。李登輝総統が近く公布、正式に施行される見通し。台湾が中国との人的な交流に伴う刑事、民事上の問題から経済的な問題までを法律の形で明文化したのは今回が初めて。

焦点となっていた中台間の直接貿易、直航便を解禁できる権限は基本的に行政院が握り、その後、立法院の決議が必要になると規定している。これまでは直接交流解禁の権限がどこに属するのかが必ずしも明確ではなかった。

中国外相、ニジエール極秘訪問

台湾の中央通信社によると、六考を促すが最大の狙いとみられて月末から揚子江・国家主席に随員している。ニジエールでは台湾との復交に對の錢其琛外相が今月十三日、予定をし国内の親中国派などが強硬に抗議を呈する。六考を促すが最大の狙いとみられて月末から揚子江・国家主席に随員している。ニジエールでは台湾との復交に對の錢其琛外相が今月十三日、予定をし国内の親中国派などが強硬に抗議を呈する。

台湾との復交の促進を、台湾当局は「最後の反響」とみて動向を見守る方針だが、ニジエールが台湾との復交を撤回した場合、調印時に約束した経済援助などは一切実施しないといふけん制している。台湾はすでに外交部(外務省に相当)幹部をニジエールに派遣、大使館の設立準備を進めている。(香港ニジエール記者)

幹部の「副業」を禁止 保守派の批判に先手

【北京十六日ニジエール記者】中国共産党は、このほど、党や國務院各機関に通達した。改革の加速に伴って幹部の汚職、腐敗も増え、これを禁止する方針を決め、える傾向にあり、これが保守派の高級幹部が企業経営に参画する

内閣部での改革、開放を促した党中央四号文を補足する形で通達したという。改革加速という最高実力者、鄧小平氏の指示で、中国は再び「南派優先」ムードが強まっているが、一方で汚職が広がる傾向も出ている。党指導部としては、こうした幹部の汚職や腐敗効果は上がっていない。

台湾の企業界からは直接交流を解禁するよう求める声が強まっている。台湾当局はいまのところ、「直接交流を解禁するのは時機尚早」(大陸委員会)との立場を変えていないが、武力行使の放棄などの条件を中国政府が受け入れれば、直ちに直接交流を認める枠組みができあがったことになる。

file 7-2
7/17 朝刊
中国関連報道振り
(追加)

△一部変更後再送▽

16 AB 13

J 6 A 3 5 9

AB 13

(政) 142

45行

(メモ⑦)

★◎首相決断するなら協力

Ⅱ天皇訪中問題で佐藤総務会長Ⅱ

自民党の佐藤総務会長は十六日午後、遊説先の松山市内で記者会見し、日中両国間の懸案となっている天皇陛下の訪中問題について、「総務会の大方の賛同を得るような形をぜひつくりたい」として、党内の合意が条件になるとの考えを示しながらも、「祝福される形で実現させたいと思っている」と強調した。これは、宮沢首相が天皇訪中を決断した場合には、実現に協力するとの考えを表明したものだ。

また、同氏は「総務会などの党機関で率直な意見を聞きながら対応していきたい」とも述べ、参院選終了後に天皇訪中実現に向けた党内調整を行う意向を示した。

天皇訪中については、総務会では反対、慎重論が大勢を占めており、党内では佐藤氏も慎重姿勢との受け止め方がこれまで一般的だった。佐藤氏が天皇訪中に前向きな姿勢を示したことは、今後の党内論議にも影響を与えそうだ。

佐藤氏は天皇訪中をめぐる党内状況について「もう少し時間をかけて慎重に対応すべきだとの考えの方が結構多いのではないか」と述べ、依然、反対、慎重論が多いとの認識を明らかにした。

佐藤氏は同問題に関する自身の考え方について「私は訪中に反対しているわけではない」と言明。ただ、「訪中される場合は国民の理解と祝福のうえで訪中できるよう、自民党の大方の同意を得る努力をしなければならぬ」と強調した。

file 天

(了)

(メモ⑦)



◎「祝福される形で実現させたい」

Ⅱ天皇訪中問題で佐藤総務会長Ⅱ

自民党の佐藤総務会長は十六日午後、遊説先の松山市内で記者会見し、日中両国間の懸案となっている天皇陛下の訪中問題について、「総務会の大方の賛同を得るような形をぜひつくりたい」として、党内の合意が条件になるとの考えを示しながらも、「祝福される形で実現させたい」と思っている」と強調した。これは、宮沢首相が天皇訪中を決断した場合には、実現に協力するとの考えを表明したものだ。

また、同氏は「総務会などの党機関で率直な意見を聞きながら対応していきたい」とも述べ、参院選終了後に天皇訪中実現に向けた党内調整を行う意向を示した。

天皇訪中については、総務会では反対、慎重論が大勢を占めており、党内では佐藤氏も慎重姿勢との受け止め方がこれまで一般的だった。佐藤氏が天皇訪中に前向きな姿勢を示したことは、今後の党内論議にも影響を与えそうだ。

佐藤氏は天皇訪中をめぐる党内状況について「もう少し時間をかけて慎重に対応すべきだとの考えの方が結構多いのではないか」と述べ、依然、反対、慎重論が多いとの認識を明らかにした。

佐藤氏は同問題に関する自身の考え方について「私は訪中に反対しているわけではない」と言明。ただ、「訪中される場合は国民の理解と祝福のうえで訪中できるよう、自民党の大方の同意を得る努力をしなければならない」と強調した。

(了)

file 73

File 22

16AB20

J6A395

AB20

政

176

34行

(メモ⑦)

「AB13「首相決断」関連・解説」

◎「10月22日訪中」に動きだす

自民党の佐藤総務会長が十六日、懸案の天皇訪中問題について、これまで訪中反対派の「が城」的存在だった同党総務会の意見取りまとめに積極姿勢を示したことで、十月下旬の天皇訪中は実現に向け大きく動きだした。

佐藤氏は同日、遊説先での記者会見で「総務会の大方の賛同を得るような形でぜひつくりたい」と述べ、従来の慎重姿勢から大きく踏み込み、自ら天皇訪中の環境づくりを行う方針を鮮明にした。これにより、藤尾元文相ら訪中に最も強く反対していた同党総務会が条件付きにしろ訪中賛成に転じれば、天皇訪中は既に事務レベルで合意済みの「十月二十二日から二十七日」の日程で両国間の最終調整が図られるものとみられる。

しかし、党内の反対派は依然として訪中に同意しないとの態度を崩していない。このため、参院選後に①宮沢首相と党四役との協議②最高顧問会議③政府与党首脳会議—などの手続きを経て、八月初旬の臨時国会召集時に訪中の正式発表までこぎつけられるかどうか、なお予断を許さない。

(了)

耶注

(報告人)

天皇故事 (週刊或入誌上野漢)

92. 7. 16

徐致，泉

局長の付の大河上からの連絡。

1. 週刊ホストが、天皇訪中問題の純正対談を企画しており、最近、早稲校三化より来週(月)に高野孝に

会，语之同，至，音，连接如左，在。（现在调整中。）

$$\underbrace{\text{外音} \times \text{音} \rightarrow \text{音}}_{\text{音} \rightarrow \text{音}}$$

2. 社説は 三藩字との間に引かれも。 三藩字
は反社論、早改裁三は整本論。

3. $\beta_1 = 2021$. 又, β_1 的 2 基格 1 是

A

17th Nov 2019

c)

 (1477)

(1) 報道に關する必要要領

(對外應答要領)

天皇陛下御訪中（政府決定報道）

92.7.13

中國課

問． 13日付東京新聞（朝刊）は、宮沢総理が天皇陛下の御訪中を10月前半に実現する方針を固め、外務省に指示した旨報じているところ、事実関係如何。

答、日中兩國の国民の祝福を得て、天皇・皇后兩陛下が中国を御訪問されることは、日中兩國及び国民の一層の友好關係の發展にとり、意義深いことと考えるが、本件については、中国側の累次招請を踏まえ、現在政府内で真剣に検討しているところである。従って、ご指摘の報道は全くの推測記事である。

(了)

(対外応答要領)

天皇陛下御訪中（政府決定報道）

92.7.13

中国課

問．13日付東京新聞（朝刊）は、宮沢総理が天皇陛下の御訪中を10月前半に実現する方針を固め、外務省に指示した旨報じているところ、事実関係如何。

答．日中両国の国民の祝福を得て、天皇・皇后両陛下が中国を御訪問されることは、日中両国及び国民の一層の友好関係の発展にとり、意義深いことと考えるが、本件については、中国側の累次招請を踏まえ、現在政府内で真剣に検討しているところである。従って、ご指摘の報道は全くの推測記事である。

(了)

首相
決断

10月前半に天皇訪中

再三の招請を重視

来月に
正式発表
北京など数日間

宮沢首相は十二日までに、日中間の懸案となっていた天皇、皇后両陛下の中国訪問について、十月に実現する方針を固め、外務省に対して中国側との調整などの準備に入るよう指示した。政府としては、両陛下訪中の時期を十月上旬とする考えだ。今後、自民党内の慎重派議員らの理解を求めたうえ、八月上旬に正式に発表する。両陛下訪中の日程は四、五日間程度になる見通しで、北京のほか西安、上海を訪問される予定。

【関連記事2面に】

も含め、日本国内の世論調査によると、国民の過半数が訪中を支持している——などの理由による。

自民党内の反対・慎重論も、六月下旬から今月初旬にかけて、一時帰国していた橋本駐中国大使が同党幹部間を回って説得した結果、党内の空気が微妙に変化している。

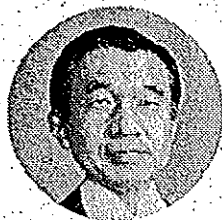
国連平和維持活動(PKO)協力法成立に対する中国側の反応が抑制的だったことも、反対論の沈静化に役立った。

こうした状況から、政府内部で判断を任されていた首相も「ゴーサイン」を出したものだ。

訪中時期は「十月前半」となるの(九月で準備



皇后陛下



天皇陛下

7月13日 東京新聞 (朝刊2面)

天皇訪中

実現に強い期待

中国側
関係強化への思惑も

「北京12日中川陽」中国では、天皇訪中実現について正式発表はないため、報道・論評はないが、強く歓迎していることは間違いない。

中国はこれまで再三にわたり訪中を要請、国交正常化の強い期待をかけていた。この背景には天皇訪中実現を通じて日中間関係をより成熟したものにし、最大目標とする国内建設に日本の強い協力を引き出したいとする思惑があるとみられる。

しかし、天皇が訪中するとされる十月には共産党第十四回大会があり、党内権力闘争の推移によっては、沈静化したかに見える尖閣諸島の領有権問題や戦争賠償問題が政争の具とされ、再燃する恐れもある。天皇訪中の実現はまだ流動的な部分が残っている。

期間が足りないこと、十月が立て込んでいること、なる。後半以降は中国の政治日程などを考慮したためとみられ、両陛下の外国訪問は、昨年九月から十月にかけて「ドネシアの三方国訪問」のタイ、マレーシア、インドネシア、シンガポール、来。

政府、最終方針固める

「良好な対中関係」を維持

【編注】朝刊メモ(1)

独自タネ(75行)

政府は十二日までに、天皇、皇后両陛下の訪中について、日中国交正常化二十周年の今秋に実現する方針を最終的に固めた。宮沢首相は引き続き世論の動向を見極めたいとしており、自民党の慎重派議員らの理解を得た上、参院選後の今月末か、遅くとも八月中旬には正式発表にこぎつきたい意向だ。

訪中の具体的日程は、十月二十日の皇后陛下誕生日の後、二十一日以降同月末にかけての期間が有力視されており、五泊六日程度になる見通し。北京のほか、地方都市一、二カ所のご訪問も予定している。

政府が訪中を実現したいとする背景には①二十周年の今回を逃がすと今後、当分実現のめどが立たない②中国からの再三再四にわたる招請を断れば、良好な日中関係に悪影響を及ぼしかねない③世論調査で国民の大半が訪中を支持している—などの要因がある。

(続) ④ (25) 92 7 12 17 8

政府が懸念していた自民党内の反対・慎重論については、先月末から今月初めにかけて一時帰国した橋本駐中国大使が自民党幹部の間を回って粘り強く説得した結果「党内の空気もだいふ変わつた」(政府筋)という状況がある。さらに、国連平和維持活動(PKO)協力法成立に対する中国の反応が抑制的だ④たこともあり、反対派の声も一部を除き沈静化した。

日中国交正常化二十周年は九月二十九日に迎えるが、政府はこの時期に訪問すると、むしろ天皇の政治的利用との批判を招きかねないとの判断から、日程を十月に絞つた。下旬が有力だが中旬に繰り上げる可能性も残されている。両陛下の外国ご訪問は昨年九月から十月にかけてのタイ、マレーシア、インドネシアの三カ国以来。

(続) ④ (22) 92 7 12 17 8

政府は両国の準備、警備の都合上「少なくとも二カ月前には決めておきたい」(政府筋)との判断に加えて、日本側が態度を延々と保留することは非礼になるため、正式発表のタイムリミットの八月中旬としている。

中国による両陛下の訪中招請は、一九八九年四月に李鵬首相が来日した際、直接天皇陛下に要請したほか、以後も度重ねて行われた。政府は当初、四月に来日した江沢民・中国共産党総書記に受諾を事実上表明する方針だ④た。しかし二月下旬に中国政府が日本の実効支配下にある尖閣諸島を中国固有の領土と明記した領海法を公布、発効したことや、戦時中の日本の行為に対する民間賠償要求の動き、PKO法案審議への中国政府の批判などで、自民党内に反発が強く出て、政府も最終決断を見合わせてきた。

(了) ④ (23) 92 7 12 17 9

共X3T252外信22 ③完①

◎天皇訪問、中国は歓迎

経済援助呼び込みにも期待

【編注】朝刊メモ（一）の関連

（50行）

【北京12日共同】日本政府が天皇、皇后両陛下の今秋訪中の最終方針を固めたことについて中国は、友好関係強化を望む立場から強く歓迎しているのは間違いない。

最高実力者、鄧小平氏の大号令で経済建設に重点を置く中国は、一層の関係強化で日本からより多くの経済援助や融資、投資を引き出したいところだ。

国連平和維持活動（PKO）協力法や従軍慰安婦問題などで対日批判を抑制してきたのも、国交正常化二十周年の今年、天皇を招請し日中の友好を高らかに歌い上げる「セレモニー」を実現したい、との考えがある②たためとみられる。

（続）④（19）92 7 12 19 47

共X3T253外信22 ③完②

◎天皇

十月以降には第十四回共産党大会も予定されており、天皇陛下から日中戦争について何らかの「謝罪の言葉」を引き出すことは、国民に対する党の権威付けの絶好の機会ともなる。

中国政府は最近、慰安婦や強制労働者問題については補償措置を含む日本側の善処を求める一方、市民レベルの民間賠償要求運動については「容認するが支持しない立場」を次第に鮮明にしてきた。日本への「圧力」と「友情」を微妙に使い分ける中国の現実的な外交姿勢を示しているといえよう。

（続）④（15）92 7 12 19 47

共X3T254外信22 ③完③

◎天皇

両国間には①尖閣列島（中国名：釣魚諸島）の領有権②旧日本軍が中国に残した大量の化学兵器の処理—など、未解決の問題は少なくない。

天皇訪中は戦後四十七年に一応の区切りをつけるセレモニーとはなろうが、こうした問題については別個に具体的な解決策を見つけていかざるを得ないだろう。

（了）④（10）92 7 12 19 47

取掛注意

※総第72536号004公館宛

平成 10 年 7 月 14 日 日 秒 受付

電 信 案

電信課長

大臣
秘書官
政務次官
事務次官
外務審議官
外務審議官
官房長

主管

アジア局長
審議官
中国課長
首席事務官

※発電係

1 2

起案

平成 4 年 7 月 13 日

起案者

電話番号

泉

2426

協議先

(※印欄内は電信課記入)

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

(八〇字)

在 中 国

大使
総領事

あて

外務大臣 発

件名

天皇陛下御訪中 (対外応答要領)

主管・文書記号

亜 中

※電番

第1933号

大至急

至急

普通

(優先処理)

パターン・コード

転電

転送

転報

在 香港、米、英

※転電番号

合第13367号

大使

総領事あて

大至急

至急

普通

(優先処理)

13日付東京新聞(朝刊)等は、政府が皇

陛下御訪中を最終的に決めた旨報じていると

こと、右に周知対外応答要領と別FAX信する。

別FAX信と共に香港、米、英に転電した。

(3)

※

07253680

優先

TYUUGOKU

等004 漢

GB-1

外 務 省

回覧番号

1053

(昭和六三・六・三十改正)

GM:0773-

FAX信

P5

取扱注意

※総第72539号004公館宛 GM0773-05



平成

※平成

7月

14分

日
秒受付

電信案

Y-Y

電信課長

大臣

秘書官

政務次官

事務次官

外務審議官

外務審議官

官房長

主管

アジア局長

審議官

中国課長

首席事務官

※発電係

1

2

起案

平成4年7月13日

起案者

電話番号

泉

2426

(※印欄内は電信課記入)

協議先

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

(八〇字)

在

中国

大使
総領事

あて

外務大臣 発

件名

天皇陛下御訪中 (海外応答要領)

主管・文書記号

臣 中

※電番

FAX信

大至急

至急

普通

(優先処理)

パターン・コード



転電

転送

転報

在

香港、米、英

※転電番号

FAX信

大使・総領事あて

大至急

至急

普通 (優先処理)

往電亜中第1933号別FAX信。

※

07253922

優先

TYUUGOKU

等004 F信

GB-1

外務省

回覧番号

(昭和六三・六・三十改正)

(対外応答要領)

天皇陛下御訪中（政府決定報道）

92.7.13

中国課

問. 13日付東京新聞（朝刊）は、宮沢総理が天皇陛下の御訪中を10月前半に実現する方針を固め、外務省に指示した旨報じているところ、事実関係如何。

答. 日中両国の国民の祝福を得て、天皇・皇后両陛下が中国を御訪問されることは、日中両国及び国民の一層の友好関係の発展にとり、意義深いことと考えるが、本件については、中国側の累次招請を踏まえ、現在政府内で真剣に検討しているところである。従って、ご指摘の報道は全くの推測記事である。

(了)

平成4年7月13日 東京新聞 (朝刊1面)

首相
決断

10月前半に天皇訪中

再三の招請を重視

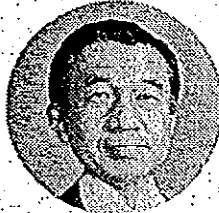
来月に
正式発表
北京など数日間

宮沢首相は十二日までに、日中間の懸案となっていた天皇、皇后両陛下の中国訪問について、十月に実現する方針を固め、外務省に対して中国側との調整などの準備に入るよう指示した。政府としては、両陛下訪中の時期を十月上旬とする考えだ。今後、自民党内の慎重派議員らの理解を求めたうえ、八月上旬に正式に発表する。両陛下訪中の日程は四、五日間程度になる見通しで、北京のほか西安、上海を訪問される予定。

【関連記事2面に】



皇后陛下



天皇陛下

宮沢首相が両陛下の十月訪中を決断したのは、日中国交正常化二十周年の今年を逃すと、当分実現のめどが立たない中国からの再三にわたる招請を断れば、日中関係を損なう可能性が強い。政府が実施したものとなるのは、九月で

も含め、日本国内の世論調査によると、国民の過半数が訪中を支持している——などの理由による。

自民党内の反対・慎重論も、六月下旬から今月初旬にかけて、一時沸騰していた。橋本駐中国大使が同党幹部間を回って説得した結果、党内の空気も微妙に変化している。

国連平和維持活動(PK O)協力法成立に対する中国側の反応が抑制的だったことも、反対論の沈静化に役立った。

こうした状況から、政府内部で判断を任されていた首相も「グーサイン」を出したものだ。

訪中時「十月一日」

7月13日 東京新聞 (朝刊2面)

天皇訪中

実現に強い期待

中国側
関係強化への思惑も

【北京12日中川陽】中国は二十周年の節目にあたるでは、天皇訪中実現について正式発表はないため、報道・論評はないが、強く歓迎していることは間違いない。

中国はこれまで再三にわたる訪中を要請、国交正常化二十周年の節目にあたる今年には江沢民総書記が就任して正式発表はないため、報道・論評はないが、強く歓迎していることは間違いない。

中国はこれまで再三にわたる訪中を要請、国交正常化二十周年の節目にあたる今年には江沢民総書記が就任して正式発表はないため、報道・論評はないが、強く歓迎していることは間違いない。

期間が足りないこと、十月が立て込んでいること、な

後半以降は中国の政治日程などを考慮したためとみられ、両陛下の外国訪問は、昨

年九月から十月にかけて「ドネシアの三カ国訪問」のタイ、マレーシア、インドネシアの三カ国訪問以

標とする国内建設に日本の強い協力を引き出したという思惑があるとみられる。

しかし、天皇が訪中するとされる十月には共産党第十四回大会があり、党内権力闘争の推移によっては、沈静化したかに見える尖閣諸島の領有権問題や戦争賠償問題が政争の具とされ、再燃する恐れもある。天皇訪中の実現はまだ流動的な部分が残っている。

共A3T175政治04S③完①
◎天皇訪中、10月下旬実現へ

政府、最終方針固める

「良好な対中関係」を維持

〔編注〕朝刊メモ(1)

独自ダネ(75行)

政府は十二日までに、天皇、皇后両陛下の訪中について、日中国交正常化二十周年の今秋に実現する方針を最終的に固めた。宮沢首相は引き続き世論の動向を見極めたいとしており、自民党の慎重派議員らの理解を得た上、参院選後の今月末か、遅くとも八月中旬には正式発表にこぎつきたい意向だ。

訪中の具体的日程は、十月二十日の皇后陛下誕生日の後、二十一日以降同月末にかけての期間が有力視されており、五泊六日程度になる見通し。北京のほか、地方都市一、二カ所のご訪問も予定している。

政府が訪中を実現したいとする背景には①二十周年の今回を逃がすと今後、当分実現のめどが立たない②中国からの再三再四にわたる招請を断れば、良好な日中関係に悪影響を及ぼしかねない③世論調査で国民の大半が訪中を支持している—などの要因がある。

(続) ⑩ (25) 92 7 12 17 8

共A3T176政治04S③完②
◎天皇

政府が懸念していた自民党内の反対・慎重論については、先月末から今月初めにかけて一時帰国した橋本駐中国大使が自民党幹部の間を回って粘り強く説得した結果「党内の空気もだいぶ変わつた」(政府筋)という状況がある。さらに、国連平和維持活動(PKO)協力法成立に対する中国の反応が抑制的だ④たこともあり、反対派の声も一部を除き沈静化した。

日中国交正常化二十周年は九月二十九日に迎えるが、政府はこの時期に訪問すると、むしろ天皇の政治的利用との批判を招きかねないとの判断から、日程を十月に絞つた。下旬が有力だが中旬に繰り上がる可能性も残されている。両陛下の外国ご訪問は昨年九月から十月にかけてのタイ、マレーシア、インドネシアの三カ国以来。

(続) ⑩ (22) 92 7 12 17 8

共A3T177政治04S③完③
◎天皇

政府は両国の準備、警備の都合上「少なくとも二カ月前には決めておきたい」(政府筋)との判断に加えて、日本側が態度を延々と保留することは非礼になるため、正式発表のタイムリミットを八月中旬としている。

中国による両陛下の訪中招請は、一九八九年四月に李鵬首相が来日した際、直接天皇陛下に要請したほか、以後も度重ねて行われた。政府は当初、四月に来日した江沢民・中国共産党総書記に受諾を事実上表明する方針だ④た。しかし二月下旬に中国政府が日本の実効支配下にある尖閣諸島を中国固有の領土と明記した領海法を公布、発効したことや、戦時中の日本の行為に対する民間賠償要求の動き、PKO法案審議への中国政府の批判などで、自民党内に反発が強く出て、政府も最終決断を見合わせてきた。

(了) ⑩ (23) 92 7 12 17 9

共X3T252外信22 ③完①

◎天皇訪問、中国は歓迎

経済援助呼び込みにも期待

〔編注〕朝刊メモ(1)の関連

(50行)

〔北京12日共同〕日本政府が天皇、皇后両陛下の今秋訪中の最終方針を固めたことについて中国は、友好関係強化を望む立場から強く歓迎しているのは間違いない。

最高実力者、鄧小平氏の大号令で経済建設に重点を置く中国は、一層の関係強化で日本からより多くの経済援助や融資、投資を引き出したいところだ。

国連平和維持活動(PKO)協力法や従軍慰安婦問題などで対日批判を抑制してきたのも、国交正常化二十周年の今年、天皇を招請し日中の友好を高らかに歌い上げる「セレモニー」を実現したい、との考えがあらためとみられる。

(続) ④ (19) 92 7 12 19 47

共X3T253外信22 ③完②

◎天皇

十月以降には第十四回共産党大会も予定されており、天皇陛下から日中戦争について何らかの「謝罪の言葉」を引き出すことは、国民に対する党の権威付けの絶好の機会ともなる。

中国政府は最近、慰安婦や強制労働者問題については補償措置を含む日本側の善処を求める一方、市民レベルの民間賠償要求運動については「容認するが支持しない立場」を次第に鮮明にしてきた。日本への「圧力」と「友情」を微妙に使い分ける中国の現実的な外交姿勢を示しているといえよう。

(続) ④ (15) 92 7 12 19 47

共X3T254外信22 ③完③

◎天皇

両国間には①尖閣列島(中国名「釣魚諸島」)の領有権②旧日本軍が中国に残した大量の化学兵器の処理など、未解決の問題は少なくない。

天皇訪中は戦後四十七年に一応の区切りをつけるセレモニーとはなるが、こうした問題については別個に具体的な解決策を見つけていかざるを得ないだろう。

(了) ④ (10) 92 7 12 19 47

C31

12. 右翼の動向、その対策



の街宜活動

7/2.

取扱注意

報告・供覧

大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アジア局長 審議官 参事官 中国課長 地域調整官 首席事務官	<table><tr><th colspan="4">保存期間</th></tr><tr><td>1類 (永久)</td><td>2類 (10年)</td><td>3類 (5年)</td><td>4類 (1年)</td></tr><tr><td>起案</td><td>平成 4 年 7 月 2 日</td><td></td><td></td></tr><tr><td>完結</td><td>平成 年 月 日</td><td></td><td></td></tr><tr><td>起案者</td><td>電話番号</td><td></td><td></td></tr><tr><td>泉</td><td>2426</td><td></td><td></td></tr></table>	保存期間				1類 (永久)	2類 (10年)	3類 (5年)	4類 (1年)	起案	平成 4 年 7 月 2 日			完結	平成 年 月 日			起案者	電話番号			泉	2426		
保存期間																										
1類 (永久)	2類 (10年)	3類 (5年)	4類 (1年)																							
起案	平成 4 年 7 月 2 日																									
完結	平成 年 月 日																									
起案者	電話番号																									
泉	2426																									
回覧先																										
下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。																										
件名 天皇訪中石翼に関する石翼衛官活動 ()																										
(別紙の要点等) 2日、外務本省前で行われた石翼 への 抗議活動。 石翼大佐ほか、橋本大使、谷野アジア局長、 中国課長と各指し批判。 (なお2日より、警察庁との接点の結果、橋本大使はSPとリ 26時間の警備体制をとることになった。)																										
GA-7 (昭和63.4.1改正)	外務省 回覧番号																									

(報告メモ)

天皇陛下御訪中 (右翼団体の動き)

92. 7. 2

中国課

2日、右翼団体 [] が、天皇陛下の御訪中問題を巡り、外務本省前で街頭宣伝活動を行ったところ、断片的なるも、注目すべき点以下の通り。

1. 天皇御訪中は今は時期にあらず。陛下の御訪中自体には、自分たち ([]) は反対ではないが、中共は目下不安定であり、陛下が行かれる状況にない。
2. 橋本大使は帰国して、陛下の御訪中に向け色々動きまわり、各方面に働きかけているが、ケシカラン。
3. 天皇陛下御訪中を推進する渡辺外務大臣、谷野アジア局長、中国課長を糾弾する。
4. 天皇訪中を画策する者たちの真の目的は、対中援助を増大させ、そのキック・バックを得ること。

また、2日朝、西山警察庁警備課長より中国課に対し次の連絡があった(不承受)。

1. 昨夜、 [] の車2台で4名が橋本大使自宅の郵便受に天皇訪中に反対するビラ(既存のもの)を入れに来たので警戒中の警察官が抽戻した。
2. 本2日早朝、 [] の車3台で8人が橋本大使自宅に接近しようとしたので警戒中の警察官が警察車両を用いて同大使自宅手前100mの道路をブロックし、接近を阻止した。一団は付近で街頭宣伝を行った後立ち去った。

(丁)

本ページは非公開。

課員各位へ

右翼・テロに対する警戒強化

92.7.2

首席事務官 

最近、天皇陛下の訪中に反対し、外務省に抗議を行なう右翼の活動が、再び活発化してきていることは皆さんもご承知の通りです。一部の情報によれば、今後さらに、右翼の活動は活発化していく由であり、関係者に対するはね上がり分子によるテロも懸念されるところです。課員各位におかれては、次の点を中心に、各自、警戒を高めるとともにご家族の皆さんにも万一の事態に備え警戒するようお伝え願います。

1、不審な電話

(間違い電話がよくかかってくる?)

2、不審な手紙

(発送人不明の小包等はあけないこと。)

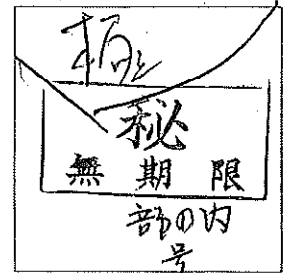
3、その他、通常と何か変わったことはないか。

以上の点につき、何か心当たりがあれば、首席事務官の方に報告。

4、また、課員や外務省関係者の電話、住所等に対する問い合わせについては安易に答えるのではなく、「本人から連絡させます。」と言って一旦切る、又は先方の名前、TELを確認の上、本人から電話を返すという方法で対応してください。

樽井課長↓警察庁

7/8.



報告・供覧

極秘第 58 号

大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アジア局長 審議官 参事官 中国課長 首席事務官 総務班	保存期間 1類 2類 3類 4類 (永久) (10年) (5年) (1年) 起案 平成 4 年 7 月 8 日 完結 平成 年 月 日 起案者 電話番号 丸山 2431
回覧先 総務課長 ヒール ヒール ヒール 6-6 区部89		
下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。		
件名 天皇陛下の御訪中（樽井ア中長の警察庁往訪） (別紙の要点等) 樽井ア中長は、本日、警察庁の西山警備隊長、中村公幸=中長 と往訪し、天皇陛下の御訪中内題にて親交授けを行った。		
GA-7 (昭和63. 4. 1改正) 外務省		回覧番号

8日、樽井ア中長が、警察庁西山警備課長、中村公安第2課長を往訪し過般の橋本大使の一時帰国に際しての特別警備につき謝意を述べたところ、先方よりの発言概要以下の通り。何らご参考まで。

1. (西山警備課長)

- (1) 陛下の御訪中は右翼、左翼の両方のターゲット^となりうるので、ある意味では、エリツイン訪日より大変であるとの認識を有している。本件に関しては、自民党の中も意見が割れており、右翼としては活動しやすい面がある。右翼は本人をテロの対象とするが、極左の場合は本人含め家族、家屋、車等も標的にすることがある。

- (2) (当省としても何かすることはあるかと質したのに対し)

テロ等に対する対応については貴省総務課を通じてお願いしているところであるが、各課よりの照会・要請については、個別に対応している~~ぬ~~ケースもある。このような場合には、不公平が生じるので、やはり窓口を一本化して頂きたい。

2. (中村公安第2課長)

- (1) 陛下の御訪中に反対するとの右翼の主張は去る3月31日に出された「9項目」に集約されていると思うが、この他に沖縄への行幸が行われる以前に中国へ行くべきではないという主張もある。いずれにせよ、「9項目」には、すべて滑稽無碍といえない点もあると思われるところ、政府としての考え方を強く打ち出すことにより、右翼のかかる動きを牽制することができるのではないかと。(これに対し、当方より「9項目」全てに対し反論することは可能であるが、結局、本件は、皇室への感情、共産主義中国への嫌悪といった人生観の問題に帰結するので先方が容易に納得するとは思えないが、検討してみたい旨応答。)

- (2) 今後の右翼の動向については、7月中旬(13日頃)以降、御訪中反対の意見広告を各紙に出し、さら3月31日に引き続く第2弾の集会を行うとの情報に接している。

- (3) 警察側としては、御訪中が決定されれば、専門のタスクフォースを組織し、本件対応を行う予定であるので、何らかの決定がなされる場合には、事前に連絡を頂きたい。

警備の観点からのみ申し上げれば、参院選終了前に本件が決定された場合、選挙はその性質上、要人を警護しにくく、これに御訪中問題が加わると、対応が非常に困難になるという事情がある。

(了)

3

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

02-003

大 政事外外儀官
大務務 典房
次次
臣秘官官審審長長
北経環査総官 外
大大了察括房 研
使使大審審審 長

総口対文会厚情研

察人(在儀警史オ

外報官	参報際内外
-----	-------

文長	審一二
----	-----

限移長	参政保対旅外
-----	--------

長	審地田東 参北東西
---	--------------

北米長	審一二保地
-----	-------

中南長	参一二
-----	-----

欧	審西口洋 西東
---	------------

近ア	参一二アア 一二
----	-------------

経長	次総経途 参経漁国 経エ国 安ネ二
----	----------------------------

	参海 審準
--	-------

経協長	審政国開無 審調技有理
-----	----------------

条長	審条協規
----	------

国長	審政経人 審軍社
----	-------------

科審	科原
----	----

情調長	参情析調 企安
-----	------------

総 番 号 R142639

主 管

月 13日

中 国 発

亜 中

平成 4年 7月 13日

本 省 着

外 務 大 臣 殿

橋 本 大 使

事務連絡

第2638号 秘 至急 (ゆう先処理)

(以下FAX送信 PK0539-01)

秘

PK0539 1

得井中口海長へ

植田氏

橋本大使

最近の情勢にかんがみ、^モ本使の身辺警護について、従来より手厚い措置を採ることとすべきと考え、一連の措置を採^たところ、~~以下の通り。~~

以下のとおり。

引き続きお知らせします。

1. 2日、植田より、外交部アジア司の張庭延副司長と武大偉参事官に対し、中国政府として本使の身辺警護の問題に十分注意し、適当な措置を採るよう要請した。

2. 7日、竹内より、北京市公安局の呂実ミン副局長に対し、日本における一部右翼団体の動静等を説明の上、本使公邸等の警護措置について善処方申し入れたところ、先方より、

(1) 本件については既に外交部・公安部より連絡があり、部内で関係者による会議を数度開催している

(2) 日本大使館及び日本大使公邸の周辺の異状の有無を入念に検査し、警護に当たっている武装警察小隊の人数を増強している

(3) 大使館内部の自主的警備措置との連携が重要であり、この面で公安当局として援助すべき点があれば、要望を提出してほしい

(4) 右翼団体の特異動向等に関する情報があれば適時連絡願いたい旨申し越した。

大

3. ~~本使の帰任以降~~、当面、^大本使の登退庁・外出時には、総務部警備班の館員

を同行することとしている。

~~中国公館に転電した。~~

(了)

秘
無 期 限

報 告 ・ 供 覧

大 臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官 房 長	主 管 アジア局長 審 議 官 参 事 官 中国課長 地域調整官 首席事務官	保 存 期 間 1 類 2 類 3 類 4 類 (永久) (10年) (5年) (1年) 起案 平成 4 年 7 月 16 日 完結 平成 年 月 日 起案者 電話番号 泉 2426
回 覧 先 外務省の幹部 には 送付 を 指 示 する		
下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。		
件 名 天皇陛下御訪中（七ヶ岳・学寮方ブリーフ）		
（別紙の要点等） 16日、外務省内で行われた学寮方学寮長には 安全対策ブリーフの要点。		
GA-7 (昭和63. 4. 1改正) 外 務 省		回覧番号

(報告メモ)

天皇陛下御訪中（テロ警戒～警察庁ブリーフ）

92.7.16

中国課

16日、官総主催で西山警察庁警備課長ほかを招き、外務省幹部・職員
の安全対策につきブリーフを受ける機会が持たれた（亜中泉出席）ところ、
天皇陛下御訪中関係者にとり参考となると思われる点を纏めたところ、
以下の通り（席上配布資料別添）。

1. 極左／極右共に天皇陛下御訪中には反対しており、闘争のターゲット
としている。特に、極左（中核派、革労協狭間派）はPKO自衛隊派遣反
対闘争に天皇訪中反対闘争を結び付けるとの論調が最近の機関紙に見られ
る。（中核派、革労協狭間派共に天皇陛下のASEANご訪問に反対して
おり、その時の論理は「天皇の東南アジア訪問は、自衛隊派兵の糸口を開
く」というもの。）

2. 極右の動きとしては、今月28日に「天皇訪中に反対する国民集会」
が[]等と[]が結び付いて開催される趣であり、その頃が右翼が動
き出す目途と見られる。

3. テロの手法は極左／極右で異なる。極左は主に建物を狙い、その結果
として死者が出てもやむを得ないとの発想だが、極右は殺傷を目的として、
主に個人を狙う。従って、防御の仕方も変わって来る。（極左対策は別添

資料参照。極右対策は、後日、別途、中国課と話し合うこととしたい。)

4. 

5. P K O や天皇陛下御訪中の関係者名簿は外部に漏れないよう注意すること。マスコミにも知られない方がよい。極左／極右に知られると直ちにターゲット・リストに載せられ、仲間内ですぐに広まることとなりかねない。

(了)

自宅の警戒についてのお願い

極左暴力集団は、PKO法案の成立反対のため、激しい闘争を展開してきました。

このたび、法律が成立し、海外への援助協力が実現することに反対し、これらに関する業務に携わる人の自宅に対し、テロ、ゲリラを行う危険性が高くなってきました。

皆様方のお住まいについて、常に皆様で警戒して頂きたいと思いますので、次の点に留意して下さい。

1 自宅周辺の環境整備をしましょう

- 不必要なものを家の周辺に置かない。
- 門灯、庭園灯は点灯して周囲を明るくする。
- 物置、倉庫などの施錠を確実にする。
- ガレージの車の下は、特に要注意。

2 不審者（車）、不審な物を発見したら、すばやく110番で警察に通報しましょう

- 自分の物ではないダンボール箱、スポーツバック、ポット等が置かれていたら、不用意に触らず100番通報。
- 家の中をのぞいたり、立ち止まってキョロキョロしたりする不審な人や用も無いのに家の前に停止している車を見たら、人相、ナンバーをメモして110番通報。

お 願 い

(ご家族の皆さんへ)

～皆さんの家族が「テロ」「ゲリラ」に巻き込まれないために～

次のようなことがあったらためらわず110番

○ 見慣れない「もの」を見つけたとき

- ・ 絶対に触らない
- ・ 「何でもなかったら……」などとためらわず、避難して110番

※ 時限装置は、黒のゴミ袋、ダンボール、スポーツバッグに入っていることが多い。

○ 不審な人を見かけたとき

※ 「どちらへ御用ですか。」「どちらの方ですか。」など声を掛けて、返答や動作などから皆さん自身が「おかしい」と感じたら、人相をできるだけ覚えて110番

- ・ 自宅付近で建物、電話線の状況、道路等の状況を略図にしたり、ことさら同じ建物や場所を写真撮影している者
- ・ 服装は、電気やガスの工事人を装っているが、本当に工事をしている気配のない者
- ・ 異常に付近に気を配り、バッグ、紙袋等を大切そうに持ち歩いている者
- ・ 家の中を窺っているような態度の者

○ 深夜等に、不審な音がしたとき

- ・ 普段聞いたことのない「バーン」「ドーン」「シュー」等の不審な音

環 境 を 整 理 し ま し ょ う

※ 塀の内外、庭内、物置、駐車場周辺の整理整頓を行い、不審な物を置かれないう、また、置かれてもすぐにわかるようにする。

○ 自宅の整理整頓、点検

- ① 古新聞、空き瓶、空き箱、雑物等が置かれていないか、雑草が生い茂っていないか。
- ② 照明、塀、柵、門扉等が壊れていないか。～壊れていたらすぐ修理～
- ③ 照明設備等は正しく機能するか。
- ④ ガス、水道メーターボックスの封印が破れていないか。郵便受けに不審な物が入っていないか。
～鍵がなければつけるようにする～
- ⑤ 消火器等は揃っているか。
- ⑥ 自宅周辺の点検を
毎日～朝、通勤時、寝る前など

○ 車両点検の習慣を～付近に見慣れない「もの」はないか

- ・ ドアロックは完全にかかっているか。
- ・ 朝、夕、通りにかかりに～駐車場所、車の下、車両内

電 話 が 不 通 に な っ た 時

○、急いで近くの警察署、派出所へ知らせるか、付近の使用できる公衆電話から110番

宅 配 物 の 受 取 は 慎 重 に

○ 宅配物、配達人、配達車両が不自然なとき～安易に預からないように

- ・ できれば車両、運転手の人相等の特徴をメモしておいて110番
- ・ 隣家の宅配物の受取にも十分注意を

電 話 の 応 対 は 慎 重 に

○ 知らない人から家族の日程や勤務先等を聞いてきた場合、すぐに回答するなど不用意に知らせないで相手先を確認して掛けなおす等対応は慎重に

お 願 い

(テロの被害に遭わないために)

◎ 自分の生命、財産を守るための安全対策

安全対策の一般原則

- ・ 常に用心を怠らない
- ・ 相手に行動を予知させない
- ・ 相手にスキをみせない

具体的な安全対策

○ 自宅における対策

- ・ 防犯カメラやインターホン等防犯設備を設置するとともに、訪問者は身元を確認してから中に入れる。
- ・ 外出からの帰宅時、就寝時等においては、周囲の点検等を確実に行う。
- ・ ガードマンの活用を図る。

○ 通勤時や外出時における対策

- ・ 外出に際しては、周囲に不審車両や不審人物がいないかを確認する。
- ・ 防犯ベル等緊急の際の護身用具を常時携帯する。
- ・ 人通りの少ない暗い道の通行は避ける。
- ・ 残業等で遅くなる場合は、必ず家族に行動予定を連絡する。
- ・ 通勤経路や出勤、帰宅時間をパターン化せず、幾通りも設定する。
- ・ 尾行している人や車両がないか注意を払う。
- ・ 深夜の単独行動や外出は極力避ける。
- ・ 4～5人の男が乗車して、駐車場や空き地等に駐車している車両に注意する。

○ 自家用車、駐車場対策

- ・ 乗り降りの際が狙われやすいので、その際には十分周囲を注意する。
- ・ 尾行車両の有無に注意を払う。
- ・ 車両は毎日点検整備し、最上のコンディションにしておく。
- ・ 不審な物品（物件）を装着されていないか十分に点検する。
- ・ 短時間の駐車でも、必ず全部のドアをロックする。
- ・ 確実に施錠するとともに、路上駐車は避ける。
- ・ 駐車場を利用する場合は、人の出入りが管理されており常時管理人のいる、夜間照明の良好な駐車場を利用する。

○ 勤務先での対策

- ・ 差出人不明等の郵便や小包は受け取らない。
- ・ 呼出し等には不用意に応じない。
- ・ 自分の周囲を常に整理整頓しておく。
- ・ 確認せずに、氏名、住所、電話番号、行動予定等の問い合わせに応じないよう、秘書や部下等の指導を徹底する。
- ・ 夜間や休日には事務所に1人で出かけない。

非常時の措置

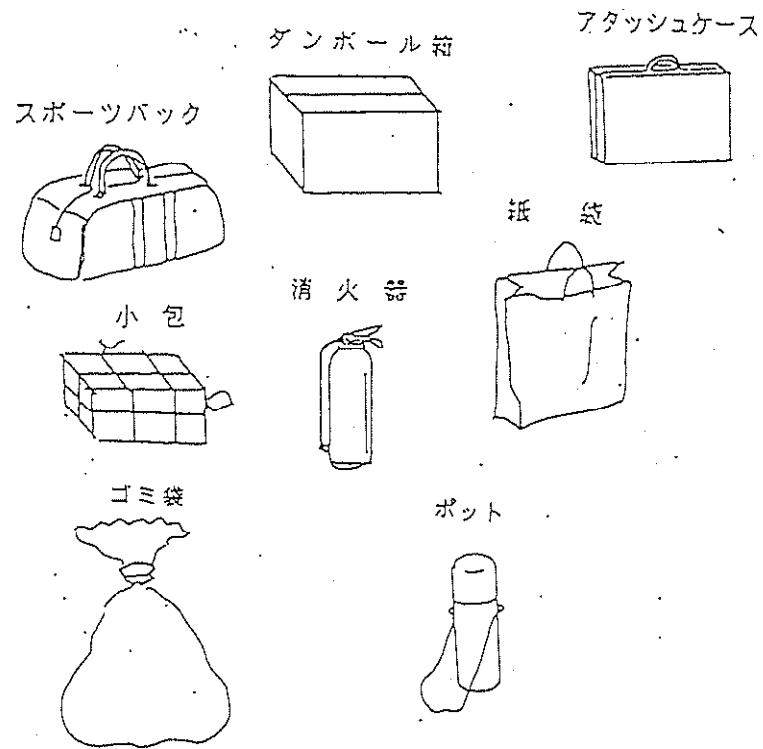
- ・ 尾行されている等の不審な兆候があるときは、人相、車のナンバー、車種、塗色等をメモして警察へ連絡する。
- ・ 襲撃等された場合、防犯ベルを鳴らす、大声を出して助けを呼ぶ、あるいは近くの家等に逃げ込む。

警戒上の着眼点

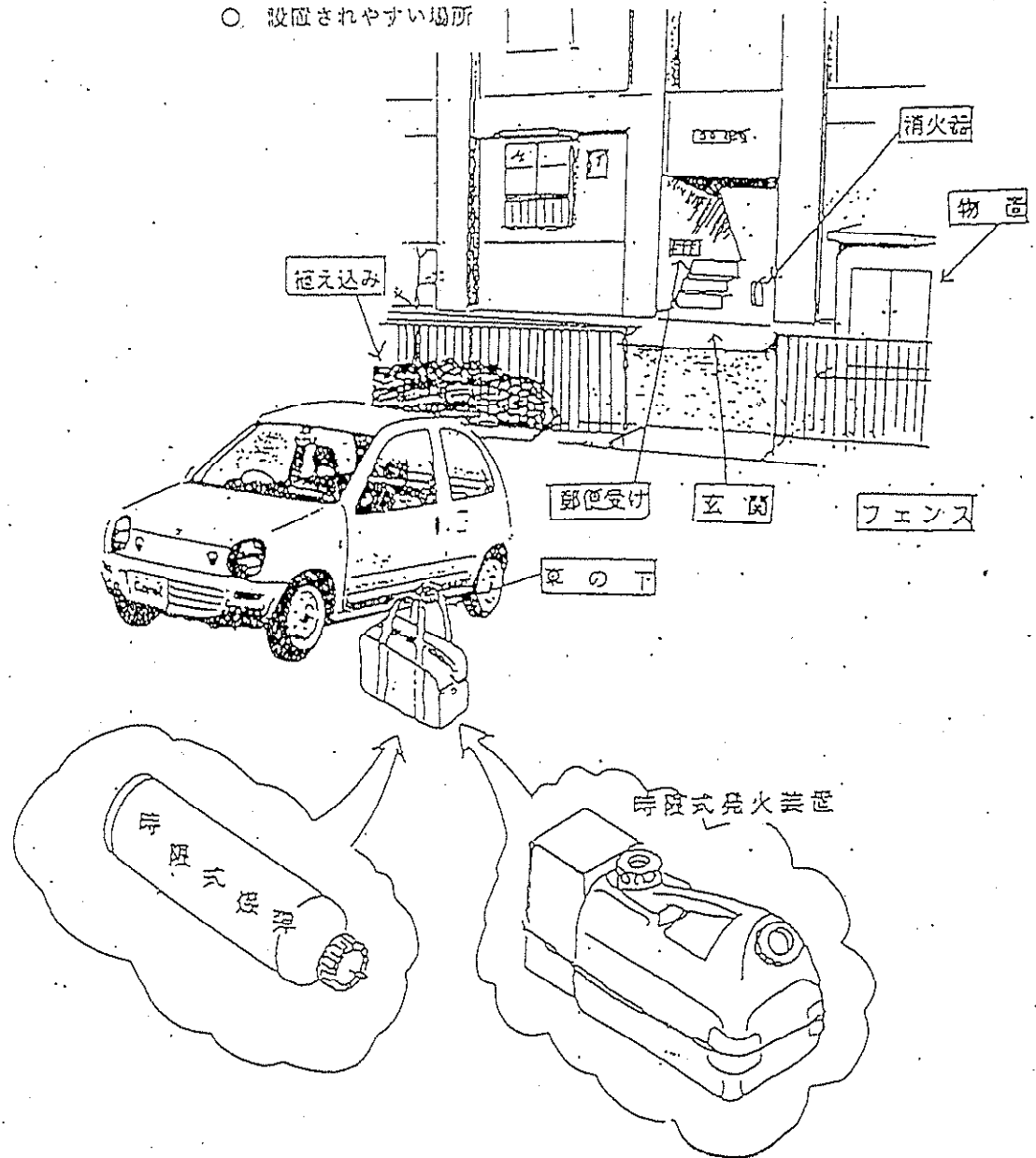
○ 不審な物

下に書いてあるような物が、これまで極左暴力団のゲリラに使用されています。

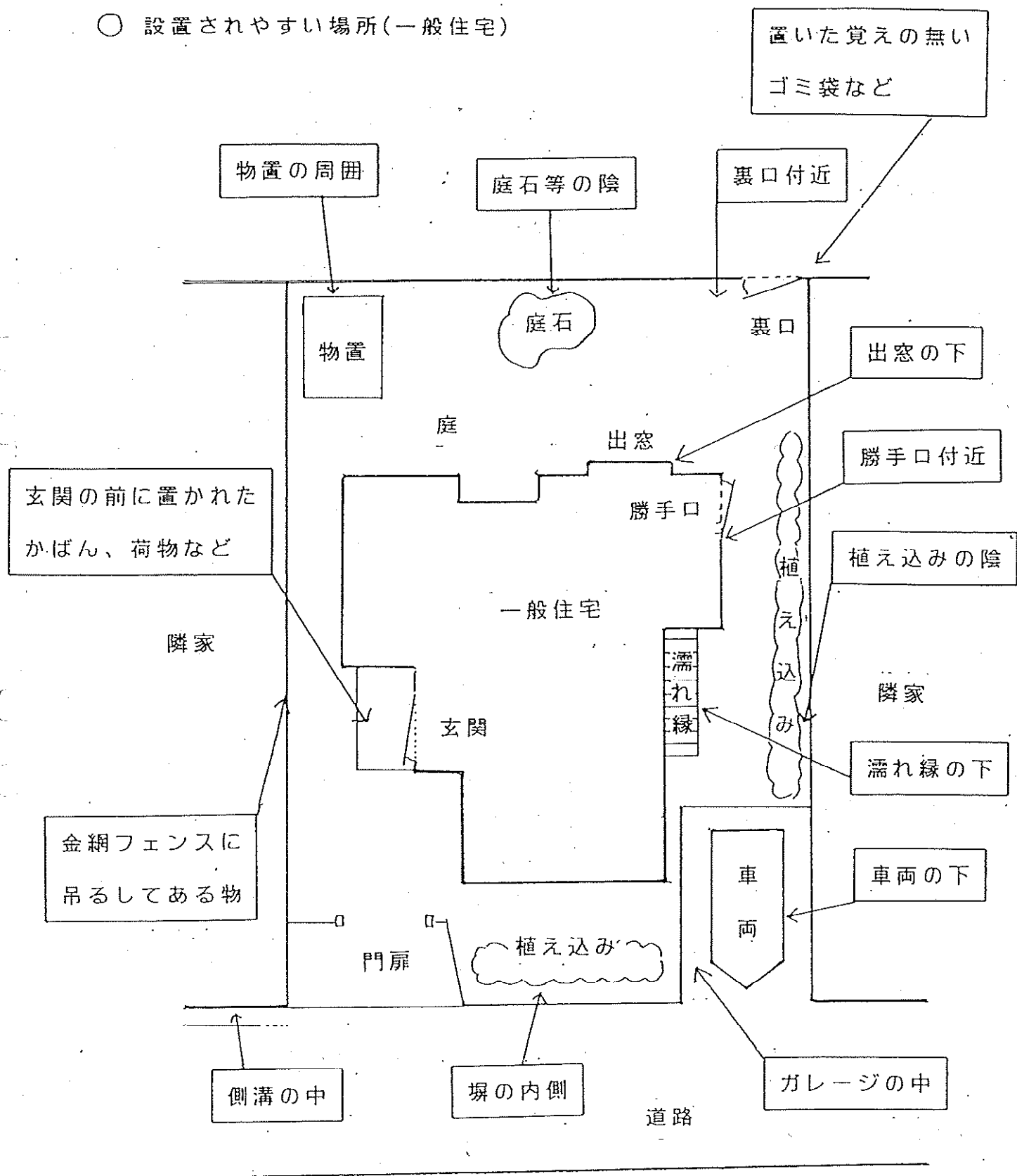
点検の際には、特に注意してください。



○ 設置されやすい場所



○ 設置されやすい場所(一般住宅)



(報告・供覧)

極左・極右テロ対策について

課員各位へ

9 2 . 7 . 1 6

首席事務官

16日、総務課主催で、警察庁より西山警備課長ほかを招き、外務省幹部・省員に対する極左・極右テロ対策についての講演会が行なわれたところ、ポイント及び席上配布資料を参考までに配布します。天皇陛下御訪中問題についての各種の外務省批判の動きもあり、課員各位におかれては、一層のご注意をお願いします。

記

(警察庁ブリーフのポイント)

- テロ対策は警察も努力するが、各人の自覚に基づく自助努力が大切。警戒は家庭にも徹底させて頂きたい。
- 極左(中核派、革労協狭間派)は、11月頃自衛隊のPKO派遣が行なわれると見ており、天皇陛下御訪中への反対と合わせて、関係者をター

ゲットとして、積極的なテロ活動に出ると見られる。（先の天皇陛下のASEAN御訪問の際にも、反対活動を実施。）

○ 極左の手法は、施設に対する攻撃が主で、①羽田空港や外務本省への攻撃（ロケット弾を使用）、②個人の住宅への攻撃（時限発火装置や時限爆弾を使用）の2者あり。また、事前に2ヵ月前位から下見に来るので、不審な兆候はないか常に警戒すべし。（心当たりのない宅急便が送られてきたり、玄関の前などに不審な荷物が置かれていないか、変な男が家の中を覗いていないか、不審な電話等。）

○ 極右もまた、天皇陛下御訪中問題反対に向け動き始めており、今月末当たりから活発化する兆候がある。極右の手法は、個人に対するテロ攻撃が主で、出勤時等、特に注意を要する。

○ なお、関係者の名前・住所等は外部（含、マスコミ）には漏らさないこと。極左・極右に知られば、直ちに仲間内に広まって、狙われることとなる。

自宅の警戒についてのお願い

極左暴力集団は、PKO法案の成立反対のため、激しい闘争を展開してきました。

このたび、法律が成立し、海外への援助協力が実現することに反対し、これらに関する業務に携わる人の自宅に対し、テロ、ゲリラを行う危険性が高くなってきました。

皆様方のお住まいについて、常に皆様で警戒して頂きたいと思いますので、次の点に留意して下さい。

1 自宅周辺の環境整備をしましょう

- 不必要なものを家の周辺に置かない。
- 門灯、庭園灯は点灯して周囲を明るくする。
- 物置、倉庫などの施設を確実にする。
- ガレージの車の下は、特に要注意。

2 不審者（車）、不審な物を発見したら、すばやく110番で警察に通報しましょう

- 自分の物ではないダンボール箱、スポーツバック、ポット等が置かれていたら、不用意に触らず110番通報。
- 家の中をのぞいたり、立ち止まってキョロキョロしたりする不審な人や用も無いのに家の前に停止している車を見たら、人相、ナンバーをメモして110番通報。

お 願 い

(ご家族の皆さんへ)

～皆さんの家族が「テロ」「ゲリラ」に巻き込まれないために～

次のようなことがあったらためらわず110番

- 見慣れない「もの」を見つけたとき
 - ・ 絶対に触らない
 - ・ 「何でもなかったら……」などとためらわず、避難して110番
- ※ 時限装置は、黒のゴミ袋、ダンボール、スポーツバッグに入っていることが多い。
- 不審な人を見かけたとき
 - ※ 「どちらへ御用ですか。」「どちらの方ですか。」など声を掛けて、返答や動作などから皆さん自身が「おかしい」と感じたら、人相をできるだけ覚えて110番
 - ・ 自宅付近で建物、電話線の状況、道路等の状況を略図にしたり、ことさら同じ建物や場所を写真撮影している者
 - ・ 服装は、電気やガスの工事人を装っているが、本当に工事をしている気配のない者
 - ・ 異常に付近に気を配り、バッグ、紙袋等を大切そうに持ち歩いている者
 - ・ 家の中を窺っているような態度の者
- 深夜等に、不審な音がしたとき
 - ・ 普段聞いたことのない「バーン」「ドーン」「シュー」等の不審な音

環 境 を 整 理 し ま し ょ う

- ※ 塀の内外、庭内、物置、駐車場周辺の整理整頓を行い、不審な物を置かれないう、また、置かれてもすぐにわかるようにする。
- 自宅の整理整頓、点検
 - ① 古新聞、空き瓶、空き箱、雑物等が置かれていないか、雑草が生い茂っていないか。
 - ② 照明、塀、柵、門扉等が壊れていないか。～壊れていたらすぐ修理～
 - ③ 照明設備等は正しく機能するか。
 - ④ ガス、水道メーターボックスの封印が破れていないか。郵便受けに不審な物が入っていないか。～鍵がなければつけるようにする～
 - ⑤ 消火器等は揃っているか。
 - ⑥ 自宅周辺の点検を
毎日～朝、通勤時、寝る前など
- 車両点検の習慣を～付近に見慣れない「もの」はないか
 - ・ ドアロックは完全にかかっているか。
 - ・ 朝、夕、通りかかりに～駐車場所、車の下、車両内

電 話 が 不 通 に な っ た 時

- 急いで近くの警察署、派出所へ知らせるか、付近の使用できる公衆電話から110番

宅 配 物 の 受 取 は 慎 重 に

- 宅配物、配達人、配達車両が不自然なとき～安易に預からないように
 - ・ できれば車両、運転手の人相等の特徴をメモしておいて110番
 - ・ 隣家の宅配物の受取にも十分注意を

電 話 の 応 対 は 慎 重 に

- 知らない人から家族の日程や勤務先等を聞いてきた場合、すぐに回答するなど不用意に知らせないで相手先を確認して掛けなおす等対応は慎重に

お 願 い
(テロの被害に遭わないために)

◎ 自分の生命、財産を守るための安全対策

安全対策の一般原則

- ・ 常に用心を怠らない
- ・ 相手に行動を予知させない
- ・ 相手にスキをみせない

具体的な安全対策

○ 自宅における対策

- ・ 防犯カメラやインターホン等防犯設備を設置するとともに、訪問者は身元を確認してから中に入れる。
- ・ 外出からの帰宅時、就寝時等においては、周囲の点検等を確実に行う。
- ・ ガードマンの活用を図る。

○ 通勤時や外出時における対策

- ・ 外出に際しては、周囲に不審車両や不審人物がいないかを確認する。
- ・ 防犯ベル等緊急の際の護身用具を常時携帯する。
- ・ 人通りの少ない暗い道の通行は避ける。
- ・ 残業等で遅くなる場合は、必ず家族に行動予定を連絡する。
- ・ 通勤経路や出勤、帰宅時間をパターン化せず、幾通りも設定する。
- ・ 尾行している人や車両がないか注意を払う。
- ・ 深夜の単独行動や外出は極力避ける。
- ・ 4～5人の男が乗車して、駐車場や空き地等に駐車している車両に注意する。

○ 自家用車、駐車場対策

- ・ 乗り降りの際が狙われやすいので、その際には十分周囲を注意する。
- ・ 尾行車両の有無に注意を払う。
- ・ 車両は毎日点検整備し、最上のコンディションにしておく。
- ・ 不審な物品（物件）を装着されていないか十分に点検する。
- ・ 短時間の駐車でも、必ず全部のドアをロックする。
- ・ 確実に施錠するとともに、路上駐車は避ける。
- ・ 駐車場を利用する場合は、人の出入りが管理されており常時管理人のいる、夜間照明の良好な駐車場を利用する。

○ 勤務先での対策

- ・ 差出人不明等の郵便や小包は受け取らない。
- ・ 呼出し等には不用意に応じない。
- ・ 自分の周囲を常に整理整頓しておく。
- ・ 確認せずに、氏名、住所、電話番号、行動予定等の問い合わせに応じないよう、秘書や部下等の指導を徹底する。
- ・ 夜間や休日には事務所に1人で出かけない。

非常時の措置

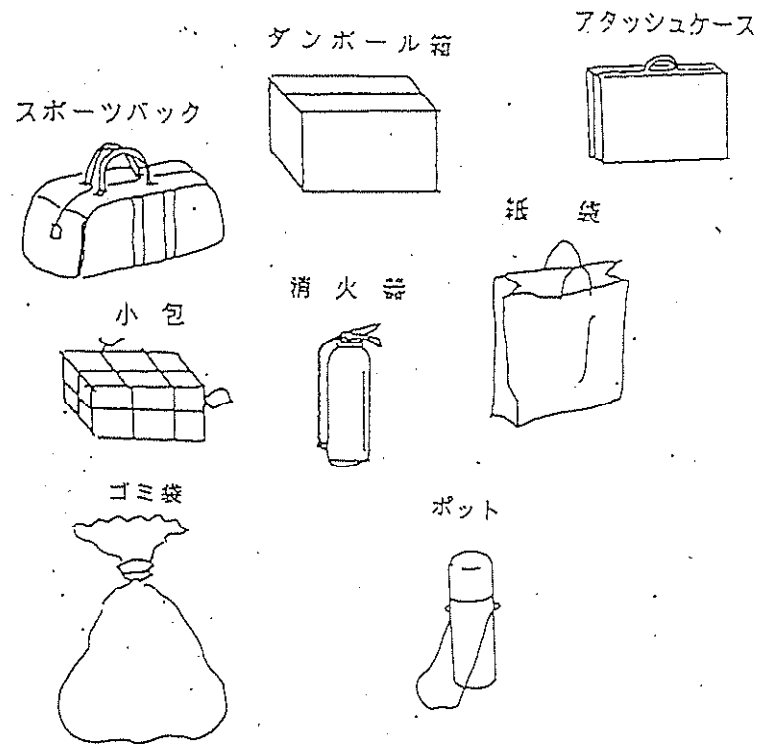
- ・ 尾行されている等の不審な兆候があるときは、人相、車のナンバー、車種、塗色等をメモして警察へ連絡する。
- ・ 襲撃等された場合、防犯ベルを鳴らす、大声を出して助けを呼ぶ、あるいは近くの家等に逃げ込む。

警戒上の着眼点

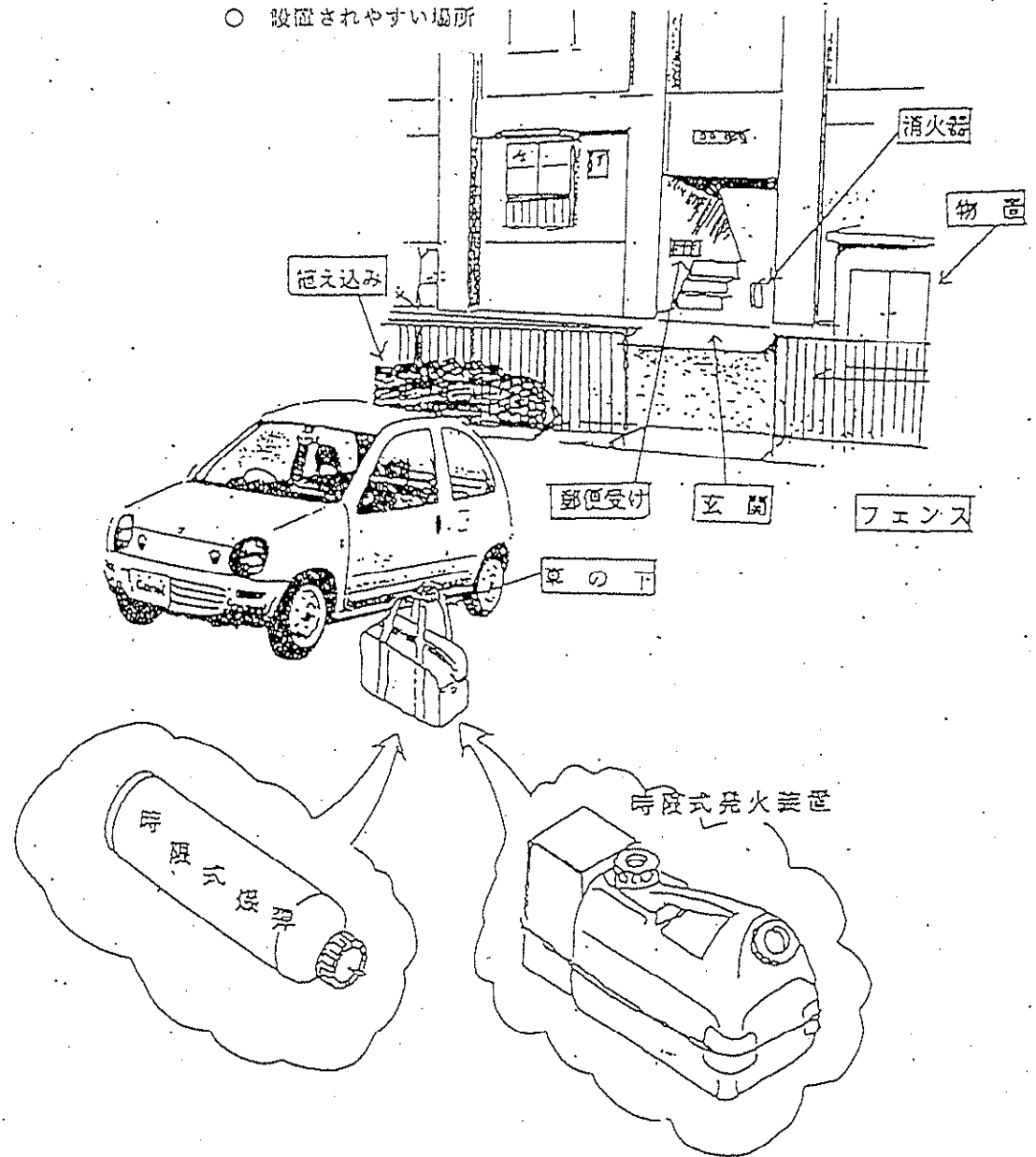
○ 不審な物

下に書いてあるような物が、これまで極左暴力団のゲリラに使用されています。

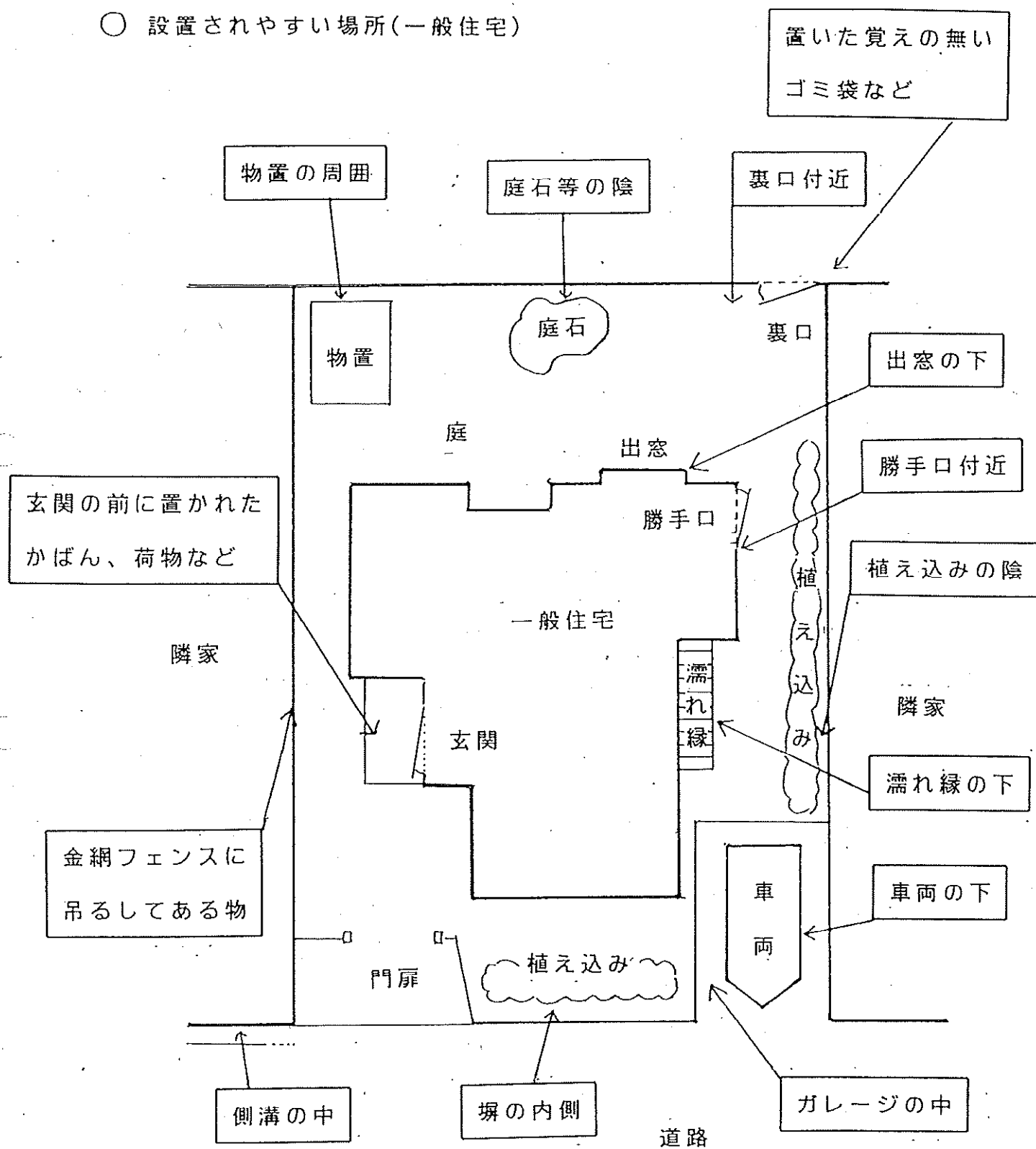
点検の際には、特に注意してください。



○ 設置されやすい場所



○ 設置されやすい場所(一般住宅)



石翼

の
旅
談
電
話
7/6

取扱注意

報告・供覧

大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アジア局長 審議官 参事官 中国課長 地域調整官 首席事務官	保存期間 1類 2類 3類 4類 (永久) (10年) (5年) (1年) 起案 平成 4 年 7 月 16 日 完結 平成 年 月 日 起案者 電話番号 泉 2426
回覧先 file 田嶋		
下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。		
件名 天皇陛下御訪中（右翼団体の電話抗議）		
（別紙の要点等） 16日朝、右翼団体「[REDACTED]」からの抗議 電話があった。		

GA-7（昭和63. 4. 1改正）

外務省

回覧番号

(報告メモ)

天皇陛下御訪中 (右翼団体の電話抗議)

92. 7. 1

重中・泉

16日朝、右翼団体「[REDACTED]」内海より、最近の各紙の報ずる本年10月下旬の天皇陛下御訪中決定報道に對し、以下の通り

電話にて抗議越した。(本件に關する「責任者」として本署首脳と泉と名指して電話あり。)

1. 天皇陛下の御訪中については、「[REDACTED]」名で、外務省ほか各省庁に對しこれを行山ないよう従来より強く求めてきたところである。

2. それにも拘らず、最近、官沢総理が「國民全体が喜ぶことを見逃りするような形ではなればならぬ」旨述べ、また報道にはあたかも

本年10月下旬に訪中されることが決ったかの如く報いられていよところ、極めて遺憾である。

3. 天皇陛下の御訪中については、「國民全体が喜ぶことを見逃りする」ような状況には程遠く、國民の中にはかなりの人間が反對して

あり、自分の接觸した国会議員の中にも反對者が多い。

4. ^{以上}「[REDACTED]」に對し、當方より「官沢総理の発言の趣旨は、陛下の訪中は

国民の祝福の中で行われるべきと存しており、流れを見極めたい」といふもので政府としての決定はまだ行われていないと承知している。

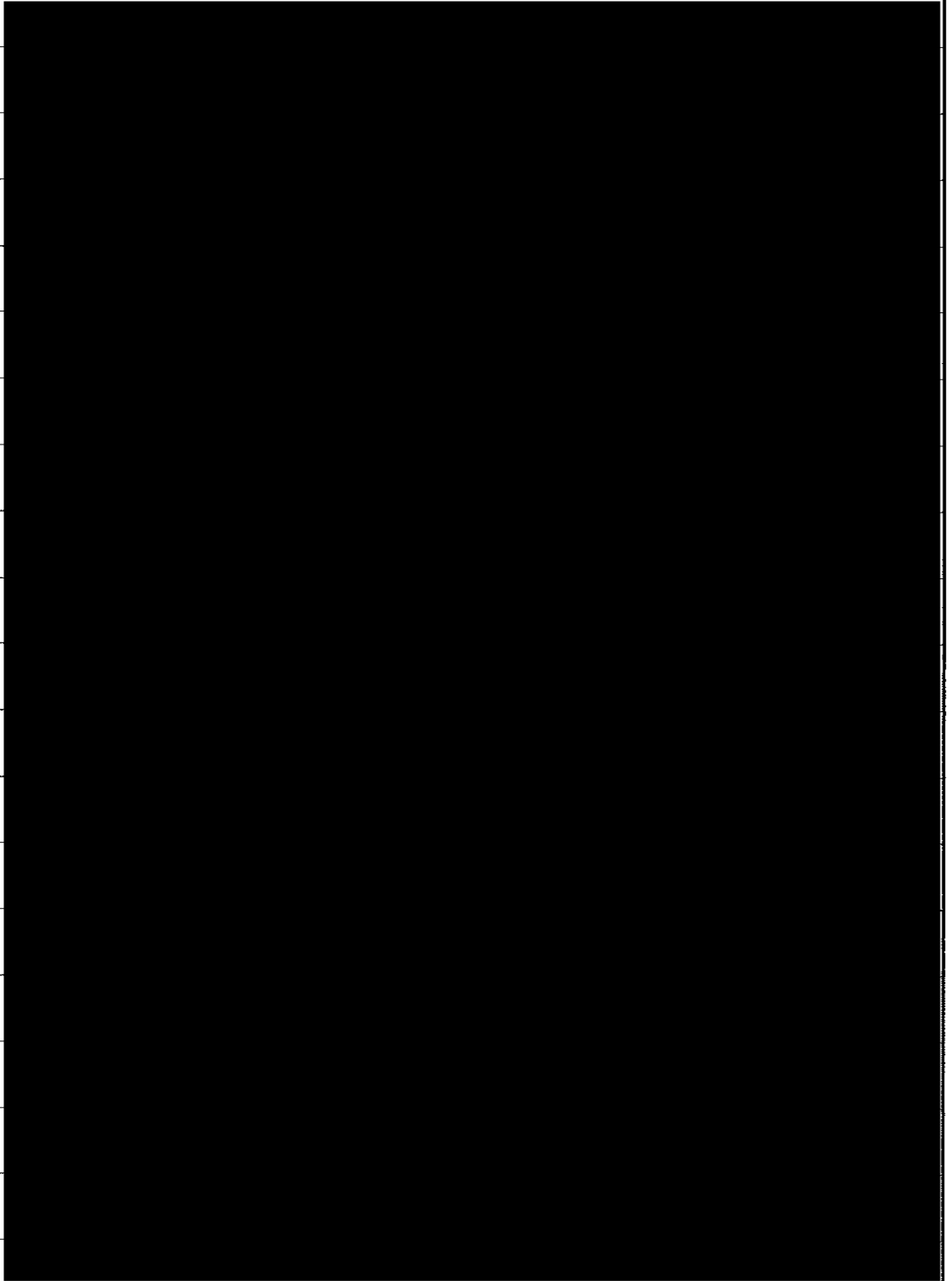
旨述べたところ、) それでは抗議ではなく、「要望」といふことにはなるが、陛下の訪中には是非共思ひといふまじよう宜しくお願

いしたい。

(これに対し、当方より「お申し出の趣旨は理解せしめ、上司に伝えたい」旨述べた。)

(3)

(参考)



(「右翼民族派・総覧 平成三年＝一九九一年版」より抜粋)